

mailmagazine

子育て・学校・子ども達...

1998.4.1 (vol.1) ~ 2001.12.3 (vol.78)

子育て・学校・子ども達

、 ゆーた	-7
いのち -1- 1998/04/01(水)	-7
いのち -2- 1998/04/13(月)	-7
いのち -3- 1998/04/20(月)	-8
いのち -4- 1998/04/27(月)	-9
いのち -5- 1998/05/11(月)	-10
いのち -6- 1998/05/18(月)	-11
いのち -7- 1998/05/26(火)	-11
10回目の誕生日を迎えた君へ 1998/06/15(月)	-12
授業参観あれこれ 1998/07/02(木)	-13
ゆうたと子ども達..... 1998/07/06(月)	-14
むかつく..... 1998/07/014(火)	-15
ゆうた、友達の家に行く、の巻 1998/08/10(月)	-15
ゆうた、初めて海で泳ぐ、の巻 1998/09/01(火)	-15
お腹が痛い..... 1998/09/01(火)	-16
ゆうたの電話のかけかた、の巻 1998/09/07(月)	-16
ゆうた、学校を休む の巻 1998/09/21(月)	-17
ゆうた、額に傷を付けてくる、の巻 1998/10/05(月)	-17
ゆうた、自転車に乗る、の巻 1998/10/12(月)	-18
あんな病気をしたから... 1998/10/27(火)	-19
ハードルの高さ～我が子が見極め～ 1998/11/09(月)	-19
歩いていれば、かならず着くんだよ 1998/11/16(月)	-20
落ち込み..... 1999/02/15(月)	-21
運動会 '99～ようやく終わりました～ 1999/05/31(月)	-21
いやなことばかり！～ホント大変です～ 1999/06/14(月)	-22
学校に行かなくなったゆうた 1999/10/13(水)	-23
イライラ 1999/10/13(水)	-24
学校 1999/10/13(水)	-25
これから... 1999/10/13(水)	-26
担任 1999/11/09(火)	-26
自分を変える 1999/11/09(火)	-26
「パパは拗ねてるんだよ...」 1999/11/09(火)	-27
おだやかな日々 1999/12/03(金)	-27
今年最後のドタバタ～死んだ方がましだ！～ 1999/12/30(木)	-28
5年生終了～見誤り～ 2000/03/30(木)	-29
存在価値 2000/10/12(木)	-30
新しい展開... 2001/4/30(月)	-32
存在 2001/5/23(水)	-33
中学校～遠い存在～ 2001/12/03(月)	-33
家族、友人	-34
嗚呼、文化祭 1998/06/09(火)	-34
親父... 1998/06/15(月)	-34

専業主夫のひがみ 1998/07/06(月).....	-34
アウトドア事始 1998/08/10(月).....	-35
できるだけ波風を 1998/09/15(火).....	-36
冷戦続くOSM家の巻 1998/09/28(月).....	-36
冷戦集結、の巻 1998/10/05(月).....	-37
女房、元気で外が良い、の巻 1998/10/19(月).....	-38
「内助の功」夫 ~ AERA 11 / 2号より ~ 1998/11/02(月).....	-38
女房の実家~こちら、杉本釣り船センター~ 1998/11/23(月).....	-39
結婚記念日 1999/03/29(月).....	-40
エッセイストOSM! ~自立への一步(笑)~ 1999/05/10(月).....	-41
プロのウェークボーダー~熱血! 島田塾~ 1999/05/25(火).....	-41
「主婦」「主夫」って何でしょう? 1999/05/31(月).....	-41
「主婦」「主夫」って? ~回答編~ 1999/06/08(火).....	-42
またまた「主夫」について~TV番組制作会社から~ 1999/06/14(月).....	-43
学校が全てじゃない~親として教師として~ 1999/12/03(金).....	-44
おばあちゃん~アンタのためを思って~ 2001/12/03(月).....	-44
離婚 2001/06/01(金).....	-45
最愛の妻 ~友人からのメール~ 2001/12/03(月).....	-45
、 出来事	-46
所沢高校シンポジウム開催 1998/04/20(月).....	-46
所沢高校に関するHP 1998/05/18(月).....	-46
埼玉所沢高校 1998/09/15(火).....	-46
所沢高校の生徒から 1998/11/02(月).....	-47
先週のBBSより ~所沢高校のHIDEAKIさん~ 1998/11/30(月).....	-47
引き逃げ犯を、なぜ不起訴にしたのですか 1998/05/16(土).....	-48
隼君事件、不起訴処分取り消し 1998/09/15(火).....	-49
6月23日~沖縄~ 1998/07/02(木).....	-49
少年法改正論議スタート 1998/07/014(火).....	-49
少年法改正~よくわかりません~ 1998/12/15(火).....	-50
刑事罰「14歳以上」に 1998/12/23(火).....	-51
毒物混入事件 1998/09/07(月).....	-51
「淳 Jun」を読みました 1998/10/12(月).....	-52
スーダン報告'98~国境なき医師団日本~ 1998/11/09(月).....	-53
イラク空爆~戦争はいやだ!~ 1998/12/23(火).....	-54
校長先生の死 1999/03/01(月).....	-54
日の丸・君が代 1999/03/08(月).....	-54
天井かカツ丼か? ~日の丸・君が代に寄せて~ 1999/09/13(月).....	-55
君が代を歌わない自由はない~日の丸・君が代に寄せて2~ 1999/09/21(火).....	-56
コロラド高校生銃乱射事件 1999/05/10(月).....	-57
高校銃撃事件の原因は何か 1999/05/19(水).....	-57
教師の不祥事 1999/09/07(火).....	-58
幼児虐待 2000/01/20(水).....	-59
「開かれた学校」って? 2000/01/20(水).....	-59
自己防衛~京都小学生殺害事件容疑者自殺~ 2000/02/06(日).....	-60
夢の島強盗殺人事件 2000/03/14(火).....	-60
気になるニュース~毎日教育メールより~ 2000/03/30(木).....	-61
親と学校~5,000万円恐喝事件に思う~ 2000/04/15(土).....	-61

ストーカー～今月に入って13件～ 2000/04/24(月)	-62
親の覚悟～少年事件に寄せて～ 2000/05/15(月)	-62
一括りの怖さ～「17歳」という言葉～	-63
訂正～バスジャック事件～ 2000/05/17	-63
ハンセン病 2001/5/23(水)	-64
忘れてはならないもの 2001/06/01(金)	-64
メル友殺人～安易なコミュニケーション?～ 2001/06/01(金)	-65
痛ましい事件 2001/06/09(土)	-65
、 学校	-68
校長先生って何? 1998/07/014(火)	-68
新学習指導要領 1998/07/02(木)	-68
続・新学習指導要領 1998/07/06(月)	-69
「出にくい大学」に変身する?～大学審議会の答申 1998/10/27(火)	-70
学習指導要領改訂 1998/11/23(月)	-70
高校の学習指導要領案発表 1999/03/01(月)	-70
学校をつくろう! 1998/10/27(火)	-71
修学旅行 1998/11/09(月)	-71
学級崩壊 1998/11/16(月)	-72
続・学級崩壊 1998/11/23(月)	-73
「学級崩壊」って言うけれど 1999/01/28(木)	-74
進路指導～完全失業率5%の時代に～ 1999/06/08(火)	-75
「奴ら」 1999/09/01(水)	-75
夏休みの宿題 1998/09/07(月)	-76
忙しすぎる学校～行事、行事、研修、行事...そして会議～ 1999/09/21(火)	-77
義務教育 1999/11/09(火)	-77
スポーツクラブと学校体育 1999/12/03(金)	-78
子どもの暴力、過去最悪!? 1998/12/23(火)	-78
欠席理由 2000/02/21(月)	-79
社会奉仕体験～教員研修～ 2000/05/17(水)	-80
、 P T A	-81
P T A、楽しんでます! 1999/05/10(月)	-81
青少年健全育成会～P T A活動～ 1999/05/31(月)	-81
学級懇談会～お母さん!感情的にならないでえ～ 1999/06/21(月)	-82
P T A役員への手紙～学校とのつきあい方～ 1999/06/21(月)	-83
親が楽しまなくっちゃ!! 1999/06/21(月)	-84
一人で悩んでいる親達は?～学校とのつきあい方～ 1999/06/28(月)	-84
育休中の先生から 1999/06/28(月)	-85
親のモラル 1999/07/13(火)	-87
もめたときこそ分かり合えるとき～教育懇談会について～ 1999/07/13(火)	-88
忙しい...(;_;) 1999/07/13(火)	-88
集団登校検討委員会 1999/09/01(水)	-89
登校方法教えて下さい! 1999/09/07(火)	-90
続・集団登校 1999/09/13(月)	-90
集団登校、その後 2000/01/27(木)	-91
学校との距離～嗚呼、P T A役員～ 1999/12/03(金)	-92
次期P T A会長選出 2000/02/21(月)	-92

メーリングリスト『Oh!PTA』 2000/04/15(土).....	-93
PTA会長退任 2001/5/23(水).....	-94
、 特集	-96
AC(アダルトチルドレン)って知ってます? 1999/01/11(月).....	-96
子育てリストラ宣言.....	-96
エッセイ、シリーズもの 第二弾予告 1999/01/18(月).....	-100
子どもの世界と権利条約.....	-101
「まけないぞう」って知ってました? 1998/09/21(月).....	-106
あふれる情報の中で 1998/09/21(月).....	-107
レインボーハウス(虹の家).....	-108
海の色は黒い 1999/03/01(月).....	-110
止まった「時」を動かさせてあげて 1999/04/29(木).....	-110
至急!賞金獲得のために今すぐお申し込み下さい! 1998/09/15(火).....	-111
幼児の名簿売ります! 1999/05/19(水).....	-111
学校からのダイレクトメール~他もやっていますから~ 2000/05/02(火)...	-111
学校法人~「私」立学校~ 2000/05/02(火).....	-112
名簿はどこから?~続・ダイレクトメール~ 2000/05/15(月).....	-113
「ダイレクトメール」に寄せて 2000/05/17(水).....	-114
、 インターネット	-116
SOI-インターネットで学べる学校 1998/06/09(火).....	-116
続・SOI-インターネットで学べる学校 1998/06/15(月).....	-116
ICQ-I seek you 1998/06/09(火).....	-117
インターネットで広がる不登校児教育 1998/06/15(月).....	-117
やっぱり英語ができないと..... 1998/07/014(火).....	-117
世界の子ども達とインターネットで話そう 1998/09/28(月).....	-118
イスタンブールより~世界の子ども達と話そう~ 1998/12/23(火).....	-119
Yahoo!掲示板に思う 1998/10/05(月).....	-119
Mind-it、使えます 1998/10/12(月).....	-120
自分の居場所を探す 1998/10/19(月).....	-120
めるまが『子育て、教育、学習』専門店 1998/11/30(月).....	-120
まなびや開設の思い 1998/12/07(月).....	-121
子ども達へのメッセージを! 1998/12/15(火).....	-123
仮想と現実~インターネットへ社会への危惧~ 1998/12/15(火).....	-124
伝言ダイヤル・薬 1999/01/11(月).....	-124
アダルトサイトのソフトをダウンロードすると... 1999/03/08(月).....	-125
「出会い」系の掲示板 1999/03/18(木).....	-125
ネットワークカウンセラー 1999/06/08(火).....	-127
お勧め!教育総合情報サイト~ED-News Magazine~ 1999/06/14(月).....	-127
郵政省からのご案内~いきなりだよ!~ 1999/06/28(月).....	-127
インターネットの図書館「りぶりぶ」 1999/09/07(火).....	-128
ミレニアムプロジェクト 2000/01/27(木).....	-128
、 メール、意見、BBS	-130
ご意見紹介 1998/04/13(月).....	-130
「日本一醜い親への手紙」 1998/06/09(火).....	-130
就学前の子どもに必要なもの~BBSより~ 1998/11/02(月).....	-130
スーダンも日本も、子どもの環境は悲惨です 1998/11/16(月).....	-131

小学校2年の息子へのいじめ？ 1999/05/19(水).....	-132
子どもを立たせる.....	-132
もこさんからのメール 1999/01/16(土).....	-132
どうして批判ばかりするの？ 1999/03/18(木).....	-137
「息子達へ」～BBSから～ 1999/03/29(月).....	-138
まさか自分が離婚するとは 1999/05/10(月).....	-139
ものが言えない職員会議～BBSより～ 1999/11/09(火).....	-139
「開かれた学校」への声 2000/01/27(木).....	-140
小学校の制服とPTA 2000/02/06(日).....	-141
掲示板より 2000/02/06(日).....	-141

、 独り言 -142

メールマガジン発行に寄せて 1998/04/01(水).....	-142
独り言 1998/04/06(月).....	-142
テレメンタリー98～全盲の先生～ 1998/05/11(月).....	-142
たけしのTVタックル 1998/05/26(火).....	-143
悲劇、悲願、歴史的...嗚呼ワールドカップ 1998/07/02(木).....	-143
教壇を去って行った先生達 1998/09/28(月).....	-144
信じられない親たち 1998/10/12(月).....	-144
NHKってワイドショーだったんだ 1998/10/19(月).....	-144
生徒の体に触れることは、法律で禁じられています 1998/10/27(火).....	-145
学級通信を持って家出したヤツ 1998/11/23(月).....	-146
再び、神戸 1998/11/30(月).....	-147
オームのパソコンショップ 1998/11/30(月).....	-147
メダルの個数 1998/12/15(火).....	-148
来年の今頃、今より少しでも... 1998/12/30(水).....	-148
人間関係 1999/01/11(月).....	-149
オリンピックなんてやめちゃえっ！ 1999/01/28(木).....	-149
「子育て・学校・子ども達.....」発行1周年 1999/04/29(木).....	-149
鈍った感性～ピュリツァ賞写真展を見て～ 1999/05/10(月).....	-150
本日は晴天なり～朝の連続テレビ 1999/05/25(火).....	-151
東京にて 1999/06/08(火).....	-151
「人材は欲しいけれど、人はいない」 1999/07/13(火).....	-151
日常生活への埋没 1999/09/01(水).....	-152
テレビゲーム～子ども達を夢中にさせるもの～ 1999/09/21(火).....	-152
一年間ありがとうございました 1999/12/30(木).....	-153
来年は.....？ 1999/12/30(木).....	-153
2000年の挑戦！ 2000/01/20(水).....	-154
負けを楽しむ 2000/02/28(月).....	-155
人と会う 2000/03/06(月).....	-155
言葉...「軽さ」と「一人歩き」 2000/03/06(月).....	-155
勝ち組・負け組 2000/04/15(土).....	-156
ボストンマラソン ～何時間かかっても～ 2000/04/24(月).....	-156
過保護について 2000/04/24(月).....	-157
不惑 2001/5/23(水).....	-157

「子育て・学校・子ども達」Contents 159

、ゆーた

いのち -1- 1998/04/01(水)

今年もまた、4月15日が近づいてくる。

もう、何年前のことだったろうか、と数えなくてはならないほど、昔の話しになってしまっている。

彼女は、高校1年生の時に何度か問題を起こして、「後一回何かやったら退学処分」という状況だった。2年生になる時、当時の担任が「2年生になったら誰のクラスになりたいんだ？」と聞いたところ、彼女は「修先生がいい」という返事。

・・・そして僕は、彼女の担任になった。

入学式、始業式・・・4月は年度変わりの慌ただしい毎日が続く。

2年生になって、何となく元気のない表情を彼女はしていた。

ゆっくり話をしたい、と思っていながらも、一緒に掃除をしている時に「おい、 。来週になったらゆっくり話をしようなあ～」と声をかけて、新年度の第一週が終わった。

彼女は、力無く「はあい.....」と返事をした。

翌週の月曜日の夕方、彼女はデパートの屋上から飛び降りた。

知らせを聞いて、慌てて病院に駆けつけた。

全身打撲。手術すらも不可能とのこと。

一時的に意識が回復した彼女と話げできた。

「おい、元気になって早く学校に来ないといかんぞ」

「はい」と彼女は笑った。

その日の深夜、彼女は息を引き取った。

自殺の原因は、学校外の友人関係にあったとのことだったが、そんなことは関係はなかった。

「もし、あの時.....」という思いは、10年以上たった今でも、僕の心の奥底にくすぶっている。

そして、もう一つ。日が経つにつれ、夜になれば眠くなり、時間が来ればお腹が空いてきた。僕の生活は彼女の死には全く影響されないんだ、という事実にはショックを受けた。

しかし、彼女の死以降、かつては疑うこともなかった自分が教師である、ということに対する疑問は消えなくなってしまった。

いのち -2- 1998/04/13(月)

ゆうた 1

今から10年前、僕の勤めていた高校では、俗に言う「風紀点検」「持ち物検査」を実施していた。「スカートが長くないか?」「マニキュアはしてないか?」「パーマは?」「カールは?」「不要物は?」etcetc.

また、何度か問題を起こしたら、謹慎、停学、退学勧奨.....、というようになっており、毎年二桁の生徒が学校を去っていった。

そうしたことに對する何とも言えないやりきれなさは持ちつつも、生徒とは色々な行事や部活動、授業を通して良い関係をつくっていたと思っている。

(まあ、これは僕の一方的な思いかもしれないが.....)

1987年3月。僕は結婚した。

そして、翌1988年6月16日。僕は親父になった。

翌日、産院に行った。女房が言う。「時々ピクピクってなるのよ」と。「あんまり泣かないのよ」とも。

翌々日、病院からいきなり電話がかかってきた。

「手術が必要ですので、 病院に移しました。直ぐに行ってください」

わけもわからずに、病院に行った。

「今から手術を行いますので、この承諾書にサインして下さい。」

承諾するのはあくまで本人で、僕は保証人だった。

生まれて二日目。まだ名前も決めていない我が子だった。
女房といくつか、「こんな名前が良いね」と話していた名前の中から、僕が一番好きだった名前「ゆうた」
……。それが息子の名前になった。

医者がきて手術の説明をした。
「出産のショックで、脳に出血があります。このままでは命に関わりますので直ぐに駄目になった部分を
摘出します。」

手術室の中に運び込まれていくゆうた……。
ただ待つことしかできなかった。
時間がどれだけ経ったのかもわからなかった。
……。辺りはいつしか暗くなっていた。
学校から駆けつけてくれた同僚の顔を見たとき、涙が出た。

手術が終わった。
泣くこともできない息子は直ぐに新生児集中治療室に運ばれていった。
集中治療室のガラス越しに、何本も点滴の管をつけ、頭に包帯が巻かれている息子の姿……。
ここでも僕はただ見ていることしかできなかった。

「一週間がヤマでしょう……」
担当医から説明があった。

子どもは当たり前生まれ、当たり前育つものだと僕は信じて疑ったことはなかった。色々な知識は
あったが所詮は他人事ではなかった。

そして、僕は女房のいる産院に向かった。
そこには、赤ん坊を取り上げられた女房の姿と、生まれたばかりの余所の赤ちゃんの元気な声が響いてい
た……。

川の土手をベビーカーに子どもを乗せ、三人で散歩する姿を夢見ている。
親子三人水入らずの生活を夢見ている。

どうして、ウチの子どもが！
何か悪いことをしたのか！
そんな思いばかりが頭の中を駆け回った。

ゆうたは集中治療室に。女房は産院に。そして僕は家に……。
毎日、学校と、産院と病院の三カ所を行き来する生活が始まった。

いのち -3- 1998/04/20(月)

ゆうた2

結局、ゆうたは脳の1 / 3近くを摘出した。
医者が言うには、「脳動静脈奇形(AMV)」ということである。
簡単に言えば、動脈と静脈との間の毛細血管が未分化のため、出血を起こしたということだそうだ。
赤ちゃんが生まれながらにして痣があるのは、そうした理由からだ。祐太の場合は、それが頭の中で
あったのだ、と。
また、「まだ、脳が真っ白な状態なので、右脳が代用して行くでしょうが、どこまで代用するのはわか
らない。障害なども、これから大きくなって行くにつれて、はっきりしてくるでしょう」と。

ありのままの現実があるがまに受け入れる、とは言っても、この現実には僕たち夫婦にはあまりにも厳し
かった。

どうして、自分たちだけが……。そんなことばかり考えた。
人の幸せがねたましく思えた。殊に可愛い赤ちゃんと一緒にいる親子連れを見ると、僕の気持ちは一
層平穏ではいられなくなった。

最初の内は、「舌を支える力がなく、仰向けに寝かせていると、舌のどにつまってしまう。」と言
われて、人工呼吸器を外せなかった祐太が、少しずつ、少しずつ元気になっていくに従って、集中治療室の

中にいる、他の子どもたちの姿が見えるようになってきた。

側の保育器の中には、500gという未熟児の赤ちゃんがいた。骨と皮だけのその赤ちゃんは、失礼な言い方だが、「鳥の足」を思い起こさせるほどだった。ある日、看護婦さん達が横で話をしていた。その子がようやくスポイトでミルクを飲んだ、というのだ。それもたった一滴だったが。その話を看護婦さん達は本当に嬉しそうにしていた。そして、外で待っていたその子の母親に、同じように嬉しそうに話しをてた。そのお母さんは、目に涙を浮かべて聞いていた。

.....取って代わることのできない悲しみ、つらさ、というものをイヤと言うほど味わった。ただ、泣いているだけの息子に対し、ただ見ていることしかできないでいる自分.....。結局の所、親子だ、夫婦だと言っても、自分の力で生き抜いて行くしかないんだな、そう思った。たとえこの先、祐太がどれほど大変な目に遭ったとしても、それは自分で乗り越えるしかなく、親だからと言って、僕が変わってやれることは何一つないのだ、ということ.....。

同時に、集中治療室にいる子どもたちを見ていると、体全体で一生懸命生きようとしていることだけはわかった。「いのちの重さ」を実感した、と言ってもいいかもしれない。それまで、いろいろな所で僕は「いのちの重さ」と口にしてきたが、その言葉の持つ意味が少しはわかったような気がした。

祐太はほぼ、一ヶ月間入院し、僕たちの家にやってきた。その後、脳の中にたまる水を逃がす管(シャント)をお腹まで入れる手術を祐太は受けた。しかもそれが失敗し、シャントを抜く手術、再度、入れる手術を受けた。我が家に祐太が再度戻ってきたのは、その年も押し迫った12月17日だった。

2年前に教え子が自殺して以来、決して投げやりではなく「生きていればいいのだ」と言う僕の思いは、祐太の誕生、手術を通して、より確かなものになっていった。同時に、毎日毎日、やれ髪の色や、スカートの長さがどうだと言っていたり、「『良いところ』に就職しなくちゃ」とハッパをかけている自分の言葉がイヤでイヤでたまらなくなっていた。果たして今生徒たちに言っている言葉を、僕は祐太に面と向かって言うのだろうか？言い続けられるのだろうか？その問いに対する答えが見つからず、僕は10年間勤めた学校を辞めて浜松に帰ることにした。その時は、もう二度と教壇には立つまい、と思っていたので、仕事先も何も決まっていなかった。女房の扶養家族になればいい、そう思っていた。

いのち -4- 1998/04/27(月)

なおと1

ゆうたが生まれて一年。女房の育児休暇も終わった。その年の暮れ、僕は学校を辞めることにした。1990年、1月。僕は辞表を出した。

その時点では、浜松に帰ってからの仕事も決まっていなかった。仕事に対する不安よりも自分自身が教師を続けていくことの方が、たまらなかつたんだと思う。辞める理由を色々説明してみても、何となく自分の気持ちは整理できなかった。ただ、「辞めたかったから辞めた」というのが一番ピッタリ来るような気がする。

驚いた理事長は、浜松の学校に仕事を紹介してくれた。運の良いことに同じ私立の高校だった。その話を聞いたときに、僕は飛びついた。仕事が見つかったという喜びもあったが、それ以上に一度はあきらめた教壇に立てる、ということが一番大きな理由だった。

2歳になり、ゆうたは保育園に通うようになった。
脳神経外科、リハビリ、小児神経科、眼科……。1週間に1度くらいは病院に通っていた。
色々な環境の変化はあっても、少しずつ生活は安定していった。

僕たちには2人目の子どもができた。

「5月9日には2人目が生まれる。今度は絶対、祐太みたいな思いはしたくない。生まれてすぐに取り上げられる、なんてことには絶対になって欲しくない。あと、5ヶ月後……。男の子だろうか？ 女の子だろうか……？」
'91.1.7(月)

祐太のこともあり、僕たち二人は、予定日が近づくにつれて、神経質になっていたが、エコーなどから経過は順調とのことだった。

大事をとって、4月の下旬から女房は入院していた。

1991年4月29日。ソフトボールの顧問をしていた僕は、丁度インターハイの地区予選だった。試合が終わり、ユニフォーム姿のまま産院に駆けつけた。

しかし、産院に着くと赤ん坊の元気な泣き声は聞こえず、僕はすぐに手術室に呼ばれた。

僕を待っていたのは、帝王切開のため全身麻酔で意識なく手術台に横たわっている女房と、心臓マッサージを受けている赤ん坊の姿だった。

子どもは、右手、右足が育っていなかった。まるで、小さな体からは枯れ木がくっついていっているような感じだった。

腸から肛門にかけて未分化で、性器もはっきりと形成されていなかった。

男の子だということだった。

「どうしますか？ お父さん？」という医者言葉に
「もう、結構です」と言うのがやっとだった。

……。なおと。僕はそんな名前を考えていた。

(その2)に続きます。

いのち -5- 1998/05/11(月)

なおと2

女房はしきりに赤ちゃんのことを聞きたがった。

僕は努めて冷静に話をした。

僕たちは原因を調べてもらうために、浜松医大に解剖を依頼した。

結論は、臍帯(へその緒)の血管の奇形によるもの、ということだった。

赤ん坊は、トロフィーの箱のようなものの中に入れて、帰ってきた。

女房は、赤ん坊を見たがったが、僕は見せなかった。無論僕の両親にも。

役所に行き、手続きをとり一人で火葬をしてきた。

親父やお袋も一緒に来たがったが、断った。

悲しくて涙が出る、ということはなかった。ただ、淡々と一つ一つのことを僕は進めていったような気がする。むしろ意識的に考えまいとする思いが、僕の感情を押さえつけていたのかもしれない……。

またしても、産院のベッドに女房は一人で残された。

ゆうたの時もそうだった。

今度も……。

「『もっともっとゆうたに手をかけて挙げなさい』って神様が言ってるのかな」そんなことを女房は口にしました。

今でも、もう一人子どもが欲しいなあ、などと冗談っぽく僕は口にすることがある。無論、女房は絶対に「ウン」と言わないということはわかっていながら……。

6月。ゆうたが3歳になって間もなく。僕は黄柳野(つげの)高校と出会った。そして、翌年の3月、僕は浜松の高校を退職した。

同時に黄柳野高校設立に関わるようになり、家にほとんど帰らなくなった。

「れば・たら」はない。そう言われるが、もしあの子どもが生まれていたら、どうであったろうか？

果たして僕は黄柳野高校づくりに関わったのだろうか？

今でもそう思う。

いのち -6- 1998/05/18(月)

今回、今まで自分の思いをまとめてみようと思っていました。

そんな時、片山隼君の事をTVで知りました。

そして、号外でお知らせしたように、情報を寄せていただきました。

早速HPを拝見し、署名をしました。

とても一言で言い表せるものではありません。

突然我が子を奪われたご両親の気持ちを考えると……。

息子が生まれた翌年、宮崎勤の事件が起きました。

あの時、同僚と話をしていたことを今でもはっきりと覚えています。

「自分が父親になってみて、初めて子を持つ親の気持ちがわかるようになった」と。

この世にたった一つしかない「いのち」。

その重さを、親になって初めて理解できるようになりました。

それは、独身時代にはどんなことをしても、理解できないことでした。

大河内清輝君のことを覚えていられる人も多いと思います。

大河内さんのお宅には何度かお邪魔し、お父さんお母さんともお話をしました。

神戸の事件から一年がたとうとしています。

……

突然子どもの命が奪われることがたくさんあります。

……。

「いたたまれない」というしか言葉が出てきません。

そんな時代だからこそ、僕自身が何ができるのかをさがしていきたいと思いますし、僕たち大人が何ができるのかを、多くの人と考えていきたいと思うのです。そしてどんな小さな事でもいいから、「何か」をしていきたいと思うのです……。

(あまりにもまとまりませんが……)

いのち -7- 1998/05/26(火)

「『淳』が亡くなってから早一年という時間が過ぎてしまいました。1997年5月24日と言う日を、私達は一生忘れる事ができないと思います。」

「『淳』をそのような状況で失ったことに対して、私達家族の悲しみは治まるどころか、増大してきています。」

「少年法の基本的な精神に私は賛同しています。非行を犯した少年の保護、更正を考えることは重要なことだと思います。」

……非行少年に人権がある以上に、被害者には守られるべき人権があると思います。」

「非行少年を、甘やかすことと保護とは同義語ではないと思います。」

「……季節が変わり、周囲が華やいだ雰囲気になっても、私達のこの深い悲しみは一生消えることはありません。」

せん。

この悲惨な事件を教訓にして、私達のように悲嘆にくれる者が出なくなるように、この国が変わっていくよう心より願いたいと思います。」

～父親の手記より抜粋～

何度読み返しても、胸が熱くなります。

「私達のように悲嘆にくれる者が出なくなるように、この国が変わっていくよう」というお父さんの言葉が全てだと思います。

.....

今の時代「学校」に何を求めていますか？
また、何を求めたらいいのでしょうか？

僕が学校に求めること、そして教えて欲しいことは二つです。
一つは、「集団の中の様々なトラブルの中で生き抜いていく力」と「人と手をつなぐ力」です。
学校の活動の中の全てに貫かれるべきものだと思います。

トラブルを恐れるのではなく、集団の中でこそできない事こそ、学校の中で教えていって欲しいと思います。

ナチスドイツの収容所で死んでいった少女が
「泣くときは一人でも泣けますが、笑うには仲間が必要です」
という言葉を残したそうです。
仲間を見つけ、仲間と支え合う大切さこそ、学んで欲しいと思います。

勉強なんかは、いつだってできるし、又、人は一生学び続けていくもの。
テストの点数なんかで人が判断される世の中を作り上げているのは、他にもない一人ひとりの親の意識だと僕は思っています。

小学校の高学年になると学校の勉強は本当に難しくなってきます。
親だってわからないことを次々と子ども達は学校で「学んで」きます。
親がわかることは、テストの点数くらいのものでしょうか。

その子がどうしてそう考えたのか、また、じっくり考えたらできるのにそれが許されない学校の「テスト」。

子どもは敏感です。親がテストの点数にこだわっているのを知っています。
たとえ、口でどんなに「点数が全てじゃないんだぞ」と言っている、本心からなのかどうかはわかっています。

人と人が結びつく力.....、それこそ今の親たちが一番身につけてこなかったものかも知れません。

相変わらず支離滅裂ですが.....

===== 丁度、今日、地下鉄サリン事件の林被告に無期懲役の判決が出ました。 =====

10回目の誕生日を迎えた君へ 1998/06/15(月)

10年前、君はこの世に生まれた
そして僕たち夫婦は親になった

親になった喜びやとまどいもつかの間
君は大きな病院に運び込まれ 生死の間をさまよった

君の毎日に僕たちは一喜一憂した

同時に生命の持つたくましさ、素晴らしさを教えてもらった

そうした僕たちの気持ちを
決して知ることなく君は育ってきた
いや、知らないからこそ
君の存在はかけがえのないものだったのだ

あれから10年の時がたつ
泣く力もなかった君が、よく泣くようになった。
たくさん笑った
大人をからかうことも覚えた
一人前に口答えをするようになった

君が生まれたことによって与えられた喜びを
なにに感謝すればいいのだろう.....

.....
これから先の10年
自分は一人であるということ君は知るだろう
次々と襲いかかる問いかけに対して
自分で答えを出していかねばならないだろう
そして僕たちが何の力にもならないということ
いやというほど味わうだろう

僕たちには見守ることしかできない苦しみ
待ち受けているだけだ

.....
僕たちがそうだったように
やがて君も 育てる世代になるだろう
しかし、いつまでたっても
僕たちは君の親であり続けよう.....

授業参観あれこれ 1998/07/02(木)

授業参観会ってどんな感じでしょうか？
いつもドキドキします。

2年生の頃、ゆうたは一番精神的に不安定でした。
他人とうまく関わらず、いつも先生の所にくっついてました。
授業中も、いきなり教室を出たり、時には学校を飛び出したり.....。
参観会だろうが何だろうが、あちこち出歩いたり.....。

そうした我が子をとともつらい思いで見っていました。

「恥ずかしい」という思いも確かにありますが、それ以上に、「あの子変な子ね」という目で見られる我が子が不憫でなりませんでした。

精神的に不安定な時は学校から連絡があり、「様子を見に来てほしい」と何度も電話がありました。その度に、学校に出かけていき、先生方や息子と話をしたりしました。

3年生になって、学校を飛び出したり、教室の中でフラフラすることもなくなってきました。同時に学校に行く回数も格段に減りました。

息子も次第に、学校と家との顔を使い分けるようになり、担任の先生や友達との「秘密」も持つようになってきました。

4年生.....。我が家に友達が遊びに来るようになりました。
どうやら、クラスの「たまり場」的な場所になっているようです。

で、6月30日の参観会。

男の子の大部分は、顔見知り。

「あ、ゆうた君のおじさん！」

「今日、遊びに行つて良い？」

「おじさん、ポケモン交換して～！」

.....等々、既にチャイムが鳴って授業が始まっているにも関わらず話しかけてきます。「後で『またな』とか短い返事をした後はうつむいてしまいました。

周りのお母さん達の視線がとっても気になって.....。

授業は、身の回りのもので作った楽器を使つての演奏会。

4人グループで発表をしました。

周りの子ども達がしっかりフォローしてくれています。

そうした姿に驚いたり、喜んだり.....。

でも、いつ何をしでかすかわからず、ハラハラのしどろしどろであることには代わりはありませんでしたが.....。

少しずつ、そして確かに我が子は成長しています。

ゆうたと子ども達..... 1998/07/06(月)

我が家は半ば「学童保育所」化してきている。

息子のクラスの男子15人。内、僕が顔と名前が一致しないのは二人だけと言う状況。

多いときには6人くらい集まって来る。

マリオカートは4人しかできないから、交代交代で遊ぶ。

押入からミニ四駆を引っぱり出してきては走らせる。

ポケモンの交換をしてほしいと言ってくる。

インターネットでサッカーの写真などを見せてほしいと言ってくる。

時には、ポケモンの対戦を挑まれることもある.....。

落ち着いて何かするという状況とはほど遠い。

特にゲームの遊ぶ順番やルールで子ども達はよくもめる。

でも、できるだけ放っておくようにしている。

A君という友達がいる。非常に負けん気が強くて、ゲームで負けそうになると、言葉がとてもきつくなり、周りの子どもにあたりちらす。

そうしたときのとぼっちは、大体ゆうたに向かってくる。

ゆうたは一人っ子で、他人の中でもまれてきていないから、きついことを言われるとまず黙ってしまう。だから余計に言い合いのだろうが.....。

でも、最近、ゆうたも黙っておらず、言い返すようになってきた。ヨシヨシ負けるなよ～、などと、内心応援しているが、やはり、鍛えられ方が違う。言い負かされてしまう。

先週の土曜日。その日初めてB君という子が遊びに来た。

A君のきつい言葉に

「どーしてそんなに興奮するんだよお。たかがゲームじゃないか！ そんなにムキになるなよ」とこれまた乱暴な口調だがピシッと言った。

「おお、！すごい！」僕はここの中で拍手喝采！

A君は3人兄弟の一番上で、一番下は2歳とのこと。

ああ、多分家では「お兄ちゃんだから、って言われてかなり我慢しているんだろうな、などと思って見ていた。

でも、次第にきつくなってくる言葉に、何かきっかけがあったら一度言った方がいいかな、とも考えていた。そうした矢先ただだけに、B君の言葉は嬉しかった。

ついつい、口を出したくなるのを我慢してきてよかったな、と。

さて、そのB君。ポケモンがとっても好きで、僕に対戦を挑んできた。

危うく負けそうになったが、それはそこ。大人の威厳(笑)を見せつけてやった。とってもくやしかった

らしく、もっと鍛えてくる、と言って帰って行った。
また、来るな、こりゃ……。(笑)

むかつく…… 1998/07/014(火)

先だって、息子が女房に向かって、そう口にした。
朝からゲームをやっていた息子に、女房がご飯だからやめなさい、と声をかけたら、そんな返事がかえってきたのだった。

女房は怒った！（怒ると本当に怖い！）
「何だ！その言い方は！」
息子はますますひねくれ、いじけていった。
友達との間でよく耳にする言葉が、口をついて出てきたのだろうが、僕もドキッとすると同時に、とてもいやな気分になった。
「むかつく」という言葉の持つ響きと表情……。
我が家では人を不愉快にさせる言葉の代表、として話しているのだが。

ゆーた、友達の家に行く、の巻 1998/08/10(月)

7月の末、ゆーたが一人で初めて友達の家遊びに行きました。
小学校4年生ですが、初めてのなのです。

夏休みに入って近所の友達が連日のようにやってくるのは相変わらず。
で、ある日、「明日はお客さんが来るからウチはダメだよ」と言いました。
「じゃあ、ウチにおいでよ」と一人の友達。
「う～ん、どうしよう」とゆーた。
「おお、行って来い、行って来い！」と僕。

近所に一緒に遊ぶような男の子がいなかったこと、歩行の不安定さや注意力の欠如、ということから、一人でどこかに行かせる、ということをはとんどやっけてこなかった。
しかし、ゆーた自身、友達と一緒に遊ぶということができなかったということが、一番の要因だったと思う。

3年生までは、学校でも友達とうまく関わる事ができなかった。
ミニ四駆を始めるようになって、積極的に僕はあちらこちらに連れていった。少しでも同年齢の子ども達と接するように、という思いからだった。しかし、それはあくまでも親がいなければ何もできないこと。

4年生になって、友達がたくさん来るようになった。
そんな中から、ようやく友達と一緒に遊ぶことの楽しさを知ったようだった。

さて、当日、自転車に乗れないゆーたは、歩いて出かけていった。
「人の家のものは決して勝手に触ってはいけない」
「ちゃんと、挨拶をするんだぞ」
何度も何度も言ってきかせた。自分でもしつこいと思いながらも、ついつい口をついて出てしまうのだった。

昼食時、食事を終えるやいなや、午後また遊びに行く、と言いだした。
「100円ちょうだい。みんなでおや使いに行くから」と。
100円玉を握りしめて、さっさと飛び出していった……。

ゆーた、初めて海で泳ぐ、の巻 1998/09/01(火)

西伊豆でのキャンプ場をベースにして、海水浴をした。海で泳ぐのはゆーたは初めての事。僕たちにしても、結婚してから初めての海水浴。

海の水はとてもきれい。浜松や沼津の海とは段違い。最初は波を怖がっていたゆーたも、借りてきたゴムボートのへりにつかまって、足の届かない所まで行ったりした。すっかり海が気に入ったゆーたは午後泳ぐ、と騒いだがさすがにバテてしまい、お昼過ぎにキャンプ場に戻った。

翌日は、場所を変えて磯へ出かけた。
海水浴場と海水浴場の間にあり、あまり人も来ないところ。

ゆーた用のゴーグルを買って、3人で岩場をアチコチ泳いだ。
「泳ぐ」と言ってもゆーたは犬かきみたい。それでも25mは泳げる。
水深2～3mの所にも行った。
潮の流れに身を任せながら、息が続く限り顔をつけて魚を探したり、何か見つけると、潜ってみたり.....。

ゆーたはしきりに「すごい」「きれい」を連発していた。
嬉しそうな顔をするのが、たまらなく嬉しかった。

お腹が痛い..... 1998/09/01(火)

「もうじき2学期が始まるんだから.....」という言葉がよく口をついて出てくるようになった8月の後半。
「調子が悪い.....」「頭が痛い.....」「お腹が痛い.....」
などという言葉がゆーたの口をついて出るようになった。
夏休みのガラっとした生活リズムを少しずつ修正しようと、ゲームばかりやっているゆーたに女房の口調もついついきつくなる。
「しなさい」と言うと、時々、「調子悪い.....」と言って布団でモゾモゾしていることが見受けられるようになった。
楽しかった夏休みが終わってしまうことが自分でもよくわかるのではないだろう.....？

ある日、例によって「調子が悪い」と。
「じゃあ、今日は友達と遊ぶのはダメだよ」と女房。
「もう、直った」と。「調子悪い、って言っていたじゃないの」「だってさっきは本当に悪かったんだもの」.....。そうしたやりとりが女房とゆーたの間で続いた。ゆーたは泣きながら友達と遊びたい、と言ったが、そのまま女房は仕事に出かけていった。

ゆーたを呼んで、話をした。
「ゆーたの体のことはゆうたしかわからない。『調子が悪い』と言ったら調子が悪い、と思う。もうじき学校が始まるのがいやなんでしょ？イヤなことも正面から受け止めないと、ダメだよ。難しい話かもしれないけれど、いつかゆーたにも分かる時が来ると思うし、分かって欲しいと思うよ」と。

ゆーたはわかったのかわからないのか.....？
その日は結局、友達とは遊ばずに、家でおとなしくしていた。
勿論、何かと言うと、「パパ、パパ」と声をかけられ、一日中、ゆーたにつきあっていたが.....。

ゆーたの電話のかけかた、の巻 1998/09/07(月)

最近、ゆーたが電話をすることがめっきり多くなってきた。
また、ゆーたにかかってくる電話の数も増えた。
もっとも遊べる？という電話だけだが.....。

しかし、友達の家に行ったり来たりするようになると、電話の中身も日程調整だけではなく、忘れ物をしてきたりと、内容も複雑になってきている。
また、目指す相手がない場合など、臨機応変に対応を迫られる。

ってなわけで、最近、ゆーた君、電話の受け答えを少しずつ身につけてきたようです。
僕たち夫婦が二人で働いていた頃、ゆーたはおばあちゃんと一緒にすることが多かった。おばあちゃんは相手に失礼のないように、ゆーたには電話に出させなかった。
だから、当然、受け答えも最近まで受け答えもまともにできなかった。
横にいて、コソコソっと言う言葉をそのままオウムよろしく口にするだけだった。

最近になって、やっと、
「さんのお宅ですか？」「君いますか？」
の二つはきちんと言えるようになった。
「すずき ゆーたですけど」と自分の名前を言うのは忘れる時がある。
だから、時として相手も、自分の知っている子と勘違いして、頓珍漢な受け答えが続くことがある。

そして、自分の予想したパターン以外になると途端に電話を置いてしまったり、ということも時々ある。

その都度その都度言って聞かせてはいるが、まだまだですな。

ゆーた、学校を休む の巻 1998/09/21(月)

風邪をひいて咽が痛くてたまらないらしい。
しかし、これには別の原因があるのだ。

明日は、小中学校、地元合同の「ふれあい運動会」があるのだ！

運動が苦手で、人と一緒にやるのがうまくできなかったゆーたにとって、「運動会」なるものは、本当につらくてたまらなかったようだ。頑張ろう、と言う気持ちの前に、「いやだ」という気持ちが全面に出てしまう。

特に2年生の頃はひどかった。

僕が運動会当日、学校に行くと、校門の所で泣きながら、「家に帰る」と先生を困らせていたこともあった。

その後、

「自分で頑張ったと思えるようにしよ！」

「頑張ったらケンタッキーでお祝いしよ！」

というようになった。プラモデルを買ったり、と。

いつしか、嫌いな運動会を頑張ったら、プラモデルを買ってもらえる、と自分で決めてかかるようになった。

運動会が近づくと、「頑張って100点だったら、
を買ってよ」と。

そうすることによって、自分の気持ちを奮い立たせているのがよくわかった。

ところが、今回は、僕が先に旅行のおみやげで「ガンダム」を買ってきてしまったのだった。
「これは運動会の分もふくまれているんだよ」と。

ゆーたにはショックだったらしい。

だって、自分が欲しいと思っていたのと違ったから。

一辺に気持ちが萎えていったのがわかる。

そこへ持ってきて、咽の痛み.....。

布団でゴロゴロしているゆーたの横に行って、

「心の中で、戦ってるの？」と聞くと、

「ウン」と小さな声で、答えが返ってきた。

今、午前11時。

大分、元気が出てきた。同時に退屈でたまらなくなってきたようだ。

「ゲームやって良い？」「絶対にダメ！」

結局、ガンダムは一時、棚上げ。

例年通り、明日運動会が終わったら、ケンタッキーに行き、お祝いということになった。

(「子育て日記」9月18日より)

ゆーた、額に傷を付けてくる、の巻 1998/10/05(月)

午前、10時前。学校から電話があった。保健の先生からだった。

ゆーたが友だちの投げた石で額に怪我をした、と言うのだ。

傷そのものは大したものではないらしいが、頭を手術した、ということもあり心配して電話をくれたのだった。

「吐き気をもよおしたりするようなことがあったら連絡下さい」と言うことで電話を切った。

夕方、担任の先生から電話があった。

相手は女の子。

ゆーたの隣の席で、面倒をよく見てくれている子だと。

原因は、体育の時間が終わった後、ゆーたが「　　さんて言い方がきついんだよね」とその子に向かって言ったのが発端のようだ。

その子は腹を立てて、小石を投げ始めた。

ゆーたの周りに、2～3人の男の友だちが加勢し、対抗して石を投げ始めた。

ゆーたも投げ返した、とその子は言う。

しかし、ゆーたは投げ返してはいない、と言う。よく、覚えていないとも。

恐らくその子が言うことが正しいのだと思う。

そして最後の一個がゆーたの額に当たった。

そして少し切れてしまった、と言うことだ。

午前中の時間を使って、担任の先生がクラスで話し合いをし、給食前には元通り元気になったと。「どんな理由があっても、『石を投げて良い』なんてことはないんだ」と。

事の発端はゆーたの一言。

ゆーたにはまだまだ他人を思いやる気持ちが育っていない。

正直ホッとした。

一步間違えば、立場が逆になってしまうところだった。

丁度担任の先生と電話をしているときにゆーたは帰ってきた。

ゆーたは、そーっと2階にあがってきて廊下にランドセルを置くと、サーッと下に行ってしまった。

「今日は、パパとは顔を合わせない」と言っていたそうだ。

ゆーた、自転車に乗る、の巻 1998/10/12(月)

ゆーたは自転車に乗れないわけではない。

自転車に日頃乗らないし、乗せない。

視野、視力から来るものなのかどうかはわからないが、周りに対する注意力が散漫で、危なっかしくて見ていられない。

それと、右足首が固く、ペダルから直ぐ足が外れてしまい、非常に不安定なのだ。

不安定になるからますます肩に力が入る。ますます不安定になる……。

ゆーた自信も自分の不安定さを自覚しているらしく、

「自転車買ってあげようか？」

と聞いても、「いらない」と答える。

で、沼津の女房の実家に帰ると、サイクルスポーツセンターによく出かける。そこには、2 kmコースがある。

そのコースは勿論補助輪などはない。2年生の頃、コロ付き自転車しか乗らなかったゆーたが、一気に乗れるようになったのは、そのコースのおかげだ。

400円/30分。高いかもしれないが、適度な上り下りがあって、安全に気を配ってある。

多いときなど、5周、10 kmを走らせることもある。

そうなると、こちらの方が持たない。

日曜日、「サイクルスポーツセンターに行こう」ということになり、出かけていった。

久しぶりに乗ったせいか、直ぐに転び、その後もなかなか調子が出ない。

「いやだぁ～」と弱気になりそうなゆーたを、大きな声で直ぐ後ろから

「左、寄って！」

「ブレーキ！」

とフォローしながら、走らせる。

1週目が終わる頃には、乗り方を思い出したらしく、スムーズに走らせるようになった。

驚いたことは、随分慎重になったことだ。
以前は、スピードを出すことが面白いらしく(それが怖かったのだが)、やたらめったらスピードを出していた。
周囲が目に入らなかったのかもしれない。

ところが、今回は、ブレーキをかけてスピードを落としたり、転ばない程度にゆっくり走らせたり……。まだヨタヨタ走らせている他の子ども達の間を、うまくすり抜けていく術も覚えた。

う～ん、公道デビューも近いゾ！
親子で近所を自転車で走らせる姿が頭の中ををかすめたが、まだまだだろうな……。
ゆーたが自分で「自転車が欲しい」と言ってくるようになるまでは、
一つ一つ自分で納得して、自信をつけて進んでいくのだろうか……。

あんな病気をしたから... 1998/10/27(火)

夕方、いつものように友だちと一緒に遊んでいるゆーた。
僕もいつものように少し離れたところでパソコンに向かっていた。

「ゆーた君、変だよぉ～」
なんの話かわからないけれど、そんな言葉が聞こえた。

ゆーたは、
「変なんだよ、ゆーたは。あんな病気さえしなければ、良かったんだけどぉ」と、答えた。

友だちは、
「ねえ、ゆーた君はどんな病気をしたの？」と。

それに対して、ゆーたは答えられず、黙っていた。

生まれてすぐに手術をしたことなどは、ゆーたには話してはあるが、細かいことまでは話していない。
というより、どう説明して良いのか説明のしようがない、というのが本音。

だから、ゆーたもよくわかっていないのだろう。

これから先、もっともっと自分の事を自覚していくようになるんだろうなあ、と思った。

僕はドキっとして、パソコンに向かう手を止めていた。

(子育て日記 1998/10/22 より)

=====

ゆーたの左側頭部には、半円の手術の跡があります。
また、そこには、シャントを埋めてあるため、「瘤」があります。
「脳を摘出した」=「バカ」という図式が思い浮かびます。
「ゆーたはどうせバカだモン」という言葉を時々口にします。
だから、どう説明して良いものなのか、未だにうまく表現できないでいるのです。

=====

ハードルの高さ～我が子が見極め～ 1998/11/09(月)

「期待はずれ」と言う言葉が使われるとき、僕はこう聞き返してきた。
「それは、その子に対する、期待が過度のものであり、親の見定め方が間違っていた、という事ではないか」と。

その考え方は我が子にもあてはまる。

ゆーたのようにハンディを持っている子どもに限ったことでないと思うが、その子の越えられるハードルの高さを見誤ると、大変なことになる。

今できることより、更にもう一步前へ！

そう思ってわが子に接する。

きちんと、その高さが設定できるときはよいが、「高さが見えなくなる」時がある。今、それで考えてしまっている。

子育て日記(11/7,11/8)にも少し触れたが、今、体力をつけないとますます体を動かすことを嫌う子どもになってしまう。この点については、女房の方が体育が専門ということだけあって、危機感を持っている。

また、学校でも「ゆーたの病気」ということから、先生方も本人が「調子が悪い」と言えば、無理はさせない。

友だちもゆーたの体力がないこと、運動が苦手なことは認識している。

一方、ゆーたも知恵が随分付いてきたので、「楽をする」ことを覚えてきている。

できっこないことや、やっても挫折感しか与えないようなことを無理強いしても、マイナスにこそなれ、決してプラスにはならない、ということもイヤというほど体験してきた.....。

どこまでゆーたに負荷をかけて良いものなのか、土曜日辺りからそのことでかなり考えてしまっている。

で、今日辺り学校に行って先生に最近の様子をじっくり聞いてこようと。

まずは、きちんとゆーたを見つめることから始めよう、と。

それにしても、僕がほとんど家にいなかった、保育園から小学校2年生の頃に、もっともっというんな事をすれば良かった、とついつい思ってしまう。

あの頃の時間を少しでも取り返したい、そんな思いでいる.....。

歩いていれば、かならず着くんだよ 1998/11/16(月)

先週の月曜日から始めた、ゆーたとの朝の散歩。

きっかけは、マラソン大会が近づいてくる、ということだが、それよりもゆーたと僕の「体力増強」が一番の目的。

特にゆーたを見ていると、非常に自分に対するあきらめが早く、ちょっとしたことで「フニャフニャ～」となってしまう。

特に体力については、今、つけておかなければ、という強い危機感が僕たち夫婦にはある。

しかし、スパルタ的にやるつもりは毛頭なく、一緒に散歩する中で、少しでも体力が付けば、と思っているのだが.....。

朝、寒かったり、眠かったりすると、歩きながらも「もう、帰ろう～」となるゆーた。時には励まし、時には先に歩いたり、いろんな事を話しながら歩く朝は、楽しい。(おかげで、寝不足気味だが)

歩きながら、「歩いていれば必ず着くんだよ」と口にしていて自分に気が付いた。

.....

ゆく手を確かに見つめるならば

歩いていれば 必ず着きます

この明快な真実をしばしば忘れ

何度歩みをとめかけたろう

わたしは恥じらいをもって

きびしくやさしい言葉を思う

歩いてますか

手応えのなさそうな遠く 苦しい道を

はるかに光る希望を掲げて

滝いくこさんの「もえる道」という詩の一節。
昔、クラスの生徒や、授業で、そして自分自身に何度も読んだ詩だった。

この詩を、ゆーたと二人で歩きながら、久しぶりに思い出していた。

落ち込み..... 1999/02/15(月)

3週間、メールマガジンの発行及びHPの更新に手が着きませんでした。

書きたいけれど、忙しくて書けないとき・・・。
書きたいけれど、気持ちが乗らないとき.....。
書きたい、と思う気持ちすら沸いてこないとき・・・。

この3週間は最後の「書きたい」という気持ちすら沸きませんでした。

2学期末から、3学期にかけて、ゆーたの精神状態がとつても不安定になってきました。
これは、他でもない、友だちとのトラブルなどを通して、新しい自分を生み出すための彼なりの苦悩なのですが、イライラを爆発させ、おじいちゃんやおばあちゃんに当たり散らしたり、訳も分からないことを言い出したり、わがまま一杯になったり.....。
そんな姿に面と向かっていくのは、やはり心身共に疲れるものです。

学校でイヤなことがあったりすると、家の中での些細なことに怒ったりするゆーたをそのままにすることもできずに色々となだめたり、すかしたり.....。

しかし、5年生にもなろうとしているゆーたも、一筋縄ではいかなくなっています。
きちんとこちらの「弱点」をついてきます。
頭に来ることをわざと言ったり.....。

先だつての大雪(浜松でも積雪数cmの時)、朝からわめきだしているゆーたに、とうとう頭に来た僕は、パジャマ姿のゆーたをベランダに放り出し、鍵をかけて閉め出しました。

わめくこと、数十分。
ようやく、「わかったよお。ごめんなさい」と口にしました.....。

学校に行って、担任の先生とも最近の様子をじっくり話をしてきました。

ゆーたが学校から帰ってくる時、機嫌良く帰ってきて欲しい、そんな思いで一杯でした.....。

難しいです。

でも、こうした日々の出来事は、きちんととらえ直しておかないといけないと思っています。

僕自身の小学校時代が、まざまざと蘇ってきました.....。

運動会 '99 ~ ようやく終わりました ~ 1999/05/31(月)

「ぼちぼちいこかっ」をお読みの方は、「ああ」となる話で恐縮ですが、なんとかかんとか今年も運動会が終わりました。

この地域は、春に学校の運動会。秋には地域の運動会があります。
年度当初、校長が「今年の春の校内運動会は、競技的色彩を強くしたい」と発言したときからイヤな予感がしてました。

種目の中に全員リレーというのがありました。
順番を決めるとき、「ゆーた君がいると負ける」「邪魔だ!」ということを言われ、もう出ない。休む。と
言い出しました。

結局、クラスの前で、ゆーた自身が、「僕が出ない方が良くと思うんだ。負けるに決まってるか

ら」と言いました。クラスの生徒達はその場で「それでもいいから、一緒に走ろう」と言うことで、ようやく運動会に向かう気持ちになりました。

前日の土曜日、去年同じクラスだった子から、「コースを外れたら殺す!」と言われ、また、気持ちが萎えました。

...ゆーたはリレーの際、トップを走ることになり、コースはセパレートコースということだと思えます...。

先方の親、学校に連絡しました。担任の先生は、当日の朝、直ぐに対応してくれました。
(先方の親は納得いかないらしく、しこりが残りました)

そんなかなで、何とか運動会に出ました。みんなにサポートされながらも一日を過ごしました。緊張しながらも楽しそうにやっていました。

息子も大きく揺れた2週間ですが、親である僕たちも揺れまくった日々でした。

同時にゆーたの次なる課題が、よりはっきりしてきたように思えます。

その課題を越えるためには、学校やクラスの友だちの関わりが重要になってきます。

道はまだまだです...。でも、一歩ずつ...

いやなことばかり! ~ ホント大変です ~ 1999/06/14(月)

全く猫の目のようだ。

午前中、清里での一泊二日の楽しかったことを、「ぼちぼちいこっ!」に書いて配信したところ。このメールマガジンも、ゆーたのことを他の内容で書いていた所だった.....(--;))

::*··'° 。>::*··'° ° '·*:..。>::*··'° 。>::*.....*:

帰ってきたときの様子が何かしらおかしい。
なかなか二階に上がってこようとしない。

「もう、イヤなことばかりだぁ.....」と。

月曜日はクラブの日でゆーたは工作クラブに入っている。

今日は、自由と言うことで、プラモデルなどを持ってきて作って良かったみたいだった。「みたい」というのも、先週の金曜日にも、女房に叱られ、「もう、学校に行かない!」と休んだため、何をするのがわからなかったのだ。

運動会の前辺りから、僕が仕事を休むきっかけとなった二年生の頃と、同じような感じになってきている。感情を爆発させ、わめき散らす。

しかし、二年生の頃と大きく違うことは、ゆーたなりに理論立てて、怒りをぶつけてくることだ。

「M君に、『一番テストの点数が悪いヤツ!』って言われた!」

「FさんとTさんの言い方がものすごくきつい!」

「君に、『ばっかっ!』って言われる」

何かにつけてゆーたは、周りの子ども達から、バカにされたりして、傷つけられてきたことは、容易に想像できる。実際、家に友だちが遊びに来たときも、ゆーたへの言葉がきつかったりすることは、しばしばあった。

::~··'° 。>::*··'° ° '·*:..。>::*··'° 。>::*.....*:

しかし、ゆーたとてこのままではいけないのだ。

学校でイヤなことがあると、感情を爆発させ、全てがイヤになってしまう。

だが、気持ちを落ち着かせ、少しずつ、整理をしていってやると、それなりにわかってくるようになってきた。

自分がどうして腹を立てているか、怒っている対象は、何なのか?

何がいけないのか、何をどうすればいいのか.....?

そこをゆ一たにわかるように話をしていく。

もっとも、これは非常に労力を要することで、ゆ一たが感情を爆発させると「ああ、またか……」と、目一杯気が重くなる。

:.:.:'° 。.:.:'° ° ':.:'.。:.:.'° 。.:.:'.:':

運動会の後、クラスの女の子に、「いつもきつく言われる」と泣きながら訴えてきたことがあった。担任の先生から見れば、「別に他の子に対する言い方と変わっているようには思えないんですが……」と言った感じた。

だが、ゆ一たには「きつく」受け取られるのだった。

先生にお願いしたことは、
「まず、ゆ一たの気持ちを聞いてあげて欲しい。その女の子達に自分の思いを伝えさせて欲しい。そして、ゆ一た自身がまずいとところは、きちんと指摘してあげて欲しい」ということだった。

4年生までは、何かあれば、女房や先生に訴えて「何とかしてもらえ」ということで、物事を解決してきた。

5年生になって、一番大きく変わったことは、「自分の口で伝えたい!」というようになったことだ。これは、話をして「わかってもらえた」という感覚を持ちたい、という気持ちの表れだと思う。

大人の手を借りるのではなく、同年齢の友だちとの関わりを、自分なりにつくろうとしている……。

今のゆ一たを見ていて、そう思う。

:.:.:'° 。.:.:'° ° ':.:'.。:.:.'° 。.:.:'.:':

そうは言っても、そんな簡単に、他人との関係が作れるわけではない。その都度その都度、感情を爆発させ、その度に周りをイライラさせ……。

担任の先生にお願いした。
「今しばらく、こうした不安定な状態は続くと思います。何かあったら、こちらに言ってきて下さい。直ぐに対応します。そして、まずいことはまずいときちんと要求して下さい」と。

学校に行かなくなったゆ一た 1999/10/13(水)

先週の水曜日から、ゆ一たは学校に行かなくなった。

ゆ一たが決めたというより、僕たち親が「行かせない方が良さだろう」という判断をしたのだった。

2学期に入ってから、ゆ一たの精神的な不安定さは、ますますひどくなっていった。これは、今月末にある、林間学校で2泊しなくてはいけない、ということが大きな要因だろうと思う。

それに伴い、気分感情のムラが激しく、気持ちが乗らないとホント何もせずにいる。

周りから見れば、「サボリ」にしか見えないようなゆ一たの行為。

不安定であるが故に、突然感情を爆発させたり、と。

クラスの子ども達も、イライラを募らせる。

5年生という時期は、思春期に向かい、自我に目覚め、精神的に色々な壁にぶつかっていく時だ。ゆ一たの言動を理解することは、自分のことで手一杯な子ども達にしてみれば、非常に難しいことだろう、そう思う。

ゆ一たの存在自体が、「イライラ」を募らせることにもなる。

何かの拍子にゆ一たにちょっかいを出すようになる。

ゆ一たはますます不安定になる。

しまいには、ちょっとぶつかった、というだけで「首をぎゅっと締められた」「手を捻られた」ということも……。

「学校に行くと、何をされるかわからない」

そういう不安を、強く抱くようになった。

家でもちょっとしたことで、感情を爆発させるゆうたに対し、こちらの口調も次第にきつくなる。ますます、感情を激昂させるゆうた。
「筋が通らない」話が続く。

このままでは情緒障害を引き起こしかねない。「二次障害への危機感」
これを強く感じ、しばらく学校を休ませることにした。
併せて、メンタルクリニックに親子三人で行くことにした。

：*：° 。 .：*：° ° '：*：. .：*：° 。 .：*：*：*：

メンタルクリニックでは、院長先生が面談を行った。
結論的には、
「学校のような、大きな集団では、今、大変でしょう。こちらに併設しているデイケアに通わせてみたらどうでしょうか？」
ということだった。
デイケアの担当のスタッフと今週の金曜日に詳しい話をしにいくことになっている。

イライラ 1999/10/13(水)

本当にイライラしてしまう。
イライラすれば、僕の口について出てくる言葉には、ますますきつくなり、ゆうたを追いつめていく。
ゆうたも負けずに言い返す。
そんなことを繰り返して、ゆうたの精神状態に良いわけがない。

毎日家に居て、「ゲームは一時間だよ」と言っても、他にやることのないゆうたは、二階に僕がいない時には、延々とゲームに興じている。

MP3のレコーダーのRio500を衝動買いした。
ゲームの音が聞こえないように。
ゆうたの言葉が極力、耳に入らないように.....。

ゆうたからしてみれば、「拒否されている」と思うだろうなあ。
確かに、今僕がしていることは「無視」だろう.....。
しかし、口を開けば、きつい言葉をゆうたにぶつけ、更にゆうたを傷つけていくよりは、まだ「まし」だろうと思っている。
それしか、今、僕には対応する術がない。

：*：° 。 .：*：° ° '：*：. .：*：° 。 .：*：*：*：

僕は今、ゆうたのことを「僕の立場」から見ていると思う。

思いっきり身体を動かし、汗を流すことの気持ちよさ。
みんなと一緒に、何かやることの大変さと、やり終えた後の充実感。

色々な体験を通して、心豊かに育って欲しいと思っている。
一人で生き抜いていくたくましさをも身につけて欲しいと思っている。

5年生になると、周りの子ども達は、ビックリするくらい大人びてくる。
同時に、ゆうたと周りの子ども達の「差」が歴然としてくる。
そうしたことに對する、「焦り」が僕の中にあっただろうと思う。

「5年生になってから、急に厳しくなった！」
ゆうたが最近、よく口にする言葉。

ゆうたにとってそのハードルの高さをどうであるか、と言う前に、5年生である、ということでハードルの高さを設定していたんだろうなあ、と。

:.:.'° 。.:*:. '° ° ' .:*.:. .:*. '° 。.:*:.:.*:

「子どものあるがままを、まず受け止めること」

そこが出発になることは、頭ではわかっている。

が、そうした気持ちに心底なれないでいることが、一番、自分を苦しめている要因だろうなあ。

学校 1999/10/13(水)

学校はゆーたのような手のかかる子どもをどこまで受け止めるつもりがあるのだろうか？

今の担任の先生は、今年転勤でやってきた。40過ぎの「ベテラン」の男の先生だ。

一学期から、何度も学校と連絡をとり、また、家にも寄ってもらったり、よくやってくれるとは思っているのだが、どうもズレを感じ続けてきた。

「サボっている」「怠けている」そう言う言葉が気になった。

「ゆーた君のような子は、初めてで、どう対応して良いかわからない」とも。

「何かトラブルがあったら、直ぐに連絡を下さい。特にゆーたがパニックを起こすようなことがあったら、学校に出向きますから」

そこのところを一番強くお願いしてきたつもりだった。

学校に行かなくなって、二度ほど、家に寄ってくれた。

「学校やクラスがゆーた君にできることは何かありますか？」

とってくれた。

子ども達が受け入れる前に、担任や学校が、本当にゆーたを受け入れていこう、という気持ちがあるのだろうか？

本当にしんどいことだと思う。

でも、そのしんどいことをしよう、という思いが担任になれば、話にならない。同時に、担任だけにしよわせるのではなく、学校全体が、そう言った気持ちにならない限り、無理だろうなあ、と。

:.:.'° 。.:*:. '° ° ' .:*.:. .:*. '° 。.:*:.:.*:

「どの子も見捨てない」という言葉はカッコ良い。

しかし、その言葉を口にするには、何よりも大人自身が変わらなければならない。

きれいごとですますのか？

それとも「限界」を口にするのか？

僕は自分自身の教員時代と、今をだぶらせる。

もし僕が担任だったら、まだまだできることがあると思っている。

色々やることがあると思っている。

でも、今は担任に対して、あまり要求をしていない。

ゆーたを受け止めることが、クラス全体にとっても、学校全体にとっても、大切なことなんだ、という気持ちがない限り、表面をなぞるような形で終わってしまい、結果として、かえってゆーたをより傷つけることになるだろうから……。

:.:.'° 。.:*:. '° ° ' .:*.:. .:*. '° 。.:*:.:.*:

僕は、学校に固執していない。

女房は、「そこまでわりきれない」と言う。

僕が固執するのは、「ゆーたと同年齢の集団」だ。

学校がその場に相応しくなければ、見つければ良い。

なければ作り出せば良い。

そう思っている。

しかし、まだ、その「場」は見えてこない。

これから... 1999/10/13(水)

時間がかかるだろうなあ、ということだけはわかる。
同時に、僕もゆーたも、そして僕たち家族が、これから、もっともっと、悩んでいこうという事でも。

ゆーたには、一生何らかのフォローが必要かもしれない。
今の社会は、弱者に対して、あまりにも厳しすぎる。

何を作り出していくのか、そこを探さないといけない。
長い道のりになりそうだ.....。

担任 1999/11/09(火)

「5年生になってから、学校に来なくなったと言うことで、自分に何か原因があるんじゃないかと悩んでます」担任の先生は、そう言ってくれた。

.....良い先生だなっ、素直に思った。

確かにゆーたは5年生になってから、学校を拒否し始めた。

しかしこれは学校や担任の対応に問題はあったとしても本質的な問題だとは思わない。

「なるべくしてなった、登校拒否」であったと思う。

友達とのこと、担任とのやりとりは、きっかけにはなったとしても、ゆーたが僕たち親に投げかけていることは、もっと、もっとあの子自身の存在に関わる問題、自分とは何か、ということに対する出口の見えない「問い」のような気がする。

担任の先生が悩んでくれていることは、とても嬉しい。

そして、悩んでいることを、率直に悩んでいる、と言ってくれた事が。

「時間が今は必要です。ゆっくり行きたいと思いますから、先生もゆっくり考えてください。ゆーたのことを忘れないでいてくれれば、それで良いですから.....」

そう伝えた。

自分を変える 1999/11/09(火)

「教師をやっている楽しいことは？」

そう聞かれるたびに

「そりゃあ、自分を変えることをつきつけられるから」

と、僕の答えは決まっていた。そして付け加える言葉も決まっていた。

「生徒たちとつきあっていくと、自分の価値観や固定観念がこれでもか！ と言うくらいに覆される。そのたびに自分のことを考えられる。お金をもらって自分を変えてくれるんだから、こんなに良い商売はないヨ」

「もっとも、生徒たちとトラブルのまっただ中の時には、『コンチクショー』ってなっているけれどもね。」と。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '°*:~.。.:*:~'° 。.:*:~:~*:

ゆーたが学校に行かなくなって一ヶ月が過ぎようとしている。

僕は久しぶりに、かつて教員をやっていた頃のような「自分を変える」ということを突きつけられていることを実感できるようになってきた。

「パパは、5年生になってから、すごく厳しくなった」

「一度にあれもこれも言わないでよ。」

「言い方がきついなんだよ。だから、ゆーたはパニックになっちゃうんだよ」

:*:~'° 。.:*:~'° ° '°*:~.。.:*:~'° 。.:*:~:~*:

僕は器用な人間だと思っている。

運動能力も決して低い方ではないと思うし、音楽、文学などに対しても、それなりのものを持っている、と。

所謂マルチ人間、器用貧乏、なんだと思う。

また、人に負けることが嫌いで、「凄いなあ」と思う人間に対しては、どん欲なくらい自分に何か吸収で

きないかと思ってきた。

自分の中に「ハングリー精神」が失われ、怠惰な自分を一番嫌ってきた。

一人で何かするよりも、仲間と何かを作り上げることが好きだった。

ウジウジ悩むよりも、何かしら動いていく中で見えてくる、そういうパターンで行動してきた。

そんな風にして僕は生きてきて、そして今がある。

:.:.'° 。.:*.'° ° '.:*:.。.:*.'° 。.:*:.:.*:

で、ゆーたはと言えば.....。

今の状態は、今までの自分の行動パターンでは考えられないことばかりだ。

確かに障害を持っている、ということはあっても、一番の問題は、今、そこにいるゆーたが出発点になっているのではなく、僕自身の生き方や、考え方が出発点になっていることだと、今更ながら思うようになった。

「親が変わらなければ、子どもは救われませんよ」

何百回と口にしてきただろう言葉を、今、そのまま自分に向けてみる。

かつてゆーたが生まれたときに、初めて「いのちの重さ」を実感した時のように、改めて、その言葉の持つ重さを感じている。

「パパは拗ねてるんだよ...」 1999/11/09(火)

「もういい！そんなにパパがうっとうしいなら、パパはいない方がいいんだな！」

こんな言葉を口にすることもある。

言っではいけないと思いつつ、あまりにも口が達者で、あーいえばこういう式のゆーたの屁理屈に頭に来た時など、つつい.....。

その度にゆーたは、頓珍漢な事を言い、「いない方が良い」等とは決して口にはしない。

「そんなこと言いたいんじゃないんだよ。とにかく僕を受け入れてよ！」

そう言いたいんだろうと思う。

とにかく、その度に自己嫌悪に陥る。

ゆーたは、僕の次の出方を窺っている。

頭に来た自分の感情を整理できずに、朝飯の時間になっても、布団の中でモゴモゴしていて、起きていかなかった時があった。

なかなか起きて来ないので、女房が

「パパ、どうしたんだろうねえ？」とゆーたに聞いた。

「ウン？きっと拗ねてるんだよ」とゆーたは答えた。

おだやかな日々 1999/12/03(金)

ゆーたが学校に行かなくなって二ヶ月。

この間ゆーたは変わった。

学校に行かなくなる直前のように、感情を爆発させることが、ほとんどなくなった。

以前だったら、ちょっと注意するだけで怒ったりしていたことでも、最近では、

「ズキッ!!」「グサッ!!」

と言って、笑いながら受け答えをするようになってきた。

又、寝る前に布団を敷いたり、歯磨きをしたり、自分の洗濯物をしまったりと言ったことが、時としては自分でさっさとやるようになってきた。

さっさとやることはまだまだ少なかったりもするが、今まで、いろんなことに追い立てられていたんだろうなあ、そんな風に思った。

:.:.'° 。.:*.'° ° '.:*:.。.:*.'° 。.:*:.:.*:

僕も変わってきた。

以前は、余程のことがない限り、3時過ぎには家に帰りゆーたを待ち構え、帰ってくるなり、「今日、学校どうだった？」

「宿題は？」
「やること先にやっちゃおう！」
とゆーたに問いかけていた。
そして8時を過ぎる頃になると、
「早く、明日の仕度をしちゃうないと！」と……。
時間の経過と共に、その声は次第にきつくなっていた。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '°*:~.。.:*:~'° 。.:*:~:~*:

今は、たとえば時間や勉強でゆーたを追いかけることがなくなった。
「いいじゃん、ゆっくりやれば。時間はたくさんあるんだから」
それがまず口をついて出てくるようになった。

……これを書きながら、ミヒヤエル・エンデの「モモ」を突然思い出した……。

ゆっくりいけばいい……。
時として、このままでいいんだろうか、という漠然とした不安感に襲われる自分もいないではないが、いいんだよそれで、と言う僕の方が、今、圧倒的に勢力を強めている。

無理をして何かの形に押し込めた時、その反動がどれだけおっかないかということは、高校生達と接してきた中の乏しい経験ではあっても、ある種の確信みたいなものがある。

今年最後のドタバタ ~ 死んだ方がましだ！ ~ 1999/12/30(木)

おじいちゃんに我が儘を言って、聞き入れてもらえず、怒り出したゆーた。
次第に興奮し始めて、最後には
「どうせ、ゆーたなんかいない方が良いんだ！」
「死んだ方がましなんだ！」
とわめき立てる始末……。

ほとほと手を焼いて、滅多なことでは僕を呼ばない親父も、さすがに今日は、「おい、ゆーた、何とかして」と言ってきた。

小学校2年生の時以来、ゆーたをひっぱたいた。
「やめてよ！」
女房の声が聞こえた。
2階に連れて行って、
「そんなに死にたいのか！なら、今から死ににいこう！」
そう言って、車に無理矢理押し込んで、山の方に向かった。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '°*:~.。.:*:~'° 。.:*:~:~*:

家からどれだけ車を走らせたんだろうか？とにかく車を走らせた。
僕も来たことのないような所だった。
林道から未舗装の横道に入っていった。
車が一台ようやく通れるような細い道。鬱蒼と茂った木々。
時々、車の下に草や石があたる。
僕もいささか不安になってきた…。

車が一台止まれるような草地があった。
そこに車を止め、そこに降りそうとした。
ゆーたはもちろん抵抗した。手足をばたつかせ、車のアチコチにしがみつこうとした。
しがみついているゆーたの手を、一つ一つひっぺがし、裸足のまま、外に放りだし、ドアをロックしエンジンのかけた……。

ゆーたは泣きわめいた。
これでもか、というくらいの悪態をついた。

あーでもない、こーでもない、と騒いだ。
人を責めた。おじいちゃんを、おばあちゃんを学校の友達を...

:.:.'° 。.:*.'° ° '.:*:. .:*.:'° 。.:*...*:

「今日のような我が儘は誰がなんと言おうと、お前が悪い。」
「『死にたい』『いない方が良くい』なんて誰が思っているんだ！」
ゆーたが何を言おうが、僕は言い続けた.....。

どれだけの時間がたっただろう？
ようやく、わめく声も収まり、力無い声で「ごめんなさい」と言う言葉が口から出てきた。

.....下手をすれば、車を出さないといけないかなあ？
もしかしたら、夜になるかもしれないなあ.....。
そんな事まで考えていたから、やはりホッとした。

:.:.'° 。.:*.'° ° '.:*:. .:*.:'° 。.:*...*:

もし、ゆーたが人を殺したりするようなことになりそうだったら、僕はゆーたを殺して、自分も死ぬんだ
ろうな、そんなことを考えていた。
きちんと小さいうちに、自分の感情をコントロールできるようにしなければ、中学校、高校、そして大人
になったときに、大変なことになるだろう、
今、色々と起きている、衝動的な殺人などのニュースを見聞きするに連れ、その思いは強くなっていく。

また逆に、今年一年間で、随分と幼児虐待のニュースも報道された。

誰の子どもでも、ない。ゆーたは僕たちの子どもだ。
「ゆーたが死ぬときは、パパも一緒に死ぬ」
今日、ゆーたに言った言葉だ。
子育てには、覚悟が必要なんだと思った。

5年生終了～見誤り～ 2000/03/30(木)

いよいよ今年度も終わり。
年度が替わることをこれほど意識するのも、PTAの会長としての一年が目前に迫っているからだろう
か？
それともゆーたが学校に行かなくなったからこそ、必要以上に節目を意識するようになったのだろうか？
ともあれ、この一年間を振り返ってみると、僕はゆーたに随分と重しをのつけてしまったように思うの
だった。

6月の懇談会の席上で、4年生の時、よく遊びに来ていたA君のお母さんが「ゆーた君の手助けをしてあ
げようとしたら、『本人のためにならない!』ときつく言われた」
そう発言した。
今にして思えば、あの時、もっと僕が敏感に感じ取ればよかったのだった。
学級担任の指導方針については、何かと批判があった。ただ、僕にしてみれば、何度も家に足を運んでく
れて、色々と話し合いを積み重ねてきていただいただけに、担任も色々と考えてくれる、という受け止め方をして
いた。
明らかに5年生になって、ゆーたに対する周りの子ども達の関わり方が、変わった。今までは、ゆーたの
できないことはみんなでカバーしてあげよう、というトーンが根底に流れていた。

:.:.'° 。.:*.'° ° '.:*:. .:*.:'° 。.:*...*:

しかし、ゆーたに対する周りの子ども達の関わり方が変わった。
今までは、ゆーたのできないことはみんなでカバーしてあげよう、というトーンがあったが、ゆーたを遠
くから見ているようになった。
手を出せば怒られる、というのがあるから、只見ているだけ。
だから余計にゆーたに対するイライラが募る。

一方、6年生のあるクラスが学級崩壊になった。
また、5年生の他のクラスでは、担任の子ども達に対する接し方、物言いに色々と苦情なども出てきた。
学校全体を、何とも言えない重苦しい空気が包んでいったような気がする。

：*：*’° 。：*：*’° ° ’*：*：*。：*：*’° 。：*：*：*’*：*

僕がゆーたに対して、鈍感だったのだ。
そうしたゆーたの重苦しい気持ち、みんなからの冷たい視線、イライラのはげ口……、そうしたものに
ゆーたは毎日さいなまれていたのだ。
目に見えた暴力とかはないにしても、いつ何時、だれかが何かを言うてくるかもしれない、そんな気持ち
になり、学校の中で感情を爆発させ、それが更に周りの友達、先生からも疎んじられるようになったのだと
思う。

「例えば、左手を失った人に左手を使え、というようなことをゆーたに要求しないで欲しい。ゆーたの心、
能力は『5年生』というくりではくくれないのだから。」
そう学校に伝えたのは、かなり後になってからだった。

：*：*’° 。：*：*’° ° ’*：*：*。：*：*’° 。：*：*：*’*：*

ゆーたが学校に行かなくなった当初、
「学校に行かないんだから家の手伝いをしなさい！」と口にした。
「すぐにそういうことを言う！とにかくゆっくりしたいんだ」ゆーたは泣き叫んだ。
「学校に行っていないこと」を一番苦にしているのは、ゆーた本人なのだとすることに、僕が気が付いたの
はメンタルクリニックに通うようになってからだった。

「同年代の子ども達と安心して関われる居場所」を探してみたが、それ以前にゆーたには傷ついた心を癒す
時間が必要だったのだ。

：*：*’° 。：*：*’° ° ’*：*：*。：*：*’° 。：*：*：*’*：*

「年度が替わろうとするときは、どうしても不安定になります」
カウンセラーのSさんがそう言った。
そう言えば、冬休みの時もゆーたは不安定になった。

更に今年はシャントの入れ替えの手術が待ち構えている。
どう、手術を迎えさせるか、非常に難しいところだと思う。

「学校は気になっているんだ。でも、何言われるかわからないから、怖いんだよ」と言うように、自分でぶ
つからなければならぬ壁は、これからますます増えていくだろう。だが、果たしてその時、僕は、いや僕
たちはきちんとゆーたの気持ちを受け止めてあげられるのだろうか……？

一年後、形はどうであれ、ゆーたの小学校生活は終わりを告げる。
ゆーたの心に、何を残してあげられるのだろうか……？

存在価値 2000/10/12(木)

一学期の中頃、担任の先生が、
「一度クラスの前でみんなの前でお父さんに話をしてもらいたい。ゆーた君のことを知っているようで、何も詳
しいことは知らないですから」
そう申し出てくれた。

今までも何度か、こちらの方から学校の先生に、「機会があれば、いつでも行きますから」と言っていた。

6月のある日、授業を1時間、「ゆーた君のお父さんの話を聞く時間」としてとってくれた。
クラスの子ども達を前に、色々話をした。
ゆーたの持つ「ハンディ」のこと。
不器用な子どもであること。
みんなと同じようには、なかなかいかないこと。

今まで、色々なところからかわれたり、バカにされてきたこと。

……

子ども達は、真剣に聞いてくれた。

僕の話が終わった後、質問の時間になった時、一人の子が質問した。
「ゆーた君の良いところはなんですか？」と……。

僕は、即座に答えられなかった。
子ども達にわかるような言葉が、うまく見つからなかったのも確かにある。
しかし、その突然の質問は、僕の心の奥底を鋭く突き刺した。

「ゆーたの良いところは…」

子ども達は僕の口から出てくる、次の言葉を待った。

「自分の興味を持ったことについては、本当にこだわって調べたりするところかな……？」

これは嘘だ。

家に帰ってからずっと考えていた。

ゆーたの良いところは何なんだ！？

僕は、本当にゆーたを大切にしているのか、ゆーたの存在を、心から愛おしんでいるのだろうか？

この問いかけが僕の心の奥底に棲みついてからというもの、僕は何事に対しても、力が入らなくなってしまった。

その後、先生から、僕の話聞いた子ども達の感想をいただいた。
子ども達は優しいのだ、と思った。
しかし、そうした子ども達への気持ちに、僕自身が答えるものがわからなくなってしまった。

：*：*：*° 。 ..*：*：*° ° '：*：*：*° ..*：*：*° ° ..*：*：*：*°

そのしばらく後、担任の先生がクラスの懇談会の席で、クラスの親御さんに話す機会を作ってくれた。

子ども達に話をした後の、重苦しい気持ちを引きずりながら、その席に僕はいた。

今までの経緯を話した。

そして最後に

「ゆーたは、決して気が利いていたり、みんなの先頭に立って何かができる子ではありません。むしろその逆で、ゆーたがいることによって、みんなに迷惑をかけたり、傷つけたりすることの方が多いです。

そんなゆーたのことを心配してくれる子ども達の気持ちはとても嬉しく思います。しかし、いざ、ゆーたが教室に来れば、みんなとなかなか歩調を合わせることはできません。 そんなゆーたが、このクラスにいる意味は、何なのかということを考えていただきたいと思います。

僕たち親も、ゆーたを育てることによって、色々なことを考えさせてもらえるようになりました。もし、ゆーたがいなければ、気がつかなかったことがたくさん、たくさんあります。そんなゆーたの存在は、僕たち夫婦にとってかけがえのないものです。

あの子が存在する意味は、そこにあります」

と。

：*：*：*° 。 ..*：*：*° ° '：*：*：*° ..*：*：*° ° ..*：*：*：*°

「サイモンバーチ」という映画がある。

障害をもった男の子が主人公の映画だ。

その子はいつも言う。

「神様は僕に使命を与えているんだ。でも、その使命は何かわからない」

12歳の時の、教会のバス旅行の時、湖に転落したバスから、他の小さな子ども達を救うために、彼は命を落とす。

ゆーたは、感情を爆発させ、わめき出すとよく口にする。

「ゆーたなんか生まれてこなければ良かったんだ！

どうせ、何もできないし、みんなに迷惑をかけてばかりなんだから！」

親としてのゆーたの存在と、ゆーた自身にとっての自分の存在とでは、また意味が違ってくるのだ。
ゆーたが自分の存在する意味を、自分なりに見いだす日が来るのだろうか？
いつになったら、自分を愛おしむことができるのだろうか？

：*・° 。 :*:・° ° '・*:.. :*:・° 。 :*:...*:

ゆーたが学校に行かなくなって一年近く。
毎日毎日、気が重くならない日はない。
「どうして、こんな事がわからないのか！」
「何度言ったらわかるんだろうか？」
おじいちゃん、おばあちゃんとの関係。
隣近所との関係。
学校との関係。
他の友達との関係。

ゆーたのようにハンディを持った者ほど、周りのフォローが必要になる。
ところが、当の本人は、どんどん周りの人間を傷つけ、不快な思いをさせ、自分の周りから、遠ざけていく。

そんなゆーたの側にいながら、ゆーたの悩みが少しでも軽くなっているのだろうか、という不安にたえずさいなまれる日が続く。

：*・° 。 :*:・° ° '・*:.. :*:・° 。 :*:...*:

結局子育てというのは、子どもの成長と共に、自分の価値観を少しずつ否定していくことなのかな、と思うようになった。
勿論、自分の価値観は大切だし、自分が寄って立つべきものは、しっかり持ち続けていきたい。そう思う。

新しい展開... 2001/4/30 (月)

結局ゆーたは6年生の間、学校に行くことなく小学校を卒業していった。
僕は、PTA会長としてゆーたの顔のない卒業式で祝辞を述べた。
4月、ゆーたは中学生になった。
僕は、ゆーたを家に残して入学式に顔を出した。
真新しい制服に身を包んだ、ほんの少し前のゆーたのクラスメートは、急に大人びた顔つきに見えた。

：*・° 。 :*:・° ° '・*:.. :*:・° 。 :*:...*:

3月にゆーたはシャントの入れ替えの手術のため、13日間入院した。
僕たち夫婦は静岡の病院まで、毎日200km、車で往復した。
手術は無事終わった。
前回の手術から6年の間があった。
待合室でただただ待ち続ける時間、何もかもが悪い方にばかり考えてしまう時間.....。とにかくゆーたの事しか考えなかった2週間が終わった。

：*・° 。 :*:・° ° '・*:.. :*:・° 。 :*:...*:

PTA会長としての一年間は、やはり忙しいものだった。
ゆーたに繋がるから、と思いつつもその忙しさの中で、何度も僕はゆーたを忘れようとしていた。

：*・° 。 :*:・° ° '・*:.. :*:・° 。 :*:...*:

後、2ヶ月ほどでゆーたも13歳になる。
最近、女房と話をする。
この先、僕たち家族はどうしていったらいいだろうか？
ゆーたはもう「子ども」ではなくなっていくのだ。

その現実はどう立ち向かっていくのか.....。
なかなか答えは見つかりそうもないが、ゆっくりゆっくり具体的な答えを見つけて行かなくてはならないのだ、と。

存在 2001/5/23 (水)

当然のことだったが、ゆーたは中学に行くことはなかった。
小学校の卒業から中学の入学は、ゆーたにとって何の意味もなかったのかもしれない。いや、あと何年、何十年たったら、何らかの意味をゆーた自身が見いだすかもしれない。
僕自身も中学校に足を運ぶことはまずない。
ごくたまに家に来てくれる担任の先生が、唯一、中学校の様子をかいま見せてくれるだけだ。
いつまで続くかわからない同じ毎日の繰り返し。「何か」があるとは思いつつも「何か」が見いだせない辛さも、併せ持つ。

:.:.:'° 。 .:*.:'° ° ' .:*.:. .:*.:'° 。 .:*.:.:*.:

それでもゆーたの存在はかけがえのないものだ。
社会や他者との関わりは、なかなかうまくできていかないが、それでもゆーたは、「そこに存在することだけで素晴らしい」のだと思う。
勿論、日々、口げんかしたり、怒鳴ったり、大声を出したりしているが、それでもゆーたは僕たちにとってなくてはならない存在なんだ、と強く思った。

:.:.:'° 。 .:*.:'° ° ' .:*.:. .:*.:'° 。 .:*.:.:*.:

ハンセン病訴訟のニュースが報道されるようになって、HPやテレビを見て改めてその実態に驚いた。
そこには、人間としての存在そのものを社会的に、そして、家族・肉親たちからも抹殺された人たちの姿があった。
改めて、「人の存在する価値」というものを考えさせられた。

ゆーたに限らず、全ての人が「存在することが素晴らしい」、そんなやさしさが、社会全体に培われていくことを強く願う。

中学校～遠い存在～ 2001/12/03 (月)

ゆーたが中学生になったと言っても、僕たちは制服も体操服も買わなかった。
ゆーたは一度も中学校の門をくぐっていない。
僕も学校に行ったのは、入学式と一学期に二度ほど。
学校との関わりは、一学期は月に一度くらいは、担任が学年主任の先生が家に来たが、7月以来、一度も来ないし、連絡も全くない。

だからといって学校の体制や、対応の仕方に文句をつけるつもりもなく、特に思うことはない。「まあ、こんなモンなんだろうな」と。

確かなことは、僕やゆーたにとって、小学校を卒業した途端、「学校」がとって遠い存在になってしまった、ということだ。「中学校」というものが、まるっきり見えない。
もっとも、僕の方が見ようとしていない、ということもあるだろうが.....。

学校がどんな状況なのかは、時々うわさ話で耳にしたり、小学校のPTA役員と一緒にやった人たちから、話を聞く程度。

う～ん、全然見えないなあ.....。
学校は何をしようとしているんだろう.....？

家族、友人

嗚呼、文化祭 1998/06/09(火)

HPのトップページに突然、モアイの張りぼて。

先日(5/31)に行われた女房の学校の文化祭のクラス展でつくったもの。

女房のクラスには、欽ちゃんの仮装大賞の常連で最優秀賞もとったことのある生徒がいる。制作は彼が中心になってやったとのこと。

文化祭の前の週、女房の帰宅は連日9時近く。

最近、生徒がしらけていると言われることがあるが、連日女房の口から生徒達のことが出てくる。

「3年生にもなるとホントしっかりしてくるわぁ」

「みんな、ものすごく楽しそうにやっているのよ」

話をしている本人が一番楽しそうだった。

かくして文化祭は終わり、我が家にモアイ達が居座るようになった。

ゆうたは、邪魔だよ、と邪険にしているが.....。

一方、他のクラスはなかなかみんなまとまらなかった、と。

そうした中で、他のクラスとのバランスを気にするようなことを、時々口にしたりもする。「あんまり目立つとよくないのよね」とか.....。

オイオイ、んなこと言うなよ。

文化祭については、また、HPで紹介する予定です。

お楽しみに(?)

親父... 1998/06/15(月)

=====
時経れば忘れゆかん流血もエンタープライズ寄港のことも
遂に心かようことなき部下として送別の宴に膝かたく居る
あわただしき朝のひとつき起きしぶる子に勤め持つ妻の声鋭(と)し
マラソンを日課ときめし子の朝のいさぎよきさまいつまでつづく
風邪の子を起きて勤めに出てゆける心知るゆえ妻も子もあわれ
ひとり待つ寂しさ体に滲ませて日昏の部屋に子は座り居き
神経の疲るる作業の日が続き時計いつしか手首にゆるし

「歌集 國鐵六華」より

=====
大学の頃、親父の本棚から見つけた一冊の歌集。

黙ってそのまま持っていた。

僕が小さい頃から、親父はよく机に向かって何かを書いていた。

僕がこの歌集を持っていることも、また、こうしてメールマガジンに載せたりしていることも、親父は知る由もない。

ゆうたの誕生日を前に、久しぶりにこの歌集を開いてみた.....。

専業主夫のひがみ 1998/07/06(月)

先週の金曜日、女房が帰ってきたのが7時30分過ぎ。

「ああ、疲れた～！ビールない～？」

もう、思いっきりからだ動かしてきたから。でも、楽しかったぁ～！」

その日、僕はゆうたをひとしきり怒ってしまった。というのも友達への口のききかたがとても悪く、いやな思いをさせたからだった。

怒られた後、ゆうたは下(おじいちゃんとおばあちゃんの所)へ行って、食事をもらって、そのまま上へ上がってこなかった。明日の支度や宿題のことなどもあり、早めに食事と片づけをすませたいと思っていたが、女房は一向に帰って来ずにイライラしていた。

で、ようやく帰ってきたかと思ったら、最初のセリフ。

今、高校は期末テストの期間。毎年この時期に、教職員の球技大会があり、その練習をやってきたと言う。帰ってきた女房に僕はブツブツ文句を言った。
「遅くなるんだったら、連絡しろ」とか「思いっきり遊んでさぞ、楽しいだろうね」とか……。そんな僕に「最近、ホントひがみっぽくなってきたんじゃない？」と女房が一言……。

浜松は僕の生まれたところ、と言っても、つきあっている友人はほとんどいない。沼津での教員時代の仲間が今でも、一番深いつきあいをしている。
浜松に帰ってきたと言っても、その後すぐに、学校づくりに全国を飛び回り浜松にはほとんどいなかった。

最近、しみじみと感じることは、経済的な不自由さ……。
お金がないから、何をすることも遠慮をする。自分でも信じられないことだが……。ボーナスが出る度に楽器や、パソコンを購入していた頃が夢のようだ。

もう一つは社会とのつながりが本当に希薄になってしまったということ。
仕事をやる、ということは社会と自分とをつなぐ接点となるのだ、ということを感じて。同時に、仕事をやる上でどうしても必要な仲間との関わりが、全くなくなってしまった。話がかみ合わなくなっているのだ。

毎日がただ、単調に過ぎていく。
外に出かけても、午後には家に帰り息子の帰りを待つ。友達が来れば一緒に遊んだり、おやつを用意したり……。女房の帰りを待つ。女房が学校であったことをあれこれ、話すのを聞く。時には生徒のこと、職場のこと、学校の新しい動き……。僕が話すことと言ったら、息子の様子くらいか……？

世の中の夫の帰りをひたすら待ち続ける「専業主婦」の人たちの気持ちが少しはわかったような気がする今日この頃であった。
ま、これも暑さのせいだな、と思いつつ、「新しい何か」を見つけられるようにしなくては……。

アウトドア事始 1998/08/10(月)

後、数時間後にOSM家はキャンプに出かける。
去年までは、キャンプの「キャ」の字も出なかった我が家だが……。

我が家の大黒柱である女房殿のスケジュールによって、長期休暇のスケジュールは決定される。「今年はキャンプをしてみたい」と6月頃から言いたし、しきりに本を買いあさったり、HPを覗くようになった女房殿。

手始めに、7月の23日～26日まで浜松に事務局のあるサンクチュアリジャパンの自然キャンプに出かけて行った。
初日の夜に大雨となり、テントも古く雨漏り……。寝ていられなかった。初めてのキャンプにしては悲惨なものだった。

息子はもうキャンプはイヤだ、と言い出した。これで少しは熱も冷めるか、と思っていたら、職場の山岳部の顧問に色々アドバイスを受け、シュラフを借りテントまで借りてきた。小物を買集めるようになった。
キャンプ場に電話をけまくり資料を取り寄せ、遂に2泊3日のキャンプとなってしまった。

僕もすっかり彼女のペースにはまり、いよいよ出発となったのだった。

「アウトドア」……、よくわからないことだらけだが、今までに体験したこともないこと。きっと新しい何かが見つかるかな……？と。

アウトドアをやっている方、是非、色々教えて下さい。

できるだけ波風を 1998/09/15(火)

人生は一度しかないのだから、
なるべく波風をたてた方がおもしろい。
僕はこう考えている。

もちろん、
何か問題を起こした方がよいというのではない。

自分が正しいこと、
やってみたいと思ったことは
積極的にやるべきだということ。

上野 学(卒業文集「すだち」より)

3年前の9月16日、金曜日。午前1時30分。僕の一番親しかった友人が亡くなりました。奥さんと二人の子どもを残して……。

僕と同じ年の37歳でした。

沼津での10年間の教員時代、いつも一緒に何かを作ってきたヤツでした……。素晴らしい教師でした。優しさと厳しさを兼ね備えた。

よく喧嘩をしました。

9月12日、沼津の元同僚達と、岐阜の上野宅に行ってきました。

17年前、下呂温泉で研究会があった時。

5年前上野のお父さんが亡くなられた時。

3回目の訪問でした。

お母さんと、奥さん、二人の娘さん達は変わらぬ笑顔で迎えてくれました。

変わったことは、あいつがいないことだけでした。

未だに僕の心の中には、ポツカリと穴があいたままです。それを埋めるべき術も見付からぬまま、今年もその日がやってきました。

『共有』

ベッヒャー

ぼくはきみと同じように泣いた。
ぼくはきみと同じように喜んだ。
ぼくにはきみがわかっているのだ。

きみとぼく
たとえ目鼻立ちは違っていても
手足のつき方に変わりがありはしない
小さな点では違っていると
大きな点では変わりがありはしない

僕等を区別しているものは
はてしない人生の波に洗われるように
ぼくらの共有しているものに洗われてゆく。

美しいはずなのだ、人生は……。。
そして人間は……・素晴らしいのだ。

冷戦続くOSM家の巻 1998/09/28(月)

犬も喰わない夫婦喧嘩というものに、我が家は突入している。

きっかけは一昨日、二人で今週の土日にでかける近くのキャンプ場を見に行こう、と車に乗り込んでから。

僕が言わなくても良いことをつい口にしまったからだった。

しまった、と思っても後の祭り.....。

「一人で行って来る」

「あ、そう」

自宅に戻り、彼女は一人で出かけていった。

僕は.....、喫茶店に出かけた。

いつだったか、2週間近くほとんど口を利かなかったときがあった。

幸いなことにゆーたはそうしたことに鈍感で、二人が喧嘩していることなど、全く気がついていなかった。今回もそうだ。

確かに発端は僕の方だ。謝ればいい、そう思う。

しかし、こうしたときには、日頃の鬱憤が吹き出してくる。

今までは許容できていたことが、途端にできなくなってしまう。

そうすると、ますます腹が立ってくる.....。

謝る気はますます失せていく.....。

悪循環が繰り返され、しびれを切らせたどちらかが、わぁーと嘔みつく。

そこまでいくのに、後、どのくらいの期間が必要なのだろうか？

皆目検討もつかない。

生活していく上で、必要最小限の事務連絡のみの会話しか、今はない。

何も知らないゆーたはその間に入って、笑いを誘ってくれている。

冷戦集結、の巻 1998/10/05(月)

先週のメールマガジンをお送りした後、次のようなメールをいただいた。

=====

OSMさん、はじめまして。

いつもメールマガジンを興味深く読ませていただいています。

今回の冷戦(夫婦喧嘩)の内容を読んで思うことがありましたので失礼かとは思いましたが、メールさせていただきました。

わたしの夫は現在、海外で仕事をしており、わたしと2人の娘(3歳と1歳)は日本で留守番をして暮らしています。

国際電話は毎日かかってくるのですが、限られた時間の中で話したいことの1/3も話せません。

このような生活を始めて2ヶ月が過ぎましたが、夫が毎日家に帰ってきてくれることのありがた味をひしひしと感じている今日この頃です。

自分のことをわかっていてくれる人が側にいてくれるだけで、こんなに心強いことはないと思います。

どうか仲直りをして、ご夫婦の会話を楽しんでください。

他人のわたしが首を挟むことではないかと思いましたが、我が家のように会話をしたくてもできない家族もあるのです。

いきなりメールを出して、生意気なことを言ってすみません。

夫婦喧嘩ができるなんてうらやましく思ってしまったもので.....。

「仲直りしました」という次号のタイトルを楽しみに待っています。

=====

で、タイトルはご要望には添えませんでしたでしたが、とりあえず「仲直り」のご報告です。

とかく、何かに目を奪われていると、どうしても周りが見えなくなり、独善的になってしまいます。このメールをいただいて、直ぐに先々週お送りした上野のことを思い出しました。自分で書いていながら、忘れていたんですね。

迷ったり、悩んだりしたときに、そっとアドバイスをしてくれる人をどれだけ自分は持っているんだろうか、と改めて思ったりしました。

ありがとうございました。m(_ _)m

女房、元気で外が良い、の巻 1998/10/19(月)

どうも、女房が家にいるとペースが狂ってしまう。
明日から定期テストのため、学校はお休み。

いつも女房が出かけた後、8時までのテレホーダイの時間はメールのチェックなんかをして、インターネットに繋いだりしている。
その後、8時から食事の片づけ。
(もちろん、朝の連続テレビドラマを見ながらだが.....)

なかなか片づけをしない僕を横目に、さっさと洗い物を始めた。

ったく、ペースが狂うから困る。

今、「淳 jun」を読んでいる。
キャンプで使う、デッキチェアをドン、と広げているから、邪魔でしょうがない.....。困ったものだ.....。(;)

追記 =====

よく、定年退職したご主人が「粗大ゴミ」と言われ、奥さんから「邪魔者」扱いされる、と言う話を耳にする。

それに近い感覚を持ってしまった。

「邪魔だなあ」と思ってしまったのだ。

突然、「もぉ、あのカラスうるさいわねえ」等と、文句を言い出したり、僕が食事の片づけをしているにも関わらず、インターネットでわからなくなると、「ちょっとちょっと来て！早くう～」と呼びつける。

全く何様のつもりだ！等と口にしながら、ホイホイ言うとおりにしている自分が悲しかったりして(--;)

「内助の功」夫 ~ A E R A 1 1 / 2号より~ 1998/11/02(月)

「うわぁ、今度のA E R A、買っておいでよ！」と女房が言った。

「どれどれ？」「これこれ！」

11月2日号の宣伝

「内助の功」夫

カミさんの出世が僕の喜び

家庭を守るって意外に大変な仕事

そうした文字が飛び込んできた。

で、買ってきて読んだ。

「家事能力は僕の方が上」「熟年ほど『主夫』に理解」「彼女の愚痴を聞く余裕」「至れり尽くせりの夫？」「お互いの理解深まった」「今は本当に対等の関係」

こうした小見出しが並ぶ中、

- ・医薬品メーカーを辞め、家事と6歳の長男の育児に専念(35歳)
- ・有名企業に勤める10歳年上の奥さんと専業主夫歴一年の夫(28歳)
- ・作家を目指して2年前に新聞記者を辞める(33歳)
- ・夫婦揃って元高校教員。相次いで教壇を去り、妻がケーキ作りのお店を出す(35歳)
と言った人たちの生活などが紹介されていた。

ま、こんなもんかな。僕には別に目新しい感覚は覚えなかったけれど。

「～ねばならない」という感覚は、自らの心の内に築かれることであって、他人が強要することではない、と僕は思っている。

=====

学校もまた然り。
なんと、「～ねばならない」が多いことだろうか。
その中身、必然性はどこかにうっちゃっておいて、
「しなくちゃならないんだ」「そういうものなんだ」
で押し通されることが。

=====

僕は、小さい頃からお袋の
「アンタは長男なんだから」とか「アンタは男だから」とか「お姉ちゃんは女だから」……そう言った言葉
にずっと反発を覚えてきた。

我が家では、洗濯は女房がやっている。
僕も必要に応じてやるが、僕が洗濯をすることで、お袋と女房との間がギスギスするのだった。

二世帯住宅の我が家にとって、僕が家にいることは、お袋にとっては、何とも「世間体の悪い」ことらしい……。

女房の実家～こちら、杉本釣り船センター～ 1998/11/23(月)

今、静岡県東部の沼津市にある、女房の実家でこれを書いている。
女房の実家は、駿河湾内の小さな釣り船屋さんを営んでいる。
スキューバダイビングのメッカ(?)と言われる、大瀬崎の少し手前。

目の前は海。波は湾内ということもあり、とても穏やか。
夜中の2時。既に明朝の釣りのお客さんがやってきたらしく、外で話し声が聞こえる。
貸しボートが中心だが、15人乗りの船で沖に出るお客さんがいると、義父は朝の4時頃から起き出して
支度を始める。
時折お客さんがいないときは、僕たちを乗せて、船を出してくれる。

今まで釣りなぞやったことのない僕だったが、女房と結婚してから、沼津に来れば釣りをするようになった。

しかし、ゆーたは「釣りは手が魚臭くなる」と言って、あまりやらない。
専ら船室にあるレーダーを見て喜んでいる。

沖に出たとき、正面に見える富士山が何とも言えない。

義母は、今、心身を病んでいる。
数年前にガンで入院、手術をした。
その後、末娘の結婚でめっきり元気をなくした。
話をしても、こちらの方が気が滅入ってきってしまうほどだ。

今日も、女房は母親にあう、漢方薬のお店を探しに町中へ出かけていった。

ゆーたは沼津の実家が好きだ。
来ればおじいちゃんが近所の駄菓子屋に連れていってくれて、ガシャポンをやらせてくれるし、帰るとき
には
「オイ！これでなんか買ってもらえ！」
とお小遣いをくれるからだ。

義父は最近「体がえらくなつたわ」とよく口にする。
若くはないのだ。

結婚記念日 1999/03/29(月)

12年前の今日、僕たちは結婚しました。
その結婚式の時、二人で読み上げた「誓いの言葉」です。
あれから12年.....。

僕たちはどこまで変わってきたのだろう.....。
そして、変わらずにこられただろう.....？

：*：*！° 。 .：*：*！° ° ！*：*！° .：*：*！° 。 .：*：*！*：

『誓いの言葉』

今まで私達は全く異なる人生を歩んできました。
そして、数多くの生命を踏み台にして、自分の人生を築き上げてきました。
時としては傲慢さ、未熟さから人を傷つけたこともありましたが。
しかし、そんな私達を支え続けてくれた友人や仲間、先輩、そして父や
母をはじめとする家族・親戚がいました。

自分の人生にのみ目を向けていた私達でしたが、自らの人生をより豊かにし
ていきたいと望んだ時、自分以外の人間の存在を必要とするようになりました。
二人が初めて顔を合わせてから四年。
お互いの存在を意識し始めてから一年の月日がたちました。
その間、多くのことを私達は語り合ってきました。

結婚というものは、二人が一人になるのではなく、
自立した者同士が、互いの人生、互いの生き方を尊重し、寄り添って生きて
いくものだということ。
相手を愛することだけに自分の存在する意味があるのではなく、相手を愛す
る以上に、自分を愛することが大切だということ。
自分を大切にできない、自分を愛せない人間には、本当に人を愛することは
できないのだということ。
人間は社会との関わり、人との関わりの中でこそ、人たりえるのだというこ
と。
その為にも決して独りよがり、二人よがりの生き方をしてはならないという
ことを..... ・・。

私達は、考え方や意見の食い違いを、話し合うことにより乗り越え、
そして、その中から価値観の共通性を見出し、
生きていくことに対する姿勢を確かめてきました。
そんな日々の積み重ねが、
いつしか私達に、結婚を決意させてくれました。

今日から二人で生きていきます。
私達は持ちうる限りの誠実さをもって
人とのつながりを求めていきたいと思えます。
たえず、お互いの存在や、生きることの意味、
生命を育むことの重みを問い続けながら生きていきます。

また、独立した人間同士として、
尊敬しあい、
愛し合い
精一杯、生きていくことを誓います。

1987年3月29日

鈴木 修
佳子

エッセイストOSM! ~自立への一步(笑)~ 1999/05/10(月)

いやあ、ぬわんと!

このメールマガジンの読者でもある方から、親向けにエッセイを書いて欲しい、という依頼があったのです!

「いやあ、メールマガジンで書いてる見たいな、あんなヤツしか書けませんよ」

「いや、あんなヤツでいいんです(笑)」

とのことで、引き受けることにしました。

僕の文章がお金になる?なんとも信じられない話です。

でも、そうやって評価して下さる方がいて、滅茶苦茶嬉しいです。(^^)/

「ねえねえ!原稿料、もらえるんだって!」と女房に言うと、

「凄いジャン!今までお金にならないことしか、やってないモンね~」

と言われました。

.....確かに。返す言葉もありません (^^ゞ

よっしゃ!えっせいすとでデビューだあ!

経済的自立だあ!!!とはしゃいでいると、

側で女房が、「まあ、あてにはしてないから。」と、冷めた一言。(--;)

プロのウェークボーダー~熱血!島田塾~ 1999/05/25(火)

毎週月曜日の夜7時から、「熱血!島田塾」というのをやっている。

昨日、一人の女の子が登場した。見た方もいるだろうか?

新聞のタイトルは「高一美少女涙のプロ挑戦」という、いかにもテレビ的な見出しだったが.....。

ぬっ、ぬわんと!

彼女は女房のクラスの生徒なのだった!

(先々週コロラドに行っている卒業生は、欣ちゃんの仮想大賞のグランプリ受賞者だったし...)

いやあ、ホント面白い生徒に恵まれてます > 女房殿

で、学校にTVが取材に来たとき、「HRの様子をとらせて欲しい」という要望があったそうだが、女房はそれを断った、とのこと。

フム、立派!

彼女の話をお聞かせしてもらった。

「いい子だよ。目的を持ってるからだろうね。それと周りに色んな人達がいるからだろうね~。チャラチャラしてないね」

ビデオを見ながら、う~ん、良いなあ、って思ってしまった。

今日は、学校で昨日のテレビの話題で持ちきりだろう...。

「主婦」「主夫」って何でしょう? 1999/05/31(月)

とあるマスコミ関係の方から、メールによる取材を受けました。

「主夫」に関する取材です。

先方のご了解のもと、質問項目を紹介させていただきます。

尚、それに関する回答は、もう一つのメールマガジン、「ぼちぼちいこかっ」の方の欄外にて書き記していきます。

自分なりに今の生活に対しての考えをまとめる良い機会に恵まれたと思っています。

女房へのアンケートもあります。どう答えるか楽しみです。(^^ゞ

- =====
- Q 1) 主夫を始めたのはいつからですか？ また、そのきっかけは？
 - Q 2) 主夫になられる前のご職業は？ その職業に未練はありませんでしたか？
 - Q 3) 主夫になられるまで、家事は積極的にされていきましたか？ されていれば、具体的な内容を教えてください。
 - Q 4) 主夫になられると決めたときの周囲（職場や家族）の、特に奥様の反応をお聴かせ下さい。できれば、生の声を書いていただくと助かります。
 - Q 5) 扶養家族になるのに抵抗はありませんでしたか？
 - Q 6) 実際に主夫をやってみての感想は？
 - Q 7) 主夫として何をされたのか、具体的に教えてください。
 - Q 8) 1日のうちの主夫としての労働時間は？
 - Q 9) 奥様への質問です。ご主人の主夫に取り組む姿を見ての評価と感想を教えてください。
 - Q 10) ご主人への質問に戻ります。主夫になって困ったことは？
（あるひとは夫が働いていないとの理由で保育園への入園を拒否されたそうです）
 - Q 11) 将来、就職されたと仮定します。何年後かに主夫をもう一度されてもいいと思われませんか？
 - Q 12) これから主夫になろうと考えている人にアドバイスをお願いします。
 - Q 13) 家事は男性と女性、どちらかが向いていると思われませんか？

「主婦」「主夫」って？～回答編～ 1999/06/08(火)

先週の「主夫」に関する取材の回答編です。一部載せてませんが、こんなふうに答えました。どう思われるでしょうか？

*「家事労働一般に従事する」ということとは、僕の場合はちがいます。
と最初にお断りしてあります。

=====

主夫を始めたのはいつからですか？ また、そのきっかけは？
1997年1月休職。1998年3月退職。
きっかけは精神的に不安定になった息子への対応です。

主夫になられるまで、家事は積極的にされていきましたか？ されていれば、具体的な内容を教えてください。

NO！です。命じられて、仕方なくやる、と言う感じでした。
また、ほとんど家にいなかった、というのが実態です。

扶養家族になるのに抵抗はありませんでしたか？
全然、ありませんでした。

しかし、同居している親（特に母親）は世間体をとても気にしているようでした。勿論、口には出しませんでした。

実際に主夫をやってみての感想は？
時間的に区切られていないために、ただ何となく時間が過ぎていく、という感じでした。
ワイドショー番組をよく見るようになった。
NHKの連続テレビドラマを欠かさず見るようになった。
芸能関係の話題に強くなった。
社会での出来事が、遠く思えるようになった。

主夫として何をされたのか、具体的に教えてください。
朝食の片づけ。食器洗い。布団の片づけ。

育児。息子が学校から帰ってきたら、宿題を見る、友だちが来れば一緒に遊ぶ、おやつを出す。翌日の仕度。

女房が帰ってくる頃に併せて夕食の仕度。片づけ。ご飯研ぎ。

その他、昼間、言いつけられた用事（振り込み等）
洗濯物の片づけ（時々）

主夫になって困ったことは？（あるひとは夫が働いていないとの理由で保育園への入園を拒否されたそうです）

財布にお金がなくなった時、おろすお金が、銀行にないこと。
たとえ少額の買い物であっても、妻の許可を得ないといけないこと。
パソコン等高額なものを買うことなど、夢のまた夢となったこと。
実際に買ってもらうときなどは、想像を絶するねばり強さ、忍耐が要求されたこと。
現実問題としては、強いてあげれば.....
女房の学校の事務手続きが非常に煩雑、うるさい。
例がない、ということで、時間がかかる。ということでしょうか？
「何をされてますか？」と聞かれて、答えに困った。
説明を始めると、非常に長くなる。

将来、就職されたと仮定します。何年後かに主夫をもう一度されてもいいと思われませんか？
そもそも、就職しよう、と言う気持ちになれない。（笑）
もし、就職しても直ぐに退職しそうな気がします。（^^ゞ

これから主夫になろうと考えている人にアドバイスをお願いします。
夫婦で良く話をするのでしょうか？
決して単純に割り切れるものではないですから、いつも話しあうことが、肝要ではないかと.....。

家事は男性と女性、どちらかが向いていると思われませんか？
これは男性だから、女性だからと言うことはないと思います。
その人による向き、不向きかと。僕には向いていません。特に料理は....

「夫の子育てへの関わり」ってSAMが息子を抱いた厚生省（だっけ？）のポスターなんかも一つのきっかけになってるんでしょうかね？

...僕のハンドルであるOSMと似てるから一方的に親近感を抱いています。
勿論、先方は知る由もないが.....(^_-)

来週あたりに記事にして配信される予定だそうです。
もし、何かご意見がある方は、直接メールを送って下さいとのこと。

時事通信社 さん
e-mail : *****@nifty.ne.jp

またまた「主夫」について～TV番組制作会社から～ 1999/06/14(月)

こんなメールをいただきました。

.....番組のリサーチで「主夫」とあるHPをいろいろと探していましたら修
さんのHPにたどり着きました.....

と。う～ん、どうやら「主夫」というのは、今日のいわゆる一つの（爆）キーワードになっているので
しょうか？（^^ゞ

で、電話で色々とお話をしました。

僕のというか、僕たち夫婦の一貫したものは、
「家族の役割を考えたときに、今の形態が一番良い」
という、ただそれだけのことなんですね。
「子どもさんのために、すっぱりと仕事を辞められた、ということ、凄いいと思います」とも。

...凄いいことなんだろう、という戸惑いがあります。
今、ゆーたを目の前にして、つかず離れず、本当に難しいと思っています。
後、5年かな、と。中学卒業する時。それが大きな区切りになるだろう、って。それまでは、今の形が続
いていくのだろう、と。

その時、その時、一番良い方法を親子で考えていけばいいのだ、と。

学校が全てじゃない～親として教師として～ 1999/12/03(金)

女房は今、一年生の担任。
自分のクラスに不登校気味の生徒がいるという。

親としては何とか学校に行かせたい、と強く願っている。
一方、担任としても、元気な顔を見せて欲しいと思っている。

今まではそれで良かった。
しかしゆーたが学校に行かなくなってから、
「別に無理をすることはないんだよ」と言うようになってきた女房。
(まだまだ、口先だけで、本心ではないなあ、そう思うときがあるが)

我が子に対して口にするのと、自分の生徒に対して口にするのちぐはぐさに、女房自身、戸惑いを覚えているようだ。

かつてゆーたが生まれて一年後、勤めていた学校に辞表を出したときも、それと同じだった。
ゆーたが生まれ、入院、手術を繰り返したとき、僕は「生きてさえすればいいんだ」と思った。一方、学校では、生徒達に、髪の毛がどうだ、スカートの長さがどうだ...そんなことを口にしていて自分がいた。

自分が生徒に向かって言っていることを、生死の境を彷徨った我が子に同じ事を言えるのか？そこが教師を辞めた一番大きな原因だった。と思う。

「いいんだよ、学校が全てじゃないんだよ」

現場の先生達のどれだけ、その言葉を本心から語れるのだろうか？

おばあちゃん～アンタのためを思って～ 2001/12/03(月)

7月の初めの頃から、ゆーたがおばあちゃんに、何かにつけて突っかかかっていくようになった。時としてはおばあちゃんお胸ぐらをつかまえたり、大きな声を出したり.....。おばあちゃんはほとほと手を焼き、ゆーたが「怖い」と思うようになった。

しかし、そうなるにはゆーたなりの理由があるのだ、と僕は思う。
色々な面で遅れが見られるゆーたを、おばあちゃんとは、「このままでは世間に通用しない」という所から出発する。ゆーたの「今」から出発しないのだ。
確かに、ゆーたにはできないことがたくさんある。それらをおばあちゃんは、「しつけ」の問題、「心のありよう」の問題とするのだ。
違うのだ。ゆーたの場合は、障害からくる、理解力や想像力や状況把握の能力が欠落しているところから来るのだ。しかしおばあちゃんはゆーたの「障害」を理解できていないのだ。

おばあちゃんの言葉には、重みがない。
トイレから出て手を洗わないことも、財布からお金を取り出すことも、靴を揃えないことも、皆同じ口調なのだ。そしてしまいには、話がドンドン大きくなっていく。
さらっと言い流せばいいことをいつまでもネチネチ言い続ける。
そして話が大きくなっていく。
「ゆーたに良い子になって欲しいから...」

ゆーたは思う。
それじゃあ今の自分はどうしようもない、ダメな子なんだ、と。
ますますゆーたは落ち込んでいき、おばあちゃんに反発していく.....。

話が大きくなって、ゆーたの感情が押さえられなくなった時になって、「パパ、ちょっと来て！」と僕を呼ぶ。

その時には、ゆーたは手がつけられないほど、感情を高ぶらせている。
そしておばあちゃんは、一生懸命にゆーたの「悪いこと」を僕に告げる。

「もういいから、ゆーた二階に行こう」

そうやって僕はゆーたを二階に連れて行くことが何度も何度もあった。

ゆーたはおばあちゃんのが好きなのだ。
その好きなおばあちゃんが、自分のことを「悪い子」と見ている。
そこに、一番の不安要因があるというのに.....。

おばあちゃん自身が変わらない限りは、どうしようもない所にきている。

離婚 2001/06/01 (金)

時を同じくして、二人のお母さんから離婚の話を聞いた。
一人は僕がかつて担任をした生徒。
もう一人は、教え子の友人。
二人に共通していることは、結婚後、子どもが生まれた後、旦那が全く子どもに見向きもせず、一人で子育てをしてきたことだった。
我が子のことで色々悩む上に、勝手気ままに振る舞う旦那へのストレスが加わってきていたのだった。

「結局、別れた」

そんな言葉に対して、僕は
「ウン、それで良かったんじゃないの」
「一人で大変なことは確かにあるけれど、今までよりは、決して後ろにはいかないよ！」と。

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° '.:*:.° .:.:.:'° 。.:*:.:~*:

女性が一人で子育てをしながら、生活して行くにはまだまだ社会環境は整っていない。社会的なフォローはもちろんのこと、周りの人たちの精神的な支えなしには、かなり辛いものがある。

彼女たちからは、たまに電話があつたり、携帯にメールが入つたりする。
直接的に何かしてあげられるわけではない。何かあつたら愚痴をきいてあげるくらいだ。それしかできない。

でも、彼女たちは、旦那のことよりも、子ども達の事を考え、その命を大切に考えたのだと思う。二人とも同じようなことを言った。

「別れる前は、イライラして仕方がなかった」と。
「負けないで欲しいなあ。一人で悩まないでよお〜。」

最愛の妻 ~友人からのメール~ 2001/12/03 (月)

つい先日、大学時代の友人から突然メールが届いた。

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° '.:*:.° .:.:.:'° 。.:*:.:~*:

ごぶさた。
最愛の妻が肺癌で10月25日たびたちました。
でも、元気です。
妻の子供に残した手紙送ります。
では、またちょっと幸せな時に会おう。

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° '.:*:.° .:.:.:'° 。.:*:.:~*:

メールには、彼の奥さんが子ども達に書き残した手紙や日記などがPDFファイルで添付されていた。切なくてたまらなくなった。

彼は一生懸命奥さんに言っていたようだ。
「人生は長ければ良いってモンじゃない！」と。
それでも奥さんの遺した手紙には、そこそこに「突然消えていく悲しみ」があふれていた。

.....考えられないこと、考えたくないことだが、突然、女房がこの世を去っていくことになったら、突然ゆーたの存在が消えてしまったら.....。そして、僕が突然命を落としてしまったら.....。
そんなことをずうっと考えていた。

、出来事

所沢高校シンポジウム開催 1998/04/20(月)

最近、とんと報道されなくなった「所沢高校」の問題。

実際、マスコミの過剰な報道は、大きな問題だと僕は思っている。

今は、所沢高校の生徒と学校がじっくりじっくり話を積み上げていくことを願っている。

「子どもの権利条約」による「子どもの意見表明権」と「学校権力」との対立が鮮明になったケースであり、極めて珍しいことだと思う。

過度なマスコミ報道はごめんだが、情報が途絶え、いつの間にか日常生活の中に埋もれてしまうことの方が、僕はイヤだと思っている。

丁度、26日のDCIの総会の時に、シンポジウムが開かれるとのこと。

何とかして行きたいと思っているのだが.....。

もし、参加されるかいましたら、是非、様子を知らせて欲しいと思っています。

また、DCI (Defence for Children International) についてや、「子どもの権利条約」については、今後、HPやメールマガジンでしっかり取り上げていきたいと思っています。

所沢高校に関するHP 1998/05/18(月)

所沢高校.....、その後どうなってしまったのでしょうか？

シンポジウムに参加できれば、もっと詳しい話もお伝えできたのに、と思っていました。

所沢高校に関するHPを二つご紹介します。是非、ご覧下さい。

所沢高校 Non-Official Page0

<http://www.jca.ax.apc.org/~teru-iri/tokoko0index.html>

---- 所沢高校保護者OBの方のHPです。

過去の資料等、実に豊富です。一連の流れがよくわかります。

Mon Cabinet

<http://w3.mtci.or.jp/~masatoi/>

---- 所沢高校、式典論争 Ver2.34e

所沢高校を今年卒業した卒業生がつくっています。

「その時」を体験しているだけに、非常にいいです。

僕のHPの「所沢高校の専用意見ボード」に意見を挙げてくれたのも

彼だと思えますが.....？そちらも併せてお読み下さい。

<http://www2m.biglobe.ne.jp/~osamu/cgi-bin/tokorozawa.cgi>

埼玉所沢高校 1998/09/15(火)

最近、すっかりマスコミには取り上げられなくなってしまっています。

けれども、7月末に行われた埼玉県議会に行われた質問では、所沢高校の問題を何人かの議員さんが取り上げています。(勿論、生徒サイドに立ったものではありません。

また、入学式問題を通して、竹永先生に対して訓告処分が出されました。

現在、「所沢高校教諭に対する不当処分撤回を支援する会」が発足し、支援活動を行っています。

所沢高校の問題、注意して見守っていきたいと思います。

「所沢高校 Non-Official Page」を一度ご覧になって下さい。

たくさんの資料を一括してダウンロードもできます。

<http://www.jca.ax.apc.org/~teru-iri/tokoko0index.html>

また、こちらも以前ご紹介しましたが、所沢高校の卒業生の方のHPです。

http://plaza12.mbn.or.jp/~masato_i/index.html

所沢高校の生徒から 1998/11/02(月)

こんなメールをいただきました。

=====
はじめまして。教育のペ - ジを探してさまよっていたらこのペ - ジにたどり着きました。あちこち見ているうち、特集に「所沢高校」の文字が！！

何を隠そう、自分は現役の所沢高校の生徒です。
まさに今、うちの学校は人権や教育問題といったことにぶつかっています。
先日も人権救済の申し立てを行ったばかりです。
所高の特集が更新されるのを楽しみに待っています。

ちなみに現役の所高生が、一連の問題への取り組みを自分のホ - ムペ - ジで行っています(非公式)。今のところ僕と僕の友人の二人だけですが、よろしければいらして下さい。

うちの学校のことで、知りたい事があればできる限り協力します。

=====
早速、「所高日記」というページを読みました。

- 97年度入学式の日(9月21日更新)
- 卒業記念祭前夜(9月30日更新)
- 卒業式と卒業記念祭(10月23日更新)

決して、力が入っているわけではなく、見たまま、感じたままが書かれています。読みでもあります。

もし、何か聞きたいことがありましたら、とりあえずは僕宛のメールか、またはBBSの方にお書き下さい。

先週のBBSより ~ 所沢高校のHIDEAKIさん ~ 1998/11/30(月)

所沢高校のHIDEAKIさんの書き込みをご紹介します。
長文ですが、是非、ご一読下さい。

=====
所高生は世を忍ぶ仮の姿.....ウソです。

あ~テスト期間入っちゃいました！勉強もせねば.....。

てわけで僕は所沢高校の生徒です。

今、生徒会内部でも日の丸・君が代(以下、「日の君」)を絶対持ち込ませたくないという主張と、最善であるならば日の君を行なうという主張で割れています。

混乱を避けて、「暖かく卒業生・新入生を送る・迎える」ということを目指すには後者の意見がいいと思います。また、僕自身もこの意見がいいと思っています。

ただ、これについて納得できないのは、

校長は全く僕らの話を聞いてくれない。マスコミでは「儀式的行事の大切さを教えていきたい」「誠意をもって説明してきた。これからもこれを継続する」なんて言っているけど、誠意はおろか一度もちゃんとした説明を受けた記憶が僕にはありません。

「生徒と校長は立場が違う。話し合いはできない。」の一点張りで、「説明会」をごくまれに開いても、のらりくらりと話を続けるだけで的を得ませんでした。

「生徒と校長は~」の発言のあと、生徒が「学校の構成員という事では同じ」と言ったところ「じゃあ、あなたたち教員免許もってるんですか？」なんて言ってくれました。

以前、説明会直後に「校長の話を聞き、納得ができたか」という質問の集計をとりました。約1000人中「納得した」と答えたのは7人だけです。

校長は自分の行為の正当性の主張すらもろくにしていません。
「学習指導要領に出ているから」ホントこれしか言いません。

生徒がそれを追求しても「私は学習指導要領なんて言ってませんよ。学習指導要領って言っているのはあなた達でしょ。私は今、2回言いましたけどね。」

と、完全に馬鹿にした態度です。

P T Aにも「学校の事に口を出さないでもらいたい」というばかり。

県教委も同様です。彼らのやり方を全て書くと

きりが無い&書いていて非常に腹が立つのでこのぐらいにしておきますが、とても「教育者」のやることとは思えません。

一般に言われているように、政治的思想で動いているとか、大人の入知恵とかじゃありません。

みんな校長・県教委のやり方への反発で動いているんです。

とにかくやり方が汚すぎます。立場がどうかでなく、同じ人間として悲しいです。

校長とのやりとりの詳しい内容が知りたい人、

僕のペ - ジのリンク先の「KYスタジオ」というペ - ジに行ってみてください。

<http://member.nifty.ne.jp/orepara/index.htm>

.....ホントは昨日書き込もうと思ったんですが、なぜかペ - ジにアクセス不可.....

=====

引き逃げ犯を、なぜ不起訴にしたのですか 1998/05/16(土)

=====

- * 是非、お知り合いの方にもお伝え下さい *
- * 本号につきましては、転載OKです。 *

13日、TVの報道でトラックにひき逃げされ殺された片山隼君のご両親が、公正な判断を求め検察審査会に申し立てをした、と言うTV報道を見ました。

14日、熊本の読者の方から、下記のようなメールを頂きました。
ご紹介させていただきます。

=====

毎回、興味深く読ませていただいています。

今日は、私の友人からきたメールをぜひ一読ねがえたらと思います。

もし、ご存知のことでしたら申し訳ありません。

(何の説明も加えないことをお許し下さい)

- - - - - <ここから> - - - - -

97年11月28日、小学校二年生の息子 隼(しゅん)が、朝、いつものように「いってらっしゃい」と学校に送り出した直後、大型ダンプカーにひき逃げされ即死しました。

横断歩道をまたぐようにして信号待ちをしていたダンプカーが、安全確認をせずに動き出し、歩行者用信号が青で、横断中の隼をひいてしまったのです。

大きなタイヤに潰されて頭部を失い、私たち家族は、隼の顔を二度と見る事が出来ませんでした。

事故の様子を大勢の方が目撃していました。事故現場を走り去ったダンプカーを追いかけたバイクは何度も何度も合図をし、対向車はクラクションを鳴らしたりパッシングをしてダンプカーを止めようとしてました。害者が起訴されるのは間違いない」と言っていました。

ところが、なぜか検察庁は、私たち家族の調書を取ることもせず事故からわずか20日後に「不起訴処分」を決定してしまったのです。

隼をひき逃げした加害者は、罰金も免許停止も受けなかったのです。

そんなおかしい処分があつていいのでしょうか。

加害者は、謝罪にも現れませんでした。

こちらから連絡を取り、初めて加害者が姿を見せたのは、事故から3ヶ月も後の98年2月19日になってからのことです。

人の命を奪っておきながら、謝罪もできない人を、国はどうして許したのでしょうか。

私たち家族が何度問いかけても、国は、その理由を答えてくれません。

私たち家族は公正な判断を求め検察審査会に申し立てをします。

検察審査会へ不起訴不当の申し立てをする前に、賛同者の署名を募ります。

どうか、ご署名をお願い致します。

電子署名も集めております。

<http://www.ask.or.jp/~tadkata/>

署名についてのお問い合わせは佐藤むつみ弁護士(03-3357-0277)まで、

<片山徒有 片山章代 (tadkata@ask.or.jp)>

- - - - <ここまで> - - - -

よろしく申し上げます。

隼君事件、不起訴処分取り消し 1998/09/15(火)

既にニュースでご存じの方も多いことと思います。

片山隼君の交通事故死不起訴処分が取り消しとなり再捜査されることになりました。

「新しい証人が出てきたから」ということで、当時の判断は誤ってはいなかった、との事です。

どうして、率直に認められないのでしょうか。

しかし、不起訴処分が取り消しになったからと言っても、隼君が戻ってくるわけではありません。丁度その日は隼君の誕生日だったと。

今更ながら、ご両親の無念を思わずにはいられません。

6月23日～沖縄～ 1998/07/02(木)

当日のニュースでご覧になった方も多いでしょう。

沖縄戦が終わったのが53年前のこの日。

もちろん僕は戦争を知らない。けれど、戦争で何があったかを知ろうという気持ちはなくしたくない。

授業ではよく、田宮虎彦の「沖縄の手記から」を取り上げたものだった。

そこから、本田勝一の「中国の旅」へと。

今の教科書には「沖縄の手記から」などは掲載されているのだろうか？

「平和の礎(いしじ)」が完成したのが3年前。

アメリカ人も沖縄の人たちも軍人も民間人も、沖縄戦で亡くなった人たち全ての人たちの名前を記そうと建てられた墓碑。敵味方、軍民間人の区別なく作られた墓碑は極めて珍しいという。

夏の近づきを確かに感じさせる今日この頃。

戦争のこと、沖縄のことを考えてみることも大切ではないかと。

沖縄タイムスのHP

<http://www.ryukyu.ne.jp/~o-times/index.html>

<http://www.ryukyu.ne.jp/~o-times/day/index.html>

琉球新報のHP

<http://www.ryukyushimpo.co.jp/special/irei/623index.htm#sengo>

沖縄の美里高校のHP

<http://www.misato-hs.okinawa.okinawa.jp/>

同上 特別授業の記録

<http://www.misato-hs.okinawa.okinawa.jp/~moto/tokusetu/1997/intro.htm>

少年法改正論議スタート 1998/07/014(火)

この話については僕はよくわかっていないところが多い。しかし、これはこの先とても大きな問題となるような気がしている。

7月9日(木) 下稲葉法相が少年法の改正を法制審議会に諮問。

少年法の改正については実に21年ぶり、ということ。11月をめどに答申をまとめる方向で話し合いがスタートする。

複数の裁判官による審判

検察官の関与

検察官の立ち会いや抗告を認めるかどうかが争点だが、「抗告」については日弁連は「絶対反対」と

いう立場。

審判のやり直し

一般の刑事裁判のような再審の規定がないため、新事実が浮かんでも名誉回復ができないのが現状。

保護措置期間の延長

被害者の傍聴

直接の諮問事項ではないけれど、具体的に論議をされることに。

現状は、審判非公開という制度があるため、被害者の遺族であってもカヤの外におかれていた。

そのため、遺族は損害賠償などの民事訴訟を起こしてきた。

「少年法」の基本理念は「少年の保護・育成」。

それに対して、最近増えている少年による凶悪な犯罪。

民事訴訟はお金も時間もかかる手法であり、被害者遺族のだれもがとれるわけではない。遺族の審判傍聴や審判で意見を述べる機会を制度的に認めて欲しい、という遺族の気持ちはよくわかる。

もし、我が子が同じようなことになったら、僕は絶対に黙ってられない。

少年法改正～よくわかりません～ 1998/12/15(火)

少年法の改正案がほぼ決まりました。

僕にはよくわかりません。自分の気持ち、考えが整理できません。

そんなとき、-少年犯罪被害当事者の会のホームページ-というのを見つけてじっくり読んでみた。是非、皆さんにも紹介したいと思いました。

-少年犯罪被害当事者の会のホームページ-

<http://www4.justnet.ne.jp/~takatora/welcome.htm>

「私たち少年犯罪被害当事者の会は、何の落ち度もない子供を少年たちの理不尽な行為や暴力により殺された遺族の会です。」

トップページに書かれている言葉。

更に続く。

「昨年12月にこの会を作り、現在11家族がおります。この会は、一切の政治、団体、宗教などにまったく関係のない個人個人の集まりです。私たちが遺族になってわかったことは、今までにたくさんの遺族の人たちが悲しみ、自分たちだけで苦しんでいたということでした。」

.....

「その時、思ったのは、殺された子供の事でした。まだまだ夢も希望もたくさんあったのです。そして決して死にたくなかったのです。その無念さを思いました。」

「それぞれ親としては、言い表せないほど、すごい思いがあります。うらんだり、にくんだり、くやしかったり。だけど、私たち少年犯罪被害当事者の会としては、それを個々の心の奥底にしまっています。決して現在よく言われているような厳罰主義で臨めと言っているわけではありません。」

.....

「少年法の目的である「少年の健全な育成」を正しく生かしてほしいと思うのです。

しかし、今の少年法の中では、それが正しく生かされているのでしょうか！加害者を保護する事だけを重視する今のやり方では、本当の反省、更生も生まれえないと思うのです。

今のままでは、遺族は何ひとつ救われなんでしょう。

今一度考えてほしいと思います。これ以上、子供たちを、被害者にも加害者にもしないために。そして、私たちのような思いをもう誰にさせないために。」

また「少年に殺された子供達」のページには、殺された子ども達の写真と事件の概要が記されている。

「皆さん、僕達の事件を参考に、日本の将来、人としてどうあるべきか？考えて下さい。」

「僕たちにも夢も希望もたくさんあったのです。そして決して死にたくなかったのです.....。」

：*：*：*。：*：*：*。：*：*：*。：*：*：*。：*：*：*。：*：*：*：*：*

もし、我が子が.....と考えようとしても考えられない。

自分が想像できる範疇にはとても収まりそうにない。

被害者の親の気持ちになろうとしても、絶対になれない、と思う。
それが僕に言葉を失わせる.....。

もしそうなったら.....。その時僕がどんな精神状態になっているのか。
そんなときでも、「人間の命は重い」と言っているのだろうか。
僕にはとてもそんな自信はない.....。

それほど、重たい中身を持つ「少年法」の改正が、師走の慌ただしさの中、駆け足で通り過ぎて行ってしまったような気がしてならない.....。

全然整理がつかないでいる。誰か、教えて下さい.....。

刑事罰「14歳以上」に 1998/12/23(火)

先週、「少年法」の問題に関わって被害者の会のことに触れたが、今週は自民党の法務部会少年法に関する小委員会が、「少年法改正に関する小委員会報告書」をまとめた、というニュースを目にした。

自民党のHPでは、この報告が掲載されている。下記URL
<http://www.jimin.or.jp/jimin/saishin/seisaku-34.html>

読んでみて、正直ぞっとした感覚になった。

犯罪の抑止力としての「刑事罰14歳以上」
「犯罪の抑止力」として「刑事罰の年齢を下げる」ことと、「親の責任」が指摘されている。(以下、抜粋)

【基本的な考え方】

少年法のめざす「保護・育成」という理念は、.....・役割は多大なものがある。その反面、非行の凶悪化・低年齢化の傾向に十分な抑止力となりうるかとの疑問が呈されるとともに、.....・

【具体的な改正の方向】

1. 少年の年齢の引下げについて

(1)少年法では、刑事処分可能な年齢を16歳以上と定めているが、刑法では14歳以上の者について刑事責任能力を認めている。・・・
.....刑事処分可能年齢を14歳以上とし、年少少年であっても刑罰が科されることがあることを法規範として明示する。

3. 親(保護者)の責任の明確化について

少年の非行の原因・背景には親の教育・しつけのあり方等が問題である場合が多く、少年の問題は、突き詰めれば教育の問題であり、家庭の問題であるとも言える。このため、親の自覚を促し犯罪の抑止力を強化する観点からも、その責任を求める可能な限りの法整備を行う。

来年の通常国会には、先の法制審議会の案とこの自民党案の二つが提出されることになるという。
簡単に言えば、「抑止力としての厳罰化」と言えるだろう。同時に、親の責任の追及。

家庭そのものに色々な問題があることも事実だ。

でも、家庭に責任をなすりつけているようにしか、僕には読みとれない。

少年を「厳罰に処する」と言う前に、汚職だ賄賂だといったことを一掃してから言ってもらいたい!

.....子どもは大人を映しだす鏡です.....。

.....今の社会を作り出したのは、大人の責任です.....

毒物混入事件 1998/09/07(月)

和歌山県のカレーへの毒物混入事件を皮切りに、全国各地で同じような事件が続いている。
昨日、静岡県でも同様な事件が起こり、二人が重体になった。

本当に腹が立つ。
同時に愉快にせせら笑っている犯人と、そうした人間を生み出している今の社会に対する恐ろしさを感じる。

「いのち」というものをこうまで軽く扱えるものなのか。そして、そうした犯人によって、尊い命を奪われてしまった方々や家族の方達の無念さを思うとたまらなくなる。

こうした事件が起きる度に思う。
もう一方でこうした事件に対して、他人事のようにしか感じられないでいる人たちの多さも。
確かに「他人事」に違いないし、「じゃ、お前に何ができるの?」と聞かれたら、具体的に何かができるわけでもない。
それでも、それでも「怒り」を忘れたくないと思う。
こうした事件に対して、敏感な感覚を持ち続けたいと思う。
たえず、自分の感性を鈍らせないようにしておかないと、いざという時に自分は何もできない人間になってしまうような気がする。

聞けるときに きいておかないと
決して聞けないコトバがある
言えるときに 言っておかないと
再び言えないコトバがある

つかめるといふ つかんでおかないと
死ぬまで無縁の宝がある
みがけるといふ みがいておかないと
光らぬまま朽ちて行く 宝がある

得たものを失う その数よりも
得られずに失われたものの 数の多さ
わずかな知恵とわずかな努力が
それに触れ得たかもしれないのに・・・

(宮沢 章二 「流れの中で」)

この詩をフツと思い出しました。

「淳 Jun」を読みました 1998/10/12(月)

『最も酷い嫌がらせは、事件発生後まもなくにきたものでした。それは一通のハガキで、人間の首を切った絵を書いていた。』

その絵の横には、
「母親よ！今度はお前の番だ」
と書いていました。』

『心優しい人達がたくさんいるのとは反対に、このように心の貧しい人達も多く存在しているのも事実です』

この事件の後に、多くの励ましや慰めとは反対に多くの嫌がらせが土師さんの所に届いたと。

「踏まれてみないと踏まれた足の痛みはわからない」というのなら、あまりにも悲しいことだ。

ワイドショーや週刊誌。
マスコミの行き過ぎた取材問題、報道姿勢はよく取り上げられる。
.....今は連日のように、和歌山の保険金詐欺事件の報道.....。
こんなに事細かく、報道する必要があるのだろうか.....?

しかし、そうしたマスコミを後押ししているのは、一体誰か、と考える必要があるのではないか？

今の受験体制にしてもそう。

「おかしい」と思いつつ、本当に「おかしいものをおかしい」と言い続けている、大人達はどれほどいるのだろうか？

声をあげない限り、本人の思いはどうであろうと、そうした体制を後押ししてしまっているのだ。

思うことは簡単だ。しかし、その思いを日常生活のレベルにまで浸透させることがどれだけできるのか、と言うことを改めて問い直す必要があると思う。

社会の出来事や事件に決して無関心で良いと思わない。

しかし、関心を持つことと、興味本位でのぞき見をすることとは、全く違うのだ。

「文芸春秋」に供述調書が掲載されたが、僕は元から読む気にもならなかったし、そうした記事を出す側の気持ちも信じられなかった。

しかし、それ以上に、発売された「文芸春秋」を買っていった人たちの気持ちの方が、その何倍も、何十倍も僕には信じられなかった。

「マスコミの問題」には触れられているが、その後ろにある、僕たち一人一人の他人に対するやさしさと言うものこそ、問われているように思えてならない。

=====

HPでは、その他にも「本の内容」「人権」「本の帯」「大河内清輝君」と言った項目に分けて、僕なりの思いをまとめてあります。

スーダン報告 '98 ~ 国境なき医師団日本 ~ 1998/11/09(月)

骨と皮だけの子ども、お腹だけが異様に出ている子ども.....。

うつろな目をして、横たわるだけの子ども。

そうした子ども達にたかる蠅.....。

11月4日(水) ニュースステーションで「スーダン報告 '98」という特集が組まれていた。

翌日、色々スーダンのことを調べていく内に「国境なき医師団」の活動を知った。 <http://www.japan.msf.org/index.html>

「30年間の人道援助活動の中で、これほど多くの人間の命を奪い尽くす飢餓に私たちは直面したことはありません。死亡率、栄養失調率ともに1985年のエチオピアの飢餓をしのぐ深刻さです。もし何もしなければ、1ヶ月後には南スーダンの5歳以下の子どもたちが死に絶え、98年が終わる頃にはすべての人が消えてしまうでしょう。」

(エリック ゴマエール医師)

栄養失調に苦しむ子どもたちをご支援いただけませんか。

4,000円で1人の子どもに約3週間の治療を行いその命を救うことができます。

ということです。HPに寄付の送付先等も記されています。一度ご覧下さい。

「子どもの権利条約」の「子ども達のいのちは守られねばならない」という単純かつ明快な言葉の持つ重みを改めて感じた。

.....「権利条約」のこと、まとめたいと思っています。

まだまだ、時間がかかりそうですが.....。

自分なりにHPをあちこち回ってみたり、MicrosoftのEncartaを使ってまとめてみました。

スーダンに関する拙いまとめですが、宜しければ.....

<http://osamu.net/dekigoto/sudan.html>

イラク空爆～戦争はいやだ！～ 1998/12/23(火)

「ぼちぼちいこっ！」でも、少し触れた。
もう、空爆は終了した、と言うことだが、絶対に戦争はいやだ。

アメリカってそんなに偉いのか！
それに同調する日本政府……。

TVから流れ出る映像を見ながら、爆撃に怯える親子の姿が、女房やゆーたに重なった。

もし、目の前でゆーたが命を落としたら……。
もし、女房が……。もし……。

絶対にいやだ！絶対に戦争はイヤだ！
僕は絶対に戦争に反対する……。

50年前の今日、12月23日。
第二次世界大戦の「A級戦犯」とされた、東条英機・元首相ら
7人が、巣鴨プリズンで処刑されたのは。

校長先生の死 1999/03/01(月)

2月28日の広島県世羅高校の校長先生が自殺したというニュースに、ドキっとした。
教育委員会と組合との板挟みにあって……という報道だったが、
あまりにも痛ましい出来事だと思う……。

今回の問題で一番思うことは、意見が分かれているところにもってきて、教育委員会などは「職務命令」
や「処分」という手段を使おうとしていること。

意見が対立することは、僕らの日常生活の中でも多々あることだ。
中には、責任を持って最終的な決断を下すこともあるだろう。
また、時間が限られている中で、時間切れの決断も時としては必要となることがあるだろう……。

でも、学校教育の中で、特にここまで意見の分かれている「日の丸・君が代問題」などに「時間切れ」と
いう考えは、全くそぐわないと僕は思う。まして伝家の宝刀のように「職務命令」や「処分」という形で、
一方的に結論を迫る方法は全くもってナンセンスだと思う。

新しい指導要領に言う「自ら学び自ら考える」ということとこれほど矛盾することはあるだろうか。

「教育という名を借りた権力の横暴」の最たるものだと僕は思う。
そうした姿勢をとることが、生徒・子ども達にどれだけ悪い影響を与えていることだろう……。

世羅高校の校長先生も、子ども、生徒達同様、今の学校教育の犠牲者だと感じた……。

広島県の教育長は世羅高校を初め、「国家斉唱」をしなかった12校に事情を聞いた上、処分も検討する、
という談話を発表している……。

……

……亡くなられた校長先生には、心からご冥福をお祈りします。

日の丸・君が代 1999/03/08(月)

「ぼちぼちいこか……」でも少し触れましたが、この問題気になっています。

正直僕自身の考えはまだ、整理されていません。

ただ、3月5日(金)の朝日新聞に政府が「君が代、日の丸」法制化の基本方針を定めた、という記事が
載っていました。

その中に次のようなことが書かれていました。

「国旗は日の丸、国家は君が代と定め、漠然と尊重義務をうたう」
(文部省筋)

ドキッとしました。
「君が代」って日本国民に定着しているの？
尊重することを「義務」とするの？
尊重しなかったらどうなるの？
そもそも、僕は「君が代」は嫌いなんだよ。
でも、法律で決められたら、尊重しなくちゃいけないの？

日本の政治に対して色々な人が色々な意見を言う。
「日本の政治はダメだ！」とも。
でも、今の政治の状況を作り出しているのは、他ならぬ国民の意識レベルの結果だと思うのだが.....。

今の日本の政治はおかしいと思う。
そんなおかしい政治を容認している「日本人」は嫌いだ！
そういう僕も「日本人」の一人.....。
だから僕は自分が嫌いなんだな.....?????

う～む、ますます混乱 (--;)

:.:.'° 。.:*:.:.'° ° '.:*:.:° .:~*:.:.'° 。.:*:.:~*:.:~*:.:~*:.:~*:

さて、ちょっと自分の考えを整理するためにも、「君が代」について少々。

その原歌は、西暦900年頃(十世紀初め)作られた「古今和歌集」巻七に「読人しらず」の賀歌として登場。

わがきみは ちよにやちよに さざれ石のいはほとなりて こけのむすまで

これが、平安後期ころから「わがきみは」より「きみがよは」の形で広まり、作曲は明治に入ってからで宮内省で作成されたとのこと。
国民に公布したのは明治26年で小学校の儀式用唱歌が始まりだそうです。

意味としては
小さな石がたくさん集まり固まって大きな巖となり、さらにその巖に
苔がむすほどまで、長い長い歳月、まさしく千年も万年も永久に、
大君の御代が栄えますように、
という意味をこめたお祝いの歌です。
ここでいう「君」とは天皇(国家君主)を意味しているのはご存じの通り。

:.:.'° 。.:*:.:.'° ° '.:*:.:° .:~*:.:.'° 。.:*:.:~*:.:~*:.:~*:.:~*:

やっぱり、僕の心の中では、絶対に定着しない歌だな.....(--;)

天井かカツ丼か? ~ 日の丸・君が代に寄せて ~ 1999/09/13(月)

メールマガジンの発行をさぼっている間に、「国旗・国歌法案」が成立してしまい、このことについて触れる機会を逸してしまった感がありますが、やはり一言、と思います。

まず個人的な思いですが、日の丸にはそれほど抵抗感を持っていません。
小学校の時、東京オリンピックが行われ、テレビで日の丸のマークを付けた日本人選手の活躍に胸を躍らせた口です。
一方、君が代は嫌いです。肌に合いません。あのメロディラインといい、訳の分からない歌詞といい、個人のセンスとは全く相容れないものです。アメリカの国歌は(歌詞の意味は知りませんが)、非常に元気が出る感じがして好きです。

まあ、日の丸にせよ、君が代にせよ、「天井とカツ丼どっちが好き?」というレベルのモンだと思ってま

す。(ちょっと無理があるか?)

「あれは良い!」「大好きだ!」という人がいても、「ふ~ん、そう」という感じでしょうか?「僕は嫌いだけどね。君が好きなら好きで良いんじゃないの……」って。

「今の子ども達には国を愛する気持ちが欠けている!」

「だから、国旗、国歌をはっきりと決めて、子ども達に……」

さんざん聞かされてきた意見だが、「愛する」と言うことは、非常に自発的なことであると思っている。同時に、その対象が、「愛するに値する」ものでなければならぬし、また、愛すべきものを愛し続けるがための努力をしなければならない。

相次いでいる「不祥事」や政治の世界を見たときに、僕は、今のこの国を愛すべき対象とはとても思えない。

息子にも、今の社会を好きになりなさい、なんて口が裂けても言えない。むしろきちんとした批判能力こそ、身につけさせたいと思っている。

子ども達に願うことは、それでも人間を好きになって欲しい、と思うことと、「魂の自由」「良心の自由」を大切にしていって欲しいと。

そう思っている。

しかしながら、一端法制化されてしまった「国旗」と「国歌」。教育現場では、更に問題が難しくなってくる……。

って長くなったので、また、来週! (^_^)

君が代を歌わない自由はない~日の丸・君が代に寄せて2 ~ 1999/09/21(火)

先週のメールマガジンで

「……しかしながら、一端法制化されてしまった「国旗」と「国歌」。教育現場では、更に問題が難しくなってくる……。」

と書いたが、「ほうら、きたあ~!」という感じを受けた。

「教師・生徒に歌わぬ自由ない」高松市教育長が発言(毎日新聞)

国旗・国歌法で定められた「日の丸・君が代」の学校教育現場での取り扱いについて、高松市教委の山口寮式教育長は16日開かれた市議会本会議で「教師、生徒に君が代を歌わない自由はない」と発言した。有馬朗人文相は「無理やり歌わせるようなことはない」との方針を示している。

「入学式、卒業式で起立・斉唱しない教師、保護者、生徒への対応は。それぞれに歌わない自由はあるのか」との質問に、山口教育長は「保護者は学校が指導すべき立場にない。学習指導要領に基づき、教師、生徒には起立・斉唱するよう指導する必要がある。教師と生徒には歌わない自由はない」と答弁した。

有馬文相は毎日新聞のインタビューに対し、「説得はしても、無理やり歌わせるようなことはない。また逆に、歌いたい人に歌わせないという運動もあるが、これもいけない。先生にしても、子供にしても、最終的には自分の責任でどう考えるかだ」と述べている。【中村 一成】

[毎日新聞9月17日]

大学一年の時の講演会で真下真一さん（哲学者、故人）の「教育とは、教師と生徒の魂と魂の刻み合いだ」という言葉に、僕は非常に大きな、ショックにも似た感銘を受けた。そして、その言葉は、その後、僕の教員時代を支える一つとなった。

「ねばならない」ことは、社会生活を営んでいる以上必ずあると思う。

しかし、学校教育の中には、理不尽な「ねばならない」が多すぎる。

一方、「ねばならない」ということに対し、疑問を持つことは、ある意味では、人間としての権利であると同時に、義務でもあると思っている。

「なぜ、どうして？」に対してきちんと答えられるか！

意見が食い違ったときは、お互いの意見をとことん出し合い、丁寧に丁寧に一致点を積み上げていくこと。

しかし、時に公立学校の中では「職務命令」という形で教師に強制し、私立学校の中では、「イヤなら辞めて下さい」が姿を現す。

学校教育は時間がかかって当たり前なのに、どうして結論を急ぐのか？

生身の人間同士がぶつかり合うのだから、時間がかかるに決まっている。

逆に丁寧に時間をかける経緯こそが、「教育現場」に相応しいのではないのか？

「法的拘束力のある学習指導要領に基いた」指導が、これから学校の中に広がっていくのだろうか。

現場の先生達は、どうするのだろうか？

そして話は「教育基本法」にいくのだった。

to be continued !

コロラド高校生銃乱射事件 1999/05/10(月)

=====
コロラドでの高校生銃乱射事件は、ニュースで見ましたか？

ここから60kmくらいのところで、1回部活の大会でそこへは行ったことがあります。このハイスクールでも、授業を割いてそのことの話がありました。

スクールはそのことで話が持ちきりで、とても大変です。

そして、今週の金曜日が何か危ないらしく（前、事件を起こしたグループが、このハイスクールのことを言っていたらしく……、よくわからないのですが……）今日スクールで黒人や Asian Student に注意を呼び掛け、金曜日は自主登校となりました。

……とそんなことでとても大変です。
=====

このメールは、アメリカに留学した昨年度の女房の教え子から女房に来たモノで、一部を紹介させてもらいました。

これからも彼から、色々な話をメールで教えてもらおうと思っています。ただ、日本語が使えないので、ローマ字を直すのが大変ですが……(^_^)

もいっちょ！

彼は、非常にユニークなヤツです。我が家にも遊びに来ました。

なんと、欣ちゃんの仮装大賞で、最優秀賞をとったこともあったりして。

高校生の時から、世界に出ていける、いいなあ、と思っちゃいます。

……………一度も外国に行ったことのない O S M (…)

高校銃撃事件の原因は何か 1999/05/19(水)

先週お届けした、留学生からの手紙に対して、下記のようなメールをいただきました。

ホント、何が彼らをそうした行動に駆り立てたのか？と思います。
=====

「WIRED NEWS」に、乱射した生徒らが、ゲームに相当ハマッ
ていたことが、書いてありました。

<http://www.hotwired.co.jp/news/news/2365.html>

今回の事件についてアメリカでは、インターネットやゲームに原因が求め
られているそうです。

記事の最後に、アメリカ市民的自由連合のバリー・シュタインハート副理
事の「罪を着せられる相手を探すことや、説明不可能で考えられない出来事
に説明を求めようとするのは、われわれ人間に生来備わった傾向なのだ」と
いうコメントが書いてありました。

新しいメディアが登場し、何か事件が起きると、そのメディアへの批判が
集中します。手塚治虫さんも、随分苦労したんだろうと思います。

昨年の黒磯ナイフ殺傷事件の前後も、「ギフト」の脚本を書いた飯田さん
が批判的な記事を書かれていました。

自分が理解できないものは、批判する。

何とかならないかなと思うこともあります。

=====

情報ありがとうございます。

「WIRED NEWS」を読むと考えさせられることが多かったです。

僕もゲームやインターネットにその原因を求めるのはどうかと思います。

今の子ども達をとりまく、文化、環境全体を考えなければ、と。

にしても、暴力シーンがやたらと目に付くようになったのは事実ですね。

教師の不祥事 1999/09/07(火)

新学期が始まって1週間。

ここへ来て、連日のように「教師の逮捕」が報道されているような気がしました。他にも神奈川県警の
「不祥事」、マスコミ関係者の「不祥事」...色々ありますが。

ざーっと、目に止まった新聞記事の見出しだけピックアップしてみました。
(他にも、「いじめる会」を作った教師だとか・・・)

女子高生ホテル連れ込みビデオ撮影 = 小学教諭を逮捕 - 愛知県警

[時事通信社 8月31日]

京都の中学教諭逮捕 わいせつ行為の疑い [京都新聞 9月1日]

32歳中学教諭 女性を誘い暴行 都内で2度逮捕

[毎日新聞 9月2日]

公立中女性教諭を教材費の不明朗処理で処分 - - 福岡

[毎日新聞 9月4日]

<強制わいせつ>容疑の元私立高教諭を逮捕 - - 岐阜県警

[毎日新聞 9月6日]

ため息が出ますね。

こうした事件の度に「教師の資質」なるものが取りざたされてきます。

で、次のようになるわけですね。

=====

「適格性に欠ける」教師の人事管理研究へ 毎日新聞 9月2日

問題がある教師への指導、対応はどうあるべきか - -。

文部省は2日までに、来年度から26都道府県・政令市の教育委員会に委
嘱し、「適格性に欠ける」と考えられる教師を対象とした人事管理の調査
研究を初めて行うことを決めた。

=====

「教師」って本当におっかない職業だと思いますね。

毎度の主張ですが、「傲慢になりやすい」職業の一つでしょうね。

確かに「適格性に欠ける」と考えられる教師が増えているのは事実でしょうね。

でも、「適格性に欠ける」かどうかを判断する、管理職や更にその上の方々の「適格性」はどうなんでしょう？誰が判断するのでしょうか？
.....国民である我々.....なんですよね.....？！

幼児虐待 2000/01/20 (水)

昨年一年間で、随分「幼児虐待」のニュースが目についた。

子育ての問題や子ども達の事件が起きるたびに、その子がどう育てられたかがクローズアップされるが、その親がどう育てられたのか、ということが大きな問題だと思う。

結局親は自分がどう育てられたのかということを出発にして、我が子に接していくのだから。

「キャプナ」というHPがある。 <http://www2u.biglobe.ne.jp/~capna/>

その中に、1999/3/14、名古屋市の丸栄カーネーションホールで開催された「見えなかった死・シンポジウム」の資料が「見えなかった死1998資料集」と題して、ホームページに掲載されている。

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~capna/tokei/tokei.htm>

内容は以下の通り。

:.:.:'° 。 ..*:.:'° ° ' .:*.:.。 ..*:.:'° 。 ..*:.:.*:

第1章 1998年子どもの虐待死の概要

総論

過去3年間の比較

虐待死事件ダイジェスト

第2章 愛知の現状

地域別

種類別

周囲の課題

付録 96年97年補足データ

:.:.:'° 。 ..*:.:'° ° ' .:*.:.。 ..*:.:'° 。 ..*:.:.*:

子どもの虐待死については、まだまだ考えがまとまらないが、今、日本の中でいかに多くの子ども達が、一番身近な「親」によって命を奪われていることがよくわかる。

同時に、自分の子育てを改めて考えさせられる。

「開かれた学校」って？ 2000/01/20 (水)

お世話になったとある先生から

「『情報化社会の中の学校』ということで、意見をまとめて欲しい」と頼まれた。今、その文章をまとめ始めているが、その前提として強く思うことが何点がある。

～学校への過度な期待～

「学級崩壊」とか「学校崩壊」と言った言葉が社会に広がる前から、僕自身の意識の中では、「学校に過度な期待はしてはならない」ということを何かにつけて触れてきた。

最近では、「学校神話の崩壊」等という言葉も登場してきているが、「学校ができること」はたかがしれていると思っている。勿論学校の果たす役割を否定する気持ちは毛頭ないが、「学校なんてナンボのモン」という思いはますます強くなっている。

とにかく、「良い高校、良い大学」の先に何があるというのだろうか？「学校神話」とあわせて、「会社神話」も崩壊しているというのに...。そうした社会の変容の前に、一番変わっていないのが「教員の意識」ではなかるうか？

やはり教師は「傲慢」だと思ふことがたくさんある。その「傲慢さ」が、学校をいつまでたっても旧態依然のままにしていると思える。

～「開かれた学校」～

一昨日、静岡市の小学校の校庭で殺人事件があった。

全国ニュースでも取り上げられたので、ご存じの方も多いかと思う。

この小学校は「開かれた学校」ということで、校庭と公園がつながっており、誰でも出入りが自由にできるようになっていた。

物理的な壁を取り除くことで、精神的にも学校が身近なものになっていく、という考えもある。一方、精神的に距離を近づけていかなければ、いくら物理的に壁を無くしていこうとしてもダメだ、という考えも成り立つ。

勿論、精神的にも物理的にも学校が「開かれていく」ことは大切だし、その両方が大切であることは言うまでもない。

これからの学校にとって何が大切かと言ったら、「子ども達の安全」ということではなからうか？

京都の小学生の殺人事件、関東の方では高校生が同級生に年間1000万円を越える恐喝をしていたと。また、いきなり首を切りつけられた中学生.....。

開いた先の社会は、とてつもなく病んでいると思うのだ。

そんな状況の中で物理的に開いたところで、危険性は増すばかりだと思うのだ。それ以前の問題として、学校が様々な問題をどれだけオープンにしていこうとするのか、そして、教職員、その地域の見定めがきちんとすることが大切だとも。

それなくして、お題的に「学校を開こう」と言ったところで、悲惨な事件はますます増えるだけだと僕は思う。

自己防衛～京都小学生殺害事件容疑者自殺～ 2000/02/06(日)

昨日の夜のニュースはこれがトップでした。

気になってニュースを見ていましたが、一番気になったことは、警察の発表で、「捜査上のミスはなかった」という表現。

遺族の方にとっては、「どうして、なぜ？」という思いはいつまでも続くだろう。そうした時に、最初から「ミスはなかった」と言い切れるものだろうか？僕には信じられない。

僕自身、たくさんのミスや失敗を犯してきた。

素直に非を認められなかったこともあった。

それでもやっぱり思う。

事実をきちんと見つめる勇気が欲しい、と。

これからの時代、ますますそうした「勇気」が必要になってくると。

まず「自己弁護ありき」では物事の解決には決してならないと。

夢の島強盗殺人事件 2000/03/14(火)

「子どもの権利条約」が批准された頃の僕のノートに、次のようなメモがああった。(参考文献等は調査中(笑)。だから、あまり?????)

「権利条約の生まれた背景」=世界の子どもの「生命そのものの危機」

湾岸戦争...イギリスの17歳の子供が戦死

インド、タイのストロー工場...

日本の生活の裏には、他国の児童労働

ブラジルのストリートチルドレン...警察官が子どもを射殺

子どもの臓器摘出 etccetc

・発展途上国 古典的な問題(飢餓、病気)での危機

・先進国 先進国病(麻薬、自殺、アトピー等の新たな病)

「子ども」=全ての人がかぐくってくる重要な時期

・その時期が奪われるとその人の人生の基礎が奪われる

・明日を待てない決定的な時

(以下省略)

:.:.'° 。.:*:. '° ° '.:*:.。.:*:. '° 。.:*:.:~*:

...東京都江東区の夢の島緑道公園で鈴木伸一さんが殺害された事件の容疑者として、高校1年生(15)と中学3年生(14)の少年を逮捕したとの報道が10日なされた。

その後、この事件の他にも何件かの暴行、障害事件を起こしていたとのこと。しかも、それに関わっていた者として、更に数名の少年がいたという。

ふと、権利条約のことを思い浮かべたのも、彼らの幼児期、少年期はどんなだったのだろうか?と思わずにはいられなかったからだ。

子育てにはこれでよい、等というお手本があるわけではなく、僕たち親が手探りで子どもと接していくしかない。

その時、大切なこと、親である自分自身がどう育ってきたのか、どう育てられたのかを、きちんと見据えることではないだろうか、そんな風に思う。

気になるニュース～毎日教育メールより～ 2000/03/30(木)

毎日教育メールで配信されてくるニュースの中に、学校現場の全面禁煙のニュースがあった。

> 三重県青山町は、学校現場での全面禁煙化を、4月から町立の小・中
> 学校6校に呼び掛ける。松原美省町長は「教職員が禁煙に努める姿を見
> せることが、児童・生徒への最大の禁煙教育となる」と話している。強
> 制はせず、校長会の会議などを通じて意図を説明し、各校の自主的な判
> 断に任せる。

>

> 現在、教職員全員が非喫煙者の高尾小を除き、5校が校長室や職員室
> の一角を喫煙コーナーとしている。その一方で、各校は保健教育で、児
> 童・生徒にたばこの害を解説するビデオを見せるなどしている。約30
> 年前に禁煙した松原町長は「子供へのたばこの害に関する認識はまだ甘
> い。子供に指導するなら教職員もやめるべきだ」と話している。

「毎日教育メール 2000-03-27 No.037」より

僕はタバコなしではいられない立派な「ニコチン中毒」だ。
しかし、吸ってはいけないところではちゃんと我慢する。(^^ゞ
病院や学校などは「全面禁煙」になったらなったで、それは良いと思っている。

気になることは、「子どもに指導するなら、教職員もやめるべき」という部分。これ、結構色々な所で出てくる話だが、「自分ができないことは指導できない」という所に行き着いてしまう考え方でとっても気になる。

「タバコの害に関する認識が甘い」というのは、その通りだと思う。
「わかっているけれど、やめられないんだよな」と僕なども嘔いたりするが、単なる精神論や意志の問題で断ち切れるほど、ニコチン中毒は甘くはない。

「公共機関での禁煙」はこれからも広がっていくだろう。
だが、「子ども達への指導」というのが絡んでくると.....?
うう、考えがまとまってないなあ。(^^ゞ

親と学校～5,000万円恐喝事件に思う～ 2000/04/15(土)

連日のように報道される名古屋市で起きた恐喝事件。
「学校、警察、親は止められなかったのか?」
ということが指摘される。
このニュースを見ながら、色々なことを思い出した。

「学校としては、『学校には言うな』『これ以上は連絡しないで欲しい』と言われた」と当時の担任や学年主任の先生達が言う。

確かにその通りだと。学校としては、「これ以上は結構です」と言われたらどうすることもできない。

僕も何度もそう言われたことがあった。

その内、「わかりました」としか言えなかった時もあったが、「いや、そんなことはないです。ここであきらめたらダメなんです」と音を上げてしまった親を叱咤激励したこともあった。

「これ以上、私を苦しめないでください」

と涙ながらに訴えるお母さんもいた。

「学校と生徒の信頼関係」と口で言ってしまうえば簡単だが、「信頼関係」を築き上げるのは並大抵のことではない。僕の教員時代と今では、学校教育を取り巻く環境も大きく変わっているのも事実だ。

こうした事件が起こるたびに思うのだが、やったことの中身としては言葉にならないほどひどいことだ。しかし、こうした子ども達を生み出している社会そのもの、大人たち自身の責任が問われないといけない。

：*：*’° 。：*：*’° ° ’°*：*..：*：*’° 。：*：*...*：*

教員時代の家庭訪問。これは僕にはとってとても大切なものでした。

以前、HPにアップした

「先生、若いねえ」「まだまだ、甘いよ」というヤツです。

時間があればご一読下さい。

<http://osamu.net/gakko/kateihoumon.htm>

ストーカー～今月に入って13件～ 2000/04/24(月)

沼津の高校生が殺害されたニュース。さらに同じ静岡県東部の函南町で起き殺人事件。いずれも交際のもつれからの事件。

10年間暮らしていた土地だけに、ニュースで流れる地名も、ひととき身近に感じてしまう。

今月に入って、ストーカーによる事件は13件起きているようだ。

(これ、朝のワイドショーで知りました)

色々な所でこのストーカーの事件が報道されているが、昔の生徒の言葉を思い出した。いつ、誰が言ったのかは忘れたが、その内容だけは鮮明に覚えている。

：*：*’° 。：*：*’° ° ’°*：*..：*：*’° 。：*：*...*：*

「先生さあ、なんでみんな男に引っかかりやすいかわかる？」

「.....????」

「私らバカだからさ、中学までほとんど相手にされなかったんだよね。」

「.....」

「だから、優しい言葉なんかかけられると、コロっていっちゃうんだよ。相手がどんな男でもね。わかる？」

：*：*’° 。：*：*’° ° ’°*：*..：*：*’° 。：*：*...*：*

彼女の言葉が全てではないけれど、心の中にずっと重くのしかかっている言葉だった。

親の覚悟～少年事件に寄せて～ 2000/05/15(月)

「私達には説得できません」というバスジャック事件を起こした少年の母親の言葉。この間のテレビ報道ではアチコチで取り上げられる。ある番組では「親がこんなことでは私達はどうしたらいいのか？」などと言っていた。

同時に聞かれる「親の責任」という言葉。

自分自身で今までも使ってきた言葉だが、最近では、それだけでは足りないように思えてきた。

若者が「切れた状態」にどの程度の人が接したことがあるのだろうか？

高校の教員をしていた頃、何度となくそうした状態に直面したことがある。

一度感情が高ぶり、興奮状態になってしまうとホント手をつけられない状態になってしまう。

親子関係がうまくいっていないときなど、親が出てくることによって、かえって本人を興奮させることも

しばしばあった。

一方、息子のゆーたの状態を見ていて思う。

精神的に不安定になり、感情を爆発させてしまうと、何を言っても逆効果になり、なんとか気持ちをそらすようなことをするか、或いはしばらく放っておくかしかできない状況になることがある。

まだ、小学校6年生ということで、暴力を振るったりすることはないが、今回のニュースを見ながら、このまま知恵も力もついていき、感情コントロールができない状態だったら、どうなるだろう？ と何とも言えない重苦しい気持ちになった。

勿論、今回の事件が許されるわけではない。

しかし、「説得できない」という母親の言葉には、僕は頷いてしまうのだった。

：*：*’° 。 ..*：*’° ° ’*：*：。 ..*：*’° 。 ..*：*：*’：

「親の責任」として、我が子がそうした犯罪を起こさないようにする努力をするのは当たり前のことだが、もし、そうなってしまったら、もし、そうなりそうだったら、僕はどうするのか？

「親としての覚悟」が、僕には必要に思える。

そしてその覚悟を元に、息子と接していくことが……。

一括りの怖さ ～「17歳」という言葉～

とにかく「17歳」という言葉が踊っている。

確かに今回の二つの事件は「17歳」の少年が引き起こし、色々と共通点もあるのは確かだ。また、10代という時代は、一番多感な年齢で、思春期故の様々な問いかけが生じるときであり、その象徴として「17歳」という

言葉が使われるのも、なんとなくわかるような気がする。

しかし、はたして、マスコミなどで報道されている「17歳」という言葉には、そうした子ども達の抱える悩みの深さへの共感があるのだろうか。

むしろ全体的なトーンとしては「17歳は何をするかわからない」というように僕には感じられてならない。

同様に「不登校」とか「身心を病む」と言った言葉も、今現在、心を病んでいたり、メンタルクリニックに通っている人達への共感、理解を呼ぶようなものではなく、むしろ、そうした子ども達、人達を阻害するような感じを受けてしまう。

：*：*’° 。 ..*：*’° ° ’*：*：。 ..*：*’° 。 ..*：*：*’：

かつて教員だった頃「神経科でカウンセリングを受けた方が良い」とアドバイスをしたとき、「精神病院に行けと言われた！」と受け止められたことがあった。

風邪を引いたときには、風邪薬が必要なように、心を病んだときには、カウンセリングを受けるなりが必要なのに、と思う。

どうして「特別視」するのだろうか？

大切なことは、素人考えではなく、きちんとした知識、情報を自ら集め、言葉に踊らされることのない冷静な判断、対応だと思うのだが……。

得体の知れないもののかつては「キツネつき」と呼んだり、「肺病」にかかった人を、家の奥のくらし部屋に閉じこめていたことと相通ずるように思えてならない。

それともこれは、僕のうがった見方なのだろうか？

訂正～バスジャック事件～ 2000/05/17

ニュースなどですでに知っている方もいるとは思いますが、No.71で「私達には説得できません」と両親の言葉を取り上げた、メールマガジンを配信しました。

これについて、弁護士団が昨日16日、

「広島県警側が『両親の説得は様子を見る』との方針を決めたため、両親は説得に加われなかった」と記者会見で発表しました。

僕は、今朝のNHKのニュースで見ました。
報道されたことは、本当に正しいのか？ ということを改めて感じました。
しかし、この事の実偽は別にしても、「親の覚悟」について考えたことについては、少しも変わるものではありません。

：*：* ' ° 。 : * : * ' ° ° ' ° : * : * . ° : * : * ' ° 。 : * : * : * : * :

中国新聞の全文はYahoo! で読むことができます。
<http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn00051702.html>

ハンセン病 2001/5/23 (水)

ハンセン病訴訟に対して、国は控訴するみたいだ。
「控訴して和解」……
どうしてだろう？ なぜ？ HPなどで色々知れば知るほど、ハンセン病患者の人たちが受けてきた苦
しみが全然、国には届いていないんだと、痛切に思った。

……とここまで書いて、メールマガジンを配送しようとしたら、6時のニュースで控訴断念とのことだっ
た。良かった。原告の方達の喜びの顔を見られてほんとに良かった。

たくさんあるHPの中でも、以下のHPなどが僕に参考になりました。

「ハンセン病回復者とふるさとをむすぶ」
<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Himawari/8952/>
……ハンセン病WEBパネル展 がお勧め

「知って！ハンセン病国賠訴訟 -ハンセン病国賠訴訟弁護団-」
<http://www.hansenkokubai.com/>

「高松宮記念ハンセン病資料館」
<http://www.hansen-dis.or.jp/>
……「事件と人物」 がお勧め

NHK教育のETV2001 でハンセン病の特集があります。

NHK教育 ETV 2001 午後10時00分～10時45分
「ハンセン病患者はなぜ隔離されたか」
2001年5月30日(水) 前編 隔離政策はこうして続けられた
2001年5月31日(木) 後編 語り始めた元患者たち

：*：* ' ° 。 : * : * ' ° ° ' ° : * : * . ° : * : * ' ° 。 : * : * : * : * :

色々な報道の中で、特に耳に残っている言葉が、「結局、国の政策云々というのもそうですが、周囲の人
たちの差別、偏見がこの問題の根元にはあるんです」という言葉だった。
僕自身、ハンセン病という言葉よりも、小さい頃の「らい」という言葉と、それに伴う「怖い病気」と
いう知識だけが未だに心に残っていたことが、その現れだろうと思った。

忘れてはならないもの 2001/06/01 (金)

ハンセン病訴訟の一連のニュースを見ながら思った。キャスター達は言う。
「こうしたことを我々は、決して忘れてはならないんです」と。
その時、時間と共に僕達の心の中から忘れ去られていく、数多くの出来事のことを思い返していた。……
正確に言えば、「僕の心の中」と言うべき事柄。
しかし、いくら「忘れてはならない」と言っても、年がら年中考え続け、そして忘れずにいるほど僕の脳
みそは優秀ではないし、それなりに没頭することはある。

：*：* ' ° 。 : * : * ' ° ° ' ° : * : * . ° : * : * ' ° 。 : * : * : * : * :

「忘れ去られること」「刻み込まれること」の差は、どこからくるのだろうか、と思った。

自分の人生の進んでいく縦軸と同じ方向で起きた事件と、その時々、横から突然頭を殴りつけられたように起きた、衝撃的な事件との差かもしれない。

う～ん、それも何か違うような気がするなあ.....。

結局の所、その時々、深く考えられれば良いのではないかと。

自分の心にしっかりと刻み込めば良いのだ、と。

そうすることによって、その「出来事」は、何かの拍子にひょっこりと心の中に顔を出すのではないかと。

:*:~'° 。..*:~'° ° '°*:~.. .*:~'° 。..*:~..*:

もっとも、ハンセン病の方達だけでなく、言われぬ差別や、突然の事件に巻き込まれて、悲しみを一生背負い続けている人たちが、この世の中にたくさんいることだけは、決して忘れてはならないと思うのだ。

メル友殺人～安易なコミュニケーション？～ 2001/06/01(金)

最近、マスコミなどをにぎわしている「メル友殺人」なる言葉。そしてそれとセットになるように「若者達の安易なコミュニケーション」という言葉が目につく。

本当に「安易」なんだろうか？

僕はずっと違和感を覚えている。

確かに手段的には、「手軽」でいつでもどこでも、という感覚はあるのだが、そうした手段に頼ることが、若者の「安易さ」なのか、ということだ。

:*:~'° 。..*:~'° ° '°*:~.. .*:~'° 。..*:~..*:

むしろ、直接的なコミュニケーションがいかにとりにくい社会になっているかということを表しているのではないかと思う。

小学生くらいの年齢から、コミュニケーションの難しさを肌で感じ取っているのではないのか？ 動物的な直感のようなもので、目の前にいる「他人」が恐ろしいものという感覚が、埋め込まれているのではないかと思うのだ。

連日のように報道される、様々な凄惨な事件。

親である我々自身が、コミュニケーションの難しさを、ことある毎に感じているような時代の中で、子ども達が、その鋭敏な感覚で、直接的なコミュニケーションを身体全体で拒否し始めているのではないのか？

そう思う。

:*:~'° 。..*:~'° ° '°*:~.. .*:~'° 。..*:~..*:

携帯のメールなどの安易さの裏には、日常生活の中で失われた「安心感」があることにもっと目をやらなければ、何でもかんでも、「ホラ見たことか！」的な発想になってしまうように思うのだ。

むしろ、間接的なコミュニケーションから日常生活のコミュニケーションを見直すことが大切になってきているのではなからうか？

痛ましい事件 2001/06/09(土)

あまりにも惨い事件だ。

命を落とした子ども達、そして親ごさんの気持ちを考えると、言葉もない。

ニュースを見ながら思った。

何故、マスコミは子ども達にカメラやマイクを向けるんだ！

「PTSDの心配云々.....」などと報道する資格はない！

マイクをつきつけ、子ども達に問いかける言葉は、やさしい言葉を使っていたが、その言葉遣いがとても白々しく思えてならなかった。

いつもの事ながら、マスコミで報道される言葉が、どんどん膨れあがっていく恐ろしさを感じる。「精神病」「安定剤」「措置入院」

「措置入院」については、下記サイトがわかりやすかった。

子ども達を切りつける.....同じような事件を生み出さなければと思う。

.....「学校の安全管理」「開かれた学校」という言葉。
一年以上前のメールマガジンで触れたことを思い出した。

== 2000/01/20 (水) -No.60- より =====

一昨日、静岡市の小学校の校庭で殺人事件があった。
全国ニュースでも取り上げられたので、ご存じの方も多いかと思う。
この小学校は「開かれた学校」ということで、校庭と公園がつながっており、誰でも出入りが自由にできるようになっていた。

物理的な壁を取り除くことで、精神的にも学校が身近なものになっていく、という考えもある。一方、精神的に距離を近づけていかなければ、いくら物理的に壁を無くしていこうとしてもダメだ、という考えも成り立つ。
勿論、精神的にも物理的にも学校が「開かれていく」ことは大切だし、その両方が大切であることは言うまでもない。

これからの学校にとって何が大切かと言ったら、「子ども達の安全」ということではなかるか？
京都の小学生の殺人事件、関東の方では高校生が同級生に年間1000万円を超える恐喝をしていたと。また、いきなり首を切りつけられた中学生.....。

開いた先の社会は、とてつもなく病んでいると思うのだ。
そんな状況の中で物理的に開いたところで、危険性は増すばかりだと思うのだ。それ以前の問題として、学校が様々な問題をどれだけオープンにしていこうとするのか、そして、教職員、その地域の見定めがきちんとすることが大切だとも。
それなくして、お題的に「学校を開こう」と言ったところで、悲惨な事件はますます増えるだけだと僕は思う。

== 2000/01/27 (木) -No.61- より =====

先週お届けした、「開かれた学校って？」に対して、メールをいただきました。ご紹介させていただきます。

メルマガの「開かれた学校」についてのご意見、全く同感です。
私も教員をしてましたから、仲間を悪く言うのはいやですが、「親を教育しないとだめだ」とか、「せっかく心配してやったのに」とか、傲慢な考え 方だなあ、と常々思っていました。
だって、子どもを育てていくという点では親と教員は同じライン上にいるのに。各家庭それぞれでいろいろな事情や条件が違うのに。学校の都合のいいようにだけ動くわけがないのに。
今はアメリカに住んでいますが、面白いことにこちらの学校の方が「開かれている」と感じる人が多い一方、物理的には外部との境がはっきりしているんです。
誰でもボランティアで教室にどんどん入れる。でも受付でサインと訪問時間を記入しなくてはなりません。それに、外に通じるドアは中からは開くけれど、外からは開きません。治安が大きな問題の一つであるからこそですね。
要は、考え方とシステムの違いです。日本の学校で、親が気軽に教室に入るのを一番嫌っているのは先生達なので。から。
こういう状況が少しでも改善していくことを祈っています。

「学校が開かれる」と言う前に、親や教師の「自己開示能力」が問われるんだろうなあ、そう思います。

:*:.!° 。.:*:.!° ° !.:*:.!° .:~*:.!° 。.:*:.!°:

この事件は、色々な波紋を広げていこう。
もう少し、落ち着いて考えなくては.....。

、学校

校長先生って何？ 1998/07/014(火)

===== 職員会議は校長補助機関===== ~ 東京都教育委員会、規則に明示 ~

7月9日(木) テレビでそんなタイトルを目にした。

東京都教育委員会が、小中学校、高校など全ての公立学校について「職員会議は校長の補助機関に過ぎない」という管理運営規則の改正案を決めた、というものだった。

これまで明文化されてこなかった職員会議について

「校長は必要と認めるとき、公務を補助させるための職員会議を置くことができる」と位置づけると同時に、教頭の権限についても「職員を監督する」という条文も付け加えられたとのこと。

このニュースの中身にピンとこない人もいるかも知れませんが、所沢高校の学校長の生徒や職員とのやりとりを振り返れば、なんとなく想像がつくかも知れません。

しかし、「職員会議」そのものが親や一般にはあまり実体が知られていないことの方が問題かもしれません。

ということで、職員会議で話されることは.....

(高等学校の経験しかありませんが、小中学校も似たようなものでしょう)

職員会議は

年度始め、各学期の初めと終わり、月毎、特別(入試や行事等)

臨時(生徒の問題等)に開かれます。(学校によっては当然異なります)

いずれにせよ、全職員で考え方や基本的な方向などをきちんと話し合うために開かれるのが本来の姿です。

それが、単なる伝達機関に成り下がっていたり、意見を言っても「ご意見として承っておきます」等ということが随分と増えているように聞きます。

また、私学などでは、校長や理事長に反発してしつこく食い下がるものなら、「イヤなら辞めてもらって結構です」という伝家の宝刀が振り下ろされ

たりもします。(僕も何度か言われたことがあるし、そう言われて辞めていった教師もいます)

いずれにせよ、教職員が話し合いができなくなっている中で子ども達に「話し合いをしましょう~」等と言っても所詮無理な話。

様々な子どもがいるように、教員も様々な人間がいるから面白いのであって、金太郎飴みたいな教師ばかりだったら、子ども達もうんざりするだろう。

しかし、「話し合い」というのはとても疲れる。一つ一つ確認して築き上げていくことは本当に労力を必要とする。

教育委員会を初めとして、子どもの方ではなく「上ばかり見ている」校長や教頭にとっては、職員の話合いの場所は、うっとうしい限り。だから所沢高校のように、「学校長の権限」を振りかざして物事を納めようとし、結果、ますます収拾がつかなくなってしまう。

こうしたやりとりが一番疲れるのが教職員。次第に意見を言う気力も失せていく。学校の中に何とも言えない倦怠感が、無力感が広がっていく。そうなると学校としての魅力はどんどん失せていく。

学校長に一番必要なものは、波風を立てずに丸く収める能力ではなく、たとえどんなに困難でも、子ども達のために全教職員をより高い所へ引き上げていくリーダーシップと、強い信念だと僕は思ってきたし、その考えは今も変わらない。

新学習指導要領 1998/07/02(木)

22日に文部大臣の諮問機関である「教育課程審議会」が「審議のまとめ」を公表しました。小難しい言葉はともかくとして、これが一体どういう意味を持つのかを少々.....

- 1) 2002年には学校は「完全五日制」になる。
- 2) それに伴って、授業内容が、小中学校は2002年から完全に変わる。
高校の授業内容は、2003年の新入生から順次変わっていく。
- 3) 授業内容は、「教える内容」を減らしていく。同時に授業時数も減る。
例 小学校4~6年生..... 6時間の日が2日、5時間の日が3日
中学生 6時間の日が3日、5時間の日が2日
- 4) 授業内容は学校の独自性に依って弾力的に。

5) その他

入学式、卒業式の日の丸掲揚、君が代斉唱の指導については、「徹底」するように求める。

問題 だと思っぞ・・・

- 1) 高校入試のあり方が、学力検査と調査書の学習評定が中心に決まる現状が抜本的に変わらなければ、どーしよーもないでしょね。
- 2) 私立中学の44%、私立高校の26%はまだ完全6日制。
私立には「建学の精神」というのがあります。どーするんでしょうかねえ。
- 3) 大学と大学入試の在り方は、「大学審議会」とやらで検討中だということ。
高校入試同様、「入るに難しく、出るのに簡単」な今の在り方が変わらない限り、五日制にしようとする意味は空中分解するだろうなあ。

他にも色々ありますが、学校教育が大きな曲がり角に来ていることは間違いないでしょう。もう、ニュースにはあまりならないかもしれませんが、基本的な方向は敷かれ動き出しました.....。

続・新学習指導要領 1998/07/06(月)

さて、前号で書きました新学習指導要領。今回はもう少し中身を見てみたいと。と言っても、僕が興味を持ったところが.....。

=====

我が子が苦しんでいる算数

.....()内は現行実施学年

<<削除される項目>>

不等号の式(2年)、単位の換算(2年~)、正多角形(5年)
台形と多角形の面積(5年)、度数分布(6年)、比の値(6年)

<<上の学年へ移行>>

小数や分数の導入(3年)

<<中学校へ移行統合>>

文字式(5年)、図形の合同(5年)、柱体とすい体の表面積(6年)
図形の対称(6年)、縮図や拡大図(6年)
すい体などの立体図形(6年)、比例や反比例の式(6年)
物事の起こりうる場合の調べ方(6年)

<<軽減>>

けたの多い整数や小数の計算(3年~5年)
帯分数を含む複雑な分数の計算(4年~6年)

=====

上記の一覧を見て、僕は思わずため息が出ました。
我が子の場合、今の学習指導要領通りに「学ぶ」んだと.....。
ホント難しいです。小学校の先生達も大変だと思います。
どの子にもわからせる、なんてのは不可能だろうなあ。

ところで、今の学習指導要領は、「隔週学校5日制」の元に組まれていないと言うことをご存じでしょうか？

あくまでも「学校6日制」を前提とした授業時間数の計算であり、それに基づいた授業内容なんです。

=====

君が代や日の丸は.....？

イ 改善の具体的事項(小学校(音楽))

.....

(カ)国歌「君が代」は、いずれの学年においても指導することを一層明確に示すこととする。

.....

15 特別活動

(イ)国際社会の中で主体的に生きていく上で必要な日本人としての
自覚や国際協調の精神を培い、国旗及び国歌の指導の徹底を図る。

=====

だそうです。

所沢高校のこともあり、とってもしいやな感じがしました。

文部省の教育課程審議会のURLはこちらです。
結構な量ですから.....
<http://www.monbu.go.jp/singi/katei/>

「出にくい大学」に変身する？～大学審議会の答申 1998/10/27(火)

HPにも少しまとめましたが(<http://osamu.net/dekigoto.htm>)、大学審議会の答申が出されましたね。いろいろありますが、「単位認定を厳しくし、いい加減に卒業させない」ということが言われました。早ければ2000年(現高校2年生)から実施する、というものです。

一番の問題は、「入り口」だと僕は思っています。(恐らく僕だけではないと思いますが)残念ながら、「入り口」=大学入試の抜本的な見直しは、何ら出されませんでした。

今の受験体制は小学校、はては幼稚園にまで及んでいます。
子ども達は一体、どこでゆっくりできるのでしょうか？

学習指導要領改訂 1998/11/23(月)

文部省が学校完全5日制の導入に伴う、学習指導要領の改定案を発表した。
基本的なことは、中教審の答申を踏まえてのことだが、この点については来週のメールマガジンで詳しく述べたいと思う。

しかし、この指導要領、ってのは取っつきにくいし、わかりにくい。
なかなか読もう、という気になれない。
ま、当たり前と言えば当たり前かもしれないが.....

教育に関することは親にわかるようなものでないといけないと、最近強く思う。他でもない我が子がどうなっていくのか、という切実な問題なのだから.....
もっと言えば、教育を受ける子ども達自身にもわかるようでないといけないのではないかと.....

学習指導要領の父母向け、子ども向けの解説書が出ないものだろうか、と。

また、指導要領に始まったことではない。
「学校用語」は難しすぎるのではないだろうか？

.....いっそのこと、「学校用語解説」のページでもつくってしまおうか、と思ったりしてしまうのだった。

とりあえず、文部省の指導要領の
小学校総則は
<http://www.monbu.go.jp/news/00000295/t-sosoku.html>
中学校の総則は
<http://www.monbu.go.jp/news/00000295/s-sosoku.html>
です。

高校の学習指導要領案発表 1999/03/01(月)

2003年から実施される高校の学習指導要領案が発表されました。
ニュースなどで、ご存じの方も多いと思います。
ただ、こうした指導要領を初めとして、「学校教育用語」というのはどうもわかりにくくていけないと、いつも思っています。

取得単位数とか、選択必修とか.....これっていったい何？
そう思われる人も多いと思うのです。
ところが、その仕組みなどがよくわからないのに、みんな「高校」へ行こうとするんですね。変な話かもしれません。

今度の学習指導要領の改訂に伴い、高校はますます混迷を深めていくような気がしています、僕は。

その辺りを、またレポートしていきたいと思いますが、それに際して、皆さんからの質問をお待ちします。どんな質問でも結構ですから.....。

尚、メールのタイトルは、「質問：学習指導要領」とでもして下さい。

どこまで答えられるかわかりませんが、僕自身が教員出身と言うこともあり知らぬ間に「学校用語」を使っていることも多いんだろうな、と思っていますので.....。

学校をつくろう！ 1998/10/27(火)

BBSでも少し触れたが、群馬県で「あかぎしぜん学園」という学校をつくろうという人たちのことを知った。

自分たちの手で、学校法人の認可を取ろう、というのだ。

24日にその建設総会が行われたのだった。

=====

学校をつくる、と一口に言っても、これは生やさしいことではない。

学校の設立の許認可権は各都道府県知事にある。

で、その窓口は、小中学校の場合は、確か学事文書課。で、高校の場合は私学振興室、というところになる(と思った)。

有限会社の設立などと大きな違いは、借金が認められず、全て自分たちでそのお金を準備しなければならない。

学校の設置基準というのがあって、「ちゃんとした学校」として認められるためには、運動施設は何平米以上、とか、様々な基準をクリアしなければならない。

そのお金は、数億から数十億にのぼる。

だから、日本では、私学と言えば、宗教法人などお金を持っているものしかできないのだ。

じゃあ、お金を持たない人間には学校はつくれないのか、と言えばNO！
である。

まずは学校をつくろう！学校設立に責任を持とう！と言う人たちが集まって、色々な計画を立てていく。教育内容から、土地の取得、校舎の設計、教職員の確保.....。

その時には、寄付金を集めることはできない。

寄付の申込書(学校設置の認可が出たら、寄付をします、という約束の書面)なるものを添えて、「お金は、これだけの人から集められます」というようにするのだ。

たくさんの準備をして、お伺いを立てて、
「よろしい、作っても良いでしょう」という認可を得る。

その時点でようやく、寄付金を集めたりして、具体的な建設が始まっていく。

これとて、容易なことではない。

寄付を申し込んだ人が諸事情によって、寄付ができなくなることもある。

また、当初の計画が狂うこともある。

いずれにせよ、お金の無いものが学校をつくろう、という試みは時としては「無謀」とも感じられるが、できないことはないのだ、ということは僕自身が体験したことだ。

=====

今、こうして「あかぎ」の地でお母さん達が、「自分たちの学校が欲しいんだ」と声をあげたこと自体、本当に素晴らしいことだと思うのだった。

修学旅行 1998/11/09(月)

少し前、田丸美寿々だかが出ている番組で(日曜の6時から?)「修学旅行」を特集していた。

その番組を見た後、女房と二人で色々話をした。

先日、BADTAKEさん(小学校教員)のHP(*1)にある掲示板に

「修学旅行についての取材協力をお願い」というのが目に入った。

早速、下記のようなメールを送った。

学校と言うところは、非常に臆病なところで、「安全」と言う問題には神経質です。
子ども達、生徒達のためには当たり前のことですが、時としては自己保身のためであったりします。

また、教員は世間知らずです。
「先生、先生」とおだてられ、いかにも自分が偉くなったような気がしているだけで、その実、旅行会社のペースで全てが進んでいくのです。

修学旅行中も旅行社が、「反省会」と称して、引率教員を接待(*2)します。
生徒達の就寝時間が過ぎた頃、一室に集まっての「宴会」です。

また、旅行後も「ご苦労様」ということで、食事会を設定したり、と。

自分の該当学年でなければ、直接関係はない。
つまりは、3年に一度くらいの割合で修学旅行という行事が入る。
だから、よくわからない。
で、結局、業者任せになってしまう。

そんな感じがします。

「教員の傲慢さ」と「世間知らず」
この二点が大きいと僕は思っています。

(*1) BADTAKE さんの H P
<http://www2.justnet.ne.jp/~badtake/WELCOME.HTM>

(*2) 「接待」という表現は少し誤解を招くかもしれません。
毎日、その日の反省や翌日の打ち合わせを就寝後、行います。
日程変更とか、確認とか生徒の体調とかの報告などです。
その際、僕が引率したときには、3回とも「お酒」と「つまみ」
「くだもの」等がテーブルの上に並べられていました。
勿論、僕自身、どこからそのお金が出ているかなど意識しませんでした。
少なくとも自分で払う、という意識は全くありません。
「宴会」と称したのも、中には、「じゃあ飲もう、飲もう！」となることも事実あったからです。

その後、伊丹さんとメール、電話でのやりとりをし、本日の号外になった次第です。

学級崩壊 1998/11/16(月)

11月15日付けの朝日新聞に、「学級崩壊」についての特集が掲載されていた。(本日の段階では朝日新聞社のHPには見つからなかった)

「小学校で授業が成立しない」という現象が全国各地に広がっている、ということだ。この件に関しては、今までもHPや過去の掲示板等で、何度か触れたこともある。NHKの教育トゥデイ(だったかな?)で小学校の「学級崩壊」の様子を報道したのが記憶に新しい。

僕が教員をしていた頃、「授業不成立」ということが現実としてあった。
僕のいた学校は「底辺校(*)」と言われる学校で、教師の言うことを聞かず、無視する、反抗する、と言った具合で授業が全くできないことがあった。

僕自身も、教師に成り立ての頃、授業ボイコットされたこともあったり。

しかし、今の深刻さは当時の比ではない、というのが実感。

インターネット上でも各種掲示板等で「学級崩壊」が論議がされているが、
「授業づくりネットワーク」編集長 上条上條晴夫のページ
<http://member.nifty.ne.jp/h-kamijo/index.html>
がとてもよいと思った。

1997年9月号から、「学級崩壊」について緊急の連載を始めており、現在は1998年7月号まで。様々な角度から、レポート、分析がされている。
(父母の問題については、97年12月号)

文部省がかつて「不登校はどの子にも起こりうる問題」としたが、それと同様に、この「学級崩壊」ということは、どこの学校、学級でも起こりうる問題だと思う。

しかし、一番問題なのは「どの」という言葉が「我が子」「自分の目の前」に起きない限り、実感できないという事だと思う。

現場を離れてみると、本当に学校で何が起きているのかが、わからない。
息子の小学校でも、全くと言って良いほど様子が見えない。
せいぜい、月一回発行される、B4一枚の便りと、息子や友だちの話。
親として僕は学校に幻想は抱いていない。また、学校は傲慢だと思っている。もっと色々なことをオープンにしてもらいたいものだ。

もう一つ。学校が荒れる問題の大きな要因として「授業」の問題が必ず触れられる。
「学習指導要領」という「錦の御旗」の元で、授業は進められているが、
もっと抜本的に変えていこう、という姿勢が学校には求められているのではないだろうか？授業形態とかの小手先の問題ではなく……。

この点においては、和歌山県の「きのくに子どもの村小学校」の動きを僕は注目している。
ご存じの方も多いと思うが、和歌山県にある全寮制の小・中学校。
もちろん、フリースクールではなく「学習指導要領」に沿った、法的に認められた学校だ。(<http://www.cypress.ne.jp/kinokuni/index.html>)

現在、福井県勝山市の誘致を受けて「かつやま子どもの村小学校」を開設する準備を進めたり、ユニークな高等専修学校をつくる準備も進めている。

以前、「きのくに」に出かけスタッフの方たちと話をしたが、「きのくに」をつくった「理念」というものが貫かれていることに感銘を覚えた。

わが子の通う小学校を、きのくにのようにしてほしい、等というのはとても無理な願いだし、また、我が子を全寮制の小学校に入れることも不可能だ。
しかし、「学校はこういうもの」という固定観念にあまりにも縛られ過ぎている、と思えるのだ。

(*) 今では「底辺校」とは言わず、「指導困難校」と言うそうだが、いずれにせよ何とも言えないイヤな響きを持つ言葉には変わりはない……

続・学級崩壊 1998/11/23(月)

先週お届けした「学級崩壊」。小学校の様子がよくわからないので、大阪にいる友人に電話をした。
「おい、今日、新聞に大々的に出てたけれどお前んところは大丈夫か」
「今、小学校はどうなってるんだあ？」と。

そいつは大学時代の同じ教育学部の友人。教育学を専攻していた。
教育学者の牧証名さんの研究室にいたので、僕もたまたま牧さんの研究室には遊びに行った。
「教科書裁判」や「教育行政」に興味を持ったり「教育ゼミ」などを知ったのも彼とのつきあいが大きかった。

卒業後、彼は大阪の小学校の教員になった。
そして、大学時代と変わらず色々な研究会に参加して、全国的なつきあいを持っている。(但し彼はパソコンに触ったことがない！これが欠点！)

彼が言うことには

- ・大阪の同じ市の小学校でも、去年はひどく荒れた。
 - ・5, 6年生のクラスで、どここの学校でも1つか2つのクラスで、授業が全然成り立たなくなった。
 - ・学級担任が途中で代わったり、休職したりする教員が出た。
 - ・今年になって大分落ち着いてきた。
 - ・5, 6年生の担任の希望をする教員が少なくなっている。
- そうだ。

「原因は何なんだ？」と聞くと、

「いろいろ背景はあるけれど、教師の対応でかなり決まるな。子ども達を丸ごと受け入れてあげよう、と言う感覚がないとアカンな、やっぱ」「それと、不況で家庭が崩壊していることで荒れる子どもも、確かに増えているなあ。その子のせいじゃないのになあ……」 としみじみ言っていた。

そいつは今、5年生の担任。「ホント忙しくて、疲れるわ」と。電話をした日も10時半になってようやく繋がった。でも、子ども達のことを話すときは、相変わらず楽しそうだった。

確かに、教員の問題がいろいろと取りざたされることはある。

でも、マスコミに報道されるような先生ばかりではないんだな、と改めて思う。

どここの地域にも、どここの学校にも必ず、子ども達に真正面から向かっている先生達はいるはずだと思う。

そうした先生を親が見つけれられるかどうか、一つの鍵を握っているように思う。

「学級崩壊」って言うけれど 1999/01/28(木)

22日(金)から日教組、全教と教育研究集会が行われました。

で、やはりというか「学級崩壊」が重大なテーマになっていたようです。

新聞、テレビでもしきりに報道されていました。

このメールマガジンでも何度か「学級崩壊」について触れてきたけれど、この言葉には、ずっと引っかかるものを感じていました。

誤解を恐れずに自分なりの引っかかりを少々……。

「崩壊」と言うけれど、どういう状態が「崩壊していない」状態だととらえているのでしょうか？

先生の言うことに集中して、面白い授業に目を輝かせる。

色々な活動にみんなが力をあわせて、一生懸命頑張る……。

トラブルがあっても担任の先生のリードで子ども達が、乗り越えていく……。

元の状態に戻すべき、「元」がおかしくなってしまうから、今の子ども達の現状があるのではないのだろうか、と勝手に思っています。

新しいものが生み出されるときには、古いものは否定されていきます。

一度、崩れるだけ崩してしまわないことには、話にならないような。

かつて、校内暴力が表面化し、それに対して「厳しい校則」で対処していった結果、表面的な「暴力」は姿を消したけれど、それに代わり、「いじめ」が蔓延していった80年代を思い出します。

「学級の危機」というより「学校教育そのものの危機」。

もっと言えば、「子ども達の生命そのものの危機」という捉え方を僕はしているのです。

何のために学校があるの？

学校って一体何をするとところなの？

そして、

学校がなくなったら一体何が困るのだろう、何がいけないのだろう……

子ども達にとって、どうすることが一番良いことなの？

そんなところから今の教育制度を見直す必要があると思うけれども、そうした、自浄能力が今のこの国にはないと思っている。

つまりは、僕たち国民一人一人の自浄能力がない、と言うことでしょうか。

一生懸命頑張っている先生達の奮闘にかろうじて支えられている、というのが実状ではないのでしょうか……？

「学校」なんてあてにせずに、我が子の教育には、親が責任を持てばいい、というつつい過激な思いにかられてしまうのでした。

：*：*：*° 。 ..*：*：*° ° '：*：*：*。 ..*：*：*° ° ..*：*：*：*：

「学級崩壊」を経験した教師が
「荒れる子どもと接して、その子の家庭が崩壊していることを知りました」
みたいなことをしゃべっている姿をTVのニュースが流していました。

問題が起こってから慌てて知ったところで何になるの？
その子の抱えている苦しみを共感できなかったから、問題が起きたんでしょ？

順番が逆だよ、とテレビに向かって、ブツブツ言っていました。

進路指導～完全失業率5%の時代に～ 1999/06/08(火)

「頑張らないと良い会社に入れないぞ」
僕自身、この言葉は何度も口にしてきた。

1987年の4月。僕は進路課長と一緒にアチコチ会社を回っていた。
これは、卒業生たちが元気にやっているかということと、その年の採用をお願いしに行くためだった。
丁度バブルの直前。行く先々で「この不景気で、採用は……」と、人事担当者はどこもかしこも渋い顔をしていた。中には「今、席を外しているから」と挨拶すらできない会社も、たくさんあった。(本当に席を外していたところもあるだろうけれど、全部が全部そうだとはい到底思えなかった)

それが6月頃から一転した。
バブル景気により、人手が不足したのだった。
所謂、「買い手市場」が一転して「売り手市場」に変わったのだった。

7月から、高校生の場合は、求人票の受付が始まり、生徒たちに斡旋していく。6月、各社の就職担当者が、今度は一斉に学校に挨拶にやってきた。手に手にお菓子だのを持って。

「先だっては申し訳ありません。わざわざ来ていただいたのに。これはホンのご挨拶です。先生方で食べて下さい」

また、進路課の就職担当と言うことで、何度も食事にも誘われたこともあった。中にはコンパニオンが同席していたときも。

違和感を覚えつつも、会社との付き合いと言うことで、そうした場所に僕は座っていた。

完全失業率5%。高卒の新規就職率が…。超氷河期……。

新聞紙上を賑わすこれらのニュースを聞きながら、「進路指導」というものを改めて考えざるを得ない今日この頃。

中学までは、「高校に入れば」……。
高校になれば、「良い会社に入れば」「良い大学に入れば」……。
そこまででしかないのではないのか？

生徒を目の前にしたとき、一つ先の所にいかにうまくあてはめるか、それが僕のしてきた「進路指導」だった。

今の時代は、本当に人としての自立が求められている。
卒業していった後の仕事そのものを、生み出すことが求められていると思う。

「あてはめる進路指導」は完全に崩壊していると思った……。

「奴ら」 1999/09/01(水)

2学期から、中学校のパソコン指導に関わるようになった。

「各中学校区のパソコンの指導、援助ができる協力者」というのに白羽の矢が当たったのだった。
息子が通うことになるであろう中学校の校長、教頭から話があり、パソコンの担当者(若い女性教員)と話をし、2回ほど中学校に足を運んだ。
とりあえず「自分でパソコンは使える」という程度の教員。

ま、この話はいずれまた、ということで。
書きたかったのは、そのことではない。

職員室に入っていったときのこと。
教員達の会話の中で、「奴ら」という言葉を何度か耳にした。

生活指導担当の教員だった。

確かに中学校も色々と大変で、手を焼く生徒達も多いことだろう。
そう思う。
でも、「奴ら」という言葉を平気で口にする教員を、僕は信用しない。

僕自身、口にしたこともある。
「あのやろおおおおお！」
と怒り心頭に発した時なども・・・。

しかし、日常の会話の中で「奴ら」はないと。
「彼ら」「彼女ら」でしょう？

夏休みの宿題 1998/09/07(月)

前号をお届けした後、ある方からメールをいただきました。
宿題がとても多い、と。そしてうらやましい、と。
確かにそうです。夏休みなんて思いっきり遊べばいい、という考えです。

学校からの便りにも「取り組めるものは取り組んでみよう」的な書き方しかしてありませんので、当然取り組まない子は、全然取り組まない。それですんでしまいます。
(これは静岡県浜松市の場合です。管轄の教育委員会によって違います。お間違えないようお願いします)

何年か前文部省が打ち出した「新しい学力観」の中の大きな柱に、「個性を尊重する」というのがあります。それが、こうした宿題の背景になっているのです。
簡単に言えば、「勉強ができるのも、できないのもその子の個性だ」ということです。

算数がわかるうが、わかるまいが、漢字が書けようが書けなからうが、それはその子の個性だ、というのです。

ちょっと待って、と言いたくなります。
勉強の内容は、どんどん難しくなっていて、授業のペースもめっきり早い。
次から次へと襲いかかってくる新しい単元。
勉強がわからない子どもががどんどん増えている。

「まあ、それもお子さんの個性ですから」

そんな風にあっさりと言われればたまらない!

また、厳然と子ども達の前に横たわっている、高校受験や大学受験。
そこには立派に「点数」が鎮座しているのですから。
確かに通知票(「あゆみ」って言います。ここらでは)からは、点数が消えて「 \cdot 、 \cdot 、 \cdot 」になりました。
(ゆーたは「 \cdot 」ばかり)
でも、そうした記号が早い子どもでは中学受験に際しては、しっかりと「点数」に換算されているのが実態です。

表面から数字が消えてしまっただけに、親としての不安は募っていくのです。どうせやるなら、受験制度そのものをしっかりと変えた上でやるべきだと思います。

そうした本質が背後にはあるから、夏休みの宿題がほとんどない、ということもひっかかっています。ま、これ幸い、と遊びほうけていましたが。

でも、決して宿題をたくさん出した方がいい、なんてこれっぽっちも思っていません。

忙しすぎる学校～行事、行事、研修、行事...そして会議～ 1999/09/21(火)

一昨日、地域の「ふれあい運動会」なるものが終わった。

息子が通う小学校には、春には小学校だけの運動会。そして、秋には中学校区の面々が一同に集まり行う運動会。二回の運動会がある。

運動会自体の問題もさることながら、いくら「地域の...」とは言え、子ども達に関わることから、学校の教員にかかる負担はとて大きい。実際、授業を振り替えての練習なども連日のように行われた。

で、この運動会が終わると、今度は、10月の下旬には、2泊3日の林間学校。11月には、音楽会。そして、12月には持久走大会、と続いていく。

その間に、息子の小学校は、何とかの研究指定校になっているため、11月には近隣の小学校を招いて「研究授業」を行うとのこと。

行事に取り組むこと自体は、大きな意味があると思っている。

でも、ある先生が言っていた言葉がきにかかる。

「以前は、どの行事にもじっくり取り組めたけれど、第二、第四土曜日が休みになって、丁寧に子ども達に取り組ませられなくなってきた」と。

元イベントは好きだから、どうせやるなら楽しまなくっちゃ！というのが僕の持論だが、こうも次から次へと行事が立て込んでいたりしていると、結局、教員にゆとりがなくなっていく。

そして、そのしわ寄せは子ども達にいく。

今の学習指導要領は、学校6日制の下に組まれている。

第二第四土曜日が休みになっていても、授業で教える内容が減っているわけではない。

こんな矛盾一杯の「学習指導要領」がまかり通っている。

義務教育 1999/11/09(火)

「義務教育は、親が子どもに教育を施す義務であって、子どもにあるのは、教育を受ける『権利』だ」と今まで口にしてきた。

僕たちは何の疑問も持たずに小学校に入学した。

学校は一つの教育機関であり、そこを選ぶ、選ばないは子どもが選択する権利を持っているのだろう。

もっとも、6,7歳の子どもにそこまでの判断ができるかどうかは、甚だ難しいところだろうが、僕は「小学校、って所があって、そこで色々な勉強を教えてくれるところがあるけれど、お前はそこに行きたいか？」と、親父に聞かれなかったし、ゆーたにもそんな問いかけをしなかった。

今、ゆーたは「学校」で教育を受ける、とすることを拒否している。

「初めに学校ありき」という感覚ではなく、「初めに子どもありき」という考えに立つことが、ホント大切なんだろうなあ.....

.:*.°。.:*.°。.:*.°。.:*.°。.:*...*:

「勉強の遅れは大丈夫ですか？」

心配して、メールを送ってくれた方もいた。

「勉強の遅れ」については、あまり気にしていない。

ただでさえ、難しいことを詰め込まれ、次々と新しい単元に入って行って、「落ちこぼれ」でいく子ども達が多い中で、「勉強嫌い」「学ぶことが嫌い」になることの方が、よほど悪影響を及ぼすだろう、というのが僕の実感。

かつて教員をしていたとき、生徒達はよく言った。

「小学校の高学年から、勉強が嫌いになった。だって、わからないでも、どんどん進んで言っちゃうんだモ

ン！」と。

:*:~!° 。.:*:~!° ° '!~*:~!° .:~*:~!° ° .:~*:~!°:~*:

「同世代の子ども達との関わり」は、子どもにはとても大切なものだと思う。学校と言う場はそれなりに意味があると思う。しかし、同世代の関わりがかえって、その子どもの人間性を破壊するような場であれば、何が何でも、とは絶対に思えない。

「我慢することが大切だ」

それはもっともな意見ではあっても、子ども達の世界というのは、大人が考えている以上に「残酷な世界」だと思っている。

ゆーたの場合、今しばらく、家族の中にいることが必要なのかもしれないなあ、と。

じゃ、いつまで.....??
う~ん、わからない!(^^;;

スポーツクラブと学校体育 1999/12/03(金)

スポーツクラブに通っていると色々な人に出会う。
もちろん、言葉を交わすわけではないが、良く顔を合わせる人がたくさんいる。
いつも二人でやってくる老夫婦。
黙々と走り続けている女性。
周りの顔なじみの人に、話しかけながら陽気にウェイトトレーニングを続ける男性.....。
アベックでやってきて、楽しげに自転車を漕いでいる二人。
これでもかぁ！と言わんばかりに周りを圧倒するようなパワーを見せつける(笑)男性.....。

僕は一人、MP3で音楽を聴きながら、走ったり、自転車に乗ったりという具合で、専ら色々な人を眺めて、勝手に想像を巡らせている。(悪趣味?)

:*:~!° 。.:*:~!° ° '!~*:~!° .:~*:~!° ° .:~*:~!°:~*:

先だって、無料体験の日、というのがあって女房を誘って行ってきた。
「体育の先生」としてスポーツクラブというのは興味があったらしい。
一言
「スポーツクラブってのは、若い人のものだと思っていた」と。

学校体育は、運動嫌いの子ども・生徒にとってはとてつもない苦痛を強いる。やがて、そうした子ども達は、ますます運動嫌いになっていく。
もちろん学校体育の全てを否定する気は毛頭ない。

しかし、スポーツクラブに自らの意志で通ってきて、自分のペースで身体を動かし続ける多くの人達の姿と、学校体育との違いは、どこにあるのだろう.....?

少なくとも、スポーツクラブには、自分の意志で自分に対する負荷を決められる。そこに僕が今まで知っていた「学校体育」と本質的な違いがあるように思えるのだった。
また、あくまでも相手は自分の身体であり、他人ではない。
黙々と、そうただ黙々と汗を流す。
誰かに見られていることを意識することなくあくまでも自分のペースで。
そして自分の身体のために。

子どもの暴力、過去最悪!? 1998/12/23(火)

12月18日(金)の文部省の調査で、対教師暴力、生徒間暴力、対人暴力、器物損壊の総計が28,526件に及んだという。
新聞紙上でご覧になった人も多いかと思うが、僕自身が記録として残しておくためにも、一応数字を。

	小学校		中学校		高校		合計
	校内	校外	校内	校外	校内	校外	
対教師暴力	193	0	3,074	42	43	14	3,753
生徒間暴力	624	93	8,873	2,186	2,856	864	15,496
対人暴力	11	35	149	1,148	40	523	1,906
器物損壊	476		6,113		782		7,371
小計	1,304	128	18,209	3,376	4,108	1,401	
合計	1,432		21,585		5,509		28,526

この数字をどう見るか、ということだけれども.....。

どうなんだろう、新聞やテレビなどでは、「過去最悪を記録」今までの曖昧だった範囲をかなりはっきりさせた」などと報道されていたが、マスコミが騒ぎ立てるほどのことではないな、というのが僕の実感だった。

実数はこんなものじゃないでしょ？

ということに尽きる。

じゃあどのくらいなんだ？ と言われると困る。「当社比」とでも答えたら、それこそふざけるな、と怒られてしまうだろう.....。

まあ、こうした数字が今までよりもはっきりしたこと自体は評価されるべきかもしれない。

いじめは.....

小学校 16,294 件 中学校 23,234 件 高校 3,303

盲・ろう・養護学校 159 件 総数は9,000件、17%減少

「いじめはいけなさいとの認識が徐々に浸透している」(文部省) ということだ。

本当にそうだろうか？

ひねくれた見方をせばっかりいると、人間性を疑われそうだが(笑) この文部省の見方は違うんでないかい.....？

むしろ学校と生徒との距離がより離れていった結果、実体をつかめなくなっているのではないかと僕は思ってしまう。

相談したって解決できない、という相手に本当のことを言うわけではないし、一番つらい部分を信頼できないところに、相談するわけもない、と。

個々の教師のことを言っているのではない。

「学校」を「信頼できる所」と答えられる大人が果たしてどれほどいるのだろうか。そう考えると、この数字はもっともっとシビアに見ないといけないと思うのだが.....。

欠席理由 2000/02/21 (月)

去年の話だが、2学期の「あゆみ」(学校からの通知表)をもらって驚いた。ゆーたの欠席理由のところに「心身症」と記されていたのだった。

ゆーたはその「あゆみ」を見て、あの子なりにショックを受けたみたいだ。「ゆーたは心が病気のなの？」ポツンとそういった。

確かに担任との話の中で「心が病んでましてねえ」などと言ったことはあるし、メンタルクリニックにも通っている。しかし、一度たりとも、正式な診断書なるモノはもらったことがないし、また、そうした診断を受けたこともない。

欠席の理由は、ゆーたが「学校に行きたくない」ということと、親の僕たちが「学校に行かせられない」というその二つなのだ。

当時は、「まあ、3学期になったら」と思っていた。そのうち担任が入院してしまい、いつのまにやら学期末が近づいてきてしまった。

先だってPTA会長の話をしたとき、帰りがけに校長さんにそのことを伝えた。校長さんも驚いていたようだった。

「要録にはきちんと書かないといけないけれど、『あゆみ』には……。そうですかぁ……」

この手の小さな気遣い、配慮がホント足りないと思う。

でも、最近の教育現場では、不登校の欠席理由を指導要録には、なんと書いているのだろうか？

不登校は不登校なのだと思うのだが。

同時に、家庭に伝えられることと、指導要録に残されていることが異なるケースは、まだまだ多いのだろうか？

社会奉仕体験～教員研修～ 2000/05/17（水）

全ての所で行われているのかわからないが、静岡県の公立高校には「10年研修」というのがある。そしていつから実施されているかわからないが、教員仲間では「プレ10年研」と呼ばれる研修がある。

「社会奉仕体験」として、夏休みの一日、市の施設の草取りなどを行う、というものだそうだ。

う～む、教員の研修として草取りかぁ……？

何だろう？ この話を聞いた時の変な感じは……。

、 P T A

P T A、楽しんでます！ 1999/05/10(月)

P T Aの役員、楽しんでます。この間も、懇親会に行って来ました。いやあ、久しぶりの「飲み会」でした。

また、先日も、役員会がありました。新しい役員での初めての会合です。「う～ん、なるほどお！」「そうだったのかあ～！」ってことが一杯でした。直ぐ横に校長、教頭がいたのが何とも言えずおかしかったのですが.....。で、こんなメールをいただきました。

「子育て、、、」のページで、PTAのことを書いておられましたね。

PTAは親の義務では無いかと。

私は、少し違う考えです。

確かに、義務ではあるのですが、「義務」と考えるとなんだか気が重くなるような気がするのです。

「権利」と考えて、積極的に楽しみながらやれるようになった時、私はふっさきてPTA活動ができたような気がしました。

最初は嫌で嫌でしょうがありませんでした。

だって、この少子化の時代、子供の多いうちに必然的に多く役目が回ってくるのです。でも、子供が多い分忙しい訳で、頭きたこともしょっちゅうでした。又、この話しは、ホームページでさせて下さい。

では。

なるほど！納得！

これは説得力がありますね。「権利」と捉える。

親がそう捉えても、学校サイドは、どう捉えているのかなあ、等と、変な突っ込みをいれたくなくてしまったり.....。(笑)

ですね、親にも学校にもP T A活動は、「権利」なんだ、という考え方をいかに浸透させていくか、と言うことが大切なんでしょうね。

う～ん、次回の運営委員会も楽しんで来ちゃいます。(^^)/

他にもP T Aに関する意見のメールいただきましたので、追々紹介していきたいと思います。

もし、ご意見がありましたら、B B S(うっ、最近使われてないぞ!)の方へもお書き下さい。メールでも勿論結構です。

青少年健全育成会～ P T A活動～ 1999/05/31(月)

29日(土)に、地域の青少年健全育成会というのがありました。

正式名称は

「 中学校区 青少年健全育成協議会 の子をよくする会」という長ったらしいもの。中学校区の(4つの町からなります)自治会、子供会、老人会、小学校、中学校、民生委員、保護司、公民館長、婦人会、幼稚園、保育園、小中P T A.....。

とにかくこの地域の組織のオールスターが集まり、この地域の子ども達をよくしよう、というのです。

この協議会はさらに

「家庭教育部会」「地域活動部会」「環境浄化部会」「補導部会」の四つの部会に分かれます。(僕は「補導部会」)

高校というところには、なかった関わりです。

高校は学区が広いため、このような組織はありませんでした。

会合の持ち方、引き継ぎがなされてなかったり、予算、決算書がない、とか...色々思うことはありましたが、また、僕が今までに味わったことのない世界です。

少なくとも「地域」というものを見つめ直す良い機会だと思います。

.....
なんと、民生委員の一人の方。
もしかして、中学時代の先生では、と。
昨日の運動会にも来られており、思い切って話しかけました。
やはり、中学時代の先生でした。
午前中、本部のテントの後ろで、ず～っと話をしていました。
また、一つ昔がつながりました.....。(^^)

学級懇談会～お母さん！感情的にならないでえ～ 1999/06/21(月)

「ぼちぼちいこっ」に一部書きましたが.....。
先週の火曜日、15日に参観会と学級懇談会がありました。
一言で言えば、「異様な雰囲気」の懇談会でした。
大体こんな感じでした。

:*:~!° 。.:*:~!° ° !~*:~!° .:~*:~!° 。.:~*:~!~*:~!~*:

35人のクラスのうち、24人が出席！
(いつもは5～6人しかいないのに。例のごとく父親は僕だけ)
担任の先生のクラスの状況説明の中に、
「最近、当たり前前の方が当たり前前にはできない」ということがあった。
だから、「しつけには厳しくしている」と。

最初の内は差し障りのない話だったが、あるお母さんから意見が出された。
「5年生になって子どもがのびやかさがなくなった。先生が直ぐに、しかも小さな事で怒るからではないか？しつけに厳しすぎないか？」ということだ。

「これは私の教育方針ですから」という担任の言葉に、余計反発を感じたのか、更に同調するお母さん達の声が続いた。

最後にはある種のつるし上げみたいな感じにも.....。
また、担任の先生の答えも、国会答弁のようでもあり、何とも異様な雰囲気で終わった。

噂が噂を呼んでいく。
学校と家庭がもめる最悪の展開をし始めている。

翌日、懇談会に参加したお母さんから電話があった。
「昨日の様子を見て、どう思われましたか？」と。
かなり興奮してしゃべりまくっていたお母さんだった。
「良くない展開だと思います。もっと話しあったりしていかなければ」と答えた。

そのお母さんは、その日のうちに、学級委員のお宅と校長のところまで電話を入れたそうだ。

とりあえず、学級委員をしている二人に、簡単に今の状況についての考えをFaxで送った。
そのFaxは次に.....。

:*:~!° 。.:*:~!° ° !~*:~!° .:~*:~!° 。.:~*:~!~*:~!~*:

とにかく「異様」と言う言葉がぴったりの懇談会だった。
どうやらお母さん達が「この懇談会で、きちんと言おう」という事前の連絡をしていたようだった。
確かに現象面だけで見れば、「えっ！」と思うようなこともあったが、その前に担任の先生と、あなた達はどれだけコミュニケーションを取ろうとしたの？
という思いで頭がいっぱいだった。

我が家の場合は、何かあれば連絡ノートに書き、また、担任の先生が何度も足を運んでくれたりもした。
.....感情的すぎるなあ.....、と。

P T A 役員への手紙～学校とのつきあい方～ 1999/06/21(月)

5年3組学級委員 さん、××さんへ

鈴木修です。

学級懇談会について、いくつか思いつくことをまとめてみました。

何かしら参考になればと思います。

また、今の状態は非常にまずいなあ、と思っています。

できることはやっていかないといけないなあ、と.....。

学校と家庭がまずくなっていくパターンとして.....

- 1、噂が噂を呼んで、ますます何が大事なのがが、霞んでいってしまう
- 2、学校の管理職に直接話が入っていけば、トラブルを避けたい管理職としては、担任に対して、「指導、注意」なりをする...
- 3、普段は、あまり関わりのない父親が、ここぞとばかり出てきて、ますます混乱する
- 4、子どもの前で、教師の悪口を言うようになっていく。
(5年生にもなれば、中身はわかります)

大事な考え方は.....

- 1、「子どもの成長」という一点から、学校と家庭とは対等。
だから、一方的にお任せする、とか一方的に攻撃する、とか言うのはおかしいことで、そうなった場合、一番可哀想なのは子ども達です。
- 2、親と教師とでは、視点が違う。
家庭と学校とが違う角度から子どもを見るからこそ、子ども達は成長していく。
- 3、小学校高学年は、子ども達が自立していく大切なとき。
小学校高学年から中学にかけて、子ども達は色々な「秘密、秘め事」を持っていきます。それが思春期を乗り越える大切なこと。
子どもは成長する、ということを感じなくて子育てはできませんが、子どもの言葉だけでは判断できなくなってきます。
- 4、子ども達は、集団の中でこそ大きくなっていく。
5年3組というクラスは、子ども達にとってかけがえのない大切な場所。この場所を学校と親と一緒に育てていくことが何よりも大事だと...

何をしたらいい？

- 1、学校(担任)との話し合いの前に、親達で何がどうなのか、ということ意見を交換した方が良いでしょう。たとえ、少数でもいいから、今の状態を話しあう場所が必要ではないでしょうか？
- 2、親自身が子ども達の捉え方について勉強するような機会を持ったらどうでしょう？
例えば.....高校の「女性」の先生に、高校生達の現状や、そのために小学校の高学年でどんな事を心がけて子どもと接したらいいか、と言った内容で話をしてもらおう。
「男」の先生ではなく、子育ての経験があるまたは真っ最中の先生が良い。(但しウチの女房はダメです！)
この先、高校受験などが、子ども達を追い込んでいきます。
そのためにも、小学校の高学年は大切になると.....。

気をつけたいこと

・こうしたことを進めるに当たっては、学級委員である さん、××さんは中心になってはダメだと思います。

お二人が全面に出れば、「5年3組として」となってしまう。

だから、誰かこうしたことをとりまとめてくれる人がいると良いです。

(勿論僕も協力します)

・学校の管理職や担任へは、その都度その都度、話をしておく。
「変な形で動かれては困る」という意識は学校と言うところは、とても強く持ちます。

・あくまでも、「学校と一緒に子ども達を育てていきたい」という姿勢を崩したらいけないと.....。

長々と書いてしまいましたが、できることは何でも協力します。
今のままでは、子ども達に決して良い影響を与えとは思いません。

親が楽しまなくっちゃ！！ 1999/06/21(月)

今日の日曜日は、PTAの体育部が主催する「親子ドッチボール大会」。
PTAの役員は勿論、運営にかり出される。
先週の土曜日も、賞品のメダルづくりの召集がかかった。
他に用事があったため、僕がついたときには既に作業は終わっていて、みんなで何となく話をしていた。

いきなりPTAの会長さんが
「OSMさん！ギター弾ける？」
「ええ、まあ、弾けますよ。アコースティックですけど...」
「いやあ、良かった！夏休みの学校でやるキャンプの時、みんなで歌を歌いたいと思ってるんだ」
「それから、2学期の音楽会の時に、PTAの役員で何か、演奏か曲でもやりたいと.....」

はははははっ！
そういうことなら任せなさ~い！(^)/

とは言わなかったけれど、会長さんのスタンスが最近、わかってきた。
どうせやるなら、親自身が楽しみたい！
それが子ども達にもつながっていくんじゃないのかなあ、と言う考え方。

公民館を出た後も、会長さんと、僕と体育部長の三人は、雨の中、傘を差しながら、ひとしきり話をしていた...。(^^)

一人で悩んでいる親達は？～学校とのつきあい方～ 1999/06/28(月)

昨日、姉がやってきた。甥っ子(中1)、姪っ子(中3)と一緒に。
姉夫婦は小学校の先生をしている。
話題は、甥、姪が通っている中学校が、今、市内で一番荒れている、と言う話と、姪っ子の高校受験の話。特に、受験の実態を女房に色々聞いていた。やはり不安なんだろう...。
また、息子の通う小学校にも姉の友人が教員をやっている。
「例」の担任の事を聞こうと思えば聞けたが、昨日はやめておいた。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:.。.:*:~'° 。.:*~'~*:

色々な方からメールをいただく。
今回の件についても、3人の現場に関わっている(た)方たちから、率直な意見を寄せていただいた。
この間のクラスのお母さん達との関わりを通して、強く思ったことが一つ。

それは、学校のことや子育てのことを相談できずに、一人で悩んでいる親達が全国各地に、どれだけいることだろうか、ということ。
こうしたインターネットを通して情報を得られる手段を知っている人達は、まだ救われているかもしれない。情報収集の手段も知らず、メールを送って相談をする相手もおらず、ただ、ただ、子育ての事で悩み、疲れ果ててしまっている親はどれほどいるのだろうか.....？

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:.。.:*:~'° 。.:*~'~*:

「学校とのつきあい方」とでも題して、本でも出したらかあ？
そんな思いに駆られてしまう今日この頃。
僕自身は、「学校」と言うものに、過度な期待はしていない。
今起こっている様々な問題は、単に学校だけで解決できる問題だとは思っていないから.....。
一方、今、多くの子ども達が、その「学校」で、押しつぶされそうになっているのも事も紛れもない事実。

「先生」って一体どんな仕事をしているんだろうか？

「学校」ってそんなに忙しいの？
「どうしようもない先生に当たったら、我慢するしかないの？」
.....????????????????

メールマガジンで、シリーズでも始めよか？
自費出版なんてお金もないから.....(笑)

育休中の先生から 1999/06/28(月)

小学校の先生からのお手紙です。長いですが、紹介させて下さい。
現在、一年間の育児休業中だそうです。

違う立場の人間との距離をどうやって縮めていくのか、とても大切なことだと.....。

:.:.'° 。.:*.'° ° .'*:.. .:*.'° 。.:*...*:

今回の懇談会。
小学校にはよくあるような懇談会だなと思いました。
「小学校の先生って、保護者からの批判に耐えられる精神力がないとやっていられないな.....。」初任の時に感じたことでした。

とにかく、お母さん達は、自分の子どものためなら、何だってやりますね。
どんなに社会的に間違っただけでも平気で言ってきます。
でも、そう言う人に限って、中学校に行くと、やたら学校に協力的で、先生様々って態度になる。内申書を気にして、何も言わなくなるようです。
中学校への申し送りで、子どもの記録に「親注意」とか書いて送るけど。
だから、中学校の教師をしている友人に、保護者の話を愚痴ると、「信じられない。小学校の教師ってコケにされるんだね。異動したくないな。」と、言います。

小学校の教師になって覚えたことは、そう言うお母さん達の操縦、対処のしかたです。でも、未だにトラブルはあります。わたしも、ゆーたくんの担任に似ているところがあるかもしれない。

今の小学生って、ホント、躰けられていない子が多いです。だから、小学校で教えなければならないことが多いんです。でも、小学校も手がいっぱい、結局、中学校からは、「小学校では、いったい何をやってんだ！！これは小学校で教わってくることだろう！」と、お叱りも来ます。
昔は、分数の計算や百分率などといった、学問のことで、「小学校はちゃんと授業をやってくれないと困る。」などと、文句が来ましたが、今は、「小学校で返事の仕方やあいさつ、はなしは黙って聞くということ」を躰けてくれないと困る。」と言う内容の苦情が中学校から来るのです。

お母さん達は、早期教育とか言って、学校のお勉強については、先取りして小学校入学までにいろいろできるお子さんが増えてきています。しかし、自分のこと、生活のことは、人の手を借りないとできない子が増えているのも事実です。

能力的にできないのではなくて、親が手を掛けすぎるか、やってしまう。

一年生を受け持ったときに驚いたことをあげてみます。

- ・自分で排泄ができない。
- ・着替えが自分でできない。
- ・名前を呼ばれても返事ができない。
- ・靴が履けない。
- ・お箸を使ったことがない。
- ・食事のマナーができない。(食べ物で遊ぶ)

今までにこんな親もいました。

- ・パンはトースターで焼くものだからと言って、生のパンを食べさせないでくれと言ってきた親。
- ・給食が嫌いだからいやだという子どもの親。毎日給食前に来て子どもを連れて帰る。
- ・お掃除は汚いからやらせるなという親。
- ・宿題は習い事の邪魔になるから出すなという親。

- ・習い事にはお金を掛けているが、学校はただだから、学校には遊びで言っているつもりで行けと言う親。
- ・先生は親よりも程度の低い大学の出だからと子どもに言い聞かせる親。

書いていると腹が立ちますが、まだまだいろいろな親がいました。

こういう人たちに懇談会でつるし上げを食らう教師のみにもなって欲しいです。でも、救いをさしのべてくれる保護者もいっぱいいるし、何よりも子ども達が評価してくれるから、辞表は出さないんだろうな。

小学校の先生達は困惑しています。

自分たちはいったい何を教えればいいのか。

自分のやっていることが本当に正しいのかがわからなくなります。

管理職に相談しても、結局管理職は、問題なく上手に保護者とやるように言いくるめて、出世につなげたり、円満退職をのぞんでいます。

現場の先輩教師でさえも、同じことを悩んでいます。答えを見つけるのは、もはや自分自身でしかできないのかと思います。

ゆーたくんの担任も、

「しつけまで俺がやることか？」

と、きっと悩んでいると思います。

「でも、結局おれがやらないと、クラスが成り立たないから。」

そういう信念があると思います。

わたしもそうだから、担任の先生の気持ち、よくわかるんです。

親は、子どもとはどんなことがあったって切れない絆があります。

でも、教師は1年勝負で信頼関係を築いていかねばなりません。

子ども達が教師を選べない分、教師は、

「わたしが担任で良かったと思わせてやるぜ」

ぐらいの気持ちで信頼関係を築こうとします。

でも、せっかく頑張っている人間だから完璧ではないし、全員に指示されるようなことを毎回毎回はできません。

先生のやり方に全員の生徒が納得することなんてあり得ません。

でも、教師だって、やっぱり子どもたちみんなに好かれたいです。

他の先生がいいなんて聞いたら、ショックですよ。

どんな教師も、子どもに好かれようと、子ども達のために頑張っています。

だから、保護者にお願いしたいことは、子どもの前で先生の悪口は言って欲しくないです。親から先生も悪口を聞いた子どもはどうでしょう。たぶん、子どもながらに何かを感じるはずですよ。

不信感教師に感じる子もいるでしょうし、親の言っていたことをよそで言う子もいるでしょう。

先生が作るうとした信頼関係を簡単に崩してしまう行為です。

わたしは、陰でぐずぐず言ったって、何の解決にもならないから、面と向かって言ってきて下さいと保護者の方に一番最初の懇談会で言うようにしています。

「子どものためを思うことなら、何でも話を聞きますから何でも言って下さい。電話より直接いらして下さい。そのかわり、わたしも保護者の方たちにご相談することもあると思います。何せ子育てに関しても、人生に関しても、わたしより先輩のみなさんですから。」

と、最初のあいさつ。

これが、わたしの決まり文句です。

だから、放課後、

「××先生、　　さんのお母さんからお電話。」

というのが、一番多いです。

同僚の先生は、できるだけ事なかれを望む人が多いので、あまり親とはなしをしなない人が多いです。だから、陰で悪口言われているのに、言われていることも知らないでいる先生が多い。

ゆーたくんの担任ももっとお母さん達といろんな事を話した方がいいです。

ありのままを、飾らずに。

若いから、ばかにされないようにっていうプライドがあるのかな。
わたしは、早くからそれを捨て、自分の信念について、時間を作ってわかってもらうように努力しました。
できるだけ、人間味を出して、保護者と先生の間にある壁を崩すようつとめました。担任の先生にも頑
張って欲しいです。

わたしは、初任研の指導教官に、
「千人の敵あれば千人の味方あり。自分の信じたことを貫いても後悔するな。」
「子どもの後ろには必ず子どもを愛する家族がいることを忘れるな。」
「人生至る所青山有り」
という教えをいただきました。
大学卒業したてのイケイケギャルだったわたしを、ここまで育てて下さった先生の影響力は大きいです。
この三つの言葉の意味を、ゆーたくんの担任の先生に送ることができたら……………。

暑く、熱く語ってしまいました。

前にも言いましたが、子どものことで一生懸命になる親を見ると、虐待だ何だという悲劇の多い今日この
頃ですが、熱心な親を見ると、ほっとします。
親は子供のために熱心になって良いです。
でも、どう熱心になるかをもう一度考えて欲しいです。
わたしも、娘がいますから、
自分にも言い聞かせて、どういう親として母として、教師として、妻として、女として生きていくかを、
よく考えてみようと思います。

長々と読んでくださりありがとうございました。

親のモラル 1999/07/13(火)

7月3日の土曜日に、授業公開と教育講演会がありました。
参観会の度に気になってましたが、やはり、というかあきれます。

- ・携帯電話
- ・親同士のおしゃべり
- ・ガム

土曜日教室にはいるとき、廊下でガムをクチャクチャ噛んでいるお母さんがいました。しばらくすると
そのお母さんが教室に。相変わらずガムをクチャクチャさせながら……………。
余程一言……………と思いましたが、授業中のこともありやめました。

前回の懇談会の時も、深刻な話になっているときに、いきなり携帯電話の呼び出し音。最近、スカイメ
ロディなどで、色んな曲が取り込めるようになってきているから、もっと悲惨！
真面目な話の最中に、「トっ、とっ、ろっ、と、とおる～ 」

おしゃべりも気になります。
先生が子ども達に向かって、一生懸命話をしています。
その時に、後ろの方で、ペチャクチャペチャクチャ……………。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '°*:~'. .*:~'° 。.:*:~'.*:

教員だった頃、授業見学に来た学生さん達がいました。
入り口で一礼して、「宜しいでしょうか？」と、僕に言ってきました。
その時、
「朝の打ち合わせで、見学の話、僕は聞いています。でも、授業は生徒達のもので、生徒達にきちんと了
解を取って下さい」と。
生徒達は、「見るなら静かに見学して欲しい」そう注文して、学生さん達は教室に入ってきました。

もし、僕がガムを噛んでたり、うるさい親がいたら、即刻出ていってらいます。

先週、しばらく続いていたメールマガジン、発行できませんでした。
月曜日に出せなくて、その後はズルズルと...
忙しいんです。
いや、問題は忙しさの中身なんです。ね。
先週行われたPTA関連の会議二つ。

一つは、PTAの運営委員会。言うなれば、小学校PTAのトップ機関なんですが、7時から始まって、終わったのが10時半過ぎ。先月の運営委員会も11時でした。
段取りなんです。
事前にもう少し議題を整理していたり、論議するポイントを絞っていれば、恐らく2時間もかからない会議でした。
その場で言っても、仕方がないことなので、次回から少しずつ注文を出していこうと思いますが、疲れるんです。ね。
でも、PTAの会合、ってこんなもんなんじゃないですか???

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:~'. .:~:~'° 。.:~:~:~*:

地区健全育成会の補導部会、というのもありました。
こちらはもっと悲惨。地域の各団体が参加していることもあり、又、引き継ぎなんてのもされていない。
会議の席上で、去年はどうでしたか?と来る。
議題はいたって簡単なんだけど、論議以前の問題。

しかも、地域のお年寄り達は、言いたいことだけいってお終い。
進行について意見を言ったら、かえって時間をとってしまったりして...

会議に慣れていないのでしょうか...??

集団登校検討委員会 1999/09/01(水)

小学校で集団登校を実施しているところは、どれくらいあるのだろうか?
息子の通う小学校では、年間を通して集団登校を実施している。

各町内を5~8人くらいの縦割りの登校班を作り、6年生の班長、副班長の元、「一列」に並んで登校していく。

当然、問題もたくさん出てきている。
下級生の面倒などを全然見ないリーダー。
弱そうな子に対するいじめ。
リーダーの言うことを何も聞かない下級生。
問題が起きても、親同士が何も話し合えない。
問題が起きても、学校が対応し切れていない。
.....そうした中で、集団登校が原因で、学校に行きたくない、という子どもも出てきている。

一方、1,2年生の親にしてみれば、一緒に登校してくれる上級生がいることはとても心強い。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:~'. .:~:~'° 。.:~:~:~*:

何年にも渡って、集団登校の問題が指摘されていたにも関わらず、小学校は何もしてこなかった。
今年になり校長が代わり、直ぐにアンケートを実施した。
非常に高い回収率とともに、様々な意見が寄せられた。

それを受けて、「登校方法検討委員会」なるものが設置されることになった。
各地区の代表、低・中・高学年の代表、そしてPTA会長、校外指導部長である僕。そして学校側。
で、僕がその委員会の委員長になった。

夏休みの間に何度か会合を開き、2学期から各家庭に具体的な提案をしていくことが決まった。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:~'. .:~:~'° 。.:~:~:~*:

行き着く所は、「家庭教育」「親の教育」の問題だと僕は思う。
何はさておき、「学校任せ」の親の姿勢。
「学校が何とかしてくれるだろう」という安直な考え。
「地域」の果たす役割....

会合の席上、僕は言った。
「学校も親もこの問題を、どこまで取り組み気持ちがあるか、ということが大切ではないか。親や学校が問われることです。」と。

さてさて、どんな展開になることやら.....????
皆さんのご意見、状況など教えていただけたら嬉しいです (^-^)/

登校方法教えて下さい！ 1999/09/07(火)

先週号でもお伝えしましたが、小学校の登校方法についてです。
皆さんの子どもさんの通われている(た)小学校では、どのような方法で登校していますか？
下記アンケートにご協力下さい。よろしくお願ひします。
メール送付先は、 toukou@osamu.net までお願ひします。

- ~~~~~
- ・お名前 () ハンドル名でもOK！
 - ・都道府県 ()
 - ・市郡 ()
 - ・登校方法 () 集団登校
() 自由登校
() その他：具体的にお願いします
- []
- ・登校に関するご意見やアドバイス等がありましたら、お願いします。
- ・おまけ
朝の登校時、保護者による交通安全の旗振り当番を実施している
(・ x) < どちらか消して下さい。
~~~~~以上です~

### 続・集団登校 1999/09/13(月)

~ 集団登校させているのは誰？ ~

アンケート協力ありがとうございました。  
20名の方から色々な声をいただきました。  
皆さんの声は、下記URLにアップしました。  
[http://osamu.net/gakko/toukou\\_koe.html](http://osamu.net/gakko/toukou_koe.html)

また、集計結果がわかるアンケートフォームを作りました。  
「現在の登校方法」「希望する登校方法」「旗振り当番」については、直ぐに結果に反映されます。引き続き、ご協力お願いします。  
[http://osamu.net/gakko/toukou\\_iken2.html](http://osamu.net/gakko/toukou_iken2.html) です。

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° !~\*:~!° .:~\*:~!° 。.:~\*:~!~\*:~!°

「子ども達が一列に並んで黙々と歩く姿」には、僕自身何とも言えない異様な感じを受けてきました。今もその感覚は変わりません。  
でも、皆さんの意見やこの間の、小学校での検討委員会をまとめていく中で、今までのない感覚も芽生えてきました。

道の隅へ隅へと子ども達を追いやっているのは、僕達自身なんだと。  
道は「目的地により早く着くために存在する」ようになってしまった、と。

古き良き時代を懐かしむ思いは僕の中にもあります。  
「道草を食う」という言葉がピッタリときます。  
道を我が物顔のように闊歩していた小学校時代の自分がいます。  
歩きながら色々な発見をしていった毎日。  
道はそれこそ無数にありました。

旗振り当番をしながらも、子ども達ができるだけ車道に出ないように気を付けます。子ども達の横をスピードをあげて通り過ぎる車があります。  
小さくなっている子ども達を可哀想と思っている僕自身、車を捨てることはできないでいます。

また、神戸の小学生連続殺傷事件や、先日も起きた通り魔殺人.....。  
子ども達の安全が脅かされ、安心できる環境がどんどん失われています。

結局は大人たちのエゴが、子どもを隅に追いやっているのではないのでしょうか？そんな思いが強くなりました。

### 集団登校、その後 2000/01/27 (木)

以前、集団登校の事及び集団登校に関するアンケートをお願いした。  
( <http://osamu.net/gakko/toukou.html> )  
僕が登校方法の検討委員会の委員長になってから、半年、ようやく来年度の提案をPTAの役員会及び学校に提出することができた。

来年度の登校方法として  
1) 4, 5月は集団登校を実施  
2) 6月以降は月一回、集団下校を実施  
と言うところに落ち着いた。

二度に渡る全家庭へのアンケートでは、実に様々な意見が寄せられた。  
日頃、なかなか届かない学校への鬱憤を晴らすかのような声もあった。  
検討委員会のメンバーで一番苦労したことは、「これらの多くの声がある中で、より多くの人的一致でき、これでやってみよう、という方向になるか、ということだった。

結論的には「玉虫色」的だと言われればその通りだが、この結論に達するまでの学校の姿勢も非常に素晴らしいかと思っている。  
(そりゃ、全てに渡ってパーフェクトではないが.....)

～ 地区説明会 ～

今週から、学区の各地区毎に8箇所「登校方法の説明会」を始めた。  
これには、PTAの運営委員会、検討委員会、学校が顔を出し、色々な意見を聞いていこう、というもの。

本来なら紙切れ一枚で、「来年はこういう形になります」というお知らせで済ませられたかもしれないが、やはり直接話し合いの場を持つことが大切だという結論からだ。

学校の先生達も全職員が分担して、各地区に参加することになった。  
高校では学区が広いこともあり、年一回こうした地区会を開催していたので、それほど違和感はなかったが、小学校となるとあまり例がない、ということだった。

「今回は登校方法の話だけれど、来年、再来年、こうした集まりが定期的にかかれて、ざっくばらんな話し合いができていくようになると良いですね」

そんなことを校長先生達と話した。

.....もっとも、ゆーたが行っていない学校への登校方法を考えるというのはなかなか辛いものもあるのだが (^\_^).....

## 学校との距離～嗚呼、PTA役員～ 1999/12/03(金)

先週授業参観と学級懇談会があった。

もちろん僕は行かなかった。小学校2年生の時から、欠かさず出席していたのだが、ついにがついてしまった。(笑)

もしかしたら、ゆーたが戻っていくかもしれない場所を見続けた方が良いかな？そんな思いも一瞬頭をかすめた。

しかし、「ぼちぼち…」にも書いたのだが、あの学校の雰囲気、重苦しさを感じてしまった今、僕の気持ちの中には、ゆーたをあの中に戻すことなどとてもできないなあ、という感じが強くなっている。

ゆーたにとっての居場所は学校ではないんだろうなあ、そんな思いはますます強くなっていく。

そうなると僕自身の学校との関わりも、非常に希薄になってくる。

ゆーたがいるからこそその学校だった。

「教育に関わってきたものとしての興味関心の対象」として学校やPTA活動という見方もあったかもしれないが、やはり、一般論では片づかないものがあるんだなあ……。

醒めた目で学校を見ている自分がいる。

PTAの活動も途端に、義務的になってくる。

明日は、小学校の持久走大会があり、僕ともう一人の役員の人が、交通整理のお手伝いを頼まれている。

ゆーたはもちろん、参加しない。

元気に走り回る子ども達の姿を僕はどんな思いで、見つめるのだろうか？

次回のPTAの会合で、来年度の役員の仕事も話しあわれると言うことだ。

短かったけれど、僕のPTA役員も今年で終わりなんだな、そう思う。

## 次期PTA会長選出 2000/02/21(月)

== 指名委員会 ==

息子の通う小学校のPTA規約には、

「次期会長は、三役を除くPTA運営委員と各学年代表一名からなる、『指名委員会において指名する』という条文がある。このメンバーに僕も入るわけだが、例年では、現副会長の中から事前に根回しをしておいて、委員会が指名、挨拶、承諾、と言った流れをとるようだ。

しかし、今年は現副会長の二人の男性が、それぞれ家庭の事情、職場の事情で早くから固辞していたため、「さて、誰にしようか？」ということになったのだった。

== 混迷 ==

事情を知らないメンバーからは、当然「どうして今の副会長はできないんだ？」という声があがった。僕も詳しい事情を知らなかったから、当然、そう思った。

「やはり、今の副会長のSさんにお願ひしよう」

メンバー全員でお宅に行きお願ひをしたが、職場の事情でこれ以上は無理だとのことだった。再度会合を開き、三役からの会長選出を断念。現運営委員の中から無記名投票で選んでいこう、ということになりYさんに。

Yさんのお宅にお邪魔して、お願ひをするも家族の理解が得られず、これまた断念。ただ時間だけが過ぎていった。

== 打診 ==

夏休みが終わった頃から、三役の人達から

「OSMさん、来年PTAの方、頼むね」

と酒の席などで何度か言われた。「へへへへっへ、でもねえ～」と受け流していた。

時間的にも僕などは条件的には恵まれているから、何らかの形でPTAの役員は続けていこうな、とは思っていた。僕自身のためにもゆーたのためにもマイナスにはならないと思っていたから。

ただ、会長だけは困ると思っていた。日の丸にお辞儀なんてする気持ちは、さらさらなし、君が代は嫌いだから歌わない。そう言った個人の思いが「会長」という役職になれば、それだけで済まされなくなるのはわかりきっている。法制化されて以来、教育委員会などの上の方から「処分」を前提にした通達などが、学校に出るようになってから、余計に個人の思いと役職との間にはギャップが生まれる。

そこへもってきて、ゆーたが学校に行かなくなった。

色々な行事に出かけていっても、そこに我が子の姿はない。  
ゆーた自身は、全く学校に行かないというわけではなく、やはり気にしていることは気にしている。でも、今後の展開でどうなるかは、全くわからない。  
そんな僕が会長を引き受けることは、あまりにも無責任であり、この指名委員会でも、はっきりと言ってきた。

== 「憲法前文掲げましょう～」 ==  
先週の金曜日、学校で会長、校長、教頭、教務主任、僕の5人で話しあった。  
ゆーたのことと日の丸・君が代に関する僕の思いを、校長に伝えた。  
「僕の個人の思いを貫いたら、校長先生だって困るでしょ？」  
はっきりした返事はなかった。そうだろうなあ、できないだろうなあ....  
「じゃあ、日の丸の横に『憲法の前文』を掲げましょう～。それが良いと思いますけどね～」  
これまた返事はなかったが、校長さんも笑った。  
結局、その部分は曖昧なままだが、僕は引き受けることにした。

家に帰り、女房に話すと、  
「なんでアンタがやるのぉ？ そんなに人がいないの？ ホントにバカなんだから.....！」と言われた。勿論、それが「わかったわよ。好きにすれば」という女房の答えだったが.....。

== どうなる？ P T A ==  
そんなにP T Aの活動は大変なんだろうか？  
できることはできる、できないことはできない。それでいいはず。  
確かに会合の数が多かったり、遅くまで時間がかかったり、と言った問題はたくさんあるだろうけれど、それらは改善していけばいいことなのに。

不況の中で、会社よりもP T Aの活動を優先する社員は「協調性のない人間」とまで言われたり、自営業にしても仕事がガタンと減ってしまい、とてもP T A活動どころではなかったり.....。  
介護が必要な家族を抱えている家庭。  
「外に出歩く」ことに対して、姑さんの嫌味に耐えながら活動に参加しているお母さん達。

子ども達を取り巻く環境が大きく変わり、様々な問題が出てきている昨今、「自分の家だけ」では決して解決できないことが増えているのに、子ども達を見守っていく大人社会には、ますますゆとりが奪われていく。

僕が会長を引き受けたのは、ゆーたの父親、というよりも、僕の中にしっかりと流れている「教員の血」なのだろうと思った。

.....さてさて、どうなることやら？  
今、副会長の人選に入ってます。これもまた、なかなか.....。

メーリングリスト『Oh! P T A』 2000/04/15 (土)  
[pta:0002] 「Oh! P T A」へようこそ！ でこんな事を書きました。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:.. .:\*.・'° 。.:\*:.:\*.:

みなさん、こんにちは。  
メーリングリストへの参加ありがとうございます。

いよいよ新学期が始まって、刻一刻とP T A総会の日が近づいてきます。まだ正式に決まっていけないのに今日、学校へ行ったら、校長さんに「会長さんは.....」と言われたりしました。  
こうした肩書きで呼ばれるのが、僕は一番嫌いなんですね。  
十把一絡げ的な言い方が.....。(笑)

ま、そんなことはさておき、このMLでは色々な情報交換、意見交換をしていきたいと思います。HPにも色々な学校の会則や、役員構成、行事日程、面白い活動など集めていきたいと思います。

是非、皆さんも色々なアイデアを出していただけたらと思います。

何はともあれ、ポチポチMLもスタートしていきたいと思います。  
気楽に自己紹介などをしていただけたら嬉しいです。  
よろしくお願いします。

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° '!:\*.~. .!:\*:~!° 。.:\*:~!~\*:~!~\*:

現在20名以上の方がこのMLに参加して下さってます。  
いやあ、色々な話が聞かれて面白いです。

MLのログは下記URLで誰もが見ることが可能です。  
<http://www.freeml.com/Mess.cgi?Group=pta>  
メーリングリストへの参加方法は下記URLにあります。  
<http://osamu.net/ml/>

### P T A 会長退任 2001/5/23 (水)

先月の22日のPTA総会で、一年間の会長の任期が終わった。  
総会の最後に退任の挨拶があった。  
何を話そうかと挨拶の直前まで考えていた。「何を」というよりも「どんなトーンで」と言った方が適切だろう。マイクを持った途端、「ま、最後だから言いたいことを言ってやれ!」と決め、次のようなことを言った。

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° '!:\*.~. .!:\*:~!° 。.:\*:~!~\*:~!~\*:

- ・この一年間、子ども達の命に関わる大きな事故、事件がなかったことが何よりも嬉しかった。
- ・先生方への注文を二つ  
一つは、「言葉に対してもっと神経を使って欲しい」と。  
これはバカ丁寧な言葉を使えと言うことではなく、その言葉が子ども達に与える影響をもっと考えて欲しいということ。  
この2年間、役員として関わってきて、小学校の先生達はどうして言葉に対して鈍いのか、と思ったことが何度もあった。  
考えてみれば、小学生の子ども達は、自分の言葉を持ち得ていない。また、その先生達の与える影響が、芽を出すのは、ずっとずっと後のこと、思春期になってから形を表すことが多い。だからこそ、「鈍く」なってしまうのではないのか?  
もう一つは、親は先生達に完璧を求めてはいない。きれい事ではなく、一緒に悩んだり考えたりしていくことを望んでいる。失敗することがあっても、上辺を取り繕うようなことはしないで欲しい、と。
- ・保護者への注文を二つ  
教師は子ども達を「連続」で見ることが、親は「断面」で見てしまう。この違いをはっきりと認識すべきだ、と。ともすると、とある「瞬間」を目の当たりにした時、その前後のつながりも何もわからず、その場面だけで判断する。  
「先生が大きな声で怒鳴っていた」などと。そして、直接話をするのではなく、うわさ話として話が広がり、尾びれ背びれどころか、胸びれまでついて話が広がっていく。そこの所を考えて欲しい。  
また、今学校が大きく変わろうとしている。その対応に一番大変なのは、現場の先生達。しかし、親は自分の受けてきた教育や小中学校時代を元に、今の学校や子ども達を見ているのではないのか?  
今の学校改革は、我々が子どもだった時とは考えもつかないくらいに、変化しようとしている。自分の経験だけでは決して判断できない時代になっている。  
先生と一緒に、新しい学校を作っていこう、と言う姿勢が何よりも大切になってくる。

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° '!:\*.~. .!:\*:~!° 。.:\*:~!~\*:~!~\*:

他にもその場の雰囲気、余分なことも言ってしまったようだが、大体、上のようなことをしゃべった。

一年間のPTA会長はとっても楽しかった。

他でもない、また多くの人たちと関わりが持てるようになり、自分の視野が広げられたから。  
一緒に関わった役員の人たちと、新しい動きを作り出せれたと思ったから。

「OSMさん、中学校でもPTAの役員やってよ!」「また、やるんでしょ?」等と色々な人に言われる。  
「もう、良いよ。ゆーたの行ってない所の役員なんて、面白くないしね。これからは無理はしないよ」と、  
笑って答えている。

# 、特集

AC (アダルトチルドレン) って知ってます？ 1999/01/11(月)

「アダルトチルドレン」という言葉を聞いたことがあるかもしれません。

僕がこの言葉を知ったのは、何年くらい前か定かではありません。

丁度、「自閉症だったわたしへ」(ドナ・ウィリアムズ、新潮社)という本に出会った頃だったと思います。(この本もお薦めです)

クリントン大統領が、「私はACだ」という発言をしてから、脚光を浴びるようになった記憶があります。

ACの語源はアダルト・チルドレン・オブ・アルコールックス。

(Adult Children of Alcoholics)

アルコール依存症の親を持つ家族に生まれて成長し、アダルトになった人、と言う意味です。

さらには、アルコールックスだけではなく、ギャンブル依存でも、ワーカホリックの子どもACと呼ばれるようになっていきます。

僕が読んだ本は、

|                |       |      |
|----------------|-------|------|
| アダルト・チルドレン     | 西山明   | 三五館  |
| アダルト・チルドレン完全理解 | 信田さよ子 | 三五館  |
| アダルト・チルドレンと家族  | 斉藤学   | 学陽書房 |
| ACからの手紙        | "     | 三五館  |

あたりです。

インターネットを通して、今一生さんという方と知り合いました。

「日本一醜い親への手紙」という本をまとめられた方です。

このメールマガジンを通して多くの人にACのことを理解するきっかけになれば、ということで原稿をお願いしたところ、快くお引き受けいただきました。

来週あたり(原稿が届き次第)から、今さんのACに関する連載が始まります。どうぞ、ご期待下さい。以下、今さんからのメッセージです。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° '・\*:~.。.:\*:~'° 。.:\*:~'~\*:

1月末頃から、このメルマガで書かせていただきます、フリーライター (&編集者)の今一生(こん・いっしょう)と申します。AC(アダルトチルドレン)という言葉を中心に、家族の崩壊から見てくる病理、犯罪、オルタナティブなパートナーシップなどを語っていきます。

なるだけわかりやすいお話を書いていきますので、よろしくお願ひします。人気があれば長期連載されるそうなので、よろしかったら疑問、感想、批判などもメールでいただけると助かります。では、お楽しみに!

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° '・\*:~.。.:\*:~'° 。.:\*:~'~\*:

## 子育てリストラ宣言

文/今一生(フリーライター)

~まず、親が苦しみを吐き出す~ 1999/01/28(木)

世の中には、「正しい生き方」などありません...などと言うと、眉をしかめる方も少なくないでしょう。「最低限守るべき正しい生き方はあるはずだ」と反論される方が大半のはずです。たとえば、人は必ず結婚し、女性なら子を産み、夫は生活を支える労働に時間を費やし、親になったら子を育てる...。それが、「正しい人生の送り方」であって、結婚も労働も子育てもしない人は「最低限」以下(未満)の人生だ、と。だから、わが子が「最低限」以上の人生を送れるかどうかを、自分が子育てをする際の一つの基準にしている、と自信を持っておっしゃる方がいらっしゃいます。それで何の問題もなく、親子が人生をまっとう出来るなら、この子育ての基準を疑う理由はありません。しかし、この基準こそが子ども



を、そして親自身を苦しめる現実があるのです。

僕は97年10月に、『日本一醜い親への手紙』(メディアワークス:発行/主婦の友社:発売)という本を企画・編集しました。この本では、親を愛せなくなった「子ども」が親に本音を書き綴った手紙集です。「子ども」といっても、小さい子ではありません。9歳から81歳まで100人の「子ども」です。もっとも投稿が多かったのは30~40代の「子ども」でした。中年に差しかかる年齢になっても(いや年齢を重ねれば重ねるほど)自分の親を受け入れられない気持ちが募る方が少なくなかったのです。僕がこの本を編集したのは、『日本一短い母への手紙』という大ベストセラー本が気持ち悪かったからです。そこに投稿されていた手紙は、すべて母に感謝を捧げる「子ども」からのもので、その一方的な感謝の態度にどこか無理を感じました。人は、愛憎の両方があるからこそ本当ではないか? ここまでは愛せても、これ以上は愛せない。そうした境界線上を生きているのが日常的な現実ではないか?

しかし、そういう問いかけ自体、この国は封印してきました。子どもは親を愛し、敬うものであって、親は子どもを愛し、導くもの。親が子どもを愛しているのは当たり前、だからこそ子どもは親に従わなくてはいいないし、親を憎むなどもつてのほか、親を憎んだり、愛せないでいるのは未熟なこと。そうした認識こそが良識であって、これを崩すと家族は崩壊し、社会全体が悪くなるとまで論じる識者もいました。ところが、現実にはそのまったく逆の例も少なくなく、親が子どもを「愛する」のも自明ではなく、子どもが親を「理解する」ことで成熟した大人になるというプロセスにも無理はあり、父性の復権をすればするほど子どもが壊れていくのも珍しくありません。前述の「正しい生き方」を子育ての基準にすると、こうした現実がどうしても目に入らない。

では、「正しさ」を見失った親子関係に救いは無いのでしょうか?

あります。答えは『日本一醜い~』に投稿された方々からいただきました。

彼らは、親から愛されなかったゆえの苦しみを、孤独を、痛みを自ら文章に吐き出しました。それにより、自分の内面が長い教育期間の中でどのように形作られたのかに気づき、本書を読んでそれが自分一人の苦しみではないと知って安心されたのです。本書を読むことが退行(=子どもに戻ることを)を促し、ふだん子ども前で演じ続けてしまう「親」の役割から解放されたのです。「親」を降り、自分を変えること。そこから子育ての新しい方法が始まったのです。

~ A Cをめぐるよくある誤解 ~ 1999/02/15(月)

昨今、教育や子育ての現場でも頻繁に登場するようになった“アダルト・チルドレン”(A C)という言葉をご存じでしょうか? アダルト・チルドレンとは、正確には“アダルト・チルドレン・オブ・アルコールリック”といい、アルコール依存症の親の下で育ち、大人になった子を意味します。最近では、アルコール依存症に限らず、ワーカホリック(=仕事依存症)やその他の依存症の親元で育った子どもたちもA Cとして語られるようになっていきます。

依存症には、よく知られている摂食障害(過食症や拒食症)やアルコール依存のほか、買い物依存、盗癖、自傷癖、セックス依存、薬物依存、ギャンブル依存、虚言癖などまで広範囲にあります。A Cはこうした依存症を癒すうえで正確に理解されなければならない重要なキーワードになっています。しかし、この言葉は98年の流行語大賞にトップ10入りした割には十分に理解されておらず、精神医学の学会や臨床の現場でも公式に認められていないようです。

露骨にA C批判を展開する精神科医までいますが、僕は精神科に通う患者たちの声を総合すると、どうも臨床の現場で患者の家族への取材を怠る精神科医が多い気がして、A C批判が多数派の精神医学界に疑問を感じています。

10年近く同じ精神科医に診てもらい、「キミは家族に問題がある」と診断された知り合いの患者がいました。しかし、その人の家に、担当医は一度も足を運んだことはありませんでした。

家族の問題は家の中に踏み込んでみないとよくわからないと、ライターの僕は感じていますが、両親にさえ会わない精神科医がおそらく少なくないはずですよ。

A Cをめぐる理解が進まない理由は、おそらくここにあるでしょう。無理解はさまざまな誤解を生みます。自分の苦しみを親のせいにするA Cという考え方は甘えにすぎない。...なんて批判もよく聞きますが、親のせいにするだけでわが子の病気が治るのなら本望ではありませんか。

また、A Cを病名だと思っている方も少なくないですが、A Cは病気の原因を示す単なる一つの定義であって、病名ではありません(その先にある依存症は病気と呼んでも差し支えありません)。

さらに、A Cを日本に紹介した貢献者の齊藤学先生(家族機能研究所代表/精神科医)が『A E R A』という雑誌で「もうA Cという言葉は使わない」とコメントしたのも誤謬があり、先生のホームページでは「治療に必要な時は使う」と反論しています(もともと『A E R A』側の担当記者に理解が足りなかっただ

けなのです)。

最後に、「ACは曖昧な定義だ。自称ACだって多いじゃないか」という声もありますが、これも理解不足から来る凡庸な批判です。

親が依存症だった場合、子どもの前で十分に親としての働きが出来ないことが多く、これを機能不全家族といい、ACを作る温床と考えられています。

親としての働きとは、わが子の自尊心とプライバシーを守り、わが子が家の外へ出ていく自立を助けること。わが子の自尊心を傷つけているかどうか感じ取れない場合、親御さんがACである可能性が高いのです。

ACが病名ではなく、自覚して自称し、自分を癒せるとわかれば、子育て=親育てだと痛感されるのではないのでしょうか？

～自傷癖とコミュニケーション～ 1999/03/29(月)

僕の仕事は、雑誌や本に文章を執筆するフリーライターですが、その傍ら、95年から東京都内の各所でイベントを主催しています。テーマは様々ですが、自殺未遂を告白する人に出くわすことが少なくありません。自殺をテーマにした原稿は、現在では本を1冊かけるくらいの分量に上ってしまいました。

つい最近も、文芸誌『リトルモア』(99年3月末発売号)に「僕らが自傷する理由 ～父なき時代の若者論～」という文章を執筆しました。5月中旬に発売される別冊宝島『自殺の本』(仮題)でも自殺未遂者5名をお呼びし、「なぜ自分の体を傷つけたくなったのか」を語っていただきました。

そこでハッキリわかったのは、自殺未遂を試みたり、自分の体に傷をつける自傷癖の経験の持ち主には、自分がこの世界に生きていく自信が十分に育まれておらず、人に助けを求めることさえ面倒に思えてくるほど、人間関係に不得手であるということです。

鬱を患っている人、あるいはもっと軽症で気分が落ち込んでいる人に対して、僕らはつい「ガンバレ！」と励ましてしまいがちですが、この「ガンバレ！」

に応えられないイライラが、そうしたダウンナーな人々の心をさらに沈ませ、自傷に至らせる一因になりかねないとは、なかなか気づきにくいものです。

実際、今日の親子のコミュニケーションは不安定で、場当たりのなものになっているようです。

今朝(3月21日)の東京新聞サンデー版に、くもん子ども研究所が97年に全国の小学4年生から高校3年生までを対象に650人を調査したデータが載っています。それによると、「母親からよく言われる」コトのトップは「勉強しなさい」(57.5%)、次いで「家の手伝いをしなさい」(43.7%)、そして「自分のことは自分でしなさい」(43.4%)と続きます。一方、「父親には何も言われぬ」子どもは約2割強。

安室奈美恵さんの夫・SAMさんが温大(はると)クンを胸に抱いたポスターで、父親の育児参加を呼びかけられる時代であると痛感するデータだと言えるでしょう。

ところが、現状では育児を任されている母親の中で「良い母親が自信が持てない」と不安に思う方は、実に66.6%もいるのです(首都圏の幼稚園・保育園児・小学1年生をもつ母親1500人対象/96年ベネッセ教育研究所調査)。

不安の要因は少なからずあるでしょうが、雑誌や育児書やエライ先生たちに振り回され、「子どものことは子ども自身に答えがある」という当たり前のことを忘れては、コミュニケーションを建て直すことは難しいのではないのでしょうか？

3月上旬、僕はある自治体の要請で主婦向けに講演をさせていただいたのですが、結婚も子育ても経験のない僕には大したことは語れません。そこで、6月に東京・渋谷ユーロスペースで公開予定のドキュメント映画『ファザーレス ～父なき時代～』(自傷癖を持つ青年が自身の親たちに自分の孤独の理由を問いただすストーリー)のダイジェスト上映と、30分間の「親テスト」を試みました。次回は、このテストを紹介したいと思います。

～親テストを試してみましよう～ 1999/05/19(水)

「親テスト」は、親子のコミュニケーションを正常化するために行う一つの通過儀礼です。親自身が子どもの気持ちにたって、30分間で回答を記入して下さい(お子さんが複数名の場合は、一人を特定して書いてください)。

お子さんに回答用紙と赤ペンをわが子に渡し、採点してもらって下さい。小学1年生以上のお子さんから有効ですが、お子さんが幼い時は赤ペンでなく、お話をきちんと聞いてあげるのがよいでしょう。思春期のお子さんの場合、親が真剣に採点を頼んでいるのかどうかを一瞬で見極めますから、お子さんにアポを取り、親子が互いに無理のない時間帯に定期的に試みます。

採点中の子どもが語る言葉をメモを取るつもりで注意して聞き、絶対に口をはさまないこと。間違っても「でもね…」などと反論めいた言い訳をせず、質問されたら初めて答えるという姿勢で、まずはお子さんに十分に語ってもらうこと。親テストを試されたら、ぜひ感想をお寄せ下さい。

.\*.° 。.\*.° °.°. .\*.° 。.\*.°.\*.°

## 【PARENTS' TEST】

あなたとお子さんの名前・出身・生年月日、現在の年齢は？  
お子さんが次の誕生日に一番欲しいと思っているものは何ですか？  
お子さんがあなたからもらって嫌がったものを3つ挙げてください。  
お子さんが親友だと思っている友だちの名前を1名挙げてください。  
お子さんがいま一番あなたに見せたいと思っているものは何ですか？  
両親の仕事の中身をお子さんに聞いたら何と答えますか？  
両親の月給額と毎月の使用明細のうち、お子さんが知っているのは何%？  
お子さんは親としてのあなたに何点をつけますか？[ 100点満点 ]  
お子さんは、あなたが友人だったら何点をつけるでしょうか？[ 同上 ]  
お子さんは他人から「親に愛されてる？」と聞かれたら何と答えますか？  
お子さんがあなたに今「してほしい」と思っていることは何ですか？  
お子さんがあなたに今「してほしくない」と思っていることは何ですか？  
子ども自身が「親に傷つけられた」と今も感じている事件は？  
お子さんは何歳で「自活した一人暮らし」をしたいと考えていますか？  
お子さんがあなたに自発的に話をしたい場合、たいていどんな話の中身？  
お子さんが親子関係に悩んだ場合、お子さんが相談相手に選ぶのは誰？  
お子さんがプライバシーだと思うことを優先順位順に3つ書いて下さい。  
お子さんが考えている「恋愛対象を選ぶ条件」は何だと思えますか？  
お子さんが「何も言いたくない」とあなたに対して思うのは、どんな時？  
あなたが「離婚したい」と言ったら、お子さんは何と言うと思えますか？  
お子さんには、親の老後の面倒を見たい気持ちは何%あると思えますか？  
お子さんが「家より居心地が良い」と思う場所を3つ書いて下さい。  
お子さんがあなたについて知りたいと思っていることは？  
お子さんにはあなたに反対されてもやり通したい生きがいがありますか？  
今日お子さんは何をしていますか？[ 起床から就寝まで1時間単位で ]

～家を捨てよ、街へ出よう～ 1999/05/25(火)

先週のテストいかがでしたか？ゆーたとは面と向かってやってませんが、丁度、僕が良い友だちだなあと  
思っていた子をゆーたは「最近、すぐいばるからあんまり一緒に遊びたくない」と言いました。ドキ、っ  
としました。

今さんのエッセイ最終回です。ホント考えさせられます。

.\*.° 。.\*.° °.°. .\*.° 。.\*.°.\*.°

親といえども、ふだん一番接しているはずの子どものことをほとんど知らない。前回の「親テスト」を試  
みられた方は、そんなふうにお気づきになったのではと思います。そこで、親として失格などと考える必要  
はありません。

むしろ、自分の無知とそれゆえに芽生えた子どもへの好奇心を、子育ての新たな出発点にすればいいので  
す。

でも、なぜわが子のことなのに、知らないことが多いのでしょうか？ 子どもに対して強い関心が無いか  
らです。それは、あなた自身が自分に対しての関心が薄いからです。そこそこ上手に子育てをしている方  
は、子どもと自分に同じくらい高い関心を寄せています。つまり、まず自分を十分に愛し、愛されていると  
いう実感をふまえて、わが子を愛しているのです。

逆に、子育てに失敗しがちな親は、わが子と自分への愛情のバランスがよくありません。子どものことを  
すべておいて優先したり、子どもはそっこのけで自分の事情を優先することにかまけてしまいます。これに  
は、親自身がそれまでの人生で愛情に恵まれず、少なくとも精神的に一人で生きていけるという自信( = プ  
ライド。自尊心 ) が育まれてこなかったからです。

そんな親子に必要な「愛」とは、どうすれば手に入るのでしょうか？ まず、親であるあなた個人が、ハッ  
キリとした生き甲斐( 生きていく意味、手ごたえ、快樂など ) を持ち、その頑張りをも自分もしくは他者に十  
分に認めてもらうこと

( ここでいう「生き甲斐」は、誰かと一緒に達成するものではなく、あくまでもあなた1人で行うプライ

ベートで具体的な目標を意味します)。

そして、自己決定の結果としての差異(納得できないこと)を尊重し、決して自分の意見を強要せず、お互いが安心して自分の気持ちを素直にうち明けられる対象になることをめざして、信頼を少しずつ築き上げていくこと。

仕上げは、相手(子どもでも配偶者でもかまいません)が自発的に助けが欲しがった時に、それが確かに相手の力量オーバーであり、自分の手に負える範囲の手助けならば、すぐさま対応するというつき合い方を、互いの約束として定着させていくことです。

日本は、1965年から結婚適齢期の20～30代での未婚率、離婚率が右上がり一直線で、男女の恋愛(結婚)関係は昔に比べて全体的に冷めつつあります。これは、女性の雇用機会の拡がりによる自立のチャンスの拡大、豊かさによる仕事以外の生き甲斐への目覚めのほかに、家庭や会社、学校などの構造的な変質からストレスをためこみ、自分を上手に愛せなくなった男女が恋愛に逃避しては上すべりする感覚に疲れてしまった結果であるとも推測できます。

いずれにしろ、男女間の関係が薄くなるにつれ、親=子の結びつきも弱まりつつあり、実際「一人で生きていく自信」を無くした自殺者たちは92年から増加傾向にあります。そんな今日、僕はこう提案したいです。子どもも奥さんも、家を捨て、街へ出よう、と。実際、『完全家出マニュアル』(仮題/メディアワークス刊)という本を現在執筆中です(7月15日発売予定)。

家出をし、いつでも家を捨てられるだけのプライドを築き上げていければ、今日までの家の中の欺瞞的な関係性が、もっとハッキリ見えてくるはずです。

## エッセイ、シリーズもの 第二弾予告 1999/01/18(月)

先週号で、「このメールマガジンでは、みなさんからのエッセイ、シリーズものを積極的に募集していきたいと思います。」という案内に対して、早速、返事を頂きました。

=====

こんにちわ。渋井哲也(しぶいてつや)と申します。新聞記者を5年半経験して、昨年9月からフリーになりました。まだまだ駆け出しなので、知名度は低いですが、よろしくお願ひします。

子どもの問題に関しては大学時代から関心がありました。その後、新聞記者をしながら、NGOに関わったりして、現在ではそのNGOの運営委員もしています。昨年5月、国連欧州本部(ジュネーブ)で、日本の子どもの権利条約の実施状況を審査する、日本政府報告書本審査がありました。ここでのNGOレポート作成に関わりましたし、また、世界で初めてだった子ども自身による意見表明にも関わりました。

また、長野県の某フリースクールや、居場所にも、無報酬ながらもかかわっています。

さて、シリーズのポイントですが、子どもの権利条約って知っていますね。

でも年々なぜか、知名度が低くなっていく傾向があります。この条約に関することや、私が接している子どものたちの社会・世界、また若者文化やアニメ評論にも派生することもあります。

今後ともよろしくおねがいします。

「子どもの世界と権利条約」で、5回分のサブタイトルは以下の予定です。

- 1)子どもの意見を反映させよう
- 2)少年犯罪、テレクラ、援助交際
- 3)学校へ行かなきゃいけないの?
- 4)学校を変えるには?
- 5)家族って、「居場所」なの?

=====

渋井さん(てっちゃん)については、DCI日本支部の公式ページを作成されております。この企画を考えたときに、是非、てっちゃんには、と申していた矢先のメールでした。

渋井さん(てっちゃん)のホムペ - ジ

<http://member.nifty.ne.jp/~sbtetuya>

発行メールマガジン

てっちゃんニュース

マガジンID: 0000009683

僕も購読させていただいています。お勧めマガジンの一つです。(^^ゞ

## 子どもの世界と権利条約

渋井 哲也さん

～子どもの意見を反映させよう～ 1999/03/18(木)

「学校の決まりに対する生徒の意見を聞いて」  
「もっと子供の気持ちを理解してほしい」

私のホ・ムベ・ジに寄せられた高校生の意見です。この2人がどんな状況を考えて答えてくれたのかはわかりません。しかし、少なくとも、大人は子どもの意見を聞き、反映している状況とは考えられません。

多くの大人たち、特に親は「子どもに良かれ」と思って、子どもに要望したり、強制したりしていることでしょう。そして子どもたちの中には、それに反抗したいのだけれど、親に見捨てられる恐怖から、親の言う通りに行動している「いい子」も多いことでしょうね。

このような子どもが大人になった時に、今さんの連載で扱っているアダルトチルドレンとして生きるのかもしれません。

もちろん、家族だけでなく、学校でも地域でも、子どもを非行に走らせるためや、将来の犯罪者を作ろうと思って子どもと接していることはないことでしょう。でも、なせか生き苦しさを感じています。

私が接している子どもたちは親や教師たちに本音を言っていないことが多いのです。18歳で無職の男の子は一見無気力ですが、ある時、どんなアルバイトが適しているだろうかと悩んでいました。その相談は、いつも行っているフリ・スペ・スでしていました。

保健室登校の中3の女の子は、親の意見に左右されやすく、母親がいないと、その意見にうなづいてばかり。でも1対1で話すと、「女優になりたい」などいろんな夢を話してくれました。

長野県では、全国で最後になったテレクラ規制条例の制定の動きがでています。テレクラや伝言ダイヤルなどにまつわる事件が起き、県内でも援助交際や「援助おやじ」をねらった「オヤジ狩り」が問題になったことがあり、県PTA連合会などが陳情していたことが背景にあります。でも、当事者の子どもたちの意見を反映するどころか、聞いてもいません。

「子どもは『子どもの専門家』です」。

昨年12月、国連子どもの権利委員会の委員ジュディス・カ・プさん(イスラエル)が、子どもの権利を発展・擁護するNGO・DCI日本支部の招きで来日。この言葉は、その時の講演の言葉です。そして、「子どもの直接的な意見表明は大変貴重です。その子どもの目から新しいアイデアを社会に提供することができるのです。だから、子どもは社会の発展に欠くことの出来ない貴重な社会の一員なのです」と続けました。

このカ・プさんの視点は昨年6月に出された日本政府への勧告に生かされ、「参加権の行使では、社会のあらゆる側面で、子どもが一般的に困難に直面していること、特に、学校制度において困難に直面している」などの内容に反映されています。

しかしながら、この勧告も、日本に子どもたちの意見なくてはかなわなかったことでしょう。昨年の5月に行われた日本政府報告書の審査で、子どもの意見を直接国連に届ける取り組みをしていたDCI日本支部子ども21世紀委員会を通じて、高校生3人が意見を述べました。これは150カ国以上もの審査を続けてきたにもかかわらず、世界で初めてのことでありました。カ・プさんは来日した際、「子どもたちの声なしには、あの勧告の内容にはなりません」と述べていましたし、「彼らが先例を作ってくれたおかげで、その後、タイやネパールの子どもたちも国連に来れました」と評価していました。

子どもの意見を反映させ、居場所となる場所が家庭、学校、地域で失われていることこそ、現代の子ども問題があると、私は思います。

人気をかくしたアニメ「新世紀エヴァンゲリオン」の主人公シンジのセリフで「僕、ここにいていいの?」という問いかけがありました。それに、無条件で「そのままでもいいんだよ」と答えられる人間関係が必要ではないのでしょうか? そして、大人は子どもの意見を単に「聞く」のではなく、「反映させる」努力が必要なのです。

～少年犯罪、テレクラ、援助交際～ 1999/03/29(月)

少年法改正問題が今国会で論議されようとしています。みなさんもお存知でしょう。きっかけとなったのは、みなさんご存知のように神戸連続児童殺傷事件でしたね。

神戸事件では、逮捕されたのが中学2年生だったことで話題を呼びました。私はこの少年の逮捕を、当日の夜、東京都内のホテルの新聞で知ったのでした。でも、この事件の犯行が彼によって、すくなくとも彼一人のできるのか、という疑いを今でもっています。

さて、今回の少年法改正の形式的な論点は厳罰主義です。刑罰の適用年齢の引き下げや検察官の立ち会い、身柄拘束の延長、検察官の抗告権付与などですね。逮捕された少年を成人並みの裁判を行うことにしよう、というのがねらいです。この根拠は、少年犯罪は戦後「第3のピーク」を迎えていると言われていることがあり、少年犯罪の凶悪化、低年齢化を挙げています。

そもそもこの根拠が成り立つのでしょうか。

手元にあるデ・タ(司法統計の抜粋)では、殺人や強盗などのいわゆる「凶悪事件」は96年には殺人52件、強盗1315件だったのに対し、97年には殺人45件、強盗1917件で、殺人は減少したが、強盗は600件ほど増加してきています。少年による凶悪事件の1000人あたりの発生率は0.17(96年)から、0.25(97年)と若干増加しています。この数字だけ見て「凶悪化」と言えなくもないです。が、66年当時の0.55よりは半数以下で、ここ数年の変動をどうとらえるかで、立場が変わるようです。

私から言わせれば、政府自民党はつねに少年法改正を狙ってきていて、たまたまのタイミング(神戸事件や少年犯罪被害者の会の設立などを背景に)として出てきた問題と思っています。

一方で、今年はテレコミ犯罪で幕をあけました。伝言ダイヤルを使った昏睡強盗事件や、インタ・ネットの掲示板での脅迫事件などがありました。

ここ数年のテレクラやツ・ショット、伝言ダイヤルを使った「援助交際」や「麻薬の普及」が、社会の底辺に広がりつつある、という危機感。この思いから、「心の教育」を叫ばしています。しかしながら、高校生の援助交際の相手が教師だったり、僧侶だったりしている現状を当の高校生たちが知っているわけです。そのため、「心の教育」はむなしく響くだけです。

でも子どもたちがテレクラを好きになってしまうのには理由があります。アニメ「Lain」ではネットワーク上の世界こそ現実感がある、というようなスト・リ-が展開されています。まさに、現実、自分にリアリティを十分に感じられないのではないのでしょうか？

このような現状で、全国で唯一テレクラ規制条例も青少年健全育成条例もない長野県が動きました。ついにテレクラ規制条例を制定しようとしています。

当局はこれで9割方の営業ができなくなるを見込んでいます。しかし現実を見てください。例の昏睡強盗事件は規制条例がある神奈川県で起きたんですよ！

また援助交際は条例があろうとなかろうとどの地域でも起きています。長野県当局のみなさん、あなた方は援助交際などをなくしたいのではなく、単に取り締まりたいだけなんじゃないですか？

しかも、テレクラの規制の中で未成年を対象にした条項もあります。いいですか、援助交際は未成年だけの問題じゃなんですよ。OLだって主婦だってしているんだから。こういう実態を知っているのですか？

少年法改正や、テレクラ規制=援助交際の撲滅(?)を志向する背景には共通のものが感じられます。「モラル・倫理観の強化」の名の元の、警察国家的な発想、子どもたちは取り締まりの対象というような「子どもも危険思想」ともいうべきものです。

「ほっておいたら、子どもたちは危険なんだ」という大人たちの恐怖感です。とくに現秩序=現体制をよしとする人にとっては怖いのでしょうね。

しかし、これで子どもたちが「聖人君主」のような存在になると思っているのでしょうか。

「大人の身勝手」なル-ルの押しつけは、かえって子どもたちを大人から遠ざけるだけではないのでしょうか？

逆に、日本の少年司法システムは代用監獄をはじめとして国際準則を無視した手続きで、えん罪の可能性が指摘されているのです。前回のコラムでも取り上げたカ-プさんは、さらに(このような)少年法改正は子どもの権利条約違反」と断言していました。

いったい、だれがル-ルを無視しているのですか？

そんな人たちを子どもたちが信用できますか？

~学校へ行かなきゃいけないの?~ 1999/05/19(水)

「学校に行きたくなければ行かなくていいと思う。みんなは行かないと将来、たいへんだよとか言うけど、行ってない方が自由な時間があるし、いろいろな事が学べると思う。」

この声は、国連に子どもの意見を届けようという取り組みをしていた「子ども21世紀委員会」のメンバーだった私がインタ-ネットなどでアンケートとして集めた意見の一つで、不登校をしている子どものものです。アンケート結果のアドレスは以下の通りです。(ちなみに、アンケートの内容は「子どもの権利条約にいがたの会」が行ったものを参考にしました)

<http://member.nifty.ne.jp/~sbtetuya/kekka2.html>

さて、不登校は「『学校嫌い』を理由に30日以上欠席している」とことと文部省が定義しています。その定義通りの不登校は小中学校で年間10万人を越える時代になっています。実際には、これより多くの子どもたちが不登校のようで、たとえば学校側で欠席の理由を変えろとか、校門に触ったら校内に入らなくても出席扱いにするとかで、“難”を逃れていると聞きます。

また、中間教室(適応指導教室)や、フリ-スク-ルでも出席扱いになるので、これらの数を含めると、相当数が不登校であることが推測されます。

なぜ、学校に行けなくなったのか、を議論する前に、そもそも学校に行かなければならないのでしょうか？

いわゆる中学までの義務教育の「義務」とは、保護者が子どもに教育を受けさせる義務であって、学校に行かせる義務ではありません。もちろん、不当に学校に行かせない場合は児童虐待になりますが、強制的に行かせることは何の法的根拠はありません。つまり、学校に行かなくても何も罪悪感を持たなくてもいいのです。これは当然のことですが、これを知っておかないと後の話が續かないので、あえて触れてみました。

学校へ行かなくなるきっかけもさまざまですね。

アンケートで集まった声でも、私が想定した「いじめ」「学業不振」「友人関係」「何となく」以外の「その他」が34人中13人で、もっとも多かったのです。その中でも教師との関係も多く、「ウマが合わなかった」ことをはじめ、体罰など、教師のやり方に不満を覚えていたものも目立ちました。

そういえば、昨年5月に国連で意見表明をした高校生のうち1人は、中学のことに私服で登校をしたことを理由に学校側から「通学拒否」をされ、学校へ行かなくなりました。

また、長野県でも、茶髪を理由に登校できなかったケ-スがありました。この子は児童相談所に「家出」を理由に一時保護されたのですが、前向きな気持ちになって登校しようとしたら、学校側に「心が入れ替わっていない」と言われていました。

続いては「何となく」で7人。つまり、自分でも理由が分からないのでしょうかね。三番目が「友人関係」。いじめとはいかないうちでもトラブルを解決できなかったことでしょうか。

私が一番多いと予想した「いじめ」は5人でした。ちなみに「学業不振」は1人。

このように、不登校の理由は多岐にわたり、しかも予想もつきません。多分、別の調査では違ってくるでしょうね。結局、理由を断定して、犯人探しをしても、全部が犯人になってしまうことでしょうかね。犯人探しは、個別ケ-スで意味がある場合も否定できませんが、原則的にはあまり意味がないと思います。

(こんなことを言うと、現場で「不登校の減少」について頑張っている教師を刺激しそうですが)

私がかかわっているフリ-スペ-スには、学校に行っていない子、かつて行っていなかった子、学校に行っている子、さまざまな立場の子どもが参加しています。でも、子どもたちからは「どうして学校いかないの？」という言葉は聞いたことがありません。お互いの行動を尊重しているようですね、多分...

そこに、ある親が相談に来ました。その親は「学校へ行け！」と娘に毎日のように言っているそうです。でもその親の言い分では「学校へ行け！」というプレッシャー-に負けないでほしい。別に本心から学校へ行ってもらいたいとは思わない。でも、強くなってほしいんです。」

「強くなってほしい」と願うには、或る意味では「親心」でしょうかね。でも、不登校をした自分の娘は弱者だという考えがあるのでしょうかね。

私は黙って聞いているだけでしたが、その父親の言葉を母親も初めて聞いたようで、驚いていました。夫婦できちんと話し合わなかったのでしょうかね。世界的に見てみましょう。先進国で学校教育以外に、フリ-スク-ルやホ-ムスク-リングなどのオルタナティブな教育は認められています。学校は、親の教育権の委託機関に過ぎないので、当然ともいえます。

権利条約に関する運動を通じて知りあった人がこう言っています。

「学校は、図書館や美術館、公民館と同じような施設と考えれば、不登校の問題も楽ですよ」

まさにその通りだと思いました。利用するのは「義務」ではなく、市民としての「権利」なので、学校内改革も同時進行しなければなりません。

それは次回に。

～学校を変えるには？～ 1999/05/31(月)

まずは休息を

「不登校が出来ればいい。不登校もできず、仕方なしに学校へ行っている子どもたちが多いいです」  
ある高校生から聞いた言葉です。この言葉から読み取れるのは、“学校はつまらないし、居場所がない。本当は行きたくない。でも不登校をしたくても、何らかの理由でそれはできない”という精神的な不安定さでしょうか。  
「極度に競争的な教育制度によるストレスのため、子どもが発達のゆがみにさらされていること、および、その結果、余暇、身体的活動および休息が欠如していることを懸念する。さらに、不登校・登校拒否の数が膨大であることを懸念する」  
これは昨年6月に国連子どもの権利委員会が日本政府へ勧告した一部です。  
簡単に言えば、激しすぎる受験競争が子どもたちにストレスを与えて、十分は発達が出来ない状態を指摘しています。その結果の一つとして不登校が多くなっているんじゃないか、という一文です。

このストレスをなくすことがまずは大切になってきます。文部省の「子供の体験活動調査」では、運動もしないのに普段から疲れを感じるのは平均で「よくある」が12%、「時々ある」が33%で計45%。7～8歳の小2で33%、小4で37%、小6で43%、中2には60%と高学年になるほど目立っている。私が取っていたアンケートでも「もっと休みがほしい」など休息を訴えるものもけっこうありました。授業時間数のみならず、部活や行事など実際に学校に関わる時間を少なくすることが第一歩ではないでしょうか。

体罰・いじめ

また学校にいる時間内での問題もあります。体罰やいじめという暴力におびえている子どもたちもいます。

文部省によると、体罰で懲戒処分(免職、停職、減給、戒告)を受けた教員は109人。人事記録に残らない訓告などが305人。合わせて414人で、過去最多だった96年度の407人を上回っています。

いじめのデータが手元にはないので、統計的なことは示せません。

(すみませんね)

このような暴力の解決にはどのようにすればよいのでしょうか。

「学校における暴力を防止するため、特に、体罰およびいじめを根絶するために、包括的なプログラムを開発すべきこと、および、その実施を綿密に監視すべきことを勧告する」

このプログラムとはいかなるものなんでしょうか。私は、現在、教職員主導の体罰・いじめ根絶体制には疑問を持っています。東京の暁星中学・高校の生徒会がかつて提案し、つぶされた「体罰問題相談所」構想のようなものがないと思っています。

その構想では、相談の流れは、まず具体的に解決したい(はっきりさせたい)人が「予約カード」に記入(プライバシーの保護のため無記名でも可)。カード提出者と相談所の間で話し合っ、相談所が、カード提出者と当事者が同じフィールドで話し合える環境を用意。そのため話し合いではあくまで中立の立場をとります。それにより、話し合いによる和解、解決。

解決方法としては、話し合いによって双方が納得する形が理想ですが、お互いが意見書(謝罪書を含む)を渡しあうとか、生徒全体で考えるべき問題ならば生徒会の代議員会に議題として提出など、生徒の人権確立を目指すというものです。

ただし学校側はこの提案を「生徒活動を逸脱している」との理由で受け入れられませんでした。

一方、いじめ根絶も生徒主導で行っているところもあります。暁星の「相談所」のような流れでの解決です。これはイギリスなどにも見られるのですが、最近では日本でも取り入れる学校が出てきました。私が取材したある中学校では、発案者が責任者の時代はいじめを解決したケースもあったようですが、責任者が卒業してしまうといじめのアンケートを取るくらいで、活動はあまりしなくなったということでした。教師側のフォローが欠けていたことも原因の一つでしょう。いじめは教師が気がつかない場合や、教師が介入することで解決を複雑にする場合もあるでしょうから、生徒主導の解決はこれから進展していったほしいですね。

三者協議会の設置へ

しかし、これらの根本問題は「子どもたちの意見表明権と参加権」の問題ではないかと思います。

一部の学者や教育関係者は「意見表明を認めたら教育は成り立たない」という声も聞かれます。これは大



きな誤解です。誤解の元は「表明された意見をすべて実現しなければならないのか」とか、「意見表明できる結果責任の能力が子どもにはない」というようなものです。

国連子どもの権利委員会の委員で、日本政府報告書審査の時に議長を務めたジュディス・カ・プさん(イスラエル)が次のように言っています。

「意見表明権は、子どもの意見を聞き、その意見を尊重して、その実現に大人が努力すること。しかし、実現できない場合は、大人が子どもに納得できるように説明しなければならない」

つまり、すべてを実現できなくても、それが子どもに納得できる説明をする義務が大人にはあるのです。

国連の勧告では

「本委員会は、特に、韓国・朝鮮人の子どもの高等教育へのアクセスに不平等が存在すること、および、参加に関する権利の行使にあたって、社会のあらゆる側面において、子どもが一般的に困難に直面していること、特に、学校制度において困難に直面していることを懸念する」

として、在日コリアンの問題と同じように、特に学校内での参加権をとらえています。

少数ながらも、実際に子どもの参加を保障しようとする取り組みをしている学校もあります。千葉県の小金高校、東葛高校、長野県の辰野高校などでは、教職員と子ども、保護者の間で学校問題を話し合う「三者協議会」をつくっています。また、埼玉県の所沢高校では、教職員と子どもの間で「二者協議会」があります。

しかしながら、「学校の個性化」の名の元に、校長権限の強化という流れがあり、子どもの参加権の問題は取り上げられないばかりか、一方的な非難の対象になっていることは報道などで知っていることでしょう。

文部省も「学校だけでは限界」という見方を示しています。

しかし、本当に限界なのは「従来の学校システム」です。このにメスを入れずに、単なる地域の教育力をあてにするとというやり方には疑問を感じます。

本当に学校を変えるには、子どもと親が、学校関係者に「お願い」をする立場でなく、「一緒に考える」立場になることが第一歩なのです。

そういえば、「児童買春・児童ポルノ法」が衆院本会議で可決。成立しました。

わたしはこの法律には批判的です。その理由は

<http://member.nifty.ne.jp/~sbtetuya/child.html>

(【連載】子ども買春・子どもポルノ)の項目で。

～家族って、「居場所」なの？～ 1999/09/07(火)

最近では「居場所」という言葉がはやっています。

そもそも「居場所」とはどんな場所なのでしょう？

増山均・日本福祉大学教授(児童福祉)は次の要素を説明しています。

(参考資料は、

「安心・自身・希望をふくらませる 子どもの居場所づくりを」

日本子どもを守る会機関誌『子どもを守る』99年5月号)

1)「安心感」と「解放感」が得られ、居心地のよさを感じられる「心のよりどころ」

2)子どもたち自身が「存在感」や「期待感」を持てること

3)そこで生きていること、活動していることへの「価値観」と「充実感」をかみしめることでできるとして、「<子どもの居場所>は、競争や管理の渦巻く毎日の生活の中で傷ついた心を癒す避難場所であるだけでなく、仲間と一緒に楽しい取り組みを企て、組織の力と集団の自治によって自信をつけ、希望をもって社会に参加していく力を励ましていく拠点」と位置づけています。

また福田雅章・一橋大学教授(刑事政策)は、子どもの権利条約の第12条「意見表明権」とのからみで、「意見を自由に表明できるためには、「そのままでもいいんだよ」と安心して受容してもらえる人間関係(居場所)の保障が不可欠の前提であり、これなしには意見表明権は画餅でしかありえない」

(参考文献は、

「「子どもの権利条約」を歪める危ない学者」月刊宝石99年7月号)

2人の主張には共通するものは、安心感があり、そこでは自由にできるという人間関係ということではないでしょうか？

みなさんの家族はどうですか？

今一生さんの「家を捨てよ、街へ出よう」は、そんな家ではなくなった人たちを描いています。

また、今も復活しつつあるアニメ「機動戦士ガンダム」も、主人公アムロが父を超え、母から離れる自立のスト・リ・にも見えますが、結局、アムロは「よりよき」家族を夢見ているようでもありました。その宿敵であるシャアも出会う女性には母親を求めていました。

「エヴァンゲリオン」でも、主人公のシンジをはじめとする登場人物のほとんどが家族に居場所を感じられずに育ち、いわゆるアダルトチルドレン的な生き方を模索し、常に「承認」を求めていました。

この2つのアニメとも爆発的なヒットでしたことはみなさんも御存知ですね。

とくに「エヴァンゲリオン」のヒットと同じ時期に、アダルトチルドレンが流行し、関連した出版物もたくさん出されましたね。

「承認伝達」というのは、宮台真司・都立大学助教授(社会学)がキ・ワ・ドとして挙げているものの一つで、宮台氏は居場所について、「ホ・ムベ・ス」という表現を使っていますね。このキ・ワ・ドは、アダルト・チルドレンの流行と同時期に宮台氏が使い始めたような気がします。特に、宮台氏の論理では、「第4空間」として、匿名社会(テレクラやストリートなど)を居場所として捉える指摘も見られます。

また、「居場所のない子どもたち」(D・エルカインド著、久米稔ら訳)という本には、「成長するための時間」というものの必要性について書かれています。

私自身の「居場所」論を整理してみますと、

(順不同)

- 1) 安心感 = 承認伝達
- 2) 自信 = 自己肯定感 = 自己効力感
- 3) 意見表明
- 4) 自治
- 5) 時間
- 6) 希望

の要素が考えられると思っています。

この考えからすると、みなさんの家族はどうでしょうか？

家族が居場所ではないとしても、このような場所があるのでしょうか？

「まけないぞう」って知ってました？ 1998/09/21(月)

9月16日。宿泊地である神戸の舞子駅に着いたとき、「神戸空港建設に関する住民投票」を呼びかけている人がいた。

「あれ？空港を建設するの？」仮設住宅の問題なんかは、まだきちんとしなかつたんじゃないの？」そんなことを思いながら、親戚の家に行った。

その親戚(女房の義理の兄貴)は、酒を飲みながら、空港建設の話をし始めた。あれは、反対が多いんだ、と。進め方がおかしい、とも。

翌17日、「被災地NGO協働センター」の事務所を訪れた。

忙しい中、代表の村井さんと話ができた。

「まけないぞう」というのは.....

ゾウの頭の形をしたタオル。

このマスコットタオルは、全国から新品のタオルを集め、仮設住宅での仕事づくりに役立てよう」と現地のボランティアグループが呼び掛けたところ、ある被災者がタオルの端をゾウの形に縫うマスコットづくりを提案し、誕生したとのこと。

一枚、400円で販売したうち、材料費や輸送費を除いた100円が作った被災者に直接支払われるシステム。

「まけないぞう」は、この7月で、3万頭を越えたと。

被災地の人たちの頑張りど、ユーモアを感じる。

とても悲惨な出来事から新しい明日を生み出そうという、たくましさど。

帰りの新幹線の中で、いただいた資料や本、「ぞう通信」に目を通した。

=====

「わたしたちは、敗戦から立ち上がるために、ひたすら生活の豊かさをめざし、さまざまなことを後回しにして、階段を上りつづけてきた。まだまだ豊かさを手にしていないと焦り、次々とモノを求め、他の人よりもよい生活があるはずだと押しのけ、競い合った。そして、あの日、私たちが見たものは、戦後五十年の虚像ではなかったか。」

「『支え合う』は、どうしても支えている側か、支えられている姿かの片方を思ってしまう。しかし、いま支えられている人もかつては支える側にいたに違いない。この場所では支えているが、別の所では支えられることもあるだろう。……一瞬一瞬にとらわれず、時間と場所の座標を広く取って眺めれば、人は互いに『支え合う』関係を続けてきたし、続けなければならない。それが一人ひとりにとって『自立』ではないか。」

(「市民がつくる復興計画～私たちにできること」より)

=====

村井さんの話された言葉が心に残る。

「今私たちが進めている新しいコミュニティの創造を通して、自分の住んでいる町のコミュニティを見直すきっかけになって欲しい」と。

まけないぞう に関する連絡先  
〒653-0014 神戸市長田区西尻池町2-5-14  
電話 078-631-0833 鳥越 さんまで

あふれる情報の中で 1998/09/21(月)

まけないぞう、の取り組みを知ってとても素晴らしいと思ったことと同時にもう一つ、僕の頭から離れないことがあった。

それは、僕自身の中で阪神淡路大震災は、遠いものになってしまっていた、という事実だった。

簡単に言えば、「マスコミが取り上げる範囲でしか、自分は何も知らないているのだ」ということ。

今の世の中、次々と恐ろしい事件が起きている。

地下鉄サリン事件、いじめ自殺、神戸の連続小学生殺人事件、毒物混入事件……。

いずれにせよ、直接自分の生活に関係しないことは、次第に記憶の彼方に押しやられていく。それはやむを得ないことではあるが……。

いかに自分のアンテナを高くしてられるか。

同時に、情報があふれる社会の中で、物事の本質を見極められる目を持ち続けてられるか。

一見何の関係がないと思われるよそで起きた出来事の中に、自分に繋がるものを見いだし得るか。

他人の痛みを自分の痛みとして感じられる、感性を持ちうるか……。

ホント、まだまだだなぁ、と。

=====

北風の中に 春の足おとの近づきを聞き分ける、  
そんな耳を持ちたい

美女の舞踏に 骸骨の動きを見定める、  
そんな目を持ちたい

われを失うほどの窮境におかれても  
「はい」と「いいえ」は決して間違えて発音しない、  
そんな口を持ちたい

(むの たけじ著 詩集『たいまつ』)

=====

## レインボーハウス（虹の家）

その1 1999/02/15(月)

1月30日の夜、神戸のTomiさんの所に泊めてもらった。

そして、その夜遅く、毎年1月17日に放映される、阪神・淡路大震災の記録VTRを見せてもらった。断片的な映像しか見ていなかった僕にとっては、改めて「震災」というものを直視させてくれた。

Tomiさんのお宅は、あの阪神高速が崩れた所の直ぐ近く。

ご夫婦でその時のことを語ってくれた。

今回、機会があって関西に行くとき、Tomiさんには、「神戸の震災のことが何かしらわかるところを案内して欲しい」と頼んでおいた。

「OSMさん、直ぐ側にこの間できたばかりの『レインボーハウス』ってのがありますよ」と。

翌、日曜日、Tomiさんのお宅から歩いて数分の所にある、「レインボーハウス」に出かけていった……。

突然の訪問にも関わらず、事務局の方のお話を聞くことができた……。

その2 1999/03/01(月)

前回触れた、「レインボーハウス（虹の家）」の話。

僕が感じたことを書く前に、まずはいただいた資料を紹介させて下さい。

長いので2回に分けてお届けします……。

：\*：\*：\*。：\*：\*：\*。：\*：\*：\*。：\*：\*：\*。：\*：\*：\*：\*：\*：

1999年1月9日

なぜ「レインボーハウス（虹の家）」が遺児たちに必要なのか

あしなが育英会

会長：玉井義臣

全国の皆様のご支援のおかげで、震災満4年を前に、日本で最初の遺児専門の癒しのデイケアセンター「レインボーハウス（虹の家）」が誕生いたしました。感謝の気持ちでいっぱいでございます。

今なぜ遺児のために虹の家を建てなければならなかったか。

私たちあしながグループは、過去3分の1世紀、親と死別した子ら（「遺児」新はあらゆる災害・事故、病気等。40万人以上いる）に進学を支援し、精神的サポートを続けてまいりました。すでに5万数千人の子らが高校や大学の進学を果たしました。また一方で長期休暇を利用して合宿の集いを重ね、遺児を励まし元気づけてまいりました。

しかし、4年前の1995年の阪神・淡路大震災はわたしたちあしながグループにも大きな衝撃を与えました。数十秒の大地震が神戸市を中心に阪神広域に多くの家と心を破壊しました。6千人が亡くなり、573人が親をなくしました。激震の恐怖、生き埋めの言い難い不安、そして最愛の父・母、きょうだい、祖母との悲しい分かれ――それらが瞬時に子らの心をこなごなに粉砕したのです。子らはそのことを表現することすらできませんでした。

あしなが育英会と全国の遺児大学生は、市民ボランティアの応援を得て、震災4日後から活動しました。遺児がどれだけ生まれたか、行政もわからないので、志望者名簿を元に一軒一軒訪問して確認する「遺児探しローラー調査」を行いました。住む主を失った瓦礫の中で呆然と立ちすくみ、遺児の転居先もわからず、調査は難渋を極めました。多くのボランティアの努力の結果、573人の遺児の発生が判明しました。

遺児学生らが中心となって多くの学生ボランティアが、2月寒風について街頭募金し、遺族の窮状を訴えました。3月関西の遺児が学生ら（「遺児と共に生きる会」）は、遺児親子を励まそうと有馬温泉で集いを開きました。温かい湯が一瞬のくつろぎをもたらす喜んでもらえましたが、震災で負った「心の傷」が深く癒しがたい事をわたしたちグループは垣間見ました。

あしなが育英会では、4月、40万人もの病気・災害遺児の救済を一時遅らせても、この子ら573人と

共に生き歩むことに全力投球をすることを決めました。まず、みなが高校や大学に行ける奨学金 6 億円を目標に募金を開始しました。(おかげさまで現在 7 億円突破で進学支援は確保)

「共に生きる会」の遺児学生らは、家庭訪問を続け、子らと一緒に遊び励まし、もう一人の遺された親の話の聞き役をつとめました。そこで、自分たちと違う大きな心の傷の存在を感じました。夏休み香住の海水浴のついで、小学 4 年生のかっちゃんが描いた絵「黒い虹」に私たちは、過去に経験した事のないようなショックを受けました。月と星いっぱい夜空に虹が架かり、7 色のうち赤の部分が真っ黒に塗りつぶされていました。

かっちゃんは、お父さんと妹を震災で亡くし、自らは 9 時間生き埋めになり、助けられました。黒い虹は半年後のかっちゃんの心象風景だったのです。子らは日々粗暴になり、また無気力になっていました。

その 3 1999/03/08(月)

\*\*\*\*\*

なぜ「レインボーハウス(虹の家)」が遺児たちに必要なのか(後半)

\*\*\*\*\*

震災以後ずっと神戸にとどまり活動していたあしなが育英会の樋口和弘職員(レインボーハウス館長代行・チーフディレクターに就任)は、多くの子らに接し、遺児学生や同僚の感想を聞き、自らの遺児体験、仲間とのつきあいを考えながら提案しました。

この子らに「駆け込み寺」みたいなものが必要ではないか。いつでもそこに行けば気にかけてくれる人がいて、ホッとでき、また元気を取り戻せるような。

あしなが育英会では、この提案を採用し、かっちゃんの心が癒され、黒い虹が真っ赤になるようにしたいという願いを込めて「虹の家」(レインボーハウス)の建設を決定し、震災の年の 1 2 月、募金を開始しました。

一方で、癒しの方法と技術を虹の家に具体化するためにみんなで勉強しました。私たちは集いで「自分史語り」をさせながら、親の死と死後の生活が遺児の人格形成とその後の人生にどう影響していくかをずっと考え続けていました。学生寮で寝食を共にしながら、自助自立へ切磋琢磨させる中で、遺児特有の強さも弱さも見てきました。

ただそれだけのノウハウでは震災で瞬時に親と家をなくし、恐怖と不安が体と心の中に組み込まれてしまった震災遺児、とくに中学精華の幼児・少年たちに十分対応できないことに気づいていました。

精神科医、小児科医、心理療法士、カウンセラーなども震災遺児は道の対象で具体的な癒しの方法、技術を持たないことを彼らの口から聞き、日本社会自体が未知の体験であることを知りました。

そこで、全国の遺児学生が 5 7 3 人の親たちを訪問聞き取り調査をする一方で、心理学の進んでいるアメリカ全土に 7 0 数カ所ある「親と死別した子らの心の癒しをする家」の中で、最初にできた先駆的施設「ダギー・センター」(オレゴン州・ポートランド市)に学ぶことにしました。

何回か職員と遺児学生を派遣すると共に、同センターのトレーニング・ディレクターや死別児の癒しの研究者を招き、日本の関係者とシンポジウムを開きながら方法を模索しました。

それらの結果を踏まえ、1 0 0 回以上も設計会議を重ね、つくりあげたのが、今日できあがった「レインボーハウス(虹の家)」です。

あしなが運動 3 0 余年、「虹の家」活動のスタートは、「進学援助」と両輪をなすもう一つの大切な輪「心のケア」との本格的な取り組みの始まりです。試行錯誤しながら、時間と経験と知識を重ねつつ、5 7 3 人の震災遺児だけでなく、4 0 万人の遺児たちの心の傷を見つめ、ケアし、癒す、長い旅に出る心境です。また、それはきっと遺児だけでなく、全ての日本の子ども、いえ傷ついたまま大人になってなお悩んでいる人たちにたいしても役立つ日が来ることを確信しています。

「心」の問題の解決には、きっとたくさんの時間とお金と多くの人々の理解協力なしには不可能だと思います。レインボーハウス誕生の日に、国民各層のさらなるご理解ご支援をお願い申し上げる次第でございます。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:・'。.:\*:・'° 。.:\*:・'°:

いただいた資料を書き写しながら思いました。  
また、心から応援したいと思う人たちと出会うことができたなあ、と。  
できあがった後に、あーだ、こーだと言うことは誰でもできること。  
できあがるまでの苦労は並大抵の事ではないと思います。  
解説者、評論家がたくさん世に出ている中で、自ら創り上げることの大切さを改めて思いました。

.....自戒の念を込めて.....

## 海の色は黒い 1999/03/01(月)

「かっちゃん」の話聞いたときに思い出した。  
僕が大学時代のこと。先輩が現場の話してくれた。  
小学校の低学年だったと思う。  
その子は、真っ黒の海を描くのだと.....。

その子のお父さんは、漁業を営んでいて、ある嵐の時に船を出して亡くなった、ということだ。それ以来、その子は、黒い海の絵を描き続けていた、と。

その先輩が直接担任だったのかどうかは、定かではないが、かっちゃんの黒い虹の話と重なっていった。

## 止まった「時」を動かさせてあげて 1999/04/29(木)

～あしなが育英会財政ピンチ！～  
以前、メールマガジンでもお伝えした「あしなが育英会」の財政が厳しい状態にあるとのことです。(No.37～No.39)

：\*：\*：\*。 。\*：\*：\*。 。\*：\*：\*。 。\*：\*：\*。 。\*：\*：\*：\*：

25日(日) ゆーたと映画を観に行ったとき、街頭で「あしなが育英会」の募金活動をしていた高校生たちに会いました。

彼女たちは、ボランティアの学生ということで、「緑の羽の募金」の陰にかき消されそうになる中、一生懸命募金活動をしていました。

「ゆーたね、『パパあ、あれ買って』ってゆーたは言えるけれど、お父さんやお母さんを事故や病気や地震なんかで、亡くしてしまった子ども達がたくさんいるんだよね.....」

ゆーたの小遣いから、少しでもと思い、そんな話をしました。

最初は「じゃあ5円」とか言っていたゆーたも、結局、50円、募金していきました。

詳しくは、HPにまとめますが、今、不況の中で寄付金は減る一方。  
少しでも寄付をとということで、

=====  
40万人いる病気遺児・災害遺児高校に進学させるための  
「毎月500円玉一個のあしながさん」を募集しています。

震災遺児の心の傷を癒すために設立された「レインボーハウス」  
この「虹の家」の運営資金として毎月1口1000円の支援をする  
「虹のかけはしさん」も募集しています。  
=====

：\*：\*：\*。 。\*：\*：\*。 。\*：\*：\*。 。\*：\*：\*。 。\*：\*：\*：\*：

### 【お問い合わせ・申込みは】

あしなが育英会  
〒102-8639 東京都千代田区平河町1-6-8  
電話 03-3221-0888  
レインボーハウス

〒658-0012 神戸市東灘区本庄町1-7-3  
電話 078-453-2418

### 至急！賞金獲得のために今すぐお申し込み下さい！ 1998/09/15(火)

鈴木修様 おめでとうございます！総額17億2千万円のなかから賞金が当たります。来週の水曜日までにお申込書 参加料金をご投函下さい。

L P Sがあなたの代理として香港マーク6宝くじ購入手続きをし、参加確認証をお届けします。

鈴木様、これは冗談ではありません。100%真実です。

.....そうです。経済的に叶わなかった生涯の夢がこれで叶うのです。

ただひとつ、しなければならないことは：17億2千万円当選番号で申し込むことです

こんな封書が一昨日、舞い込んできました。

安物のワープロの文書です。

そもそも、「L P S」って何なんだ？

連絡先は、国際フリーダイヤル。

申込金は4回の抽選で2000円だそうです。

申込書の中にはクレジットカード番号を記入するところも.....。

んにしても、もう少しセンスの良い文書をおくって欲しいものだ。

### 幼児の名簿売ります！ 1999/05/19(水)

下記のようなメールが「まなびや」宛に届きました。

突然のメールで失礼致します。

うち会社の方で新鮮！極秘名簿！

幼児のいてる方の名簿（都道府県別）があります。

1件30円以上の物です。

御社のD.M・テレアポ等にいかがでしょうか？

99/01/16(土)号外で発行した【留守番の子どもを脅して住所を聞き出す】という出来事を思い出しました。滅茶苦茶腹が立ってきました。

友人が調べてくれて、メールから会社名等はわかりました。

「名簿を売る」ってのは、違法ではないんですよね?????

それとも法律に引っかかるんでしょうか？ うっ、知らない(;)

誰か教えて下さい。こんなのありですか？

### 学校からのダイレクトメール～他もやってますから～ 2000/05/02(火)

先日ゆーたにあてて市内の私立の学校から学校紹介のダイレクトメールが届いた。中高一環の学校だ。宛名には僕とゆーたの名前。そしてその右上には、IDナンバーがふられていた。

個人情報の問題、名簿の売買の問題がクローズアップされている昨今、

「えーっ？ 学校がこんなことやるの？」

と驚いた。企業から送りつけられるダイレクトメールも問題だけれど、「学校」は企業ではない。私学は経営と言う問題を抱えており、ある種の企業的色彩があるとはいえ、その前に「学校法人」なのだ。学校法人は企業ではない。

その学校に電話を入れた。以下、そのやりとり.....。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*:

午前10時 広報担当のFさん(女性)

こちらの用件が、「苦情」だとわかると「責任者がおりませんので、こちら から連絡します」とのこと。

「いえ、電話はこちらからします。責任者のお名前を教えてください」

「11時には学校に来ます。責任者はYと言います」

午前11時 副教頭のYさん(男性)

お「入学案内のダイレクトメールが届いたんですが、ウチの住所などをどうやって調べたんですか？」  
 Y「毎年、5、6年生を対象に送らせていただいています。印刷業者さんに発送もあわせてお願いしています」  
 お「望んでもいないのに送るのですか？」  
 Y「7年ほど前から、色々な情報を知りたいという親御さんの要望がありまして送らせていただいています。送られるのは困る、という方は、こちらで以後発送しないようにいたします」  
 お「そういう問題じゃないでしょ？今、名簿の売買とか色々な問題が出てるときに『学校』がそのようなことをして良い、と考えているんですか？」  
 Y「他の高校なども行っておりますので、ダイレクトメールもやむを得ないと思っております」

：\*・’° 。.:\*・’° ° ‘・\*:..。.:\*・’° 。.:\*.....\*:

こんなのあり？

電話を切った後も、怒りが収まらなかった。これは全国的な潮流なんだろうか.....？

学校法人～「私」立学校～ 2000/05/02(火)

教育基本法第6条(学校教育)には以下のように述べられている

|                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>法律に定める学校は、公の性質をもつものであって、国又は地方公共団体の外、法律に定める法人のみが、これを設置することができる。<br/>         2 法律に定める学校の教員は、全体の奉仕者であって、自己の使命を自覚し、その職責の遂行に努めなければならない。このためには、教員の身分は、尊重され、その待遇の適性が、期せられなければならない。</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

「私立学校」というネーミングがよくない。

いかにも「私」の学校というイメージを持たせる。

しかし、「法律の定める法人」しか学校をつくれないのであり、「公の性質を持つものだ。

会社は(株式会社であれ、有限会社であれ)商法によって規定され利潤を追求することを目的に設置される。だから、設立しようと思えば、誰でも簡単につくることができる。

ところが学校をつくるとなるとそうはいかない。

設置の許認可は各都道府県知事によってなされ、「安定した学校経営」ができるかどうか、非常に問題になる。ここから「資金力」がものを言う。

だから「宗教法人」など特定の「お金持ち」が学校をつくってきた。

そこが「私」のイメージを更に強めてきた。

「文句があるなら辞めてください」

僕自身、経営者にそう言われたこともあった。

：\*・’° 。.:\*・’° ° ‘・\*:..。.:\*・’° 。.:\*.....\*:

私立であろうと公立であろうと、「学校」は子ども達のものであり、未来のためのもの。

学校と利潤とは絶対に相容れないと思っている。

一方、私学経営は入学する生徒数の問題で大きく左右される。

そこで独自の「特色」を生み出そうとする。

よくある例が「進学=特進クラス」の設置や、「スポーツで名前を売る」ためのスポーツ特待等々。

経営手法について云々するつもりはないが、今回のことで一番頭に来ているのは、「学校」と名の付くところが、ダイレクトメールを送りつける無神経さもさることながら、それを「他もやっていますから」という言葉を発する人間が、学校の中枢にいるということだ。

：\*・’° 。.:\*・’° ° ‘・\*:..。.:\*・’° 。.:\*.....\*:

いけません。どーも頭に来てしまってます。

もう少し落ち着かないと.....。



ただ、これは言わばなしにはしたいと思いません。  
繰り返しになりますが、これ、全国的に普通に行われているんでしょうか？  
どうしてもそうだとは思えないんですが.....。

## 名簿はどこから？～続・ダイレクトメール～ 2000/05/15(月)

前回この「子育て...」に書いたダイレクトメールの件。  
かなり頭にきていたので、僕の言いたいことがうまく伝わらなかったのだろうか？ そんな気もするので、改めて整理したいと思う。

:.:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .:\*.:'° 。.:\*...\*:

「ダイレクトメール」という手法について  
これを否定する気持ちはない。色々な団体が、それぞれが努力して集めた個人情報をデータベースにして、案内を出すことは何ら問題はないと。

### 名簿の入手方法

ここが問題なのだ。どこからその名簿を手に入れたのか、ということが一番気になるのだ。  
このメールマガジンでも、今までに二度ほど、この手の問題について触れたことがある。

幼児の名簿売ります！  
下記のようなメールが「まなびや」宛に届きました。

=====  
突然のメールで失礼致します。うち会社の方で新鮮！極秘名簿！  
幼児のいてる方の名簿(都道府県別)が有ります。  
1件30円以上の物です。御社のD.M・テレアポ等にいかがでしょうか  
=====  
-1999/05/19(水) -No.44- より

千葉県のもこさんからのメール

=====  
私は11歳の小学校6年生の男の子と4歳の保育園児の女の子を持つ働く母です。  
こんな世の中ですから、心と身体を丈夫に育てる子育てをしてきたつもりです。働いている母親なので、子どもにも負担をさせている部分も多々あるのですが、勉強云々より、きれいな夕日を見て「きれいだねえ」と言える親子でありたいと思ってます。  
さて、前記の事件は、先週の土曜日に起きました。夕方、下の女の子を連れて買い物に出かけ、帰宅すると、長男が号泣しています。  
電話で、脅迫されながらクラスの友達の電話と名前を言ってしまった・・・という訳です。  
...以下略  
=====  
号外 -1999/01/16(土)- より  
全文は[http://www.osamu.net/backno/990116\\_gogai.html](http://www.osamu.net/backno/990116_gogai.html) にあります

「学校は個人情報の守るべき立場にある！」  
更に今回は、学校とのやりとりの中で、副教頭さんが  
「印刷業者さんに発送もあわせてお願いし、「他の高校なども行っておりますので、ダイレクトメールもやむを得ないと」という答えたことに、一番問題を感じている。

上に紹介したように、あの手この手で名簿を手に入れようとしている時代に、人権を守ることを教えねばならない、教育機関が「やむを得ない」という理由で名簿業者を利用するという発想が許されることではない、と思っている。

:.:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .:\*.:'° 。.:\*...\*:

僕の息子の通う小学校では、数年前から生徒名簿の配布をやめました。  
先だって、校長さんと話す機会があり、この話をすると  
「えー？ そうなんですか？」と驚いていた。

一方、近所のお母さん達にこの話をすると  
「ウン、来るわよ。上の子の所にも、 高校からも来たし、××高校からも来たわよ」「色々調べてる見  
たいね」と。  
あまり、気にはしていない様子だった。そういう受け止め方が大部分なのかな、という気がした。これは  
これで考えないといけないことだと思ったりもした.....。

「ダイレクトメール」に寄せて 2000/05/17 (水)

以下のようなメールを読者の方からいただきました。

でも、なぜだろう？  
僕とは違う意見だなぁ、と思いつつも、なるほどこういう考え方もあるなぁ、と受け入れてしまうのは  
.....。  
この辺りが一番不思議に思ったりもしました。

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° !~\*:~.。.:\*:~!° 。.:\*:~!~\*:

名簿を利用すること

「名簿」に関して(5月2日号)は非常に辛い思いで読ませてもらいました。  
私自身、企業で働いている身として、新しいお客様にアプローチをする際に、「業者から名簿を購入する」  
ことは避けて通れない道だからです。

「業者から名簿を購入する」こと自体にそれほど後ろめたさは感じません。  
自分たちの持つ良い商品・サービスはより多くの人に活用していただきたいですし、ダイレクトメールに  
よるマーケティング活動は、規模、効果性から言っても無視できないと思います(おさむさんも「DMがい  
けない!」と言ってるわけでないことはよくわかります)。

ただ、問題になるのは、おさむさんが挙げておられるケースのように、強引なやり方で名簿を獲得しよう  
という悪質な業者が中にはいるということです。  
名簿業者を活用する立場にいる以上、悪質な業者を見極めることが必要不可欠です。

名簿業者は、以下のようなプロセスで名簿を獲得するのが普通です。

- 1) 電話帳を入手する
- 2) 電話をかけ、データをクリーニングする(アンケートをして必要な属性を聞き出す)

私は名簿業者を擁護する気はないですが、挙がっていたような強引な例は、ごく悪質なケースだと考えら  
れます。それに引きずられて、「すべての名簿取引が悪である」と考えるのはどうなんだろうかと感  
じます。

と、自分自身のやっていることを少し棚に上げてみたりして...

個人情報の売買について

最近、たとえば東大が「合格者の氏名」公表を中止するなど、  
個人のプライバシー保護が声高に叫ばれています。ただ、私自身は「何が何でもプライバシーの保護!!」  
という世論の空気には疑問を感じています。

企業の一員という立場を離れ、一消費者として考えても、私自身は自分の情報が企業に伝わっていること  
で「メリット」に感じる事がたびたびあります。  
たとえば、自分のほしい商品やサービスをタイムリーに安価で受けることができるなどです。

それから、パソコンソフトなどは、「ユーザー登録」しておくことで、お得なバージョンアップのお知ら  
せが届いたりしますよね(頻繁なバージョンアップが「お得」かどうかの議論もあると思いますが(^\_^;) )

どうも「何でもかんでも保護だ保護だ!」と言っているだけの様な気がしてならないんですよ、みん

な。

思い起こされるのは「捕鯨」だったりして...。  
「鯨を捕るな!」と言っている国は、鯨を食べ、さまざまに加工して利用するという昔から日本の文化と生活を踏まえていません。よい面を見ていない。

問題は「捕ってはいけない」のではなく、「乱獲がいけない」ってことですよね？

これと同じで、個人情報の売買に関しても、何でもかんでも右へならえで「自分の情報が売り買いされるのはいかんいかん!」と騒ぐのはどうかと思うんです。思考停止、ですよ。

たとえば過ぎたかも知れませんが、必要なだけの個人情報が企業に伝わることのメリットを見つめる必要もあると思います。

むしろ問題は、「自分の情報が売り買いされること」ではなく、「自分の許可していないことまで売り買いされること」ですよね？

そこが論じられることなく、「個人情報の保護!」と叫ぶのはやめてほしいなと思っています。

たとえば、最近、ある旅行会社が、私のメールアドレスで勝手にメルマガ配信サービスを登録していたのには閉口しました。私は一度だけその会社に旅行の問い合わせをしただけで、(旅行商品の購入は一切していません)メルマガをよこしても構わないなんて一言も言っていません。

まあ、メルマガなら「登録削除」すれば済みますが、これがお金の絡むことだったら、と思うとぞっとします。困っちゃうのはそういう場合なんじゃないでしょうか。

学校と個人情報

さて、おさむさんがいちばん怒っている「学校は個人情報を守る立場にあるはずなのに」という点についてです。

メルマガを読む限り、どうもこのケースでの学校は、リスク管理や顧客満足に関する意識が低いようです。小学生を持つ家庭を「将来のお客様」ととらえ、DMを送るのなら、送った後のフォロー、おさむさんのようなクレイマー...(^\_^;)への対応などをきちんとすることが(企業の論理で言えば)必要不可欠です。

...つい企業の論理を持ち出してしまいましたが、おさむさんが論点にしている「私立学校と営利の追求」の点に関しては、難しいと思います。それを抜きに語ることはできないところがある...

確かに、学校法人は利潤追求に走っては行けません。

しかし、そうはいっても「私立」です。生徒が集まらなければつぶれてしまいます。そして、今私立学校は「急激な少子化」に直面しています。「子どもたちのため」がまず先にあるのだとしても、肝心の「子ども」がいないわけですから...。それこそ目の色を変えて「顧客を獲得」しなければならないわけです。

これといって特色も打ち出せず、安易なDMマーケティングに頼ろうとする私立学校が出てきても不思議ではありません(残念ながら「一般的・日常的に行われているか」までは知り得ないのですが...)

いろんなケースがあると思うので一概には言えませんが、そんな状況もあるのかな、と思います。

:.:.'° 。.:\*.'° ° '.\*:.. .\*:.'° 。.:\*...\*:

こんなメールでした。

- > これといって特色も打ち出せず、安易なDMマーケティングに頼ろうと
- > する私立学校が出てきても不思議ではありません。

こういう「学校」は、つぶれてしまっても仕方ないんじゃないの？

ってのがあります。(笑)

言い過ぎかなあ.....?

なんか反感買いそうだな、こんなこと言うと.....。

# 、インターネット

S O I - インターネットで学べる学校 1998/06/09(火)

インターネットマガジンの7月号に紹介されていました。

S O I (School Of Internet)

慶應大学の村井氏が中心になって(?)進めている「WIDEプロジェクト」の中の実験です。

大学の教室で行われている授業をビデオで撮影し、リアルビデオにエンコーディングすることで、世界中のどこにいても授業を受けられます。

早速HPを見てみました。内容は難しそうな感じもしますが、とっても興味深い取り組みです。で、早速僕も入学手続きと履修手続きをしました。

授業はリアルビデオで提供されるので、リアルプレーヤー5.0以上が必要になります。

僕は、「コミュニケーションネットワーク論」というのと「情報処理1S」というのを聴講することにした。下記のようなメールが来ます。

=====  
貴殿の申請により、WIDE大学において履修/聴講科目変更の手続きが完了いたしましたので、お知らせいたします。  
(略)

-----  
科目番号 科目名 担当 履修/聴講  
S0198007 コミュニケーションネットワーク論 村井 純 聴講  
S0198008 情報処理I(S) 村井 純 聴講  
WIDE University  
School of Internet  
Admission Office  
=====

なんか知らないけれど、ワクワクしてしまいます。  
URLはこちらです。  
<http://www.sfc.wide.ad.jp/soi/contents.html>

続・S O I - インターネットで学べる学校 1998/06/15(月)

前号で紹介したS O Iですが、早速授業を受けてみました。

「コミュニケーションネットワーク論」です。

講義の中で村井氏が言っていた言葉がとても印象に残ります。

「これからますますデジタル通信は発達していくけれど、今の時代に生きる我々がコミュニケーションをとっていく上で、デジタル技術がどう生かされていくべきか、という観点で考えなくてはならない」と。

おもしろかったあ.....

1) 講義にあわせてHPが自動的に更新される、ってのに驚き。

.....リアルプレーヤー、HP、エディタが僕のPC上で開かれていました。それで、ちょっと気になった事は、画面をとめて、エディタにメモ書き、なんてことをしてました。2) 途中疲れたら、ポーズさせて、タバコを吸いにいったり、もう一度話を聞きたいところは巻き戻したり.....。ビデオですよ。

また、講義中の一服などは普通では考えられないことだけれど。

3) 課題がHP上で公開されており、誰でも見ることができる。いい。

ちょっと考えてしまった

1) 電話代を考えてテレホーダイの時間にアクセス。

昼日中にちょっと、っていうわけにはいきませんなあ。

(途中眠くなって寝てしまった.....)

2) 1時間半の講義時間

は、やはり長いなあ。「学ぶ」ということはしんどいことだらけれど

3) 我が家の環境は、ISDNにテレホーダイ。

288のモデムだったらどうだろうか、と。

いずれにせよ、気合いを入れて学ばなくてははいけないことは確かです。

でも、この試みはすごいことだと、改めて実感しました。

## ICQ - I seek you 1998/06/09(火)

最近、HPのメイン画面に「ICQ#13026400」と入れました。  
簡単に言えば、登録してある友人等がインターネットに接続しているかがわかるという優れものです。その場ですぐにメッセージが送れたり、チャットができたり.....。  
うまく説明でないのですが、面白いです。(バキ)  
インターネットを使つての世界がどんどん広がっていくような.....。

ま、下記HPが参考になるのではないかと思います。

「ICQのすすめ」

<http://www.geocities.co.jp/SiliconValley/1696/icq.htm>

「ICQ道場」

<http://www.fitweb.or.jp/~asuka/web/icq/index.html>

「くまチャット」

<http://www.ceres.dti.ne.jp/~yuzuru-k/>

「オンライン用ICQ98初心者詳細導入マニュアル」

「オンライン用ICQ98完全コマンドマニュアル」

<http://village.infoweb.ne.jp/~sho/icq.htm>

もし、ICQに登録したら、メッセージ下さいね~!

## インターネットで広がる不登校児教育 1998/06/15(月)

一昨日の土曜日、NHKの「教育トゥデイ'98」で表題のようなタイトルの番組が放映された。タイトル自体あまり好きになれなかったが、気になったので親父に頼んでビデオに撮っておいてもらった。  
で、肝心の中身。

東京都三鷹市でのインターネットを使った、不登校の生徒へのサポートを紹介していた。

三鷹市の教育委員会が家庭にパソコンを無料で貸しだし、インターネットを使ってe-mailでコミュニケーションをとったり、実際に「授業」を行ったりするというもの。

システムについてはIBMが開発したソフトを使って行っているみたい。

IBMのHP

[http://www.ibm.co.jp/edu/solnews1/sn3\\_3\\_4.html](http://www.ibm.co.jp/edu/solnews1/sn3_3_4.html)

三鷹市のHP(面白くないです。^^;)

[http://www.education.or.jp/kyoiku-center-mi/koho-mi\\_2.htm](http://www.education.or.jp/kyoiku-center-mi/koho-mi_2.htm)

出発は、学校に来られない子どもの学習の保証、というところがスタートだが、この試み自体はこの4月にスタートしたばかりだという。今後試行錯誤が繰り返されるだろう.....。

TVに出ていたシステム開発に関わった東京学芸大学の助教授は「マイナスからゼロに戻す、ということではなく、もっと積極的な意味合いを」と。

こうしたシステムを大手進学塾が取り入れていったり(多分開発しているんでしょうね)していったり、ますます学校の存在意味を見失う人たちが出てくるのではないだろうか、とってしまった。

一方、こうしたシステム作りには膨大な予算がかかるので、公的なところか、企業ベースでしか取り組めないのだろうなあ、とも。

文部省や教育委員会の取り組みでは自ずと限界は見えているし、かといって企業の商業ベースで進めていっても話にならない。

インターネットの持つ特性を生かして、「市民」の手による教育システムが構築できないだろうか.....?

## やっぱり英語ができないと..... 1998/07/014(火)

先だって、アウトドアのカatalogを無料で送ってくれる、海外のサイトを見つけ、申込をしました。そして、しばらくして英語のメールが来ました。

.....っく、大体はわかるが.....、よくわからん.....(汗)

ということで、英日翻訳ソフトを探している中で、インターネット上で翻訳してくれるサイトを見つけました。

「翻訳サービス MT WAVE お試し版」

<http://mtave.softpark.jp/laza.com/MTave/trial.html>

ここは、日英、英日両方あります。翻訳されたものはメールで送ってきます。  
「ロゴヴィスタ」  
<http://www.logovista.co.jp/>  
Web上で翻訳結果が表示されます。でも、200字程度だと。

勢いがついてしまい、パソコンショップに行ったついでに、翻訳ソフトを購入してしまいました。カテナ(株)の「コリヤ英和98!」です。  
定価は¥7,800でしたが3割引で¥5,460でした。

翻訳ソフト(サービス達)は、下記のように訳してくれました。

#### 【原文】

Enter the Maui Mania contest for a chance to win five days and six nights in spectacular Maui!  
And if you can't make it to Maui, you can still see the hottest summer swim wear at Fashionmall.com in the Excite Shopping Channel's Clothes and Beauty department.

壮観なマウイで5日および6つの夜を勝ち取る機会に、マウイ狂気コンテストを登録してください!  
また、マウイに参加することができなければ、exciteを買うチャンネルのFashionmall.comの最もホットな夏泳ぎ服が衣服および美部であることをなお理解することができる。  
<<翻訳サービス MT WAVE お試し版>>

壮観なマウイ (Maui) で5日と6つの夜に勝つチャンスのためにマウイ(Maui) そう病コンテストに参加しなさい!

そしてもしあなたがマウイ (Maui) にそれを作ることができないなら、あなたは Excite 買い物チャンネル (Excite Shopping Channel) の服と美しさ課で Fashionmall.com においてまだ最も熱い夏水泳衣服を見ることができる。

<<コリヤ英和98!>>

.....ウン、なかなか面白い!!!  
いずれにせよ、英語はきちんと身につけないとなあ.....。

#### 世界の子供達とインターネットで話そう 1998/09/28(月)

という計画が密かに(笑)進行しています。  
メールマガジンの読者である、幸田さんが計画をすすめています。  
メールのやりとりを通して、僕も可能な限りお手伝いさせていただくことになりました。

「メカ音痴の幸田がインターネットで子どもたちの国際交流を実施する試行錯誤の様子」(本人弁)は「世界の友だちと話そう日記」

<http://osamu.net/cgi-bin/diary2/diary.cgi> で、お読みいただけます。

また、計画の概要等については

<http://www.ne.jp/asahi/gsp/worldfriends/netfriend-outline.html>

にあります。まだまだ未完成の部分もありますが、何を幸田さんがされようとしているのかはご理解いただけるかと思えます。

果たしてどうなるのか、というの僕にもわかりません。  
ただ、魅力ある企画に少しでもお手伝いできたら、と思っています。

このプロジェクトについては、今後もメールマガジンでお知らせしていきます。乞うご期待!

## イスタンブールより～世界の子供達と話そう～ 1998/12/23(火)

以前、このメールマガジンでも紹介したことがある、神戸在住の幸田さん。  
来年4月の「世界の子供達とインターネットで話そう！」の本番を前に事前調査として、中央アジアに出かけています。

先日も、トルクメニスタンから、メールが届きました。  
現地レポートについては、また彼女のHP等で紹介がされると思います。  
とりあえず、彼女の日程は下記の通り。  
このメールマガジンでも、レポートをお送りします。

.\*:.'° 。..\*:.'° ° .'\*:.. .\*:.'° 。..\*:...\*:

イスタンブール ～12月13日(日)  
・滞在先=イスタンブール・ビルギ大学女子寮  
アシュカバード(トルクメニスタン)12月14日(月)～20日(日)  
・滞在先=調整中  
アシュカバード イスタンブール プルサ 12月21日(月)  
プルサ ～12月24日(木)  
・滞在先=調整中  
アンカラ ～12月25日(金)～29日(火)ごろ  
・滞在先=調整中  
12月30日～'99年1月2日は 休暇  
ウルファ、ディアルバクル、イズミル 1月3日(火)～10日(日)  
・滞在先=調整中、ディアルバクルは新人映画監督ハサン・カラジャダーク  
んのご実家を予定  
イスタンブール 1月11日(月)～16日(土)  
・滞在先=イスタンブール・ビルギ大学女子寮  
1月17日(日)～20(水)はバイラム(ラマザン=断食月=明けのお祝  
いの休日)のため、休暇  
1月21日(木)イスタンブールより日本へむけて出国  
1月22日(金)日本(関空)到着

.\*:.'° 。..\*:.'° ° .'\*:.. .\*:.'° 。..\*:...\*:

.....アメリカの空爆、彼女は向こうでどうとらえたのだろうか？

## Yahoo!掲示板に思う 1998/10/05(月)

既に、MyYahoo!の登録をし、各種の掲示板をご覧になっている方も多いかもしれない。  
教育というジャンルの中に、更に「教育現場での問題」「女性」「障害者」「全般」「入学試験や各種資格」  
と細分化されている。  
Yahoo!へのアクセスは1000万ページビュー/日と言われるほど。確かに色々な書き込みがある。

しかし、読んでいて非常に不愉快な発言が多い。  
各自が自分の情報を登録すれば良いわけだが、発言者の状況がわかるのは、「適当につけたID」だけ。  
出身地も、年齢も性別も、e-mailアドレスの公開・非公開も全て本人の意志に任される。

確かに、不特定多数に自分をさらけ出すことは恐ろしいことだ。  
しかし、匿名性を生かして好き勝手な発言が多いのには嫌気がさす。  
きちんと自己主張するなら、その発言の責任を持つべきだと。  
しかも、Niftyのsysopのような人がいるわけではない。

インターネットは確かに普及してきたし、今後も普及していくだろう。しかし、Yahoo!の掲示板に見ら  
れるような「無法地帯」(と僕は思う)に対して、どう対処していくのだろうか？  
また、コミュニケーションツールとして、インターネットは今後、どう発展していくのだろうか、そう思わ  
ないではいられない。

## Mind-it、使えます 1998/10/12(月)

HPを先週あたりから、コチョコチョいじってます。その中で、「子育て」「学校」「出来事」「家族」の各ページには、「Mind-it」というのを取り付けてみました。

これは、先週紹介しました、「情報検索と教育」のメーリングリストで教えて貰った物です。そのページが更新されたら、メールで知らせて貰えるサービスです。勿論、無料です。

実際に、使ってみると、いきなり英語が飛び出てきますので、僕もたじろぎました。

でも、使用方法は至って簡単で、一度、自分のメールアドレスとパスワードを登録しておけば、気に入ったページをどんどん追加できるのです。

具体的な使用方法のページもつくりました。

[http://osamu.net/use\\_mindit.html](http://osamu.net/use_mindit.html)

です。

こうした無料サービスが、どんどん提供されていくこと自体が、凄いことだと思います。

同時に英語の力が必要だということも痛感しました(涙)

## 自分の居場所を探す 1998/10/19(月)

大体どこのサイトにも、掲示板の類が設置されています。

掲示板を回ったりしながら、そこのカラーが出ているなあ、と思いました。

で、自分の感覚にフィットするところを探しながら、ふらふらと.....。

ふと、子ども達の姿と自分の姿が重なりました。

現在の教育問題が語られるとき、「居場所のない子ども達」「自分の居場所を探して.....」等と言われることがあります。

でも、考えてみれば、僕自信も、人とのつながりをインターネットの世界に求め、自分の居場所をアチコチ探しているんじゃないだろうか

現実社会の中でうまくいかないコミュニケーションの埋め合わせをインターネットに求めているのではないか.....って。

とても和やかな掲示板も見つけました。運営者の人柄がよくわかります。

一方、インターネットの匿名性を生かして(?)、随分乱暴なやりとりがされている掲示板もあります。

僕は、こうした文字ベースのコミュニケーションには限界があると思ってます。だから、そんなにムキにならないで! といつも思ってしまうのです。

もっと穏やかに行きましょよ。

ムキになって勝負する場所は、ここじゃないでしょ? って。

そんなことを思いながら、自分の居場所として、「NOTE / KEY」システムを使った掲示板を設置しました。

僕にとっても皆さんにとっても、ホッとしたり、時には考えさせられたり.....、そんな場所になってくれることを願っています。

## めるまが『子育て、教育、学習』専門店 1998/11/30(月)

というのを先週あたりから作っています。

「子育て」「教育」「学習」のメールマガジンを紹介するサイトです。

まぐまぐのHPを見ると、「お酒」や「パソコン初心者」を対象にしたメールマガジンを集めた専門店があります。

僕もメールマガジンを発行して、実に多くの人と意見交換ができるようになりました。メールを通して、僕の世界が広がっていくのがわかります。

ああ、こんなメールマガジンでも少しは、考えたりするきっかけになっているのかな、と思うと嬉しくなります。

もっと色々なメールマガジンで勉強したいな、と思い「子育て」「教育」といったキーワードで調べよう



としたけれど、まぐまぐは、どうもわかりにくいんですね。  
ならば自分で作ってしまおう、となったわけです。

別にヨイショでも何でもなく改めて実感した。今、学校とか教育とかが色々と論議を呼んでいるけれど、メールマガジンの発行システムを考え出したまぐまぐさんは、ホント面白い場所を提供してくれていると思った。

学校とか、地域とか、年齢の差をこえて、誰もが「先生」になりうるのだから。

学校に行っていない子ども向けに勉強を教えるめるまががあったら.....。  
お母さんが子どもに読んであげられる、めるまががあったなら.....。

色々な人が、その人なりの思いや、知識を伝えられるシステムは「学ぶ」場所を飛躍的に広げたと思います。

そういうわけで、メールマガジンをリストアップして、発行者の方へメールを出して、まぐまぐに質問したり.....。

来週には皆さんにも「めるまが『子育て、学校、教育』専門店」開店の連絡が出来るかと思います。  
(ゼイゼイゼイ.....)

## まなびや開設の思い 1998/12/07(月)

\*\*\*\*\*  
学校に行っている人も行ってない人も、  
大人も子どもも.....  
誰もが語れることがある。  
「みんなで学ぼう！みんながせんせい！」  
\*\*\*\*\*

「キャッチコピーとロゴを使わせて下さい」と、まぐまぐのウェブマスターである深水さんから連絡をいただいたときは、びっくり仰天！ 勿論、快諾。そしたらなんと「まなびや」のタイトルロゴと、キャッチコピーがまぐまぐのトップページに飾られているではないか！

驚くやら、嬉しいやら、恥ずかしいやら.....。

12月1日に『まなびや』を開設し、プレスネットワークでの配信、ウィークリーまぐまぐでの紹介等があり、1週間の間に6000を越すアクセスがあった。(てらこやへは、1300)

とにかくメールが来る。登録依頼のメールが多いが、そこに一言二言、触れられていることがまた、色々考える材料を与えてくれる。

登録依頼のメールが来ると、HPがあればHPを見る。  
メールマガジンのバックナンバーがあれば、いくつか読んでみる。  
登録した方のメールマガジンを購読する。

自分が今までいかに一つの方向からしか見ていなかったかが、よくわかり、ホントに考えさせられることばかり.....。

ついつい時間が過ぎていってしまっている。

手作業の更新だから、発行者の方と確認したりでモタモタはする。けれど、そのモタモタを大事にしたいな、と思っている。

いずれにせよ、ICQの「顔ぐるぐる状態」ならぬ、「頭ぐるぐる状態」のここ1,2週間.....。おまけにアホをして、ハードディスクの大事なデータを全部消してしまうし.....。(涙) 後述

僕に何ができるの？ ~僕とメールマガジン~

\*\*\*\*\*

「子育て・学校・子ども達」から「ぼちぼちいこっ！」へ

\*\*\*\*\*

4月1日、この「子育て・学校・子ども達」のメールマガジンを発行し始めた。教壇を離れ、これから何をしたいのかわからぬまま、とりあえず、色々な思いをまとめてみよう、ということが出発だった。たくさんの人とメールのやりとりをするようになった。それらに一つ一つなずいたり、考え込んでしまったり。気がついてみたら、今日で30号。読者も700人近くになった。

凄いことだ。

そして、気がついたことは、みんな子育てで悩んでいるんだなあ、ということと苦しんだりしているのは僕だけじゃないんだな、という広がり。それが「子育て日記 ぼちぼちいこっ！」の発刊につながっていった。

まだ、たった10号でしかないが、この間にたくさんの励ましや感想のメールをいただいた。中には、「とても考えさせられます」「ためになります」というメールもあるが、一番救われているのは、僕自身だと思う。

「我が子」「私」からの出発ではあるが、「子ども達」「私たち」という広がりが出ていって素晴らしいなあ、と思っている。

\*\*\*\*\*

『まなびや』『てらこや』へ

\*\*\*\*\*

今日の教育現場は本当に大変な状態だ、と色々なマスコミが取り上げたりしている。そして、同時に多くの大人達が、「学校だけの問題ではない」ということに気がつき始めたのかもしれない。

しかし、現場の先生からしてみれば、何年も前から言ってきたことが、ようやく世間の知るところになった、ということではないだろうか？

そんな声も聞こえてきそうだが、今、本当に大人が問われているのではなからうか？

「じゃあ、あなたは何をやるの？」と。

僕自身4月からずっと悶々とした日々を送りながら、自分に何ができるのだろうか、と考えてきた。

僕なりにできること、それが「まなびや」であり、「てらこや」だと、今思っている。

大人自身が学ばなくては！～「まなびや」～

\*\*\*\*\*

「知らなかった」ですまないために

\*\*\*\*\*

「みんなで学ぼう！みんながせんせい！」の中の「みんな」という言葉。

みんな一緒、一列横並び的なイメージもあるけれど、「あそこがそうだから……」みたいなぬるま湯的な

「みんな」は僕の中には浮かんでこない。

僕は自らの意志で決断し、他人任せにしない人達のことを想定している。

僕もこの間、「知らなかった」という手ひどい失敗をした。

「知らなかった」という言葉は聞こえは良いかもしれないけれど、一方「知ろうとしなかった」自分の責任から目を背けさせる言葉でもある。

「そんなことは知らなかった」という言葉は、もう使いたくないと思っている。そのために「知るきっかけ」はたくさんあったほうが良い。

\*\*\*\*\*

もっと学びたい！

\*\*\*\*\*

子ども達に学べ！と言う前に大人がもっと学ばなければならないのではなからうか？

もっと広い視野を持つために。

ちょっとのことではごまかされない目を持つために。

様々な困難がある中でも賢く力強く生き抜いていくためにも。

メールマガジンは、地域、性別、世代を越えて、「学ぶ場」を飛躍的に広げてくれた。

その人でなければ語れないこと、その立場でなければ伝えられないことがあり、それは何も「学校」という狭い範囲に限定されることではないのだ。

実に、幅が広く、また深い世界が広がる可能性を持った場だとも思っている。

メールマガジンを読むと、「こんな世界があったのか！」とか「そういう見方もあったのか！」といった、実に様々な驚きや発見がある。  
本当に面白いと思う。

僕自身、色々な人と結びつくことで、たくさんのことを学ばせてもらっている。  
もっと学びたい、と思う。

子ども達へ ~「てらこや」からの手紙~  
今日、初めてゆーたに自分の教え子と卒業生が自殺をしたことを話した。  
子ども達がゲームをやりながら「死ね！」と言う言葉に、なぜ僕が敏感に反応するのか。また、安易に「もう、死にたい」と口にするゆーたにムキになるのかを.....。

ゆーたは多分よくわからなかったと思う。でも、いつかはわかってくれると思うし、わかって欲しいと思っ

っている。  
今子ども達は、本当に大変な時代だと思う。  
とても明るく未来を語れるような状況ではないかもしれない。  
未来を見失っている大人達には、子どもに語るべきものもないかもしれない。

「いついかなる世でも、一番しわ寄せがくるのは社会的弱者」と言う言葉を思い出す。子ども達自身が、一番苦しんでいるのだと僕は思う。

僕たちは、今、子ども達にもっともっと語って行かねばならないと思う。  
語るべきものは、何でも良い。一人一人の切り口で良い。  
語るべきものを見失った大人は、それを見つけることから始めて行かなくては。

『てらこや』からの手紙」を発売するにあたって、もう一度、僕は子どもに語るべきものを探したい、と思っ

ている。  
子育て・学校・子ども達.....  
すっかり更新がままならなくなった自分のHP。  
でも、このメールマガジンとHPが、僕にとっては一番大事にしていきたいと思っている。  
あれもまとめたい、これも書きたい、というのが山ほどあるけれど、ま、ぼちぼちこうと。

これからもよろしくお願いします。

子ども達へのメッセージを！ 1998/12/15(火)

『てらこや』というメールマガジン紹介サイトを開設してみて、改めて思ったことだ。

現場の先生達のHPをよく見て回る。  
いいなあ、こんな先生に息子も教えてもらえたら.....。  
こんな先生と出会えたら.....。

とわき上がってくるやっかみ気分を押さえつつ、いろんな報告を読んでいる。  
「この先生と出会えた子ども達は、しあわせだろうな.....」と。

最初は、そう思いながら、HPを見て回っていたが、その内、物足りなさを覚えるようになった。

自分のクラスの子どもの事は書かれているが、後はやはり大人向け。

うちの小僧にも何か言ってよお、と。

恐らく全国各地には、「いい先生」に巡り会えずに、一人で悩んでいる親やそれ以上に子ども達がたくさ

んいると思うのだ。  
そうした「一人で悩んでいる」子ども達や親たちへ、もっと語りかけて欲しいと思うのは僕だけだろうか  
.....？

丁度季節は学期末。

日々子ども達との相手に追われる上に、成績処理等もあるだろう.....。

この時期の忙しさは尋常ではないし、「師走」とはよく言ったものだ、と昔同僚とよく口にしていた。

一方通行になってしまい、反応は少ないかもしれないが、こうした先生達には、忙しいことを承知の上で、全国の子ども達に語りかけていてもらいたい。

そんなメールマガジンを、是非発行してもらいたい。

## 仮想と現実～インターネットへ社会への危惧～ 1998/12/15(火)

「学力」って何だろう？

よく女房とそんな話をする。

「人と手を繋ぐ力」

.....な～んてわけのわからない事を僕はよく口にする。

学習指導要領が2002年から全面的に改定される。

インターネットに関わることと言えば、

「コンピュータ等の情報手段の活用を一層推進し、中学校技術・家庭科で情報に関する内容を必修化」

というのが目玉の一つとしてあげられている。

最近大手プロバイダや出版社が、学校向け子ども向けのサービスを次々に発表している。そうだろうなあ、この分野はこれから、とって大きな市場になっていくのだから、企業が目を付けられないわけがない。それに対して、学校の鈍くさがとても気になってしまうのだが。

岡山県では、全ての公立高校の生徒にメールアドレスを配布するとか、というニュースが先頃、流された。今後インターネットの世界に子ども達が呑み込まれていくことは確実だと思う。

勿論、インターネットの世界で、自分を語っていく子ども達が増えていくことは決して悪いことだと思わない。しかし一方で、現実の世界と乖離した世界の中で「しか」、人と接することができない子どもが増えていくことを危惧している。

先週の日曜日、女房がカウンセラーの方の講演を聞きに行ってきた。

「仮想空間の自分と現実の自分との乖離が、激しくなればなるほど精神病になってしまう子ども達が、今後増えていくのではないか」

とその方も話をしていたそうさ。

僕は心理学者でもカウンセラーでもないから、正確さは？だが.....。

「現実の社会に立ち向かう力をどう培っていくのか」といった視点を大人が持っていかなければ、子ども達は救われないのではないか、とってしまうのだが.....。

## 伝言ダイヤル・薬 1999/01/11(月)

インターネットを使っただけの犯罪が昨年末からクローズアップされています。

この土日は女房も、「薬」「ハルシオン」などをキーワードにあちこちのサイトを見て回っていました。

試しにinfoseek(<http://www.infoseek.co.jp/>)で「ハルシオン」をキーワードにして検索したところ、883件がヒットしました。

こんなタイトルが並びました(ホンの一部に過ぎません)

- ・抑うつダイアリー
- ・HERBS
- ・全国電話番号調査センター
- ・裏MATSU 2
- ・向精神薬
- ・私が現在飲んでいるお薬



が、その掲示板を見てさらにビックリ！  
下記のようなものがあったのだ！

\*\*\*\*\*

あなたも好きですか？

私は、違法ページを作成している張本人です。  
http://\*\*\*\*.\*\*\*\*/~\*\*\*\*/ ( \* 1 )  
J A S R A C ( \* 2 ) や警視庁に知らされても文句はありません。  
興味がありましたら、メール下さい。

e-mail : \*\*\*@\*\*\*\*\*.\*\*\*  
ハンドル：  
本 名：  
年 齢：17歳  
特 技：e-mail BOMB, Nuke, Huck 等  
趣 味：爬虫類の養成、SM (私はMです)  
好きなこと：猫ミミをつけたメイドを養成すること  
学 校： 県立 高校 ××科 年 組 (留年の危機)  
自宅電話：\*\*\*-\*\*\*-\*\*\*  
携帯電話：\*\*\*-\*\*\*\*-\*\*\*\*  
I C Q : \*\*\*\*  
WebPhone：\*\*\*\*\*

J A S R A C や警視庁に通報するときは、  
本名・住所・学校名・自宅電話・携帯電話位にしてあげましょう。  
なんなら、110番に通報するのも面白いですね。

OSM注 \*1 リンク先はアダルトサイトに貼られていた。  
\*2 著作権管理団体

\*\*\*\*\*

この掲示板は、「女性書き込み・男性閲覧用掲示板」と銘打っており、女性の書き込みが多くされていた。しかし、書き込む場合は、メールアドレスとハンドル名、そして自分で決めたパスワードを記入すれば、「誰でも」「何でも」書き込める仕組みになっている。

一見して誰かのいたずらとわかるこの書き込み。  
記入されている高校には、僕の知っている先生もあり、こりやまずい！ と女房に話し、その先生に連絡をしてもらおうと思った。  
そうした生徒がいるのかどうか、個人の住所電話番号等は？  
本人はこうしたことを知っているのかどうか……、とにかく聞いてもらった。

予想したとおり本人は在籍、その後、管理者にメールを送り上記書き込みは削除してもらったということ。

インターネット上での個人情報が流れることは耳にしていたが、こうまで露骨にいたずらされているのは、初めて見た。  
いたずらをした人間も大体見当がついているとのことだが、当人を訴えることもできる内容だと思う。但し、相手の行為を立証できればの話だろうが。

もう一つ、今回のことを女房、その学校の先生にプリントアウトしたものを見せたが、二人ともあまりピンとこなかった。事の重大さに気がつかない二人にイライラを募らせたりもしたものだ……。

尚、今回の件についてメールマガジンで知らせたい、と当事者の高校生には了解をとってあります。

## ネットワークカウンセラー 1999/06/08(火)

インターネットを使ってのカウンセリングが最近ずいぶん見受けられるようになってきた。これは今まで、電話相談がインターネットに変わっただけのことであるが、今後ますます増えていくと思う。僕が最近、問題意識として持っているのは、そういうことではない。

直接的なコミュニケーションが苦手になってきている、今の時代。  
面と向かって、なかなか本音が言えなくなってきている昨今。  
これからますます、インターネットやメーリングリストを使ってのコミュニケーションは発達していくだろう。

確かに自分の本音を話すのに、インターネットの持つ匿名性は非常に有効な手段であると。同時にネットワーク上のいさかい、トラブルもますます増えてくるのではないかと。

2002年には全国の小中高校がインターネットで結ばれ、子どもたちにとってますます身近になっていけばいくほど、色々なトラブルが。

端的に言えば、メーリングリストや会議室、チャットなどでの喧嘩等に対して、どう対応していくのかを、心理学的なアプローチも含めて、研究していかななくてはいけないのではないかと。

あまりにも漠然とし過ぎていて、何をいわんとするか、ちんぷんかんぷんかもしれないなあ……。

……………わかるでしょうか??? (.\_.)  
顔洗っても一回出直してこい、かな?(^\_^;)

## お勧め！教育総合情報サイト～ED-News Magazine～ 1999/06/14(月)

「on the watch for WWW」というメールマガジンをご存じの方も多いかも。インターネット上に散財している教育情報を毎日、届けてくれるメールマガジン。その発行者は、第一回の検索の鉄人(もう、古い話か?)である、関さん。

このメールマガジンや、関さんのMLに参加する中で教えられることは多かった。僕がもう一つのサイト「まなびや」を考えるに当たっても、非常に参考になった。

で、関さんが、HPを新しくした。URLは下記。

<http://www.ed-news.com/>

\*\*\*\*\*

このサイトは

- ・教育に関するサイトのメガリンク集を提供
- ・Webに流れる最新の教育情報に関するURLを提供
- ・教育関係の新刊書籍情報の提供と販売のサポート

そして

- ・それらの情報をメールマガジンで提供
- という機能を持っています。(「このサイトのご説明」より)

\*\*\*\*\*

僕が変な説明するよりも、一度ご覧になることをお勧めします。

## 郵政省からのご案内～いきなりだよ！～ 1999/06/28(月)

「郵政省は、6月25日、通信白書フォーキッズを開設しました」

と題したメールが舞い込んできた。

あれ？プレスリリースかな？と思いきや、宛先は、webmaster@manabiya.net  
およよ、オイラ宛だなあ……???

しかも、

=====  
57kbもある、ワード文書が添付されていた！  
=====

こりゃ、いたずらか!?

ウィルスファイルか?などと思ってみたが、差出人は、kids@mpt.go.jpとなっている。

とりあえず、HPを開いてみる。  
ウン、内容に間違いはない。

「郵政省は、本日、こども向けのホームページ「通信白書フォーキッズ」を開設しました。URL：<http://www.kids.mpt.go.jp>

このホームページは、子供たちに情報通信の世界を楽しみながら理解してもらうことを目的に作成しました。政府として、子供向けにインターネットのしくみ等を解説した初めてのホームページです。(以下略)」

教育関係のホームページに送りつけてきたのだろうか？  
ちゅうことは、「まなびや」もご存じってこと？  
ほうほう、と思いつつも、いきなり「ワードファイルをくっつけたメールを送りつけるな！」って。

非常識だと思っんですね。  
それともこうしたやり方を僕が知らないだけ？(笑)

「子ども達に情報通信の世界を楽しみながら…」という能書きは結構だが、その前に、もちっとやり方があるんじゃないの、とってしまった。

〒〒〒〒〒〒〒〒〒〒〒〒〒〒〒〒  
郵政省大臣官房企画課  
通信白書フォーキッズ事務局  
〒〒〒〒〒〒〒〒〒〒〒〒〒〒〒〒      さん！

### インターネットの図書館「りぶりぶ」 1999/09/07(火)

ウィークリーまぐまぐでご存じの方も多いかと思いますが、「りぶりぶ」を試してみましたか？  
現在はテスト公開中、とのことですが面白いです。

「集団登校」という言葉で検索したところ、僕の出しているマガジン以外に自動車関連のメールマガジンもヒットしました。ま、これは、事故のニュースでしたが.....。

読者サイドからも有効かと思いますが、発行者サイドからしても、内容がどうしてもひとりよがりになりがちなんですが、違う捉え方がわかるのは、非常に参考になります。  
お試し荒れ！

=====  
インターネットの図書館「りぶりぶ」テスト公開中  
<http://www.lib2.com/>  
メールマガジン全文検索サイト「りぶりぶ」のテスト版を公開しております。ぜひ触ってみて感想をお寄せください。  
ご意見は [search@mag2.com](mailto:search@mag2.com) まで。お待ちしております。  
(まぐまぐ開発チームりぶりぶプロジェクト)  
ウィークリーまぐまぐ 1999/09/06号より  
=====

### ミレニアムプロジェクト 2000/01/27(木)

「開かれた学校」と言うことと相まって、首相官邸のHPで「ミレニアムプロジェクト」なるものを見つけた。

色々書かれているが、学校教育に関する事で、以下のようなものがあった。(HTML版でなくPDF版に載ってました)

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° !~\*:.. .!:\*:~!° 。.:\*:~!~\*:

#### 1 情報化( - 誰もが自由自在に情報にアクセスできる社会を目指して - )

##### (1)教育の情報化

・2001年度までに、全ての公立小中高高等学校等がインターネットに接続でき、すべての公立学校教員がコンピュータの活用能力を身につけられるよ

~~~~~  
うにする。さらに、2002年度には、我が国の教育の情報化の進展状況を、
~~~~~



国際的な水準の視点から総合的に点検するとともに、その成果の国民への周知を図るため、国内外の子供たちの幅広い参加による、インターネットを活用したフェスティバルを開催する。

・2005年度を目標に、全ての小中高等学校等からインターネットにアクセスでき、全ての学級のあらゆる授業において教員及び生徒がコンピュータ  
~~~~~  
を活用できる環境を整備する。

~~~~~  
(~~~~~はOSM)

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° ':\*:.° .:\*.:'° 。.:\*:.:'\*:

プロジェクトの中では、「教職員の研修」ということがしきりにうたわれているが、本当に大丈夫なんでしょうか？

一方、こうした環境が整っていけば、インターネットやメールを活用している親達にとっては、決してマイナスにはならないと思うのだ。むしろ色々な情報を自ら入手できるようになっていけば、学校の「ごまかし」にも親自身が対応できていくと思ったりもする。

「ごまかし」というのは言い過ぎかもしれないが.....。(^^)

ミレニアムプロジェクトについて、詳しくは下記URLへ！  
<http://www.kantei.go.jp/jp/mille/index.html>

毎日教育メール 2000/02/06(日)

2月2日から、毎日新聞社が「毎日教育メール」と題して、教育に関わるメールニュースの配信を始めました。  
色々なことを知るきっかけとして役に立つなあ、と思いました。  
早速購読を申し込みました。

2月4日に配信されたニュースの内容は以下の通りです。

読書

- | 「新米教師ドタバタホホのち晴れ」女性教師の奮闘体験記
- | 「学級崩壊、克服に向けて」子どもサポートネット
- | マンガと短文を組み合わせて楽しく学ぶ「こどもかんじじてん」

東西南北

- | 【行政】コミュニティーセンター、小学校内の建設に不安の声
- | 【高校】京都で私立高の共学化が進行中、春から新たに5校
- | 【小学校】佐賀県・富士町の小学校が山村留学生を募集
- | 【体験】高校生・大学生対象にスペーススクール参加者募集
- | 【裁判】兵庫小6自殺訴訟判決、体罰と自殺との因果関係を認定
- | 【NIE】毎日新聞が4月から教材用購読に新定価を導入
- | 【トレンド】ドラクエの代わり？ ヴァルキリーが人気

セレクション

- | 【教育の森】佐賀県  
カジュアルデー 生徒を理解する糸口に

進路受験

- | ユニーク入試の衰退と、高まるセンター試験利用入試人気

(毎日新聞社からの了解を得ております)

教育メール購読の申し込みのURLはこちらです。  
<http://www.mainichi.co.jp/digital/annai.html>  
興味のある方は、どうぞ～！

# 、メール、意見、BBS

ご意見紹介 1998/04/13(月)

メールマガジンNo.1を読んでメールを送っていただいた方のご意見です。  
ご本人のご了解の元、掲載させていただきます。

=====

子供は生きる勇気を学び取らねばならない。  
大人は生きる手立てを学ばねばならない。その時代の激流の中で。

勉強はしなければならない。勉強せずに、知らないで通そうとするところから被害者に見える加害者が生まれる。

学習することは、人間が生きている限りし続けなければいけない事だ。  
これは、学ぶ権利であり同時に義務だと私は考えている。

子供よ、学ぶ習慣を身につけよ。それを怠ることは神の名において許されぬ。親よ教師よ、神の僕として、子供に学ぶ習慣を身につけさせよ。成績ではない、学び続けるという生き方が重要なのだ。

「日本一醜い親への手紙」 1998/06/09(火)

フォーラムに投稿された記事をご紹介します。

=====

「日本一醜い親への手紙」「もう家には帰らない」という本を読みました。

虐待とまではいかない、何気ない日常の中で深い傷を負ってしまった人たちの投稿による本なのですが、その何気なさが逆に恐ろしい。

自分の育ってきた過程を思い出して、鳥肌が立ちました。

ひょっとしたら、親としての自分も子どもの心を切り裂いているかも知れない...

この本についてはHPで全文が公開されています。掲示板でも生の声に触れる事ができます。

<http://www.mediaworks.co.jp/alt/>

お時間のある方は一度ご覧になっては？

=====

ご意見、ご感想等がありましたら、是非フォーラムの方へお願いします。

就学前の子どもに必要なもの～ B B S より～ 1998/11/02(月)

B B Sにはいろんな部屋があります。

(つくりすぎ！って笑われてますが.....)

そんななかで、皆さんにもある意見をご紹介します。

=====

hanako ID:twirc 98/10/31 14:30:19

皆さんは、就学前の子どもたちにとって何が一番大切な事だと考えていらっしゃいますか？

私は「思い切り遊ばせてあげたい」と思います。手も足も身体全部を使って遊んで、いろんな事を経験していくことを大切に考えています。

それで、現在3年生になる長女は、保育園時代を思い切り遊んで過ごしました。そして、「さあ、学校だ」と期待を持って学校へ行きました。

結果はあと一歩で登校拒否でした。文字が読めない事でいじけてしまったのです。

「私はもう一生、字なんて書けない」とお腹を抱えて転げまわる娘を見て自分の考えのどこかが間違っていたのだろうか？と考えました。

悩んで、いろいろ努力した結果、今、娘はにこやかに学校に通っています。文字もちゃんと覚えました。そして、娘はとても表現豊かに育っています。

これって、やっぱり、保育園でのいろいろな経験のおかげかな？と思っているところなのです。皆さん、どう思います？

=====

受験競争の影響は幼稚園入学、更には、3歳までが勝負、だそうで(笑)  
あほくさ、と思いつつも、そうした情報に流される親の多いことが、あほくさを深刻化させていると思います。

スーダンも日本も、子どもの環境は悲惨です 1998/11/16(月)

次のようなメールを頂きました。「皆さんの意見も聞きたい」ということで、紹介させていただきます。また、BBSにも掲載いたします。

=====

私は、最近悩んでいます。  
というのも、小学3年生になる、子供の事なのです。  
一人っ子です。  
子供が生まれてから、私は、ずっとこう思って子育てをしてきました。  
「子供が、遅くても速くても、出来ても出来なくても、それは、たいした問題ではない。肝心なのは、子どもが、その子であることを、見失わない事だ」と。

子供自身が、自分自身を良く知り、自分で、ある日、進路を選択した時、子供のころに出来る、出来ないと騒いでいるようなこと、例えば、小中学校の成績や、逆上がりだの、水泳だの、ちょうちょ結びや、ピアノのおけいこなど、は、すぐに克服するだろう。

実際、私も主人もその口で、主人などは、高校で有名な落ちこぼれ、先生にもさじを投げられたにもかかわらず、今は医者として存在している。  
私は、つい最近まで、かたくなに上記のような事を信じて、子供を育ててきました。

でも、最近学校とかかわればかわるほど、私の考えは、間違っているのではないかと思うのです。いいえ、学校が、私の子育てを邪魔しているように思えてならないのです。

学校では、漢字のテスト、算数のテスト、音読のテスト、なんでもシールを張らせます。しかも、そのシールの数を、全員、公表されます。マラソン大会しかり、スケート大会しかり、水泳大会しかり。

夏、冬各休暇後、作品展があって、それも、選ばれた作品が出ます。  
各学期2.3回ある、校内作品展でも、各クラス3,4枚の作品が展示されます。

マラソン大会なんか、全校生徒のタイムが1位からびりの子まで全校生徒の父母宛のおたよりに、のせられます。

私達、親はクラスで、どの子が走るのが遅くて、どの子が漢字がだめでどの子が、絵がへたかをいやでも知らされます。自分の子の事ではなく他人の子供の事までです。子供同士でもそうです。

結果、親は血眼になります。夏休み明けの作品展などは、悲惨です。  
子供らしい、良い作品、つたない作品だけれど明らかに、3年生の子供が一人で作った作品なんか出展されません。大人顔負けの「誰と作ったの？」と言うものが、ずらりと並びます。それを見た親たちは、次回こそはと、さらに、大掛かりなものを作ろうとします。

成績を公表したって、勉強をやらない子はやりません。現に、漢字のシールなんて、一学期からやってるのに、一個しかない子がいるのです。ちゃんと、ついていってるなど感じる子は27人中7人ぐらいです。

学校でやっている事は、本当に意味のあることなのか？  
このまま、学校に行っていて、わが子の感性は守られるのか？  
(うちの子は、絵を書いたり、物語を作ったりする事が好きです)

学校は、速いとか遅いとかを、決め付ける機関なんですか？  
学校は、漢字テストのシール一個の子を、どうかしてくれるんですか？  
出来るように、してくれるんですか？  
私の子供は、学校が好きです。シールや成績で輪切りにされて苦しんでいるクラスメートがいると言うのに、のんきに学校を楽しんでいます。その事が、また、私を苦しめます。

スーダンも日本も、子供の環境は悲惨です。  
どこかへ逃げたくなります。計算なんて、完璧に出来てどうするんでしょう。九九が2分で言えて、何なんでしょう。

### 小学校2年の息子へのいじめ？ 1999/05/19(水)

「ぼちぼちいこっ！」では、いただいたメールの全文を紹介いたしました  
がより多くの方に読んでいただきたいと思います、一部を掲載いたします。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° '°\*:~.。.:\*:~'° 。.:\*:~...\*::

家には小学校2年の息子がおります。  
息子は1年の時明るく、元気にはきはきと素直で何でも率先してやれる。とまるで絵にかいたような学校にとっては申し分のない子供でした。(もちろん、家ではわがままもいいますし、いたって普通の子供ですが・・・)  
ところが、2年生になって、今日初めて布団にはいるなり「あのね・・・」といいながら泣き始め、この頃皆にいじめられてると言いましたのです。  
4月になってからA君に校庭で引きずりまわされた。遠足の時何人もの子に木の枝でやっけられて傷をした。今日は五人の子に体に乗られて泣かされた。  
など..... (以下略)

### 子どもを立たせる

メールマガジンの読者であるMさんとのメールのやりとりをまとめてHPの方に掲載しました。  
(詳細は、<http://osamu.net/gakko/mayumi.html> をご覧下さい)

簡単に言えば、小学校一年生の息子さんが、ある出来事をきっかけに給食の時間の前まで、立たされていた。と言うことです。  
最初僕は、給食まで食べさせてもらえなかったのか！と誤解してしまいましたが、それは間違いでした。  
しかし、それにしても一年生の子どもを立たせる、と言うこと自体(勿論高学年や中学、高校だったらよい、ということではありませんが)に非常にこだわってしまいました。  
僕だったら、絶対に学校に話に行くと思いました。

しかし、Mさんは言います。  
「おかしいとは思っても、なかなか先生に言えない」と。  
こころに、今の多くのお母さん(親達)達が置かれている状況が良く現れていると思いました。

僕の場合は、と言っても、置かれている環境等も違い、全てこうするべきだ、なんて事は言えません。でも、学校と親との関係がもっと対等になっていくべきだと思いました。

そうさせない状況を生みだしている、という事を双方がきちんと認識することがまず第一ではないかと。そして、その認識の上に立って、それぞれが何をどうしたらよいか、ということを考えるべきではないかと、そう思いました。

.....「学校と親は子どもを前にして対等である」と言う認識をどれだけの学校が持っているのでしょうか.....?

### もこさんからのメール 1999/01/16(土)

昨日13日、千葉県にお住まいの、もこさんより、下記のようなメールを頂きました。  
内容から考え、多くの方に知ってもらおうと同時に、専門的な立場や、同じような経験をされた方、こうした問題への考えかた等々.....アドバイスも頂きたいと思い、号外として発送させていただきました。

=====

私は11歳の小学校6年生の男の子と4歳の保育園児の女の子を持つ働く母です。  
こんな世の中ですから、心と身体を丈夫に育てる子育てをしてきたつもりです。働いている母親なので、子どもにも負担をさせている部分も多々あるのですが、勉強云々より、きれいな夕日を見て「きれいだねえ」と言える親子でありたいと思っています。

さて、前記の事件は、先週の土曜日に起きました。  
夕方、下の女の子を連れて買い物に出かけ、帰宅すると、長男が号泣しています。  
電話で、脅迫されながらクラスの友達の電話と名前を言ってしまった……  
という訳です。

最近その手の名簿入手の悪質な電話があるので注意してください。と学校から連絡が来ていましたし、子どもにも「へんな電話がかかってきたら切っちゃいなさい！」とっていました。  
でも、実際にはやっぱり難しい。

相手の言い分です。  
「やくざの自分の親分のバイクが、倒されて壊れた。目撃者の証言から犯人は小学校6年生だとわかった。それで自分で手分けして探すことになり、自分はおまへの学校を調べるようになった。クラスの子の名前と住所と電話を言え！」

長男が『言いたくない』というと、  
「自分はおまへの名前も住所も知っている。やくざの親分はナイフを持っていて人を簡単に殺せる。ぼこぼこにされたいのか？電話を切ったらすぐ行くからな」……と後は、泣きながら、名簿の友達を一人言うたびに、「もっといるだろう」親に言ったらすぐいくぞ」と脅しをいれながら結局全部言わされてしまったようです。

電話を切って5分後くらいに帰宅した私が訳を聞いて、担任の先生に連絡を取ろうとすると「そんなことしたらばく殺されちゃう。」と泣きます。

担任に連絡を取り、警察にも通報しました。

学校の対応は、緊急連絡網を流す事です。  
「脅されてクラスの名簿を言ってしまう事がありましたから、注意してください。悪質な電話には毅然と対応してください。」  
「誰が」と言う事は伏せてあったのですが、まわしてくれたお母さんが「困っちゃうわよねえ」と言っているのを聞き『毅然と対応』できなかった我が子が責められている気がしました。

警察の対応は、(110番通報でしたので)近くの派出所から電話が入りました。  
「相手も高校生くらいかもしれないねえ」「まあやくざの親分はバイクなんかのらないから」「今後不審人物がうろついていたりしたらすぐ連絡してください。」というものでした。  
母親の私が言うよりと電話口に子どもを出しておまわりさんに話しをしてもらったら少し安心したようでした。

ナンバーディスプレイの電話でない事を後悔したり、買い物に行った事を後悔したり……  
心優しく、心豊かに！と大事に子育てしているのに、一瞬にしてそれを無にしてしまうような卑劣な電話。  
言っではいけないと言われている名簿を、殺すぞ！ぼこぼこにするぞ！と脅され泣きながら言わされたのか……

でも、警察には些細な事件ですから、NTTに電話番号の開示請求をだしたりする凶悪事件ではないのです。

長くなってすみません。  
最近、インターネットや電話の犯罪が増えているということにちょっと関連しているようで長々書き込みしました。

我が子の事件なので、感情的になりすぎているでしょうか？  
やっぱり第三者てきには、そんなに大袈裟なものではないでしょうか？

いま、警察に徹底捜査を！と言いにいくべきかどうか悩んでいます。  
よかったらご意見をお聞かせください。

=====  
こうした行為が許されないというだけでなく、息子さん傷ついた心を癒してあげることが大切だと思いました。

また、この電話がどんな事件を引き起こすかわからないほど、今の社会は病んでいるというのが、メールを頂いたときに感じたことでした。

「僕は警察に遠慮する事ではないと思う」ということと、メールマガジンでの発信をお願いしました。

もこさんより、今朝ほどメールが届きました。  
併せてご紹介します。

=====  
おはようございます。  
さっそくお返事をありがとうございます。

警察に行くに当たって、ひとつだけ心配なことは、今回相手が公衆電話以外でかけていた場合は特定できるとおもうのですが、逮捕(?)された場合、相手も思い当たるところがあるので、報復されないか?ということです。

多くの方に、意見を伺える機会を、ありがとうございます。  
是非、お願いします。

最近、近所で、小学生が突然なぐられたり、通称「ホチキスおじさん」と言って、「手をだしてごらん」言われ、手をだすと、ホチキスでバチン!というような信じられないような事が起こっています。

痴漢というより、追いかけて逃げるのを楽しんでいるような「緑のマウンテンバイク男」とか、弱いものへ弱いものへと矛先をむけていくようで、ほんとに世の中どうなっていくんでしょうか?

今日も我が子は、元気に登校したようです。(親のほうが先に出勤してしまいます。)  
先生、友達、友達のお母さん方に支えられて、ここまで来ました。  
そんな我が子の一大事、やっぱり泣き寝入りは、やめたほうがいいですね!

=====  
OSMさんへ  
こんにちは!はじめまして

早速ですが、号外を読ませていただきました。いろいろなことを思いましたので書かせていただきます。

まず、一番に思ったのは、息子さんは悪くないんだってことです。今回の事件が起こる前によくあることとして注意するようにといった通達があったようですが、現実にその場に直面してみても怖いとか恐ろしいって思ってしまったなら毅然とした対処なんてできなくても仕方のないことだと思うのです。

大人だって恐怖に負けてしまうことがあるのだから、11才のお子さんならそれも一人で対処しなきゃならないとしたら。私が同じクラスの保護者だったとしても責める気にはなりません。自分の子供が毅然とした対処ができたかどうかなんてわかりませんから。

だから、息子さんには今回のことは仕方のないことだから自分を責めないように気遣ってあげてください。そして、また同じ様なことに不幸にして出会ったときにどうしたらいいのかを一緒に考えてあげてください。

次に感じたのは、弱者に対する攻撃が増えている世の中に対する不安です。申し遅れましたが、私は2才の息子の母親なんですけど子供を一人でお遣いにやったり近所に遊びに行かせたりということはいくつになっても心配できないような気がしています。

子供に自己防衛するようにこれから教えていくつもりではいるのですが、昨今の事件では親の予想や子供の対処できる限度を越えたことが起きているようで、どうしていけばいいのか心配になります。

しかし、今はまだ子供の行動範囲が親の目の届くところにとどまっているので守ってやれますが、幼稚園や学校に通うようになればそうもいなくなります。もこさんは「買い物に行かなければ」とご自分を責めておられますが、親の目の届かない時間があるのも仕方のないことだと思うしかないのでしょうかね。悔やまれる気持ちは本当によくわかりますが。

最後に、このような事件に対して他人事とは思えませんし、きっとそう感じておられる方もたくさんいらっしゃると思います。もこさんの「夕日を見てきれいだねえ。」って言えるような親子でありたいという考えでこられたことも間違っていないと思います。

親歴2年の私が言うのはおこがましいのですが、「こんな卑怯な出来事に負けないで！」っていう気持ちで一杯です。

これからも私たちが驚かせるような出来事がおこるでしょうけど、共に考えていけるといいですね。

では、また！

さくらでした

追伸 思ったことを一生懸命書かせていただいたのですが、うまくまとまっているかどうか心配です。

=====  
はじめまして、いつもこのメルマガを楽しみに読ませていただいています。

今日のメールを読みまして、小2の男のこを育てている母として、ひとごととは思えずお便りする次第です。

一読して、まず大変怒りを覚えました。  
もちろん、電話をかけてきた男に対してです。  
そして、どうすればよいのだろう……と考えました。

このような脅しには大人でもひるんでしまうものです。  
まず、被害にあった男の子には  
「名前や電話番号を言ってしまったけど、それはあなたがわるいのじゃない。脅かして言うことをきかせようとした相手が悪いのだ。だれでも、脅かされたら、怖いイヤだと言えなくなる。イヤと言えなくてもいいんだよ」

ということを伝えたいです。

そして、やはり警察に訴えてこのような犯罪がおこらないよう対処してもらうのが良いと考えます。  
決してささいなことではありません。

脅かして言うことをきかせようという人たちは何よりも自分のしたことが明るみにでるのを恐れます。  
事を明るみにして同じようなことが起こるのを防ぐのがよいのではないのでしょうか？

例えば勇気のいることですが、学級懇談で今回のことをみんなで話し合う。  
クラスにおいても、生徒たちと先生でこんなことがおこったらどうしたらよいか話し合う。  
もちろん、被害にあった男の子が再度傷つくことのないように細心の注意をはらった上でのことです。

今回のことは不運としかいいようのない事件です。  
世の中には悪いことをするひと沢山います。  
このことを、今後の教訓にするために、みんなで考えることが本当に大切だと思います。  
ああすればよかった、ああしなければ、と後ろ向きに考えるのではなくこれからどうすればよいか、を考えていくことが必要だと思います。

このような、子供に対する暴力の被害を防ぐために、子供にどう教えたらよいか解りやすく書かれた子供のための本があります。

「あなたが守る あなたの心・あなたのからだ」

森田ゆり・作 平野恵理子・絵（童話館出版・1171円）

少し、抜粋してみますね。

~~~~~  
「あなたは世界に一人しかいない。だから、あなたはとてもたいせつな人間だ」

「うれしいときはもちろん、さびしいとき、悲しいとき、はらがたつときは、口にだしたり、顔に表して、人につたえていいんだよ。
あなたのからだはあなたのもの。あなたの気持ちもあなたのもの」

「こどもには、たいせつな三つの（権利）がある。・・・それは安心して生きる権利、自信を持って生きる権利、自由に生きる権利。
子供はみんな、この三つのたいせつな権利をもっているんだよ」

「いやだ、やめて、って大きな声でいおう。特別な大声をだそう。走ってにげよう。
こわい思いをしたことをだれかまわりのおとなにいおう。あなたの話をわかってくれるひとが見つかるまで、いいつづけるんだよ」

~~~~~  
道で出会った人が車に乗せてあげると言った、とかいじめっこがかばん持ちをさせる、とか性的ないたづらなどの実例があげられ、それにどう対応すればよいか書かれてもいます。

今回のような電話をつかった暴力に対してどうすればよいか、ということは書かれていませんが、お母さんが参考に読んでみられるのも、よいかもかもしれません。  
被害にあった男の子はまず、こころの傷を癒してから読まれるのがいいのではないかと思います。

私の息子が被害にあったのであれば、もしかしたら違う考え方をすることもできません。  
でも、少しでも役だつなら、と考えてみました。

男の子の心の傷が癒されますように。  
もこさんのご家族皆が一日でも早く安心して暮らせるように、心からお祈りしています。

#### ケロ

=====  
もこさんの件、あちこちで発生しているんだと びっくりもした 我が家でもあったことなのでなんの解決にもならないけれど、メール書いてます。

うちは小学4年生と6年生の男の子。  
4年ではクラスの女の子が、言葉巧みに ゲームの話など警戒心をなくすような話題から入って来て、まんまとクラス全員の名前と電話番号を聞き出されてしまったということです

途中で「疲れたでしょ」と 休憩もあったとか.....  
この件はお母さんが学校に連絡したので公のこととなり、しばらくの後学校通信でこういう悪質な手口で電話番号を聞いてくるから注意して下さい、というのが配られました。

6年生の方はうちの子が 私が買い物に行ってる間に電話があり  
「お母さんはいない」というと、クラスの一人の子の名前と電話番号をあげて(このお宅は酒屋さんなのでだれかしら大人がいる)あっているかどうかを確認させ、あとの電話番号はコンピュータがおかしくなってデータがきえてしまったので教えて欲しい、と言って来たそうです。

もちろん相手がだれなのかなど、くわしいことは子供には言わなかったようです。

うちもやられたか・・・と思うと、実際には電話番号を言ってしまったことが被害ではあるけれど、子供が言葉巧みにだまされたことが心の傷となってしまうかなり落ち込んでおりました。

そののちそういうことはありませんが ...  
この事は子供が学校には言わないでくれと泣いてさわぐのと言ってません。  
嫌われたり笑われたりするから...って...



千葉の友人のところでは子供がわからないと言うと、高学年のくせにそんなこともわからないのか、とどなりつけられて切れたそうで、あとからそのことを子供から聞いた母親は激怒してしまったそうです。

ここまでして電話番号を知りたい理由ってなんなんでしょうね.....

「夜分すみません」と9時過ぎに塾の勧誘がありました。

こういうのも電話番号をしってるからこそかけてくるわけであり、またまた・・・激怒・・・であります。

長々綴ってしまいましたが・・・どうしたら防げるのか・・・なんてやはり思い付かないけれど・・・

うちは子供が帰宅後も、私がいないう時間が長くなる時は留守電にしておいていいというようにしました。

あとは防ぎようが・・・ない・・・のが現実でしょうか・・・

もこさんのお子様の心の傷が早く癒えるようお祈りしております。

子供が健やかに育ってゆくように、頑張りましょう！！

どうして批判ばかりするの？ 1999/03/18(木)

メールマガジンへの意見、感想の中に、「批判をするのは良いけれど」という意見をいただくことがある。特に「学習指導要領」の問題については、僕の書き方も悪いのだろうが、それなりに評価されるべきではないか、という意見もいただいている。

で、このことに関しての整理を少々.....。

：\*：\*：\*。 。 ..\*：\*：\*。 ° ' \*：\*：\*。 ..\*：\*：\*。 ° ..\*：\*：\*：\*：

「到達段階をはかるための指導要領」

僕の専門は国語だが、「学習指導要領」に対抗するだけの教科内容の整理や系統だった考え方などは、とてもできない。

また、生徒、子ども達の到達段階を見る上で「学習指導要領」に書かれていることは、重要な目安になると思っている。

問題なのは、「偏差値重視の受験体制」だと思っている。

：\*：\*：\*。 。 ..\*：\*：\*。 ° ' \*：\*：\*。 ..\*：\*：\*。 ° ..\*：\*：\*：\*：

僕が最初に教壇に立ったのは20年前。私立の女子高校だった。

その学校は、偏差値で言えば最も低い辺りにランク付けされていた。

公立にはいけない。

「せめて高校くらいは」という親の願い。

「みんなが行くから高校くらいは」という本人の思い。

「どこも行く高校がないから、ここにした」という声。

教師にも、クラスの友だちにも、そして自分の親にも

「バカだ！」と言われ続けた生徒たちの苦しみと悲しみ。

「私らどうせ、バカだから.....」そう言うことにより、自分を支えることができなくさせられてしまっている生徒たち。

「人間は点数じゃない！」そんなきれいな事をいくら並べ立てた所で通用しない。小学校の頃から、勉強がわからなくなってしまふ。

教室の中でもお荷物扱いを受け、そして最後の拠り所となるはずの親にも、「お前はバカだ！勉強しなくちゃ高校に入れなぞ！」と言われる。

「自分はバカだ」「自分はダメな人間なんだ」

自分を信じることをやめ、人を信じることをやめてしまった生徒たちとたくさん接してきた。

.....こう書きながらも、たくさんの「冷めた目」を思い出す.....。

でも、根底には、彼女たちの叫びがあるのだ。

「自分だって人間なんだ」と。そして「人を信じたい」という思いが。

そうした思いを封印することが、世の中を斜めに見ることが、彼女たちに植え付けられた処世術なのだ。

国語の授業と言うよりも、「国語と言う教科を通してどう、人間への信頼を回復するのか」ということが大きなテーマだった。

勉強の前に、「人間」があるのだ。

何度も何度も色んな問題を繰り返したり、反抗したり.....。

中には学校を辞めさせられて行った生徒たちもいた.....。

丁寧に丁寧に、時としては小学校低学年の段階まで遡って、教えたりしていく中で、信じられないほど伸びていった生徒たちもたくさんいた。

いずれにせよ、今の受験体制(高校、大学)が変わらない限り、子ども達は「点数、偏差値」によって切り刻まれていくのだろう。

「偏差値で切り刻まれた人間の悲しみ」を僕は知らない。

僕自身も、今の受験体制を乗り越えてきた側の人間なのだから。

しかし、切り刻まれる悲しみを背負った生徒たちを、イヤと言うほど見てきたことが、今の僕の原点になっている。

.....どうも、こうしたことになると、まとまらなくなってしまいます。  
整理し直して、も一回出直さないとな.....

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° '°\*:~.。.:\*:~'° 。.:\*:~:~\*:

いつも自分に問いかけていること。

「じゃあ、お前は何をやるんだ？」

その方向性が、少しは見えてきたような気もしないではない。

このメールマガジンも間もなく、一年間になるうとしている。

4月から、もう少し形にしていきたいと思っています。

「息子達へ」～ B B S から～ 1999/03/29(月)

最近、すっかり自分のHPの管理が疎かになってしまっています。

4月から、心機一転、と思っておりますが.....。(^^)

というわけで、ももyanが、下記のようなメッセージ、投稿してくれました。

掲載させていただきます。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° '°\*:~.。.:\*:~'° 。.:\*:~:~\*:

先日、わが町の文化センターで東映のマンガまつりの映画が上映されました。

うちの子供たちとしては初めて自分のおこずかいで、自分たちだけで見に行った映画でした。

その映画は割引券を使って小学生1,000円、幼稚園800円でした。

うちの子は上が小学2年、下が幼稚園年長なので、下の子に千円持たせ「お金渡すときに、『ぼくは幼稚園です。』と言って200円おつりをもらってくるんだよ」と言い聞かせました。

「うん、ちゃんと言うよ」と言う元気のいい返事も帰ってきました。

お兄ちゃんにも「弟は幼稚園だから」と言わなくちゃいけないよ。

と念押しして、会場へ連れていきました。

そして会場の中へ。私は付いて行かなかったのですが、外から様子をうかがっていると、押し合いへしあい入って行ったので、どうやらおつりはもらえなかった様子。

私は一旦家へ帰り、映画の終わる頃迎えにいきました。

車のところで待っていると、子供たちも私を見つけ楽しそうに駆けてきました。「アラレちゃんが面白かったよ」とかデジモンが...、遊戯王が...と話てきます。とりあえず車に乗って家路につきました。

聞かなきやいいのに下の子に  
「おつりはもらえた?」「ぼく幼稚園だよっていえた?」  
と聞いてしまった。

そしたらしばらく黙り込んで、「後ろから押されて...」と声小さくなったとおもったら、「ウェーン!」と声を上げて泣き始めてしまった。

その後は家に着いてもしばらく泣いていた。  
楽しかった映画の後に泣かせてしまったのはまずったかなあ。とも思いましたが、悔しかったのか、情けなかったのか、200円損したのが嫌だったのか、お母さんに怒られると思ったのかわかりませんが、「今度は気を付けようね」というしかありませんでした。

お兄ちゃんに聞いても「そんな事言う間が無かった」ということであの場では仕方なかったのかなあとも思います。

でも、これもいい経験になってほしいな。  
大きくなって、あの時は悔しかったよ。とか思い出したり...  
とにかくいろんな経験をして育って行って欲しいな。>息子たち (^)

まさか自分が離婚するとは 1999/05/10(月)

いろいろと大変でしたね。  
でも解決したようでなによりです。

私自身、いま子持ちのばついちですが、まさか自分が離婚するとは、それまでは思いもしなかったですから。

現実は無情にもいろんな出来事が起きますね。  
だからといって、やけになってなげやりになったり、悪いことをしたりしたら、負けですもんね。  
奥さんの明るさが励みになった、と。  
支えてくれる人がいる分、おさむさんは幸せです。  
これからもメールマガジン続けていって下さい  
おさむさんのやさしさあふれるメールマガジンが私は好きです。

はるかぜふー さん、ありがとうございます (^)

ものが言えない職員会議 ~ BBSより ~ 1999/11/09(火)

先日、BBSにあった書き込みです。  
その時の、様子が自分の事のように浮かびます。  
「イヤなら、やめてください」そう言われたこともありました。  
面と向かっては何も言わず(言えず)裏工作をして色々やってくる輩もいました。  
僕は既に教壇には立ってません。  
大変でしょうけれど、いつまでも子ども達に目を向け続けていってください。何もできませんけれど、心から応援しています.....。

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° !~\*:!° .:~\*:~!° 。.:~\*:~!~\*:

職員会議がありました。11月の予定が提案されました。そこには11月の終わりから12月のはじめにかけて期末試験があるので、その部分も入っていました。期末試験の最終日は2校時目まで試験をした後、授業が組み込まれていました。定期テストの終わるその日に授業をするなんて今までなら考えられなかったことです。それで質問しました。なぜこうまでして授業時間確保が必要なのかと

試験がやっと終わった後、すぐに授業するなんて生徒にも大きな負担になるのではないのでしょうか。ゆとりの必要性が叫ばれてもうずいぶんになりますが、学校現場はゆとりどころかますます忙しく、ますます意見も言いにくいそんな風になっていくのでしょうか。

この市内の他の中学校でもやっていることで、春にもうすでに提案済みのことであるという答えでした。さらに教頭先生は「こんな事で何でイチャモンつけるのか。」などとまるで喧嘩腰になってまくし立てる始末。こちらが気が弱いもので気が動転してしまって、なかなかうまくものが言えませんでした。

年間計画では期末試験は2日でやることになっていたのを、それでは厳しいという意見があったと記憶しています。その後期末試験が3日間に訂正されたのですが試験の後に授業が入るということについてはきちんと論議されませんでした。

今回そのことは春に提案済みのこととして結局試験の終わる日に授業を入れてくることについての質問にまともに答えてもらえませんでした。

授業時間確保のどこが悪い。この日試験が終わった後放課にすることの方がよっぽどもったいない。などという答というより「文句を言うな」と言わんばかりの勢いで、まともに取り合ってもらえなかったことが悔しくてなりません。

職員会議で出た質問に対して、イチャモンつけるなどが、春にすでに話してあるとか、このように色々考えてした提案のどこが悪いなどというようなそのような対応になってしまう職員会議なんて意味があるのでしょうか。

私はその場で出ていってしまいたくなかったのですが、まだ会議は終わっていなかったので何とか我慢して、というよりなにもできなくなってじっとしていました。もう二度と職員会議に出たくない気持ちになってしまいました。

出席しても発言なんかしないでおこうと思ってしまいました。

管理職の職員会議での発言によって意見を言えなくされるなんて情けないですが、今はこの気持ちを誰にも言えず、パソコンに向かっているのです。

今午前3時過ぎ 2時過ぎに目が覚めてこのことが思いだされて寝られなくなってしまいました。

## 「開かれた学校」への声 2000/01/27(木)

先週お届けした、「開かれた学校って？」に対して、メールをいただきました。ご紹介させていただきませぬ。

=====  
子どもの安全性の確保がなんと言っても重要だと思います。

開かれた学校という意味は、地域社会や親とのコラボレーションであり、物理的に開かれたという意味と理解してはいけません。学校が安全な場所にならなければいけないと考えさせられる事件が多いのに、何も国や地方行政が対策をとらないことが信じられません。

=====  
メルマガの「開かれた学校」についてのご意見、全く同感です。

私も教員をしてましたから、仲間を悪く言うのはいやですが、「親を教育しないとだめだ」とか、「せっかく心配してやったのに」とか、傲慢な考え 方だなあ、と常々思っていました。

だって、子どもを育てていくという点では親と教員は同じライン上にいるのに。各家庭それぞれでいろいろな事情や条件が違うのに。学校の都合のいいようにだけ動くわけがないのに。

今はアメリカに住んでいますが、面白いことにこちらの学校の方が「開かれている」と感じる人が多い一方、物理的には外部との境がはっきりしているんです。

誰でもボランティアで教室にどんどん入れる。でも受付でサインと訪問時間を記入しなくてはなりません。それに、外に通じるドアは中からは開くけれど、外からは開きません。治安が大きな問題の一つであるからこそですね。

要は、考え方とシステムの違いです。日本の学校で、親が気軽に教室に入るのを一番嫌っているのは先生達なのでから。

こういう状況が少しでも改善していくことを祈っています。

=====

「学校が開かれる」と言う前に、親や教師の「自己開示能力」が問われるんだらうなあ、そう思います。

#### 小学校の制服とPTA 2000/02/06(日)

先月末、下記のようなメールをいただいた。

=====  
2年前から、地元の市立中学と教育委員会に対して、通学服の自由化と、その他校則の見直しを訴えています。PTAにしても、まったく話し合おうとも、保護者間や教職員間で考えようという気構えさえない状態です。

(滋賀県ですが)

なぜこうも保守的で、チャレンジする勇気と、子供たちの自立や問題解決に対する訓練に効果的な取り組みに対する意欲に欠ける「大人」が多いのでしょうか？

同じように改革を進めようとしている各地域のかたがたの活動も見聞していますが、みな一様に、少数派として、迫害に近い対応を受けています。制服の自由化に絞って、皆さんの声を聞かせてください。

その後、もう少し状況を教えてください、とお伝えしたところ、経過等を送っていただいた。(下記URL)

<http://osamu.net/gakko/seifuku.html>

「迫害」という言葉が僕にはピンと来なかった。

これは今年一年間のPTA役員の活動の中で、そのようなことは一度たりともなかったからだ。また、これは今までの教員生活の中でも同様だ。

まあ、「迫害」というよりももっと陰湿なものは、経験したことがあるのだが.....(苦笑)

#### 掲示板より 2000/02/06(日)

掲示板に少しではありますが、ご意見が寄せられています。

今回は、その中の一つ、ムックさんからのご意見、紹介します。

:\*:~'° 。..\*:~'° ° '°\*:~.。..\*:~'° 。..\*:~.~\*:

自分の子供の話をします;;

私の子供は人との関わりが苦手です;

そんな風に育てた私自身も人との交わりは苦手です;;

うまくやっついこうとする頭が働けば働くほどがちんがちんに固まって何にもいうことができなくなるのです;

私の子供は学校が嫌いです;

給食が嫌いです;;だからといって皆がまんしてるんだよ;;

なんて言葉をいいながら自分だって本当に子供のためなのか?!って疑問に思うことが何度もあります;

学校が嫌いだけれど学習すること;(これは学校での勉強ではありません;;)は好きです;いろんな事を知りたい;;覚えたい;;意欲はとまるどころがありません。

本当に上手にそれを学習させてあげられればきっとこの子は学習することを苦手ではなく好きになると思うのです;;

何故;学校には逃げ場がないんでしょう?!家庭にはこの子の逃げ場はあるのでしょうか?!本当の自由は自立することから始まるのでしょうか?!

ならばこの子をうまく自立させることができれば学校嫌いはなおるのでしょうか?!学校に自由があるようには思えないのに;;

なぜ必要な場所だと確信をもって子供に伝えるのでしょうか;;

親の身勝手なのでしょうか?!

# 、独り言

メールマガジン発行に寄せて 1998/04/01(水)

メールマガジンご購入ありがとうございます。

この3月で、今まで休職していた学校を退職しました。  
何かをしたいために退職したのではなく、先が見えなくなっただけの退職です。  
40歳にしての大きな人生の転換期にきています。

そうした中で、自分というものをもう一度確認するために、このメールマガジンを思いつきました。  
自分が今まで関わってきた、学校や教育というものを、皆さんにお伝えし、また、皆さんからの意見などを寄せていただけたら、と思います。

「何かを伝えるため」ではなく「何かを見つけるため」のメールマガジンとなりそうです。率直なご意見、ご感想をお待ちします。

独り言 1998/04/06(月)

僕が教員だった頃、クラス担任になったときは、ほぼ毎日学級通信なるものを出していた。とにかく「継続は力なり」(何がだ?笑)と言おうか、意地になってと言おうか、とにかく出し続けた。

初めてクラスを持ったとき、わけもわからずに出し始めた学級通信だった。

とにかく、一年間毎日出し続けた。

翌年、僕のクラスだったヤツが家出をし、そのまま学校を辞めていった。

退学してその後、しばらくして話す機会があった。

「先生、私家出したときに、一年の時の学級通信を持っていったサ」と。

それから学級通信が辞められなくなってしまった。そういうヤツもいるかも知れないな、と。

さてさて、今、教壇を離れ、こうしてメールマガジンなるものを出したりしているわけだが、やっぱり学級通信とは違うな、とつくづく感じる今日、この頃。

一番大きな違いは、学級通信を書いているときは、一人ひとりの顔を思い浮かべながら書いているけれど、こうした、インターネット上のコミュニケーションはなかなか相手の顔が見えてこない。

当たり前なことではあるが、改めて思う。

しかし、そうした中でも、「読みました」とメールを寄せてくれる方々が少しずつ増えてきている。その方の表情がチラッと見えるような時がある。

う～ん、いいなあ!

テレメンタリー98～全盲の先生～ 1998/05/11(月)

5月10日(日)、深夜0:45から放映されたテレメンタリー98は、この春、静岡県の舞阪中学の先生になった河合純一さんの話。

河合さんは、中学の時に失明した後も、教師になる夢を捨てずに頑張ってきた。そして、昨年度の教員採用試験に合格し、日本で初めての全盲の先生の誕生となった。

静岡県のローカルニュースでは教育実習の頃から何度か取り上げられていたので、非常に興味を持っていた。

彼は全身で子ども達とコミュニケーションをとる。

そんな彼を見ていて、次第に感性が鈍くなりつつある自分が恥ずかしかった。

彼の教員生活は始まったばかりで、これから様々な問題に直面していきだろうが心から応援したいと思う。

「障害を持っていることは不幸なことかもしれないけれど、生きていることが不幸なわけではない」

彼の言葉です。

舞阪町は浜松の直ぐ隣の町。機会があれば是非お会いして、話を聞かせてもらいたいと思った。

## たけしのTVタックル 1998/05/26(火)

を昨日夜、女房と二人で見た。  
二人で「何これ～！」と。  
番組のタイトルは  
「逆ギレ教師が緊急終結生激白！！ セクハラ暴力手抜き・ダメ親&生徒仰天実話」  
というもの。大体想像はつくかも知れませんが.....。

とにかく極端なんだなあ。  
TVの内容について云々するつもりはないけれど、どうして最近こういう番組が多いのだろうか、と。  
「熱血教師」か「破廉恥教師」  
そういった両極端を取り上げる番組構成には何とも言えない思いがする。

生徒と教師との日常は、もっとさりげないものだと思うのだが。  
事実学校教育の中には、様々な大きな問題が山積している。  
しかし、日常生活の中の何気ない一言が生徒の生涯において大きな影響を与えたりすることもある。  
「あの一言によって救われた」と思ったり。逆もまた.....。

しかし、こうした何気ない心の触れ合いは、とても番組にはなり得ないだろうから、取り上げられる術もないだろう。  
また、親にしてみても、学校(担任かな)との距離が遠ければ、子どもが持って帰ってくるテストの点数にのみ目が行ってしまうたり、学期末の「あゆみ」の「  
・」の個数が気になったり、という具合になってしまう。

つい先日、下田の水族館でイルカの調教をしている卒業生が我が家に遊びに来た(女房とのつきあいが)、彼女は30歳。独身。  
浜松駅に迎えに行った車の中で聞いた。  
「おい、  
(女房の名前)のどこが気に入ったんだ？」  
「ウン？ 何がって言われても困るけれど、あの先生を見て、私も先生になりたいな、って思った」と。

そんなもんだらうなあ。そうした毎日が学校生活の中にはたくさんたくさんあるはずなのになあ、決してドラマチックではなくても、その生徒にとってはとても大切なことがいっぱいあるのに.....。  
同時にそうしたさりげない日々や、学校生活のことがわからなくなってしまっている自分がちょっと悲しかった。

## 悲劇、悲願、歴史的...嗚呼ワールドカップ 1998/07/02(木)

ども、セルジオ越後です。と言って通じる人は少ないかも.....。  
さてさて、熱狂的なサッカーファンの方には怒られそうですが、今回のワールドカップの大騒ぎ、いい加減にしてほしいな、というのが正直な気持ち ですね。

あ、僕はワールドカップは大好きで、82年の大会(社会人になってからですね)からは時間の許す限りTVにかじりついて見ていました。

どうしてオーバーな表現をするんでしょうね？  
4年前の「ドーハの悲劇」からですか？  
今回も「悲願の一勝」「歴史的な勝利」.....。そうした文字が至るところで、見受けられました。  
ジャマイカがアルゼンチンに5対0で負けたとき、インタビューされたジャマイカのサポーターが、「6対0でなくてよかったわ」と言ったとのこと。

ジャマイカに負けた直後、HNKが全国の様子を放映しました。  
どこかの地域でアナウンサーが様子を伝えている後ろで、「岡田あ～！責任とれっ！腹を切れっ！」と叫んでいたアホがいました。  
日本に帰ってきた城選手に水(ジュース)をかけたアホがいました。  
そうしたアホは、救われないなあ、と。  
同時にマスコミもいい加減にしてよ、と思いました。

さてさて、明日はフランス対イタリア。これは絶対に見なくっちゃ！

### 教壇を去って行った先生達 1998/09/28(月)

「もう一度、教壇に立ちたいんでしょ？」と友人に言われた。

「どうして、先生辞めちゃったんですか？」そうしたメールをいただくことが多い。

かつての同僚の話を聞きながら、心の底に何かしら嫉妬している自分に気がつく。でも、僕は教師を辞めてしまった.....。

「どうして先生を辞めたの？」と聞かれても僕の場合、うまく答えられない。それなりの理由があつたのだけど、どこかしら自分の気持ちがすっきりと表現できない。

やはり、根底には生徒達とへの後ろめたさ。そして、頑張り続けている仲間達への後ろめたさ。

この後ろめたさを引きずってしまっているからだと思う。

「申し訳ないなあ」そう思いつつも、これ以上どうすることもできない自分を語れないのだ。

時としては、一生懸命説明すれば説明するほど、自分の本心と離れていくような時がある。だから、口をつぐんでしまう.....。

「もう、やっていられない！」

「このままでは自分が持たない.....」

悩みに悩んだ末、教壇を去って行く先生達も多いと思う。

得てしてそうした先生達の声は表に出てこない。

本当は学校のことや子ども達の事が気になって、気になって仕方がないのに.....。

そうした先生達の声を知りたいと僕は思っている。

一生懸命頑張っている先生達の姿を、遠くから見ている人たちの声を。

今の学校や教育をどう見ているのだろうか？

辞めていった先生達の声の中に、今の学校の抱えている問題が見えてこないだろうか.....。

### 信じられない親たち 1998/10/12(月)

この間、女房の学校の保護者、ゆーたの友だちの親で、女房と二人で、

「ホント、信じられないよな」

と言った、ため息混じりの会話が増えています。

詳しくは、「子育て」のページ (<http://osamu.net/kosodate.htm>) に書いてあります。

また、勝手に落書き帳に、最近、ももyanさんが、友だちの家に遊びに行った様子を書いてくれています。

そこでも、意地悪をする子どもとその母親の姿が少し触られています。

姉(小学校教員)と少し前に話をしたが、親同士のコミュニケーションが難しくなってきたと言っていた。

そんなもんじゃないよ。こんな親もいるよ、と言う声もあるかもしれませんが。いずれにせよ、「アホな親」にはなりたくないと思っています。

「賢い親」になっていかなければならないと。

周りに左右されず、自分で判断材料をみつけ、自分の意志で判断する。

そして、決して誰かのせいにならない感受性を持った、「賢い親」に。

### NHKってワイドショーだったんだ 1998/10/19(月)

今頃、何言ってるの、と言われそうだが.....。

和歌山の保険金詐欺事件。連日のように事件の報道がなされている。

ワイドショーなどは相変わらずの暴露合戦。

でも、最近、NHKだってそれと変わらないなあ、と思ってしまう。



必ずと言っていいほど、今日の動きを放送する。

そんなにみんな知りたがっているのだろうか？  
全国の人に「公共料金」をとってまでして放送する意味があるの？

それよりも地元の人たちが如何に穏やかな暮らしを取り戻せるか、そのためにはどんな障害があるのか、ということこそ報道すべきではなからうか？「今日は、どうだった」「新しい事実はどうの」……こうしたニュースにはうんざりしている。

P T S D (心的外傷後ストレス障害)に苦しんでいる被害者の人たちも多いと聞く。  
暴露合戦の裏にあって、被害者の人たちの病院にかかる費用の問題とか、そうしたことをもっと報道して欲しい、そして赤の他人である、我々が何かできることはあるのかというヒントになるような報道こそ求めたい。

ということを書いてNHKにメールを送ろうとしてHPを見たら

|                                                                                                              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 下記の電子メールアドレス一覧に掲載されている以外の、NHK各番組、イベント、NHK全般に関するお問合せは、現在のところ電子メールでの受け付けは行っておりません。恐れ入りますが、はがき(手紙)または電話でお願いします。 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

とききました。  
NHKニュースに関しては、入っておりませんでした！だはっ

生徒の体に触れることは、法律で禁じられています 1998/10/27(火)

東京でお会いした人の奥さんはフランス人。  
外人コンプレックスのある僕にとっては、少々緊張してしまいました。  
しかし、彼と奥さんの大らかな人柄に救われ、とても楽しく、ためになる時間を過ごしました。

彼の家では日本語とフランス語と英語と、その後ロシア語まで飛び交う空間。僕の引き出しにはない空間、世界でした。

体罰の話の中です。「フランスでは法律で教師が生徒の体に触れることを禁じている」ということを聞かされ、ホント、驚きました。

「どうして日本では体罰がなくなるのか？」と聞かれ僕は「殴ってでも良いから、きちんとやってほしい、と言う親の要求もある」と答えました。

「子どもを育てるのは親の責任です」という当たり前すぎるほどの彼女の言葉が、ひときわ心に強く残っています。

～「エリツィン、ばか！ばか！」～  
3人で話している所へ、近所に住むロシア人の女性が遊びに来ました。  
彼女は2年ほど前に日本にやってきたと言うこと。  
彼女はパレストロイカもソ連の崩壊も、そしてロシアの今の混乱をくぐり抜けてきました。

時間もあまりなく、たくさんのお話もできませんでしたが、  
「エリツィン、バカよ、バカ！」と首を振りながら彼女は言いました。  
「コミュニストは嫌い！キャピタリストも嫌い！」そうも言いました。

新聞やTVなどでしか知らない世界を目の前の女性が、直面していた。  
そう思うと、不思議な感覚に包まれました。

丁度、ニュースではエリツィンの健康状態の問題が報道されている。  
日本にいる彼女は、どんな思いでそうした報道を見聞きしているのだろうか、そう思わないではいられませんでした。

気が付いたら、最終の新幹線の時間が迫っていました。  
とても穏やかな気持ちで、家路につきました。

.....その夜、女房と仲直りしました、  
というのは別の話.....

## 学級通信を持って家出したヤツ 1998/11/23(月)

.....「子育て日記を毎日書こう」そう思ったときに思い出しました。

教師になって2年目。初めてのクラスを持つことになった。

17年前のこと。今のようにパソコンを使うでもなく、ガリ版に鉄筆(これも死語かあ?)が文章を書く道具だった。

.....  
特に、試験問題なんかは悲惨だったなあ、と。  
僕は国語が専門のため、教科書の本文を書くのにどれくらい時間  
費やしたことが!今じゃ、カット&ペーストでOKだもんな。

.....  
と余談はさておき。

何か一つは僕自身が担任としてやり続けたいと思って始めたのが、学級通信だった。

「よっしゃ!毎日学級通信を書いたろう!」

と夢多き青年教師は、そう思ったのだった。

せつせと書いても、放課後の教室に、クチャクチャにされた哀れな姿など少しも想像もせず、書き始めたのだった。

B4一枚の学級通信を書くのに、

とにかく書いた。生徒との間がうまくいなくても、とにかく書いた。

書くことが自己目的のような学級通信だった。

生徒のアンケートの中に

「学級通信で怒るな!」「言いたいことがあったら口で言え!」

といった、辛辣だが的を得た答えももらった。

それでも書いた。書き続けた。

学校に生徒が登校する日は、年間で220日あまり。

学級通信も220号を越えた。

とにかく一年間、書きつづったのだった。

担任一年生としては、何がなんだかわからないままに終わったような気がする。むしろ思い出す度に顔が赤くなるような失敗ばかりだった。

さて、翌年。僕はいきなり生徒会の顧問、ということで担任を外れてしまった。学級通信を書くこともなくなった。

その年、僕が一年生の時の受け持ちだったヤツが家出をしてしまった。

結局、本人の行方がわからないまま退学届けは受理され、彼女はそのまま退学していった。

その後、家に戻った彼女と、久しぶりに会った。

その時彼女は

「先生さあ、私家を出るときに、一年の時の学級通信、持っていったんだ」と言った。

僕は言葉が出なかった。

以来、僕は自分が担任をしたときには、学級通信を書き続けた。

とにかく書き続けた。

久しぶりに当時の学級通信をパラパラとめくってみた。

そこには、確かに当時の僕の姿があった。

## 再び、神戸 1998/11/30(月)

先週、昼のワイドショーで「神戸の空港建設に関する住民投票」に関するレポートをやっていた。大和田莫がキャスターだったと……。

おっ、ワイドショーでも取り上げるのか、と思って見入ってしまった。

賛成派の議員のインタビューを聞いていて、本当に腹が立ってきた。

以前、メールマガジンでも少し触れたが(09/21-No.19-) 結局30万を越す署名を集めた、神戸空港問題の住民投票条例案は本会議でも否決されてしまった。

僕の知る範囲でのことだが、

- ・この建設は、90年に計画がされた。
- ・その後、バブルの崩壊、更には阪神淡路大震災に神戸は見まわられた。
- ・震災からの復興を通して新しい町づくりが進む中、神戸空港の建設の見直しが求められた。
- ・数多くの市民が、神戸空港の建設について疑問を持ち、「住民投票を実現するための署名が30万を越えた。
- ・議会はそうした声を無視して、住民投票条例案を否決した。

「地方自治は、民主主義の学校と言われます」という言葉を思い出した。この言葉は、僕が中学3年生の時、社会の教科書に載っていた言葉。

今でもはっきりと覚えている。太い文字で書かれてた。左側のページ。

「自分たちの町は自分たちでつくる」ということを震災からの復興と、この「住民投票条例案」に署名した、神戸市民の人たち。

次の時代を担う子ども達に、何を残さねばならないのかを、この運動は問いかけているように思う。

\* 「神戸住民投票を実現する会」のホームページ がとても参考になります。

<http://www.kobe-airport.gr.jp/>

## オームのパソコンショップ 1998/11/30(月)

土日(28,29日)と東京に行って来た。

何しに行ったかは、またいずれお伝えするとして、とにかく疲れた。

秋葉原に友人二人に連れていってもらった。とにかく、人の多さには本当に参ってしまった。

そして、僕を疲れさせた要因は、「音」だった。

色々なところから音が飛び込んでくる。予期せぬ方向からの音。

自分のペースではなく、周りに押し流されて歩く。

女房にお小遣いを貰って、ルンルン気分でハードディスクを探しにアチコチのお店に連れていってもらった。

とある店。ごんまりとしていて、店員さんはみんな女性だった。

おお、これは安い！思わず食指がう動く！

悩むこと、数分。

ま、他の所を回ってみよう、ということでその店を出た。

他の店でもっと安いハードディスクを見つけ、友人宅に。

そこで、彼は一本のテープを見せてくれた。

ある報道番組で、オームの資金源を追求している番組。

ぬわんと、目の前のビデオには、紛れもなく先ほど、ハードディスクを買おうかどうしようかと悩んだ店が出ているではないか！

もう一人の友人も、「そうだったのかぁ！ でも、安いわ、あそこ！」と。

ホント、安かった。

でも、買わなくて良かった、と思った。

しかし、それにしても、ヤツの性格の良いこと！

## メダルの個数 1998/12/15(火)

アジア大会が開かれている。  
メダルの個数が、韓国に抜かれて3位になった、そうだ。

NHKのニュースでは、連日アジア大会の報道がされる。  
うんざりしてしまう。もうやめてもらいたい、そう女房と二人で話している。  
「国威発揚」という言葉が戦時中にはよく使われていたというが、そんな雰囲気は僕は受けてしまう。  
(「国威発揚」の実際は、そんなものではなかったと思うが)

僕はスポーツが好きだ(最近ほとんどご無沙汰しているが)。

教員の特典の一つにスポーツ施設を自由に使える、というのがある。  
バレー、バスケ、バドミントン、テニス、卓球、ソフト.....。  
やるうと思えば施設はあるし、機材は揃っている。定期テスト中、生徒達が早く帰った後に、職員でよく遊んだものだった。  
また、運動部に顧問によくやり出されて、生徒との試合をやったり.....。

とにかくスポーツは楽しい。  
体を動かすことの気持ちよさ。  
汗を拭きながら、「いやあ、疲れたあ」と笑いあうときがいい。

スポーツは美しい、と重う。  
一生懸命にボールを追ったり、相手に向かっていく姿。  
勝ったときの笑顔、負けたときの悔し涙。  
試合に出られなくても、ひたむきに仲間を応援する姿.....。

最近は、専らスポーツを観戦する側に回ってしまった自分が、ちょっぴり悲しくもあるが.....。

「メダルの個数がどうの」という報道がなされると、途端にしらけてしまうのだった.....。

## 来年の今頃、今より少しでも... 1998/12/30(水)

。.:\*:~'° 。.:\*:~'° ° '.:\*:.。.:\*:~'° 。.:\*:~'°:

「来年の3月5日には、みんながこの学校を卒業していきま  
す。その日、その時に、自分で自分をほめてあげられるような、  
そんな一年間にしていって下さい。  
そして、このクラスを、自分自身を今より少しでも好きにな  
ってほしいのです。」

32HR学級通信 No. 1  
1987年4月1日(火)

。.:\*:~'° 。.:\*:~'°:~'°:~'°:~'°:~'° 。.:\*:~'° ° '.:\*:.:

もう、10年以上昔に書いた学級通信。  
一年の終わりには、何とも言えずに過去を振り返りたくなってしまふものです。

去年の今の時期の自分より、今の自分の方が僕は好きでいられます。  
そう思える自分が好きだし、いい一年だったと思います。

来年の今頃、やっぱり「今年は.....」などと思っているのでしょうか？

その時、今よりも少しでも自分を好きになりたい.....。  
そう思います。

1998年を終えるに当たって、僕に関わって下さった全ての人に心からお礼を申し上げます.....。

人間関係 1999/01/11(月)

「人間関係の作り方が下手」「深く関わりたくない」等々がこうした事件の背景として指摘される。

「いかに現実の人間関係が希薄」であり、それが故に「人とのつながりを求めているか」ということだろうな、と思う。

この手の犯罪は、「人との繋がりを求める」気持ちを逆手に取ったものであり、許せないなあ、と思う。

一方、見ず知らずの男に「肌がきれいになる薬」と言われて、その薬を飲む方も飲む方だと思ふ。全くもって「無知」としか言いようがないと。

僕はインターネットを通してのコミュニケーションをととても楽しんでいる。  
素晴らしい人とたくさんで会うことができた。  
視野の広がりだけでなく、人としての自分の幅が広がっていくことを実感している。

これからますます、こうしたネットワークの世界は広がっていくだろう。  
同時にそれらを悪用した犯罪も増えていくだろう。  
さけて通ることができないと思う。  
ならば、それらに立ち向かう知恵やだまされない賢さをこそ身につけて行かねばならないと思う。

オリンピックなんてやめちゃえっ！ 1999/01/28(木)

東京オリンピックの年、僕は小学生だった。  
浜松の航空自衛隊ではブルーインパルスが、澄み切った大空に何度も何度も描いていた。  
オリンピックの閉会式。  
今でも印象に残っている。  
色々な国の人たちが入り乱れ、肩を組んだりしながら楽しそうに入ってくる姿が。  
何とも言葉に表せない「感動」を受けた覚えがある。

連日報道される、オリンピックの誘致にまつわる疑惑。

モスクワオリンピックを日本がボイコットしたとき、選手の多くが涙を流したと言われているが、こんなオリンピックには参加できない！ ってボイコットする選手は出てこないのだろうか？  
「スポンサーに頼らず、手弁当でオリンピックを開こう！」  
な～んて言う選手が出てこないだろうか.....？

まあ、いないだろうなあ。  
そんなことしたら、スポンサーが降りたり、会社を辞めさせられたり.....。  
でも、でも.....。  
スポンサーがつかなかったり、企業のバックアップがなければ、続けられないスポーツを競い合う、ってのはおかしなモンだと思うのだけれど.....。

:\*:~!° 。.:\*:~!° °!~\*:!° .:~\*:~!° 。.:~\*:~!~\*:

オリンピックに関する掲示板、一つを見つけました。  
長野オリンピックの時の様子が過去の掲示板でわかります。  
そして、最近、再びオリンピックの問題が出てきて、掲示板を再開したようです。

<http://www.geocities.co.jp/Colosseum/1349/>

「子育て・学校・子ども達.....」発行1周年 1999/04/29(木)

読者の皆様へ  
一年前の1998年4月1日に創刊号を発行してから、このメールマガジンも一年が過ぎました。今では、9

00人を越える方にこのメールマガジンを配信するようになりました。

「週刊」と銘打ちながら、気が乗らなかつたりして書けなくなったときもあり、時としては1ヶ月近くも発行しなかつたり……。これは僕の心の揺れや、日常生活の反映でもありました。

このメールマガジン発行を通して、多くの方と繋がりができました。  
今までになかった世界が広がっていきました。  
心からお礼を申し上げます。

そして何よりも、こんなメールマガジンにおつきあいいただいていること、ホントに嬉しさで一杯です。

来年の4月、今よりも、もう少し自分を好きでいられるようになりたいと思います。宜しくおつきあいのほど、お願いいたします。

### 鈍った感性～ピュリツァ賞写真展を見て～ 1999/05/10(月)

5月6日、静岡で行われたピュリツァ賞写真展に行ってきた。  
その前に女房が行ったとき、写真集を買ってきてあったので、どんな写真が展示されているかは知っていた。  
でも、目の前で見るのは全く違った……。

子ども達の目が悲しい。  
ベトナム、ルワンダ、スーダン、エチオピア、ルーマニア……。  
戦争で、飢餓で苦しむ子ども達の虚ろな、また、恐怖に怯える目がたまらなかつた。  
目を背けたくなつたが、背けることができなかった……。

久しぶりに僕の中の心が激しく揺さぶられるのを感じた。  
同時にいてもたってもいられない自分を感じていた。  
何かしたい、何かできないか、コソボでもスーダンでも飛んでいきたい衝動に駆られた。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° '°\*:~.。.:\*:~'° 。.:\*:~:~\*:

我が家のことを思った。ゆーたのことを思った。  
かつて僕は、家庭もゆーたも省みずにアチコチ飛び回った。  
僕は保育園から小学校1年生にかけて、ゆーたとの思い出がほとんどない。  
恐らくゆーたにしてみても、その間の生活の中に僕は存在していなかつたと思う……。

ゆーたは今、毎日、色々な問題に直面しながらも、一步一步大きくなっている。やはり僕が家にいるようになってから、ゆーたは落ち着いてきたと思う。  
だから、これからは家にいることを基本にして、何ができるのかを考えて行かなくては、と思っている。

自分でもわかっている。  
何か始めるとそれに没頭して、糸の切れた凧のように、どんどん飛んでいってしまうことを。そして、自分でもとことんやらなければ、気が済まず、いつしかセーブがきかなくなってしまうことも……。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° '°\*:~.。.:\*:~'° 。.:\*:~:~\*:

だが、この写真展を見た時のもう一つのショックは、自分の感性が鈍くなっていることを痛烈に感じたことだつた。  
ここ3年ほど、外に出ることがめっきり少なくなり、色々な人との出会いや刺激がめっきり少なくなっている。  
行動範囲も狭くなってきている。  
次第に日常生活の中に埋もれていってしまっているような……。

テレビのワイドショーも随分と見るようになった。  
おかげで芸能人がどうした、こうした、と言う話には随分と詳しくなつてきた。その一方で……。

.:\*.!° 。.:\*.!° ° !.:\*.!° .:\*.!° 。.:\*...\*:

世の中には、子育てをしながら、働きながらアンテナを広げて、生き生きと暮らしている女性もたくさんいるのになあ、と思う。

感性を磨くことは、色々な所でできるはずなのにね。  
でも、それがなかなか見えてこない自分にイライラしたりもする.....。

「焦ってるんじゃないの？」  
女房に言われた。  
また、最近、ある友人にも言われた。

そう、焦っているんだらうなあ.....。(。\_。)

### 本日は晴天なり～朝の連続テレビ 1999/05/25(火)

毎朝、7時30分過ぎには、女房も出かけていき、片づけをしながら、BS 2の「すずらん」「本日は晴天なり」を見るのが、僕の日課となっている。  
「すずらん」も良いけれど、再放送の「本日は晴天なり」。これも面白い。

舞台は東京。戦中から戦後にかけての下町の生き様。  
主人公は原日出子。そこに津川雅彦、宮本信子が脇を固める。  
学童疎開、空襲、終戦の放送、闇市、マッカーサー、焼け跡.....、当時の記録フィルムなども挿入されている.....。

ここのところは、敗戦後、人々がゼロから立ち上がろうとする姿を描いている。  
それよりも、ドキッとする言葉が出くわすことがある。  
「日本人は『敗戦』と言わずに『終戦』と言う。何でも占領軍任せ。戦争がなぜ起こったのかを、どうして自分たちで考えようとしなないんだ？」  
「一体、何のために金太郎姉さんは、死ななければいけなかったんだ？」  
等々.....。

日本にとって「戦争」は遠い昔のこと、済んでしまったことなんだろうか？ と考えさせられる。

昨日は、ガイドライン法案が国会を通過した。  
ユーゴスラビアの空爆は2ヶ月を過ぎても未だに続いている.....。

### 東京にて 1999/06/08(火)

先週の金曜日、突然東京に出かけることになり行って来ました。  
本の出版.....まだ詳細は秘密 (^\_^)に少々関わることになりその打ち合わせでした。  
せっかく東京に行くんだから、急遽、時事通信社の宗林さん、そしてPubzineのWebmasterの吉田さんと会ってきました。

お二人ともメールでのやりとりはしていても、会って話をすることによって、その人柄を確認することができました。インターネットやe-mail、確かに人とのコミュニケーションを飛躍的に広げてくれました。しかし、同じ空気に触れている、と実感できることには叶わないなあ、と。  
何とも慌ただしい一日だった。

池袋の地下道を歩いていると、ホームレスの人たちが寝ていました。  
鼻を突く異様な臭いと共に...。  
都会の人たちにしてみれば、日常的な光景なのかもしれません。僕にはショッキングな光景でした。何が？ と言われると直ぐに答えは出せませんが.....。  
テレビの向こう側からは日常的に流れている光景なのですが.....。

### 「人材は欲しいけれど、人はいらない」 1999/07/13(火)

「景気底入れ！」「明るい兆し？」等という文言がテレビや新聞で見受けられます。今年の正月(うっ、古い!)に下のような記事が載っていました。

「中高年の『才能』だけを切り分けて提供します。」  
人材派遣業最大手のパソナ（本社東京）が、中高年の「才能」を約800項目に細分にして登録し、4時間単位で企業に派遣する「才能バンク」を設立し、1月から募集を始めた。11月から試験的な応募を始めたところ、一ヶ月間でリストラ対象者など約300人が登録した。失業率が過去最高を記録する中で、中高年の再雇用の場を広めるのが目的だが、既に多くの企業から引き合いがあるという。（朝日新聞 1999年1月10日）

その記事の中で、パソナの上田宗央副社長は「『人材』はいらないけれど『人』はいらない、という企業は多い。」と書かれてあった。

結局は、企業あつての「人」なんだなあ、と。  
人は切り捨てても、企業は切り捨てない。  
「会社があるから、食べていける」という考えは根強いんでしょうね。だから、まず守られなければならないのは、人ではなく、会社。

自分たちの仕事場は自分たちで生み出して行くしかないと思います。  
この思いは、ますます強くなっていきます。

#### 日常生活への埋没 1999/09/01(水)

この夏休みの間に、日の丸、君が代が法制化され、盗聴法も可決されてしまった。トルコの大地震で、大勢の人が亡くなった。

僕は、何もしなかった。何も動かなかった。  
書くことすらしなかった。

日の丸、君が代が国会で可決された時、僕たち親子は下田の海で遊んでいた。  
女房の実家に戻り、  
「日の丸・君が代、国旗国歌に！」  
という新聞の大きな見出しを見たときに、何も言葉は出てこなかった。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° ' .:\*:.. .:\*:~'° 。.:\*:~'~\*:

僕の目の前にある日常生活と、ブラウン管や新聞紙上から伝えられる大事な出来事とが、どこでどう結びついているのだろうか？全くわからなくなってしまった。

「子育て」って何だろうか？  
ただ、子どもと漠然と時間を過ごすことなんだろうか？  
「毎日」の中に埋もれていく……。

#### テレビゲーム～子ども達を夢中にさせるもの～ 1999/09/21(火)

もうひとつのメールマガジン「ぼちぼちいこっ」ではテレビゲームの話が続いている。  
我が家にゲームが入ってきたのは、ゆーたが小学校3年生の頃からだろうか？リハビリの先生や、小児神経の先生にも「ゲームによる指先の細かい動きは、決してマイナスではない」ということも言われていた。  
（一昔前だったら、粘土遊びとか、折り紙とか、工作だったか）  
それ以前に、僕自身がインベーダーゲームや、パソコンゲームなども好きだったから、と言う理由も大きい……。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° ' .:\*:.. .:\*:~'° 。.:\*:~'~\*:

香山リカという精神科医の「テレビゲームと癒し」という本を読んだのだが、  
「『ゲームそのものが子ども達に悪い影響を与えるのではない。最初から問題のある子がゲームに熱中するのだ』というこれらの意見をこんなふう言いかえることはできないでしょうか。『何か問題を抱えている子



どもでも、テレビゲームになら熱中することができる』  
癒し」岩波書店 より)

(香山リカ著 「テレビゲームと

この中の「問題のある子がゲームに熱中する」という一節がずっと頭から離れないでいる。  
息子に当てはめてみると、これは言えるなあ、と思う。  
特に、

『何か問題を抱えている子どもでもテレビゲームになら熱中することができる』

という部分には、なるほどと思ってしまう。  
彼女は言う。

「……つまり、ゲームをすることによって、心は大まかに次の二つのプロセスを踏むと考えられるのです。まず、ある世界に暖かく迎えられ、『自分が受け入れられている』という体験をする。それからゲームそのものに没頭することによって、『新しい世界への強い参加の感覚』を味わう。受容と参加、しかも現実の生活では体験できないほどの強さで、それらを実感する」と。( 同 )

:.:.:'° 。 .:\*.:'° ° ' .:\*.:. .:\*.:'° 。 .:\*.:.:.\*:

僕自身は、テレビゲームなどない中で、それこそ遊びは生み出すもの、そういう子ども時代を過ごし、大きくなってからテレビゲームに出会った。  
だから、テレビゲームがなくても、色々な遊び方、楽しみ方は、知っているつもりだ。スポーツ然り、音楽然り、こうしたインターネット然り……。  
しかし、幼少期から「ゲーム」が遊びの中心の息子などは、どんなことをこれから体験していくのだろうか？

この答えは、息子の世代が大人になった時まで待つことになるのだろう。  
ただ、「何でもかんでもゲームが悪い影響を与える」等という考えには僕は立たない。昔の「魔女狩り」のように……。

一年間ありがとうございました 1999/12/30(木)

いよいよ1999年も明日で終わり。  
今年一年間、色々ありました。  
やはり息子との関わりが、僕の全てです。  
PTAの役員、ゆーたの不登校……。  
ともかくにも家族全員が健康で、一年を終えることに何よりも喜びを感じます。

同時に、このメールマガジンにおつきあいいただいた皆さんに、心からお礼を申し上げます。

時には、せっかくいただいたメールに返事すら書けないような、精神状態に陥ったりしたときもありました。

そんなときでも誰か彼かから、心温まる言葉をいただきました。

やはり僕には、語り合う仲間が必要だと、改めて思いました。  
まだまだ先が見えない状況は続いています。

でも、一歩ずつ、たとえどれほどゆっくりとした歩みであっても、前に進んで行きたいと思っています。  
そう、疲れたらゆっくり休めば良いんだ、と。

焦らず、慌てず、一歩ずつ……。

来年もよろしくお願いします。  
ま、ぼちぼち行きます……。(^.^)

来年は……？ 1999/12/30(木)

「ゆーた君が学校に行かなくなって、大変でしょう？」  
よくそう言われた。

いや、逆なんだけれどなあ、といつも思った。

ゆーたが学校に行かなくなるとどれだけ、心にゆとりが生まれたことだろう？  
確かに毎日顔を付き合わせるの、しんどいことはしんどい。  
何かと感情をぶつけてくるゆーたに、毎日のようにイライラさせられたり。  
そう言う意味では大変なんだろうな、とも思う。

しかし、大変なこと、しんどいことと、その状態が不幸かどうかは、全く別問題。  
大変であるからこそ、幸せだと思えることもあるし、苦勞の中にも喜びはたくさんある。

来年は.....？  
などとついつい考えてしまう今日この頃。

来年は.....？  
やっぱり、僕は僕であり、ゆーたはゆーたであり、女房は女房であり.....。

山が山であるように、花が花であるように、人は人であればいい

そう思う。

## 2000年の挑戦！ 2000/01/20（水）

昨年に引き続き、今年一年も自分が何をしようとしているのかが、相変わらず見えない状況にある。そんな中でも、ま、これができたら何かが見えてくるかな、というものが二つ。

### ----- ～ フルマラソン ～

昨年の秋から始めた体力づくりだが、年末から自宅の周囲を走るようになった。大体5 km。たまに10 kmほど.....。

身体を鍛えないといけない、と思ったきっかけは、  
「体力づくり...」 <http://osamu.net/cgi/nikki3/199910160940.html>に書いてあるが、いつしかもっと長い距離を走ってみたい、と思うようになった。自分のペースで自分がどこまで走ることができるか？その延長線上に「フルマラソン」が浮上してきた。

今の状況ではとてもじゃないけれど、今年中には最低でも「ハーフマラソン」にチャレンジしてみよう.....。

走ったからと言って何がどうなるというものではないだろうが.....。

### ----- ～ WindowsDTP ～

昨年文芸誌を発行している方と知り合い、手伝って欲しい、と言うことでおつきあいを始めた。純文学の雑誌を発行しているのだが、全て身銭を切って発行をし続けている。

最初は、パソコンを使っての入力、ワープロで作られた原稿のパソコンへの変換、スキャナの使い方などを行っていたが、やはり、印刷コストのことを考えると、DTPソフトを使って印刷所に直接持ち込んだ方が良さだろう、ということになった。

そんなわけで、「DTPはMAC」という印刷業界の中、Windowsを使ってのDTPに取り組みもう、という事になった。

この間、Windows DTPの本をしこたま買い込んできたのだが、フォントの問題とか、レイアウトの問題とか、PDFファイル.....

?????状態。 (;\_;

でも、これから先、もっともっと「自分たちで出版を！」という人達が増えていくだろう。そうした中、勉強することは決してマイナスにはならないと思っている。

これまた身についたからどうする、という先の見通しが立っているわけではないのだが.....。 (^\_^)

## 負けを楽しむ 2000/02/28 (月)

昨日、地元のロードレースに参加した。  
詳細については、「ぼちぼち...」の「いつかは42.195！」を読んでいただけたらと思うが、とにかく楽しかった。

5 kmの間、自然の中を自分の足で前に進んでいることを実感した。  
女子高校生に抜かれたり、自分が勝手に決めた「ライバル」に追いつけなかったり、僕よりも高齢の人には負けまい、と思ったりと.....  
もっともっと走っていたいと思った。  
走り終えた満足感。という言葉に集約されるのだろうが、自分で自分をきちんと評価してあげられたことが一番嬉しかったのだと思う。

対戦相手に勝ったか負けたかではなく、あくまでも「自分に対する自分の評価」が大切なんだと思った。  
そりゃあ、けなされるよりは誉められる方が嬉しいけれど、「自分で自分をきちんと評価してあげられる」こと。このことは今までも何回、何十回と言ってきたことだということを思い出した。  
この感覚を久しぶりに思い出させてくれた。  
「負け」を楽しんでいる自分がいる。それが嬉しかった。

## 人と会う 2000/03/06 (月)

昨日東京で「ACADEMIC RESOURCE GUIDE」というメールマガジンを編集発行している岡本さんとお会いした。  
「何？ その『ACADEMIC...』なんたら、ってのは？」という方は、HPをご覧になっていただければわかると思うので省略。

岡本さんとは、「まなびや」を開設したころからメールでのおつきあいが始まったから一年以上だろうか？

HPやメールマガジンを拝見していて、さぞかし経験豊富な方だと当初思いこんでいた。ところが年齢を聞いてビックリ。1973年生まれとのこと。改めて凄い、と思ってしまった。同時に日常生活の中で、「年齢」や「肩書き」「容姿」でその人を判断していることが如何に多いか、ということも痛感した。

「その人が何をしてきたか」「何をしようとしているのか」ということを、余分な枝葉を切り落とすことの大切さも教えてもらった。

.\*:.\*'° 。.:\*:\*.'° ° '.\*:.\*° .:\*:\*.'° 。.:\*:\*...\*:

岡本さんの知り合いの方を紹介してもらうことが次の楽しみだ。

HPはこちら

<http://www.ne.jp/asahi/coffee/house/ARG/>

HP、メールマガジンに掲載されている言葉...

"Ask not what the net can do for you  
-ask what you can do for the net."

## 言葉...「軽さ」と「一人歩き」 2000/03/06 (月)

「言語道断」「真に遺憾」「あるまじき行為」「お怒りはもっとも」etcetc...その後行き着くところは「...ご理解をお願いしたい」

警察の不祥事のニュースもさることながら、小淵さんや関係閣僚さんなどの言葉には、聞いていてホトホトイヤになる。

言葉がどんどん軽くなっていくのを感じる。

以前触れた「言葉の一人歩き」も、結局はこれと同種の「軽さ」の現れなんだろうと思う。新潟県の事件では「ひきこもり」という言葉が登場している。

その言葉の持つ心理学的な意味合いは、専門家に譲るとしても、少なくとも「簡単に使える言葉」ではないことだということは、僕にでもわかる。

「ひきこもり」 > 「犯罪予備軍」 > すわ、一大事！

言葉の軽さもさることながら、「人」もどんどん軽くなっているようだ。

：\*：\*’° 。：\*：\*’° ° ’：\*：\*..：\*：\*’° 。：\*：\*...\*：

警察に今、批判、怒りが集中している。

当たり前だろうなあ、と。

次に来るのは「学校、先生」ではないかな、とチラッと思った。

怒りの矛先が違うように思うのだが、これも「たたきやすい所から」という種のいじめの構図に似ている感じもして.....。

.....んじゃあ、お前の言葉は軽くないのかい？

そう問われると、答えに窮するけれど.....。(..)

### 勝ち組・負け組 2000/04/15 (土)

最近のインターネットを利用したベンチャー企業には、20代の若者が会社を興し大きくなっていくケースもある。

実際、凄いなあと感心することが多い。同時に如何にインターネットの世界には大きなチャンスが広がっているか、ということに改めて思い知らされる。

ただ、そうした若者達やベンチャー企業を紹介する番組の中で、気になる言葉がある。それが「勝ち組・負け組」という言葉だ。

：\*：\*’° 。：\*：\*’° ° ’：\*：\*..：\*：\*’° 。：\*：\*...\*：

先だってもiモードを使っの検索サイトを立ち上げた、兄弟を紹介していた。

「とにかく、今自分たちが考えていることは、世界のどこかで同じように考えている者がいるということ。二番目ではダメで、最初にやるのが大事だ。真似をするのと最初にやるのでは、全然違う。

絶えず一番であり続けたいといけない。結局は『勝ち組か負け組』かに別れていく.....」

そんなことを言っていた。

確かに最初に作り上げることは素晴らしいと思う。

人のやらないことをやることも同じ。

「勝ち組」と「負け組」といった競争は、とどまるどころを知らないんだろうなあ、と思う。最初から「勝ち」を目的とした世界には、僕自身は到底入っていけない。

：\*：\*’° 。：\*：\*’° ° ’：\*：\*..：\*：\*’° 。：\*：\*...\*：

どこまで勝ち続ければ良いのだろうか？

マイクロソフトのビルゲイツさんのように、巨万の富を築くまでだろうか？

巨万の富を築いた後、どうするんだろ？

そりゃ、お金はないよりもあった方が良いけれど..... < 願望 (；\_；)

若手のベンチャー企業家が脚光を浴びれば浴びるほど、それは今の学校教育に跳ね返っていくような気がするのだが.....。

### ボストンマラソン ~ 何時間かかっても ~ 2000/04/24 (月)

東京オリンピックの年、僕は小学校一年生。

自衛隊の浜松基地でブルーインパルスが、よく五輪マークを空に描いていた。

昨日の「知ってるつもり？」は東京オリンピックを舞台にした三人のマラソンランナー、アベベ、円谷、君原をとりあげていた。僕の幼い頃の記憶の中にブルーインパルスと共に、マラソンレースのことは鮮明に残っている。

その後、円谷選手が自殺したことも、アベベが半身不随になってしまったことも、その後の話として記憶にある。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .\*:.'° 。.:\*:...\*:

コメンテーターの一人(名前忘れた!)が、ボストンマラソンのことを触れていた。  
日本の市民参加のレースには制限時間がある。  
大体42.195kmを5時間くらい。  
ところがボストンマラソンでは、制限時間がない。何時間かかっても、最後のランナーが帰ってくるまでレースは続けられる、と。日本でもこうしたレースが開かれるようになって欲しい、と。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .\*:.'° 。.:\*:...\*:

番組の最後に君原選手の言葉が流れた。確かこんな内容だったと思う。

「人生はマラソンレースにたとえられるけれど、むしろ駅伝ではないかと思う。前の人からたすきを受け継ぎ、そのたすきを次の人に託す。……レースを途中で投げ出すわけにはいかないのだ」

……たとえ何時間かかっても良いから、自分の足で歩き続けたい。  
周りに惑わされることなく、自分の意志で歩き続けたい。  
そう思った。……。

### 過保護について 2000/04/24 (月)

最近テレビで色々な事件が起きるたびに、「過保護がいけない」という言葉を耳にする。  
僕はその度にどうも違うんじゃないのかなあ、と何とも言えない違和感を覚えることが多くなってきた。  
うまく表現できないが、どうも胸の辺りがモヤモヤするのだった。

ゆーたのコロ付き自転車。  
一緒に外へ出ていくのに、僕の中に小さな抵抗感がある。これは、心ない同級生に出会ったりしたとき、ゆーたをパカにするネタとならないか、ということだ。

「色々な子ども達の中でもまれていくものだ」

これは一般論としては正しいだろう。  
でも、とても傷ついた心をなんとか癒そうとしているゆーたにとっては、この一般論はあてはまらないと思っている。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .\*:.'° 。.:\*:...\*:

佐々木正美という児童精神科医がいる。  
彼は、「子どもへのまなざし」(福音館書店)の中で、こんなことを書いている。

「……過保護で子どもを、本当に育て損なったという事例を、私はみたことはありません。」  
「……幼い子どもの育児というのは、本当に過保護くらいでちょうどいいと思っています。ところが過剰干渉だと子どもをダメにするのです。……」  
「過剰干渉というのは…子どもが望んでもいないことをやらせすぎることです。」

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .\*:.'° 。.:\*:...\*:

部分的に書き出したただだと、それこそ言葉が一人歩きしてしまうので、もし興味のある方は、その本を読んでいただきたいと思うが、いずれにせよ、「過保護、過干渉、過剰コントロール」といった言葉が、横並びになってそこら中を漂っているような気がする。

### 不惑 2001/5/23 (水)

40にして惑わず…だそうだが、いよいよ僕の混迷は深まっていく。

僕が教壇を去ったのが、ゆーたが小学校の2年生の時。  
ゆーたが義務教育が終わる中学卒業の時が一つの区切りになるだろう、と話していた。時のたつのは早いものだ、ゆーたは中学生になってしまった。

ゆーたは着実に成長してきた。しかし、自立にはまだまだ時間がかかるだろうし、これから先も、僕たち親が責任をもってゆーたと関わることなしに、ただ年齢だけでゆーたを判断することは、絶対にできない。

一方、女房も学校で何かある度に

「もう、そんなに長く学校には勤められないと思う」と口にする。

今、我が家の経済を一身に担っている女房のこの言葉は、非常に思い意味を持つ。

「人はパンのみに生きるにあらず」と言えども「パンなしでは生きていけない」という現実。親父やお袋の老い。そうした将来への漠然とした不安が、僕を襲う。

方や「立って半畳、寝て一畳」の僕らの人生。

何とかなるサ！ というお気楽な考えもないではない。

すずきおさむよ、どこへいく?????

# 「子育て・学校・子ども達」Contents

-1998/04/01(水) - 創刊号 -  
メールマガジン発行に寄せて  
いのち -1-

-1998/04/06(月) -No.2-  
メールリンク作成について  
独り言

-1998/04/13(月) -No.3-  
いのち -2-  
ご意見紹介  
メールリンク作成について  
独り言

-1998/04/20(月) -No.4-  
いのち -3-  
所沢高校シンポジウム開催  
H P 更新情報  
独り言

-1998/04/27(月) -No.5-  
いのち -4-  
H P 更新情報  
独り言

-1998/05/02(土) -No.6-  
GW中のTV番組  
子育て・学校・子ども達フォーラム開設！  
独り言

-1998/05/11(月) -No.7-  
テレメンタリー98 ~全盲の先生~  
いのち -5-  
H P 更新情報  
独り言

-1998/05/16(土) - 号外 -  
引き逃げ犯を、なぜ不起訴にしたのですか

-1998/05/18(月) -No.8-  
所沢高校に関するH P  
いのち -6-  
独り言

-1998/05/26(火) -No.9-  
たけしのTVタックル  
いのち -7-  
独り言

-1998/06/09(火) -No.10-  
とほほほほ (^\_^);  
S O I - インターネットで学べる学校  
I C Q - I seek you  
嗚呼、文化祭

「日本一醜い親への手紙」  
「おじいちゃんのおもちゃ箱」 - H P 更新情報 -  
独り言

-1998/06/15(月) -No.11-  
続・S O I - インターネットで学べる学校  
教育トゥデイ '98 ~ インターネットで広がる不登校時教育 ~  
10回目の誕生日を迎えた君へ  
親父.....  
独り言

-1998/07/02(木) -No.12-  
新学習指導要領  
6月23日~沖縄~  
悲劇、悲願、歴史的.....嗚呼ワールドカップ  
授業参観あれこれ  
H P 非更新情報 .....なんだこりゃ(笑)

-1998/07/06(月) -No.13-  
続・新学習指導要領  
専業主夫のひがみ  
ゆうたと子ども達.....

-1998/07/04(火) -No.14-  
校長先生って何？  
少年法改正論議スタート  
やっぱり英語ができないと.....  
むかつく.....

-1998/08/10(月) -No.15-  
ゆうた友達の家に行く、の巻  
アウトドア事始  
サンクチュアリジャパン

-1998/09/01(火) -No.16-  
'98夏~この夏の出来事~  
ゆうた、初めて海で泳ぐ、の巻  
お腹が痛い.....。  
U R L、メールアドレス変更予告

-1998/09/07(月) -No.17-  
毒物混入事件  
新H Pのご案内  
ゆうたの電話のかけかた、の巻  
夏休みの宿題

-1998/09/15(火) -No.18-  
できるだけ波風を  
埼玉所沢高校  
隼君事件、不起訴処分取り消し  
至急！賞金獲得のために今すぐお申し込み下さい！  
三日坊主日記&落書き帳

-1998/09/21(月) -No.19-  
「まけないぞう」って知ってました？  
あふれる情報の中で  
URL変更のお知らせ  
ゆーた、学校を休む の巻

-1998/09/28(月) -No.20-  
世界の子供達とインターネットで話そう  
教壇を去って行った先生達.....  
冷戦続くOSM家の巻  
「まけないぞう」連絡先訂正  
URL変更のお知らせ

-1998/10/05(月) -No.21-  
Yahoo!掲示板に思う  
ゆーた、額に傷を付けてくる、の巻  
冷戦集結、の巻  
お勧めメールマガジン～on the watch for WWW～  
続・教壇を去って行った先生達

-1998/10/12(月) -No.22-  
「淳 Jun」を読みました  
Mind-it、使えます  
信じられない親たち  
ゆーた、自転車に乗る、の巻

-1998/10/19(月) -No.23-  
自分の居場所を探す  
NHKってワイドショーだったんだ  
子どもを立たせる  
女房、元気で外が良い、の巻(1998/10/15)

-1998/10/27(火) -No.24-  
自分の目と耳と足で.....  
学校をつくろう！  
生徒の体に触れることは、法律で禁じられています  
エリツィン、ばか！ばか！  
あんな病気をしたから.....  
「出にくい大学」に変身する？～大学審議会の答申

-1998/11/02(月) -No.25-  
「内助の功」夫～AERA 11/2号より～  
所沢高校の生徒から  
就学前の子どもに必要なもの～BBSより～  
先週の子育て 10/25(月)～11/1(日)

-1998/11/09(月) -No.26-  
スーダン報告'98～国境なき医師団日本～  
修学旅行  
ハードルの高さ～我が子が見極め～  
先週の子育て 10/25(月)～11/1(日)

-1998/11/16(月) -No.27-  
学級崩壊  
歩いていけば、かならず着くんだよ  
スーダンも日本も、子どもの環境は悲惨です～お便り紹介～  
先週のBBSから

先週の子育て 11/09(月)～11/15(日)

-1998/11/20(金) -号外-  
週刊朝日の記事、読まれましたか？

-1998/11/23(月) -No.28-  
続・学級崩壊  
学級通信を持って家出したヤツ  
女房の実家～こちら、杉本釣り船センター～  
学習指導要領改訂  
独り言

-1998/11/30(月) -No.29-  
先週のBBSより～所沢高校のHIDEAKIさん～  
ゆるまが『子育て、教育、学習』専門店  
再び、神戸  
オームのパソコンショップ  
お知らせ・独り言

-1998/12/07(月) -No.30-  
まなびや開設の思い  
ハードディスクがあ・・==お願い==

-1998/12/15(火) -No.31-  
少年法改正～よくわかりません～  
仮想と現実～インターネットへ社会への危惧～  
子ども達へのメッセージを！  
メダルの個数

-1998/12/23(火) -No.32-  
子どもの暴力、過去最悪！？  
刑事罰「14歳以上」に  
イラク空爆～戦争はいやだ！～  
イスタンブールより～世界の子供達と話そう～

-1998/12/30(水) -No.33-  
来年の今頃、今より少しでも.....  
いろいろありました1998～メールマガジンより～  
個人的にもいろいろありました  
ご意見、ご感想お待ちしております

-1999/01/11(月) -No.34-  
伝言ダイヤル・薬  
人間関係  
AC(アダルトチルドレン)って知ってます？  
まなびやML(メーリングリスト)開設しました  
エッセイ、シリーズもの募集します

号外 -1999/01/16(土)-  
もこさんより

-1999/01/18(月) -No.35-  
子どもの身近な危険～号外に対して～  
エッセイ、シリーズもの 第二弾予告



- 1999/01/28(木) -No.36-  
我が家でもありました ~お手紙紹介~  
「学級崩壊」って言うけれど  
オリンピックなんてやめちゃえっ!  
子育てリストラ宣言:その1 ~まず、親が苦しみを吐き出す~
- 1999/02/15(月) -No.37-  
落ち込み.....  
レインボーハウス(虹の家) その1  
子育てリストラ宣言:その1 ~ACをめぐるよくある誤解~
- 1999/03/01(月) -No.38-  
レインボーハウス(虹の家) その2  
海の色は黒い  
校長先生の死  
高校の学習指導要領案発表
- 1999/03/08(月) -No.39-  
レインボーハウス(虹の家) その3  
日の丸・君が代  
アダルトサイトのソフトをダウンロードすると  
子どもの世界と権利条約(予告)
- 1999/03/18(木) -No.40-  
「出会い」系の掲示板  
どうして批判ばかりするの?  
子どもの世界と権利条約(第1回)
- 1999/03/29(月) -No.41-  
結婚記念日  
「息子達へ」 ~BBSから~  
子どもの世界と権利条約(第2回)  
子育てリストラ宣言(第3回)
- 1999/04/29(木) -No.42-  
「子育て・学校・子ども達.....」発行1周年  
再出発!  
止まった「時」を動かしてあげて ~あしなが育英会  
会財政ピンチ! ~
- 1999/05/10(月) -No.43-  
鈍った感性 ~ピュリツァ賞写真展を見て~  
PTA、楽しんでます!  
コロラド高校生銃乱射事件  
エッセイストOSM! ~自立への一歩(笑)~  
お便り紹介 ~まさか自分が離婚するとは~
- 1999/05/19(水) -No.44-  
幼児の名簿売ります!  
高校銃撃事件の原因は何か  
小学校2年の息子へのいじめ? ~読者の方から~  
親テストを試してみましよう ~子育てリストラ宣言:その4  
学校へ行かなきゃいけないの? ~子どもの世界と権利条約3
- 1999/05/25(火) -No.45-  
プロのウェークボーダー ~熱血! 島田塾~  
本日は晴天なり ~朝の連続テレビ  
地球法廷・教育を問う  
家を捨てよ、街へ出よう ~子育てリストラ宣言:  
最終回
- 1999/05/31(月) -No.46-  
運動会'99 ~ようやく終わりました~  
青少年健全育成会 ~PTA活動~  
「主婦」「主夫」って何でしょう?  
学校を変えるには? ~子どもの世界と権利条約:4
- 1999/06/08(火) -No.47-  
進路指導 ~完全失業率5%の時代に~  
ネットワークカウンセラー  
「主婦」「主夫」って? 回答編  
東京にて
- 1999/06/14(月) -No.48-  
お勧め! 教育総合情報サイト ~ED-News Magazine  
~  
いやなことばかり! ~ホント大変です~  
またまた「主夫」について ~TV番組制作会社から~
- 1999/06/21(月) -No.49-  
学級懇談会 ~お母さん! 感情的にならないでえ  
~  
PTA役員への手紙 ~学校とのつきあい方~  
親が楽しまなくっちゃ!!
- 1999/06/28(月) -No.50-  
一人で悩んでいる親達は? ~学校とのつきあい方  
~  
育休中の先生から  
郵政省からのご案内 ~いきなりだよ! ~
- 1999/07/13(火) -No.51-  
「人材は欲しいけれど、人はいない」  
親のモラル  
もめたときこそ分かり合えるとき ~教育懇談会に  
ついて~  
忙しい...(;\_;) )
- 1999/09/01(水) -No.52-  
日常生活への埋没  
集団登校検討委員会  
「奴ら.....」
- 1999/09/07(火) -No.53-  
登校方法教えて下さい!  
教師の不祥事  
家族って、「居場所」なの? ~子どもの世界と権利  
条約:5  
インターネットの図書館「りぶりぶ」

-1999/09/13(月) -No.54-

続・集団登校  
天井かカツ井か? ~日の丸・君が代に寄せて~  
メールマガジンのこれから

-1999/09/21(火) -No.55-

テレビゲーム ~子ども達を夢中にさせるもの~  
忙しすぎる学校  
君が代を歌わない自由はない ~日の丸・君が代に  
寄せて2~  
広告クリックします? ~メールマガジン読者アン  
ケート~

-1999/10/13(水) -No.56-

学校に行かなくなったゆーた  
イライラ  
学校  
これから...

-1999/11/09(火) -No.57-

担任  
自分を変える  
「パパは拗ねてるんだよ...」  
義務教育  
ものが言えない職員会議 ~BBSより~  
お詫びとお願い

-1999/12/03(金) -No.58-

おだやかな日々  
学校との距離 ~嗚呼、PTA役員~  
学校が全てじゃない ~親として教師として~  
スポーツクラブと学校体育  
商工ローン ~今年も色々と..... ~

-1999/12/30(木) -No.59-

一年間ありがとうございました  
今年最後のドタバタ  
来年は.....?

-2000/01/20(水) -No.60-

「開かれた学校」って?  
幼児虐待  
ぼちぼちいこっ!  
2000年の挑戦!

-2000/01/27(木) -No.61-

「開かれた学校」への声  
ミレニアムプロジェクト  
集団登校、その後  
今週の「ぼちぼちいこっ!」

-2000/02/06(日) -No.62-

小学校の制服とPTA  
新掲示板設置 ~皆様のご意見を~  
自己防衛 ~京都小学生殺害事件容疑者自殺~  
毎日教育メール  
今週(?)の「ぼちぼちいこっ!」

-2000/02/21(月) -No.63-

次期PTA会長選出  
欠席理由  
掲示板より  
前号からの「ぼちぼちいこっ!」

-2000/02/28(月) -No.64-

がっこうごっこ  
犬の里 ~動物ボランティア~  
負けを楽しむ  
先週も、まあ、ぼちぼちと.....

-2000/03/06(月) -No.65-

「がっこうごっこ」ノート  
人と会う  
言葉...「軽さ」と「一人歩き」  
先週も、まあ、ぼちぼちと.....

-2000/03/14(火) -No.66-

「がっこうごっこ」メモ2  
夢の島強盗殺人事件  
話題色々 ~掲示板より~  
先週も、まあ、ぼちぼちと.....

-2000/03/30(木) -No.67-

5年生終了 ~見誤り~  
気になるニュース ~毎日教育メールより~  
不登校の息子とPTA会長の父親の話  
なかなかぼちぼちとはいけないなあ...

-2000/04/15(土) -No.68-

親と学校 ~5,000万円恐喝事件に思う~  
勝ち組・負け組  
メーリングリスト『Oh!PTA』  
静かに、穏やかに...

-2000/04/24(月) -No.69-

ストーカー ~今月に入って13件~  
ボストンマラソン ~何時間かかっても~  
過保護について  
新年度のスタート

-2000/05/02(火) -No.70-

学校からのダイレクトメール ~他もやってますか  
ら~  
学校法人 ~「私」立学校~  
発掘!あるある大辞典! ~電子メール~  
ゲームコミュニケーション

-2000/05/15(月) -No.71-

親の覚悟 ~少年事件に寄せて~  
一括りの怖さ ~「17歳」という言葉~  
名簿はどこから? ~続・ダイレクトメール~  
乱高下&不安定

-2000/05/17(水) -No.72-

訂正 ~バスジャック事件~  
「ダイレクトメール」に寄せて

社会奉仕体験 ~ 教員研修 ~

-2000/10/12 (木) -No.73-  
存在価値

-2001/4/30 (月) -No.74-  
新しい展開...

-2001/5/23 (水) -No.75-  
存在  
ハンセン病  
PTA会長退任  
不惑

-2001/06/01 (金) -No.76-  
メル友殺人 ~ 安易なコミュニケーション? ~  
離婚  
忘れてはならないもの

-2001/06/09 (土) -No.77-  
痛ましい事件

-2001/12/03 (月) -No.78-  
中学校 ~ 遠い存在 ~  
最愛の妻 ~ 友人からのメール ~  
おばあちゃん ~ アンタのためを思って ~